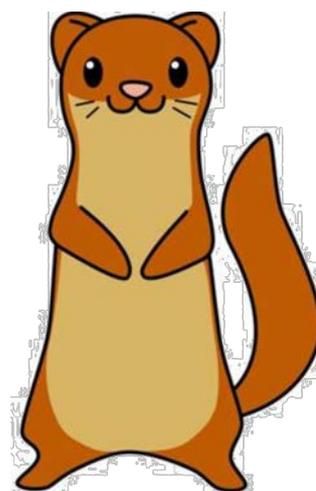


令和2年度
栄区セーフコミュニティアンケート調査

結果報告書

(詳細版)

令和3年2月
横浜市栄区役所



目 次

I	調査の概要	3
II	回答者の属性	7
III	集計分析結果	13
1	セーフコミュニティ全体	13
	（1）「セーフコミュニティ」の認知度	13
	（1）-1「セーフコミュニティ」を知った媒体	19
	（2）安全・安心への実感	21
	（3）身のまわりの心配なこと	23
	（4）セーフコミュニティの重点項目への関心	26
2	日常生活におけるけが・事故の危険性	51
	（5）けが・事故の危険性の認知度	51
3	セーフコミュニティの取組	72
	（6）けが・事故等の予防の取組の認知度	72
	（7）参加したいセーフコミュニティの取組	88
4	安全・安心に関する質問	90
	（8）地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動	90
	（9）救急相談電話、#7119（横浜市救急相談センター）の認知度	92
	（10）運動不足の実感	94
	（11）スポーツをする頻度 【新規】	97
	（12）ウォーキングをする頻度	101
	（13）「ヒートショック」の対策	104
	（14）いっとき避難場所と地域避難所の認知度 【新規】	106
	（15）地域防災拠点の認知度	108
	（16）地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合	111
	（17）震災等の災害に対する備え	113
	（18）振り込め詐欺の受電経験の有無	115
	（19）知っている振り込め詐欺	118
	（20）行っている振り込め詐欺対策	120
	（21）自殺についての考え方	122
	（22）セーフコミュニティについてのご意見やご要望	139
IV	調査票	調査票 1

I 調査の概要

I 調査の概要

【調査の目的】

「セーフコミュニティ」の取組を進めるにあたって、区民の求める安全・安心の取組に対するニーズを把握するとともに、現在行っている取組を評価するための指標として使用し、取組の質の向上を図る。

【調査対象】

栄区内に居住する20歳以上の男女1,500人

【抽出方法】

住民基本台帳からの無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

令和2年11月4日（水）～11月25日（水）

【回収数】

755件（回収率50.3%）

【集計結果の見方】

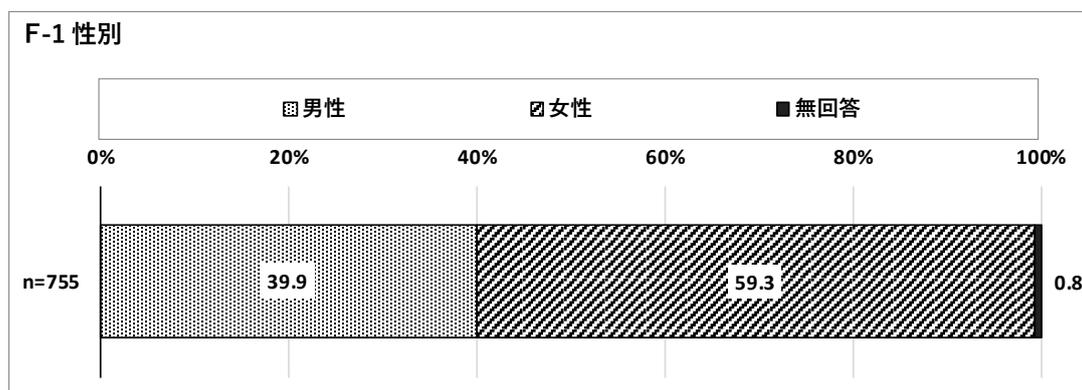
1. 図（グラフ）の中で使用されている「n=〇〇」は、その設問に対する回答者数をあらわす。
2. 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
3. 項目をまとめてひとつのカテゴリにする場合（例えば問1など）、各回答項目の回答者数の合計を基数として%を算出している。各回答項目は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答項目の%の合計と一致しない場合がある。
4. 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
5. 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

II 回答者の属性

II 回答者の属性

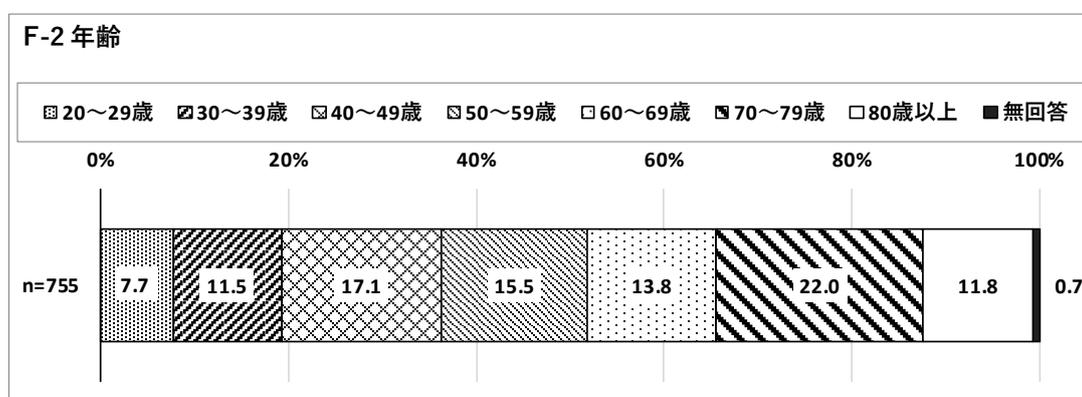
1 性別

- ・「女性」が59.3%で、「男性」(39.9%)より19.4ポイント多い。



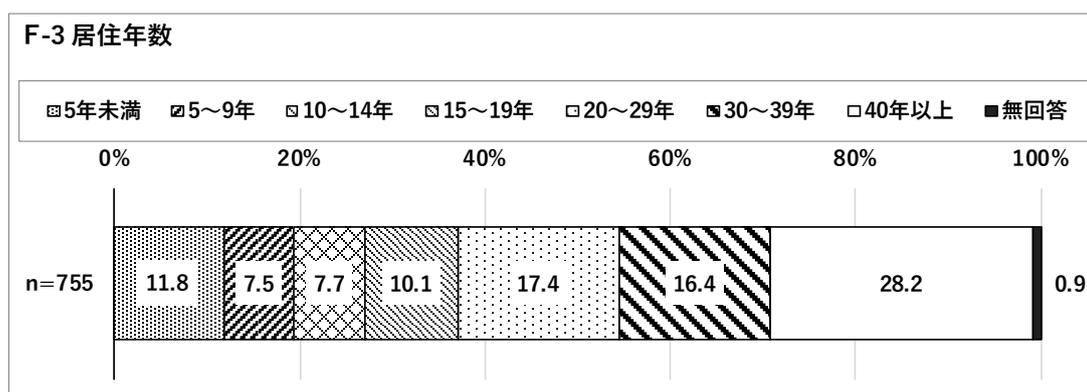
2 年齢

- ・「70～79歳」が22.0%で最も多い。「20～29歳」は7.7%で最も少ない。



3 居住年数

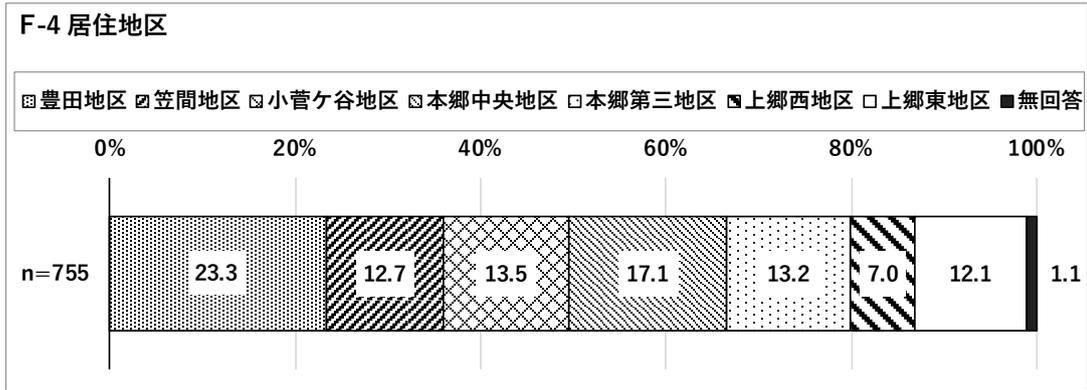
- ・「40年以上」が28.2%で最も多く、「20～29年」が17.4%、「30～39年」が16.4%で続く。「20年以上」が全体の約6割を占めている。



II 回答者の属性

4 居住地区

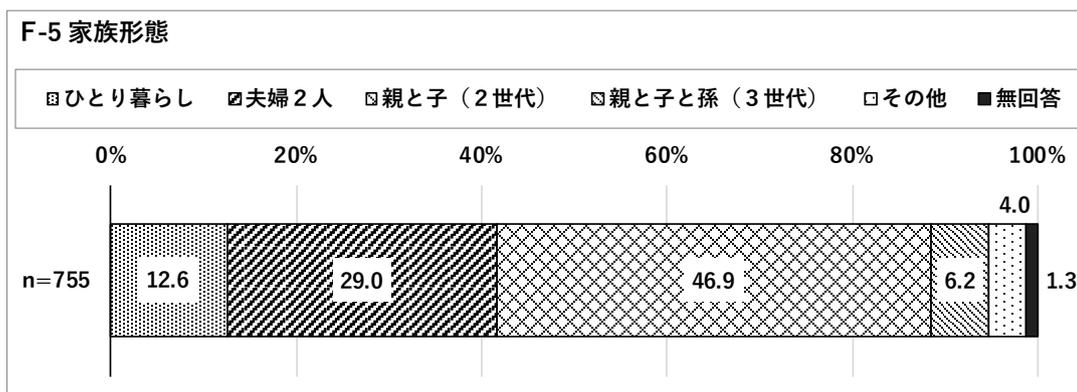
- ・「豊田地区」が23.3%で最も多く、「本郷中央地区」が17.1%で続く。「上郷西地区」が7.0%で最も少ない。



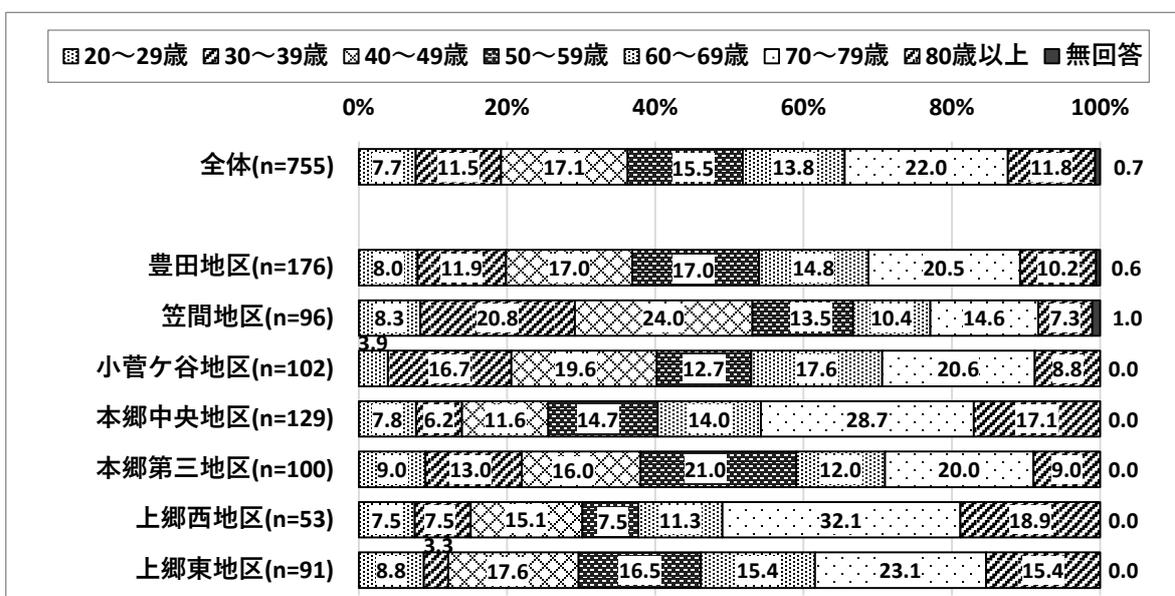
豊田地区	: 飯島町、金井町、田谷町、長尾台町、長沼町、本郷台一丁目～五丁目
笠間地区	: 笠間町、笠間一丁目～五丁目
小菅ヶ谷地区	: 小菅ヶ谷町、小菅ヶ谷一丁目～四丁目、小山台一丁目～二丁目
本郷中央地区	: 桂台北、桂台中、桂台西一丁目～二丁目、桂台東、桂台南一丁目～二丁目、桂町、公田町
本郷第三地区	: 鍛冶ヶ谷町、鍛冶ヶ谷一丁目～二丁目、中野町、柏陽、元大橋一丁目～二丁目、若竹町
上郷西地区	: 犬山町、尾月、上之町、亀井町
上郷東地区	: 上郷町、庄戸一丁目～五丁目、長倉町、野七里一丁目～二丁目、東上郷町
※ 町界で区分しているため、連合町内会のエリアとは一部異なっている部分があります。	

5 家族形態

・「親と子(2世代)」が46.9%で最も多く、「夫婦2人」が29.0%で続く。「ひとり暮らし」は12.6%。



【参考】居住地区別の年齢



III 集計分析結果

Ⅲ 集計分析結果

1 セーフコミュニティ全体

(1)「セーフコミュニティ」の認知度

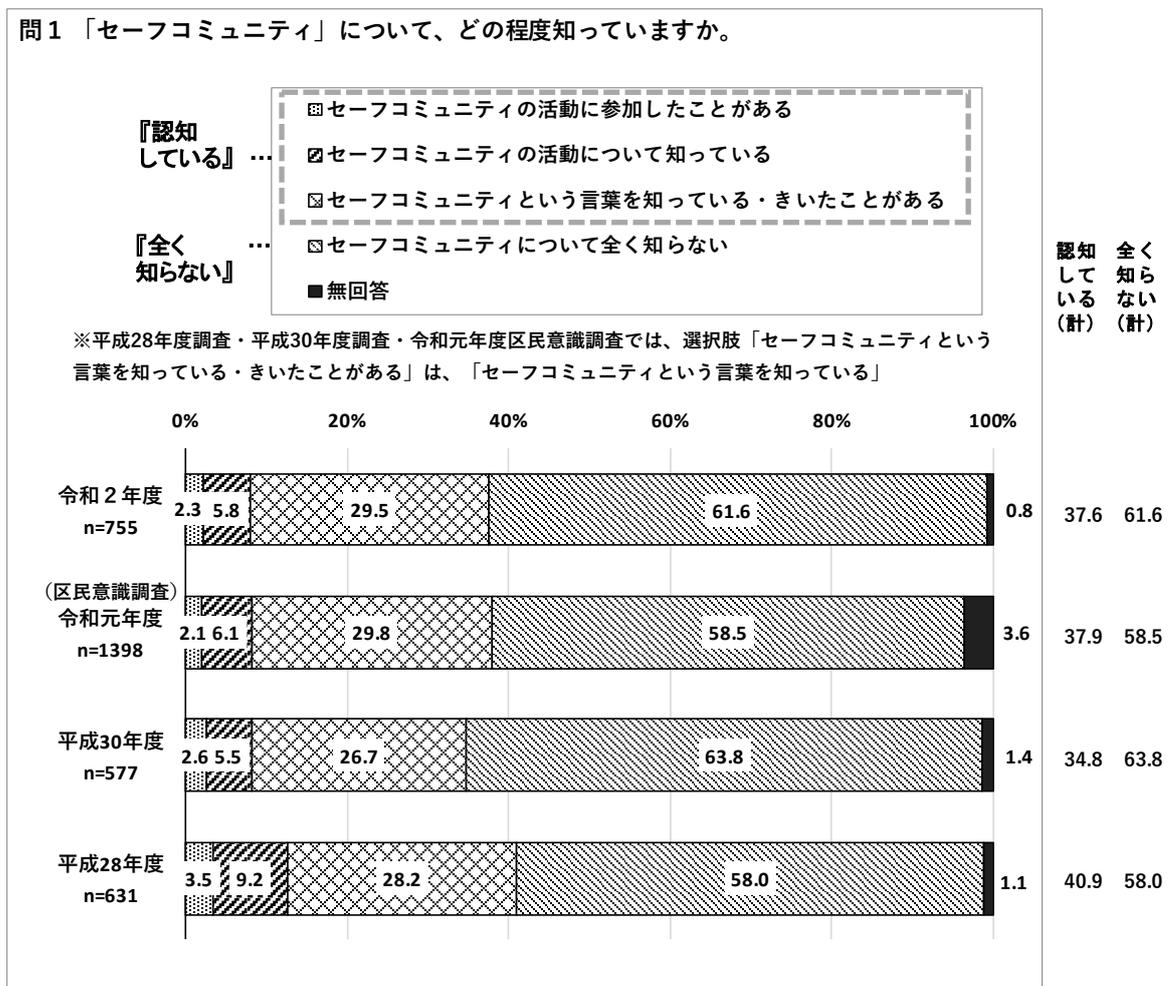
【「セーフコミュニティ」の認知度： 時系列 】

<全 体>

- ・セーフコミュニティについて、「活動に参加したことがある」(2.3%)、「活動について知っている」(5.8%)、「言葉を知っている・きいたことがある」(29.5%)を合わせると(以下『認知している』)37.6%の方が『認知している』と回答している。
- ・一方、セーフコミュニティについて「全く知らない」割合は61.6%である。

<平成28年度調査・平成30年度調査・令和元年度区民意識調査と比較>

- ・セーフコミュニティについて、いずれの調査でも『認知している』割合は約4割、「全く知らない」割合は約6割となっている。
- ・令和元年度調査と比較すると、『認知している』割合は0.3ポイント減で横ばいという結果になった。



Ⅲ 集計分析結果 (1)「セーフコミュニティ」の認知度

【「セーフコミュニティ」の認知度： 性別・年齢別・地区別】

<性別>

・『認知している』割合は、「女性」が40.8%と「男性」の32.2%に比べて8.6ポイント高い。

<年齢別>

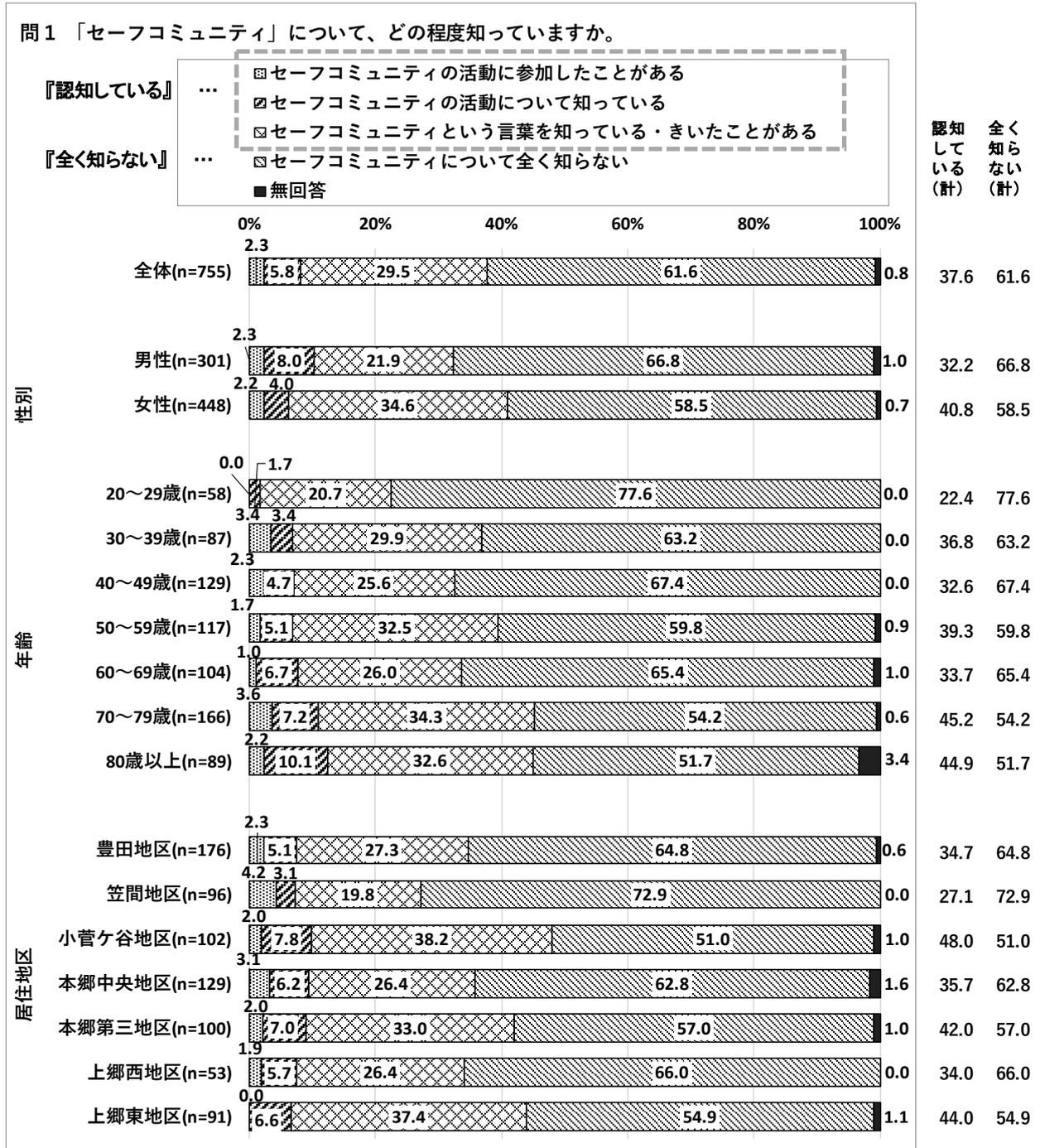
・「20～29歳」では「全く知らない」割合が77.6%と全体より15ポイント以上高い。

・「70～79歳」「80歳以上」では『認知している』割合が、それぞれ45.2%、44.9%と全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では『認知している』割合が48.0%と全体より10ポイント以上高い。

・「笠間地区」では「全く知らない」割合が72.9%と全体よりも10ポイント以上高い。



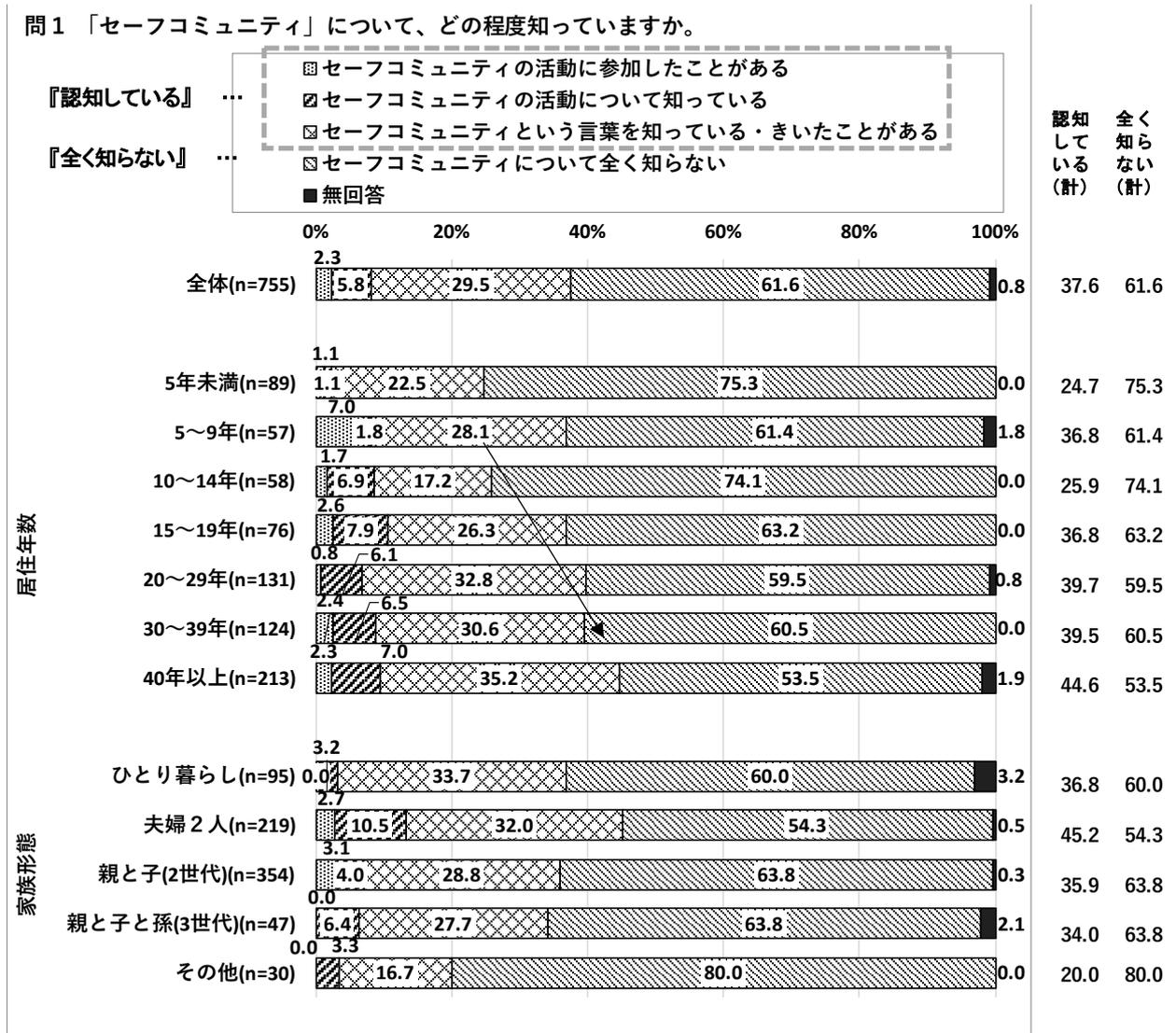
【「セーフコミュニティ」の認知度： 居住年数・家族形態別】

＜居住年数別＞

- ・「40年以上」では『認知している』割合が44.6%と、全体より5ポイント以上高く、10年以上では、居住年数が長くなるほど『認知している』割合が高くなる傾向がみられる。
- ・一方、「全く知らない」割合は、「5年未満」「10～14年」でそれぞれ75.3%、74.1%と、全体より10ポイント以上高い。

＜家族形態別＞

- ・「夫婦2人」では『認知している』割合が45.2%と、全体より5ポイント以上高い。
- ・「親と子(2世代)」「夫婦2人」では「活動に参加したことがある」割合がそれぞれ3.1%、2.7%と、他の家族形態が0%であることに比べるとわずかではあるが参加が見られる。

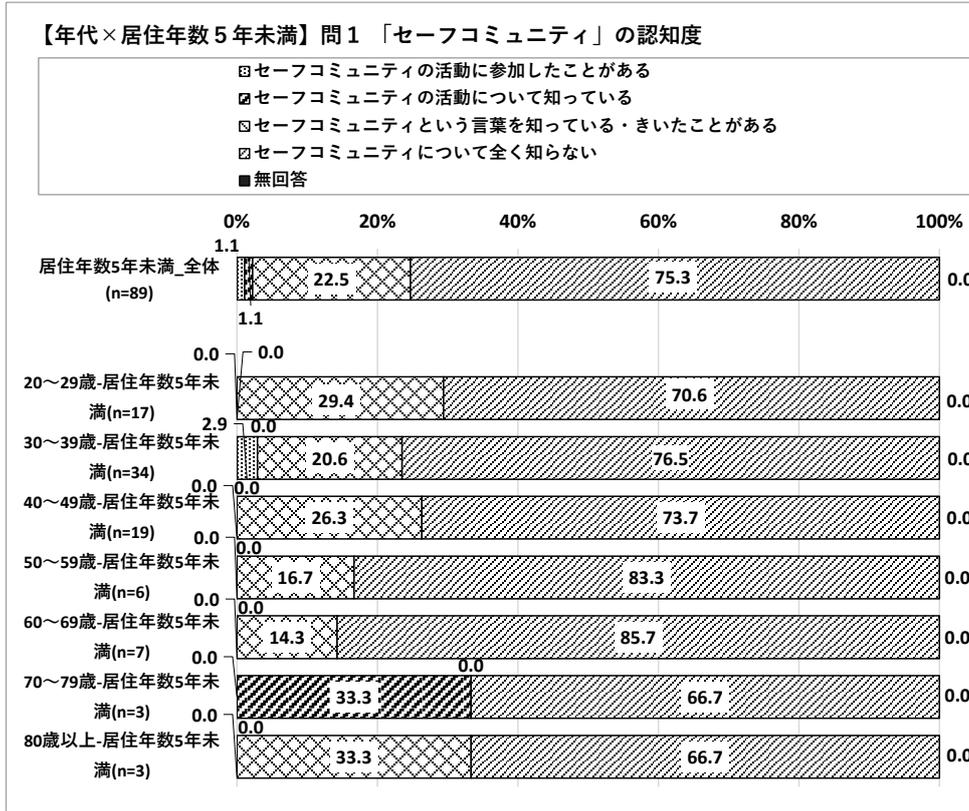


Ⅲ 集計分析結果 (1)「セーフコミュニティ」の認知度

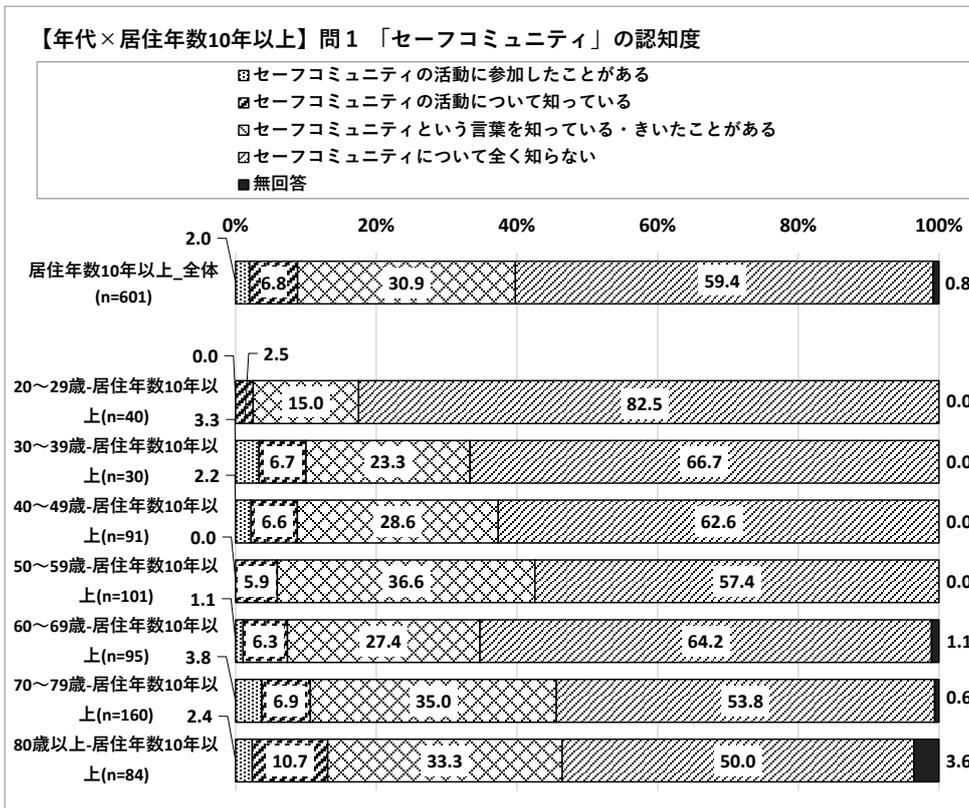
【「セーフコミュニティ」の認知度：年代×居住年数別】

- ・居住年数5年未満については、母数が少ないため参考にとどめる。
- ・居住年数10年以上については、年代が上がるほど認知度が上がる傾向が見られる。

居住年数別 5年未満



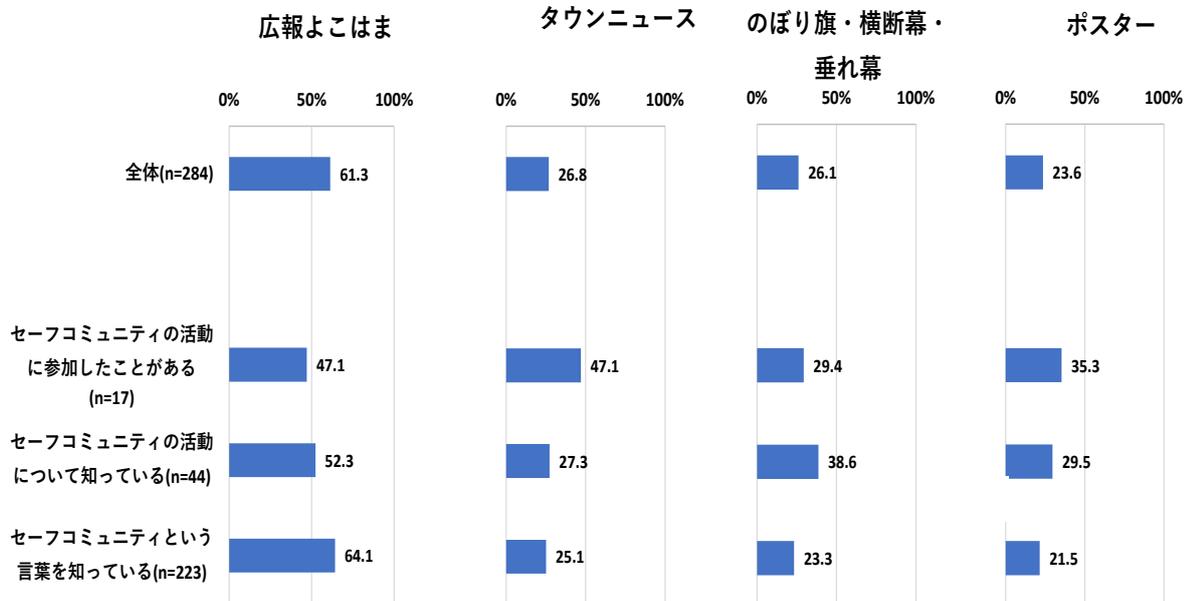
居住年数別 10年以上



【「セーフコミュニティ」の認知度： セーフコミュニティを知った媒体】

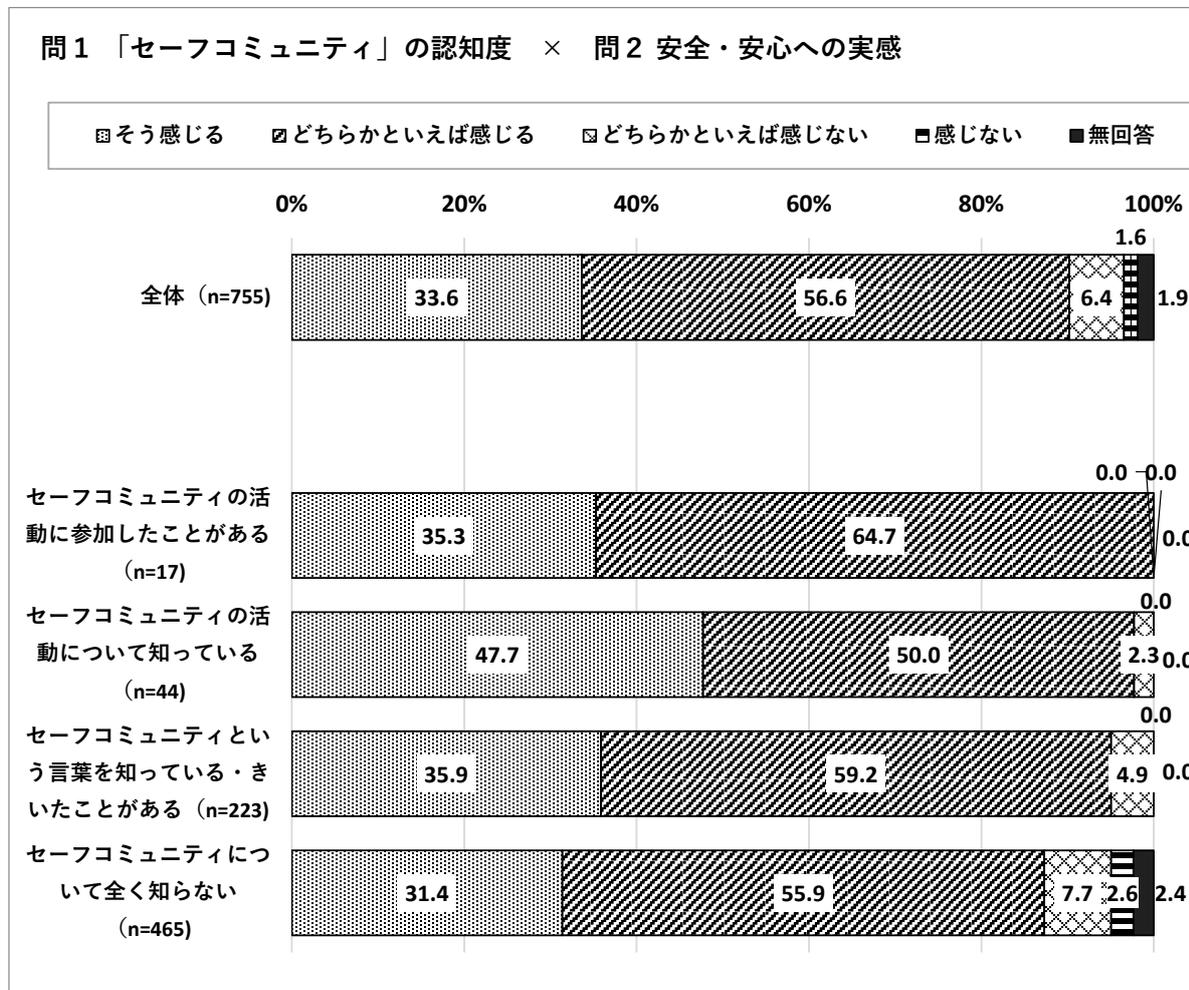
- ・セーフコミュニティの認知度について、セーフコミュニティを知った媒体は、「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」では「タウンニュース」「ポスター」、「セーフコミュニティの活動について知っている」では「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」の割合が全体より10ポイント以上高い。

問1 「セーフコミュニティ」の認知度 × 問1-1 セーフコミュニティを知った媒体（上位4項目）



【「セーフコミュニティ」の認知度：(2)安全・安心への実感との相関】

・セーフコミュニティの認知度と体感治安の相関については、「セーフコミュニティについて全く知らない」方よりも、「活動に参加したことがある」「活動を知っている」「言葉を知っている」の方が、栄区は安全・安心なまちだと感じますかという問いに対し「そう感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合が高いという結果になった。



(1) -1 「セーフコミュニティ」を知った媒体

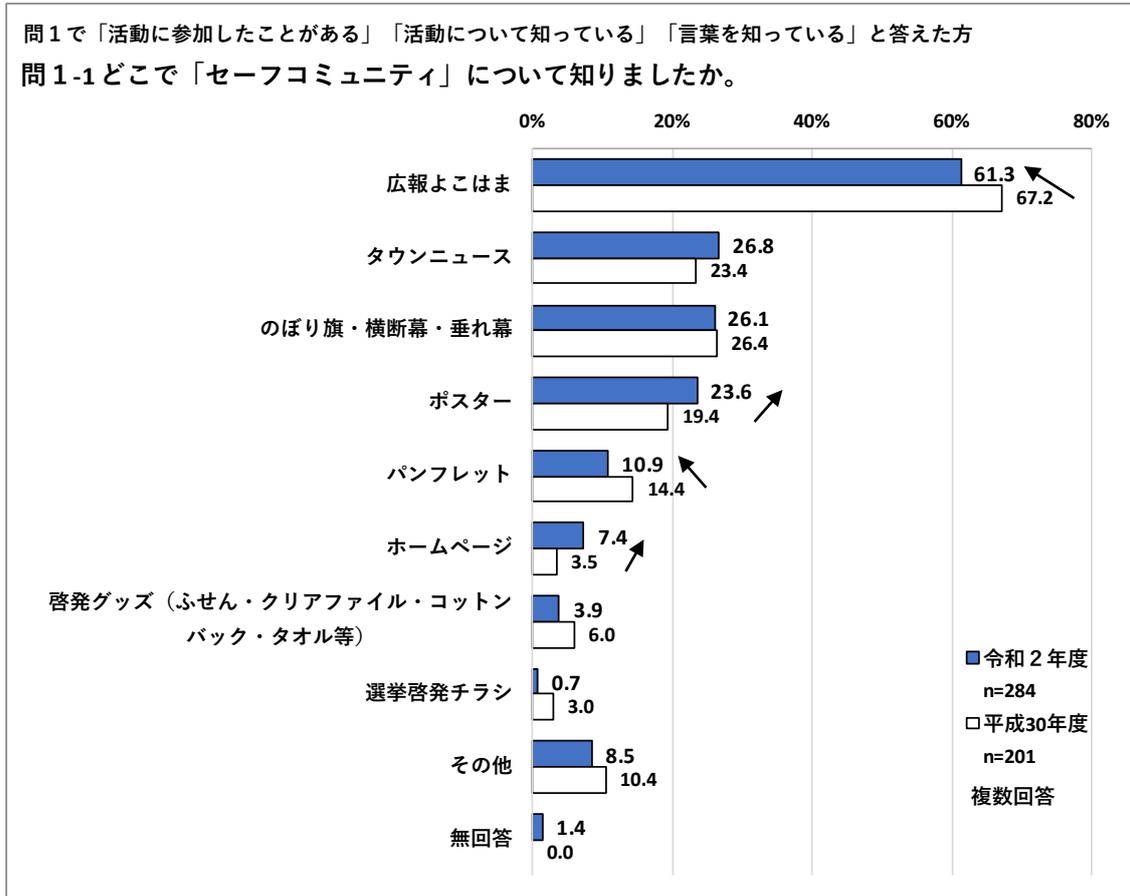
【「セーフコミュニティ」を知った媒体】

<全体>

- ・「広報よこはま」が61.3%で最も多く、「タウンニュース」(26.8%)、「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」(26.1%)、「ポスター」(23.6%)の順で続く。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較して、「ポスター」で4.2ポイント、「ホームページ」で3.9ポイント増加し、「広報よこはま」で5.9ポイント、「パンフレット」で3.5ポイント減少している。



問1-1 どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか (その他記述)			
自治会活動	7	新聞、笠間ケアプラザ、学校、区民祭り、	各1
子供の学校	2	子供の検診時、大学の講義、仕事上、	
どこかで聞いたことがある	2	再認証オープニングに参加	
			計 19件

Ⅲ 集計分析結果 (1)-1「セーフコミュニティ」を知った媒体

【「セーフコミュニティ」を知った媒体： 属性別】上位4項目

<性別>

・性別には、大きな差は見られない。

<年齢別>

・若い年代で「ポスター」による認知の割合が高く、年齢が上がるほど「広報よこはま」による認知の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

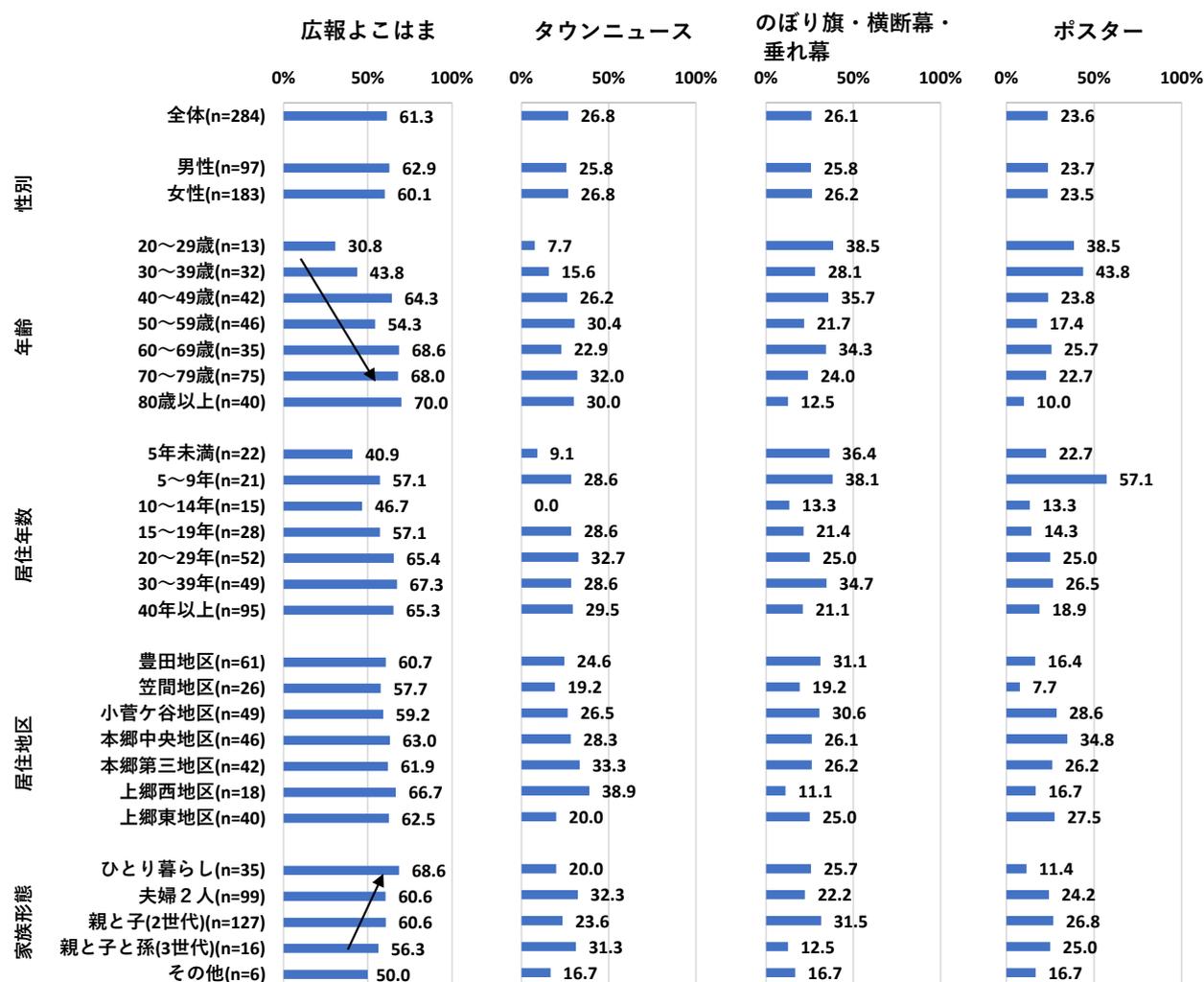
・「5年未満」「5～9年」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」、「5～9年」で「ポスター」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」で「タウンニュース」、「本郷中央地区」で「ポスター」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族構成の数が少ないほど「広報よこはま」の割合高い傾向が見られる。



(2) 安全・安心への実感

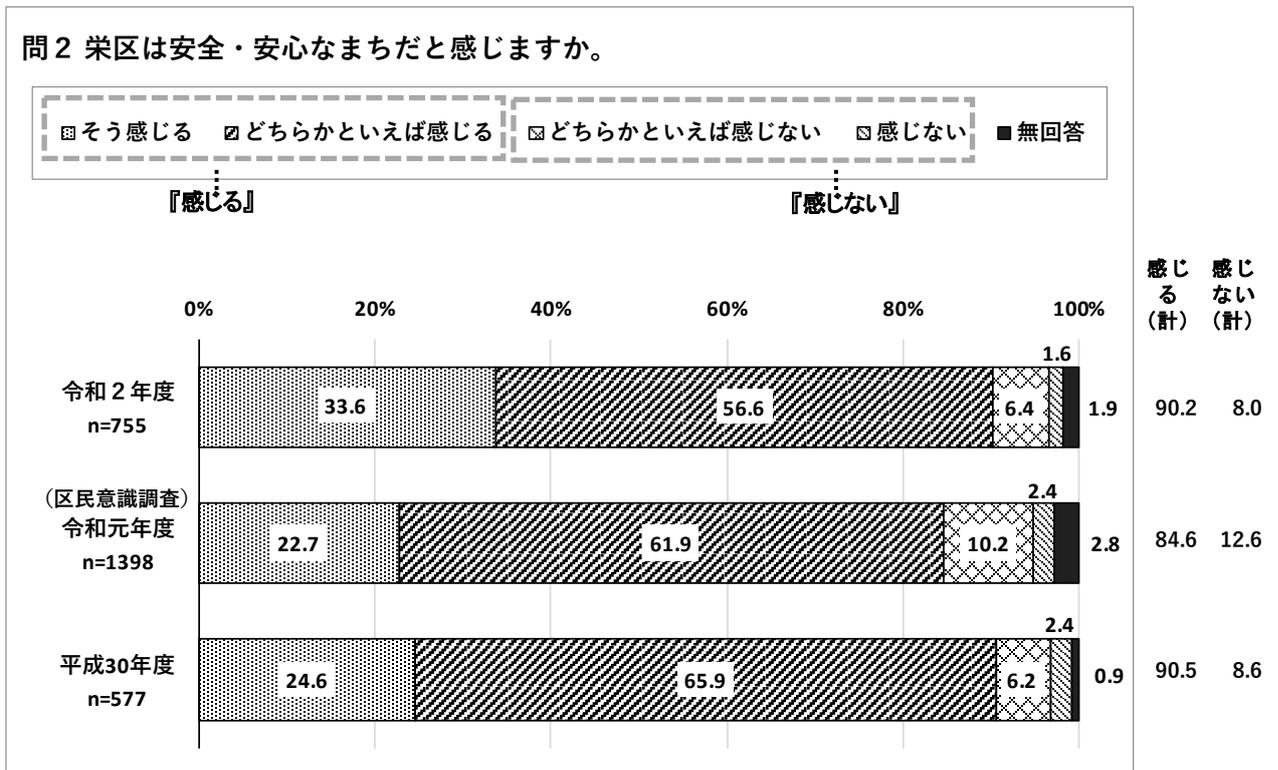
【安全・安心への実感】

<全 体>

- ・「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』方が90.2%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『感じない』方が8.0%となっており、約9割の区民が安全・安心なまちだと感じている。

<平成30年度調査・令和元年度区民意識調査と比較>

- ・「そう感じる」割合を比較すると、平成30年度調査に比べて9.0ポイント、令和元年度調査に比べて10.9ポイントそれぞれ増加した。
- ・「そう感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』割合と比較すると、平成30年度調査と比べると0.3ポイント減少でほぼ同じ、令和元年度調査と比べると5.6ポイント増加という結果になった。



Ⅲ 集計分析結果 (2)安全・安心への実感

【安全・安心への実感： 属性別】

<性別>

・性別には、大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」で「そう感じる」の割合が44.8%と、全体より10ポイント以上高い。

・「30～39歳」で『感じない』の割合が17.2%と、全体より10ポイント近く高い。

<居住年数別>

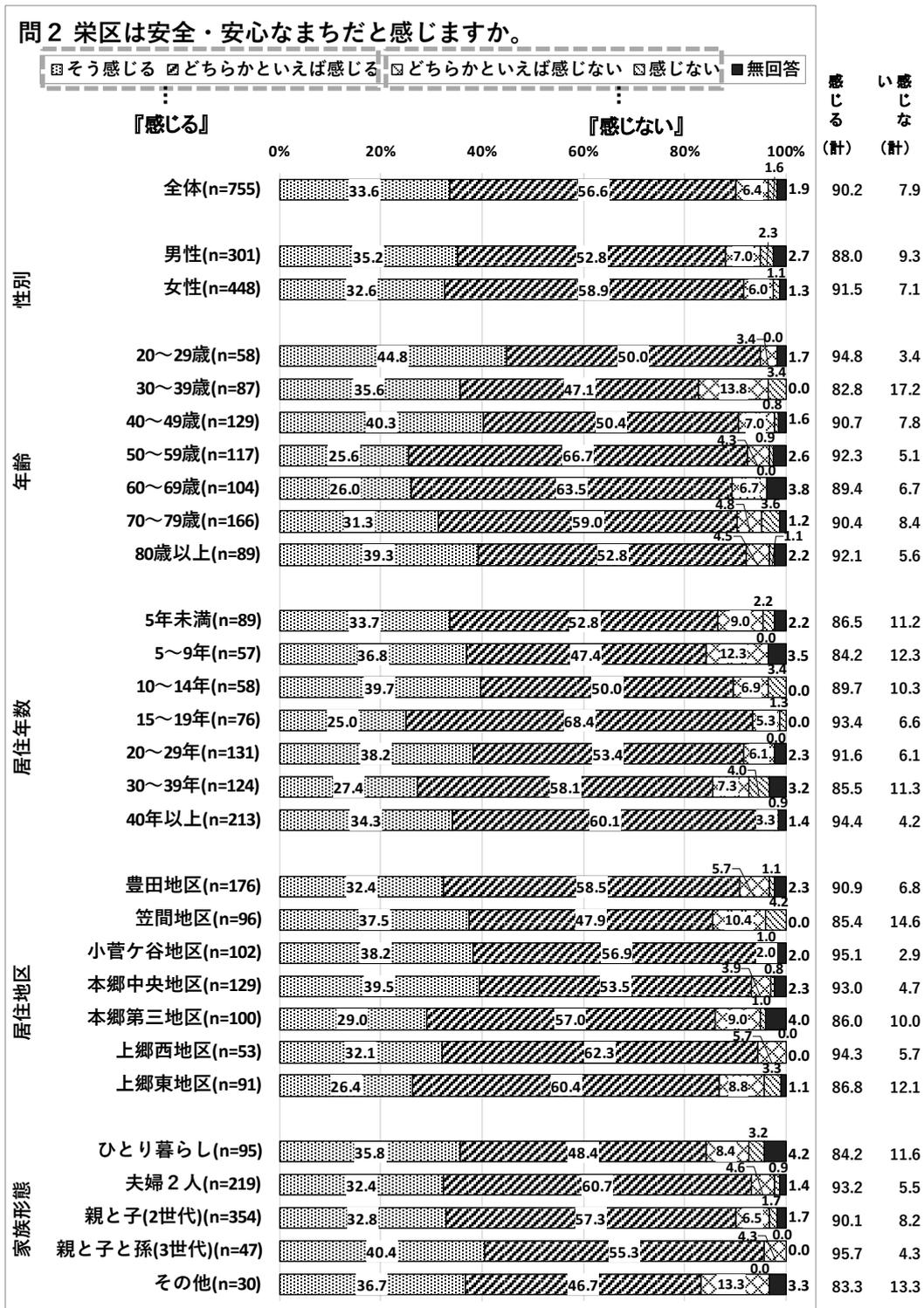
・「5～9年」「30～39年」で『感じる』の割合が全体より5ポイント程度低い。

<居住地区別>

・「笠間地区」で『感じない』の割合が14.6%と全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



(3) 身のまわりの心配なこと

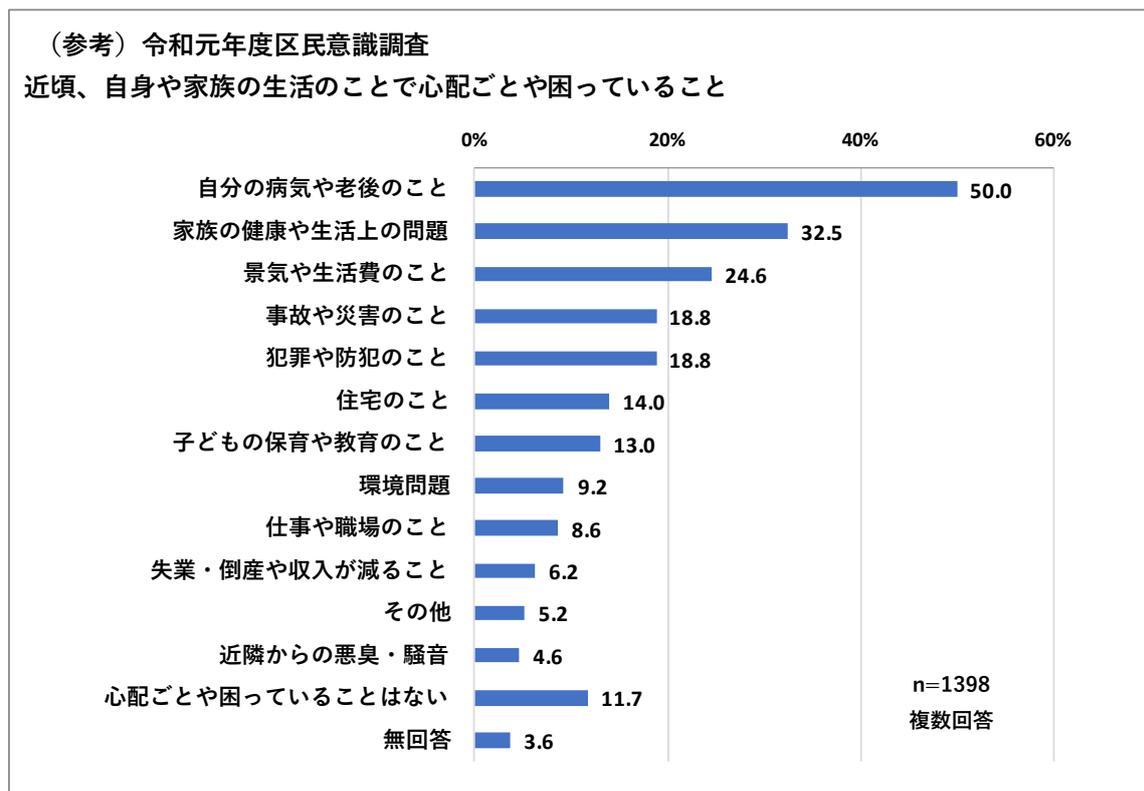
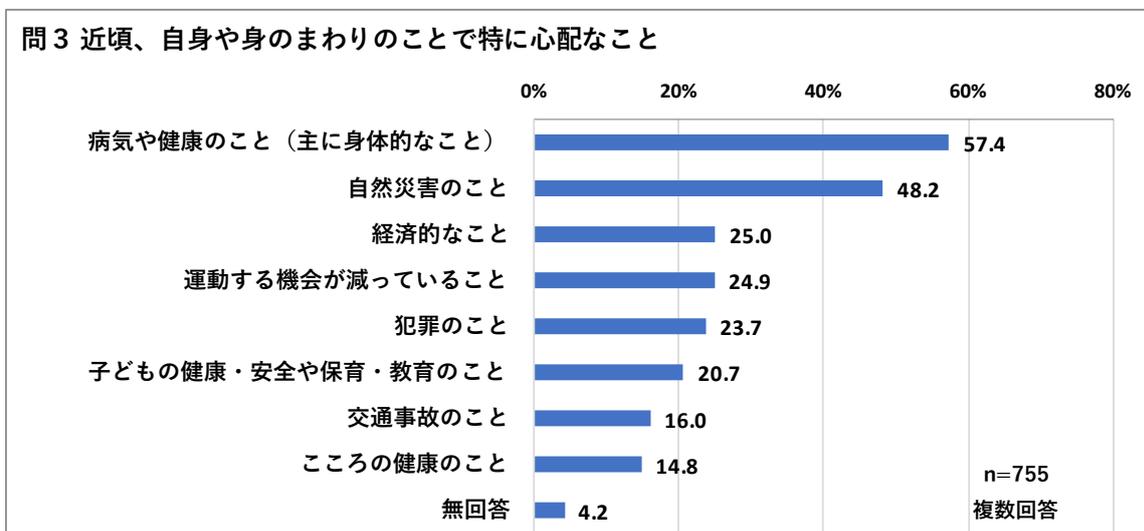
【身のまわりの心配なこと】

<全 体>

・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」が57.4%で最も多く、「自然災害のこと」（48.2%）の順で続く。

<令和元年度区民意識調査と比較>（参考）

・令和元年度区民意識調査では、「自分の病気や老後のこと」「家族の健康や生活上の問題」が最も多く、次いで「景気や生活費のこと」が挙げられている。



Ⅲ 集計分析結果 (3)身のまわりの心配なこと

【身のまわりの心配なこと： 属性別】上位4項目

<性別>

・「自然災害のこと」では女性の方が、「経済的なこと」では男性の方が割合が5ポイント以上高い。

<年齢別>

・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向があり、「70～79歳」「80歳以上」では、全体より15ポイント以上高い。

・「自然災害のこと」では「60～69歳」まで年齢が上がるほど割合が高くなる傾向があり、「60～69歳」が59.6%で全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

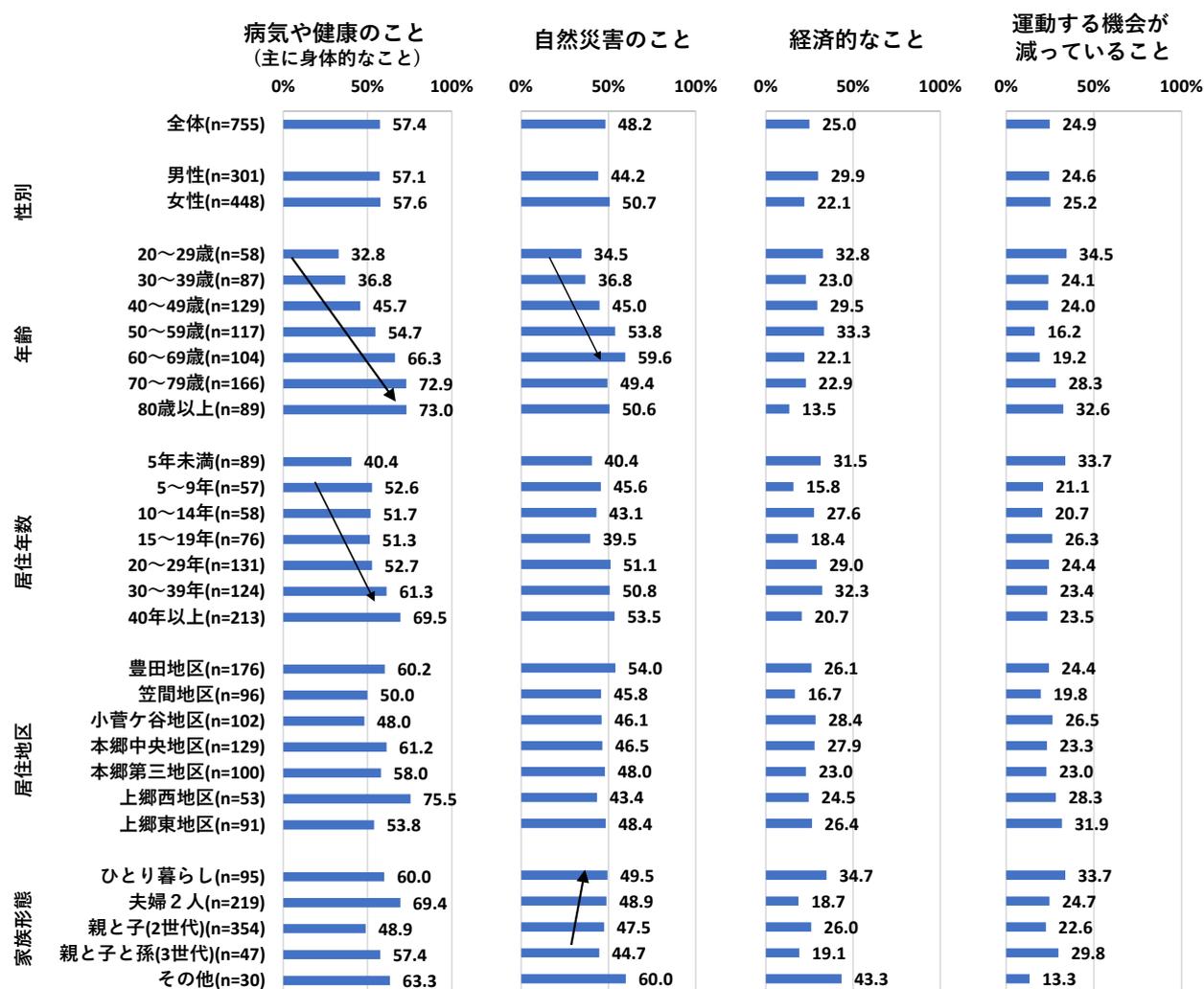
・「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」では、居住年数が長いほど割合が高くなる傾向があり、「40年以上」が69.5%と全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」の割合が75.5%と全体より10ポイント以上高い。

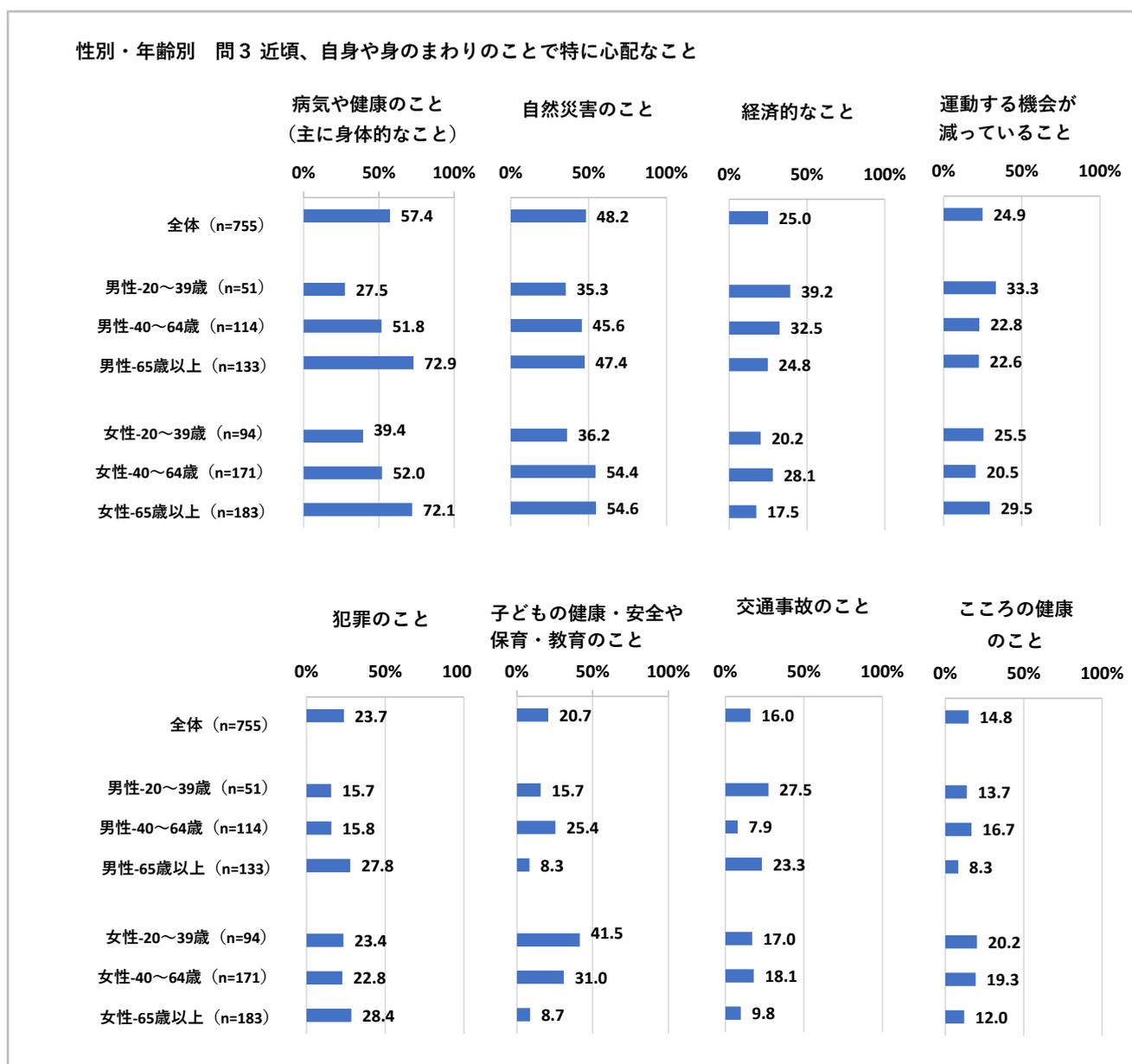
<家族形態別>

・「自然災害のこと」では家族の人数が少ないほど割合が高くなる傾向が見られる。



【身のまわりの心配なこと： 性別・年齢別】

- ・男性「20～39歳」では、「経済的なこと」「交通事故のこと」が全体の割合より10ポイント以上高い。
- ・女性「20～39歳」では、「子どもの健康・安全や保育・教育のこと」が全体の割合より20ポイント以上高い。
- ・男性「40～64歳」では、「経済的なこと」が全体の割合より5ポイント以上高い。
- ・女性「40～64歳」では、「自然災害のこと」「子どもの健康・安全や保育・教育のこと」が全体の割合より5ポイント以上高い。
- ・男女ともに「65歳以上」では、「病気や健康のこと（主に身体的なこと）」が全体の割合より10ポイント以上高い。

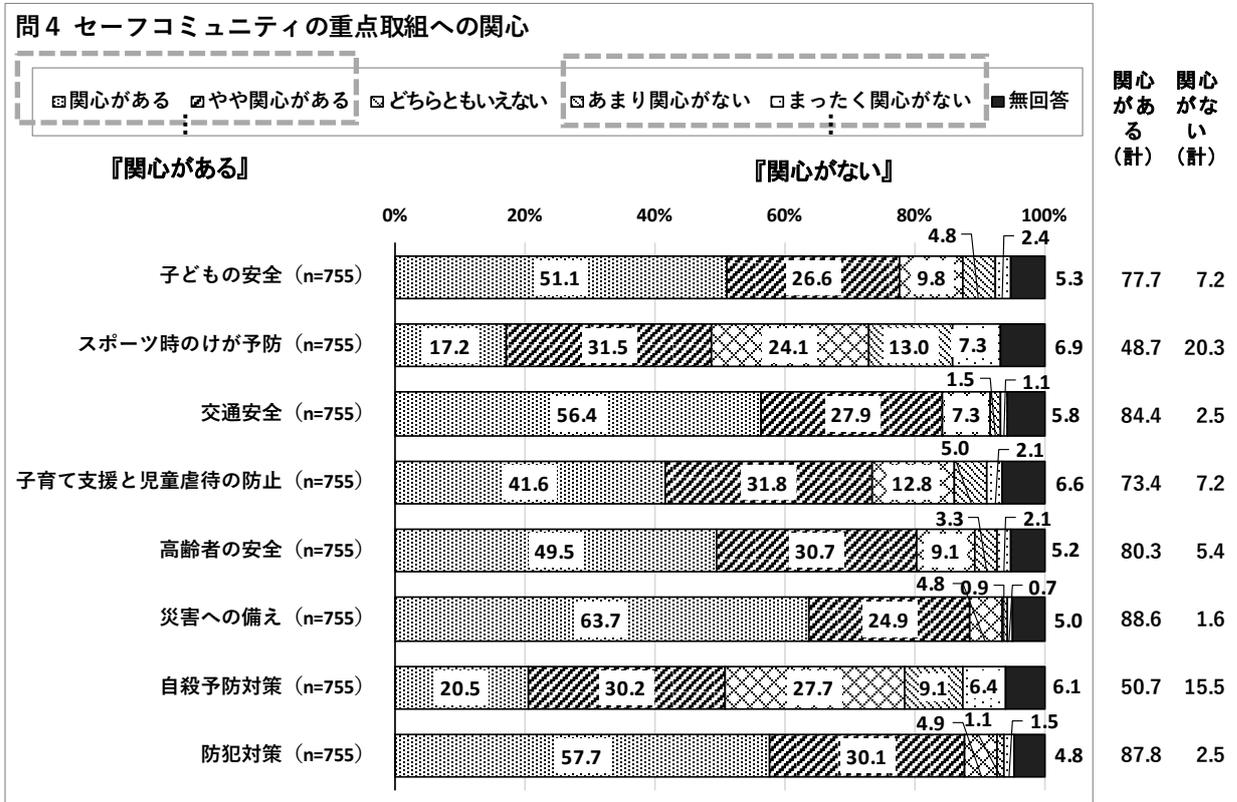


(4) セーフコミュニティの重点項目への関心

【セーフコミュニティの重点項目への関心】

<全体>

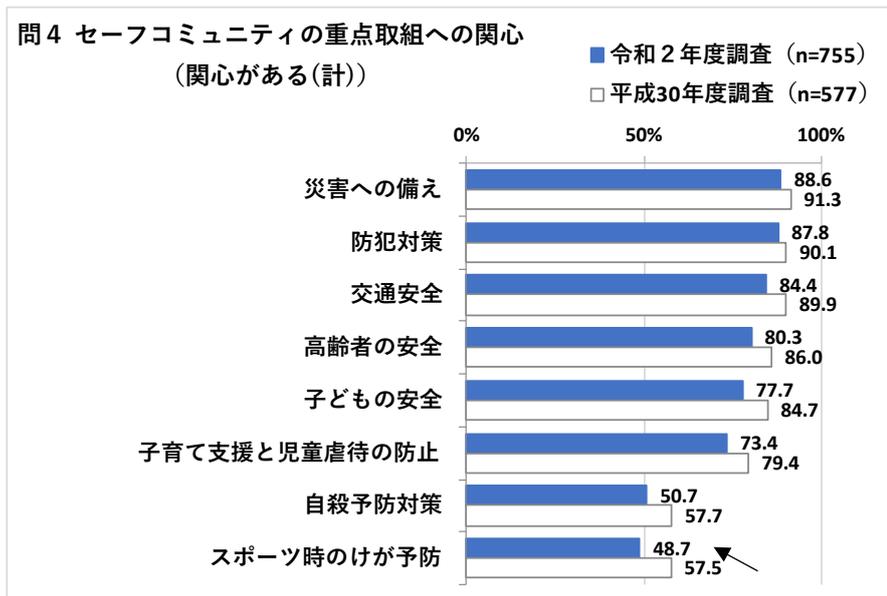
- ・「関心がある」「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は、「災害への備え」「防犯対策」「交通安全」「高齢者の安全」で8割以上なのに対し、「スポーツ時のけが予防」では5割以下となっている。
- ・全ての項目において性別では、「男性」より「女性」の方が、「関心がある」割合が高い。中でも「子育て支援と児童虐待」「高齢者の安全」では、5ポイント以上高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心： 時系列】

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度と比較すると、『関心がある』割合は、全ての項目で減少しており、特に「スポーツ時のけが予防」で8.8ポイントと最も多い減少がみられる。



1 子どもの安全

【セーフコミュニティの重点項目への関心： 属性別】

<性別>

・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』割合は、「男性」より「女性」の方が5.7ポイント高い。

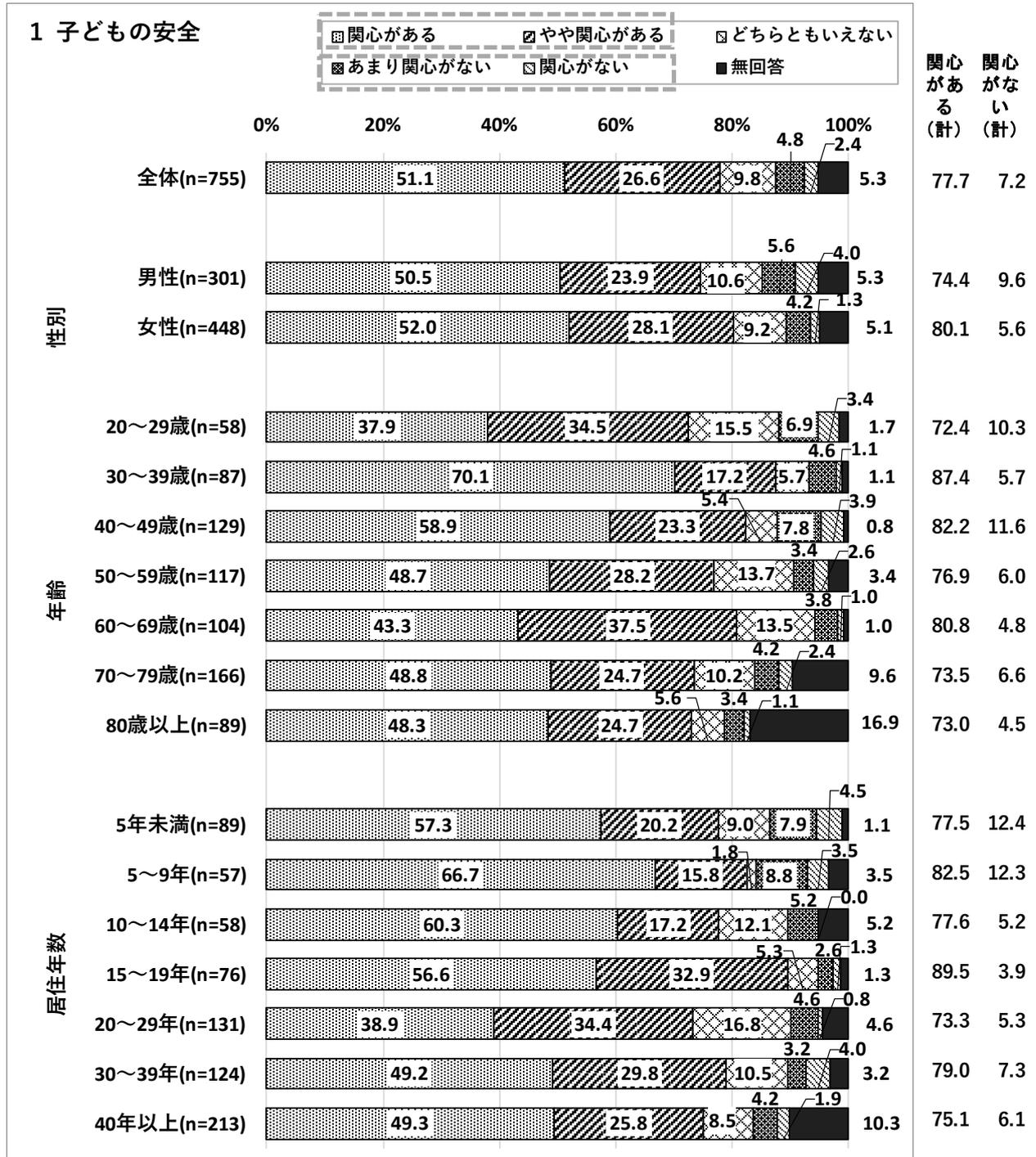
<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

・「15～19年」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

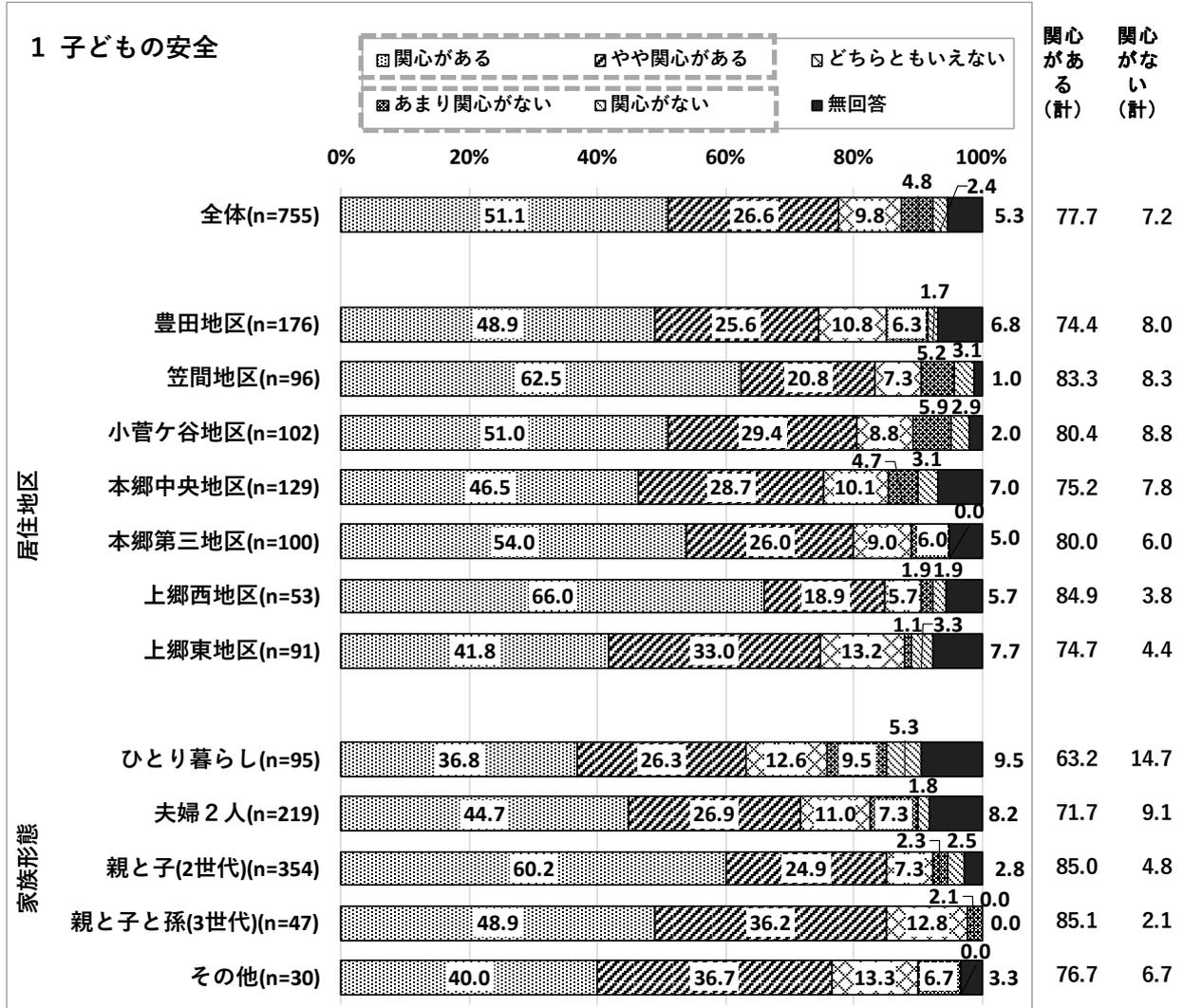


<居住地区別>

・「上郷西地区」「笠間地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

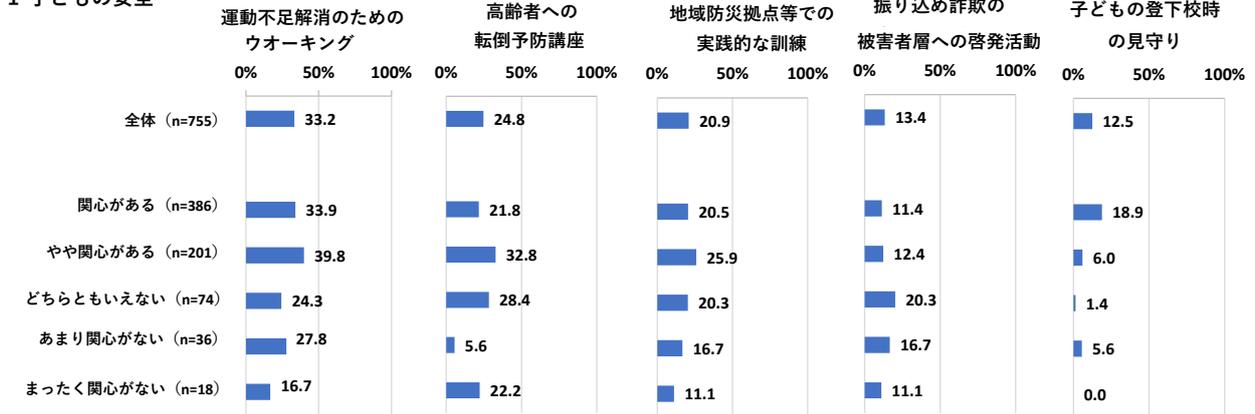


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

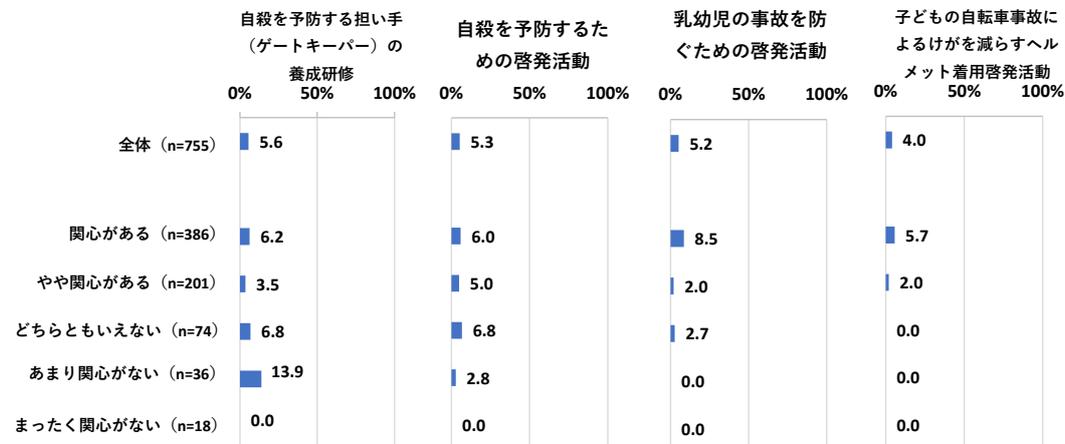
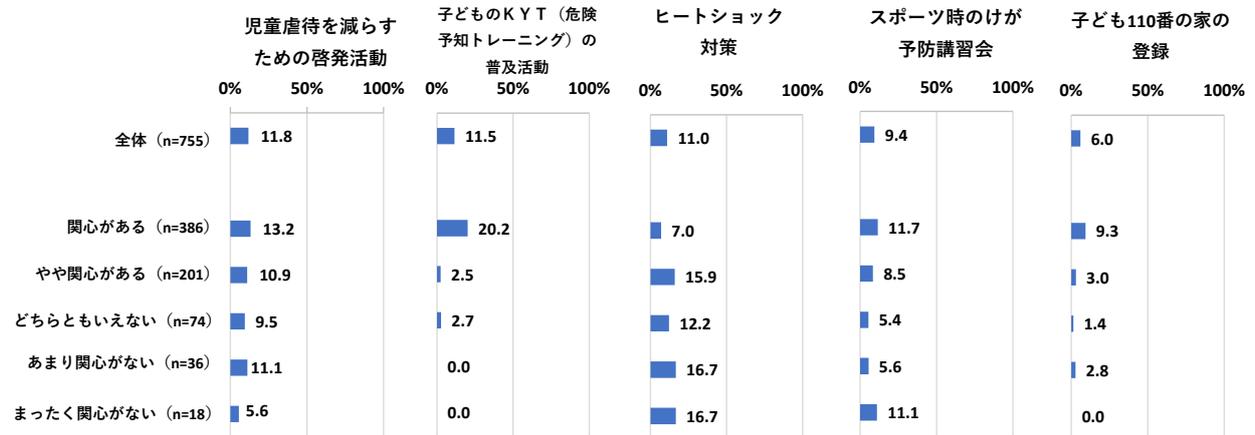
・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より8.7ポイント高い。

今後参加したい取組

1 子どもの安全



子どもの安全への関心



2 スポーツ時のけが予防

<性別>

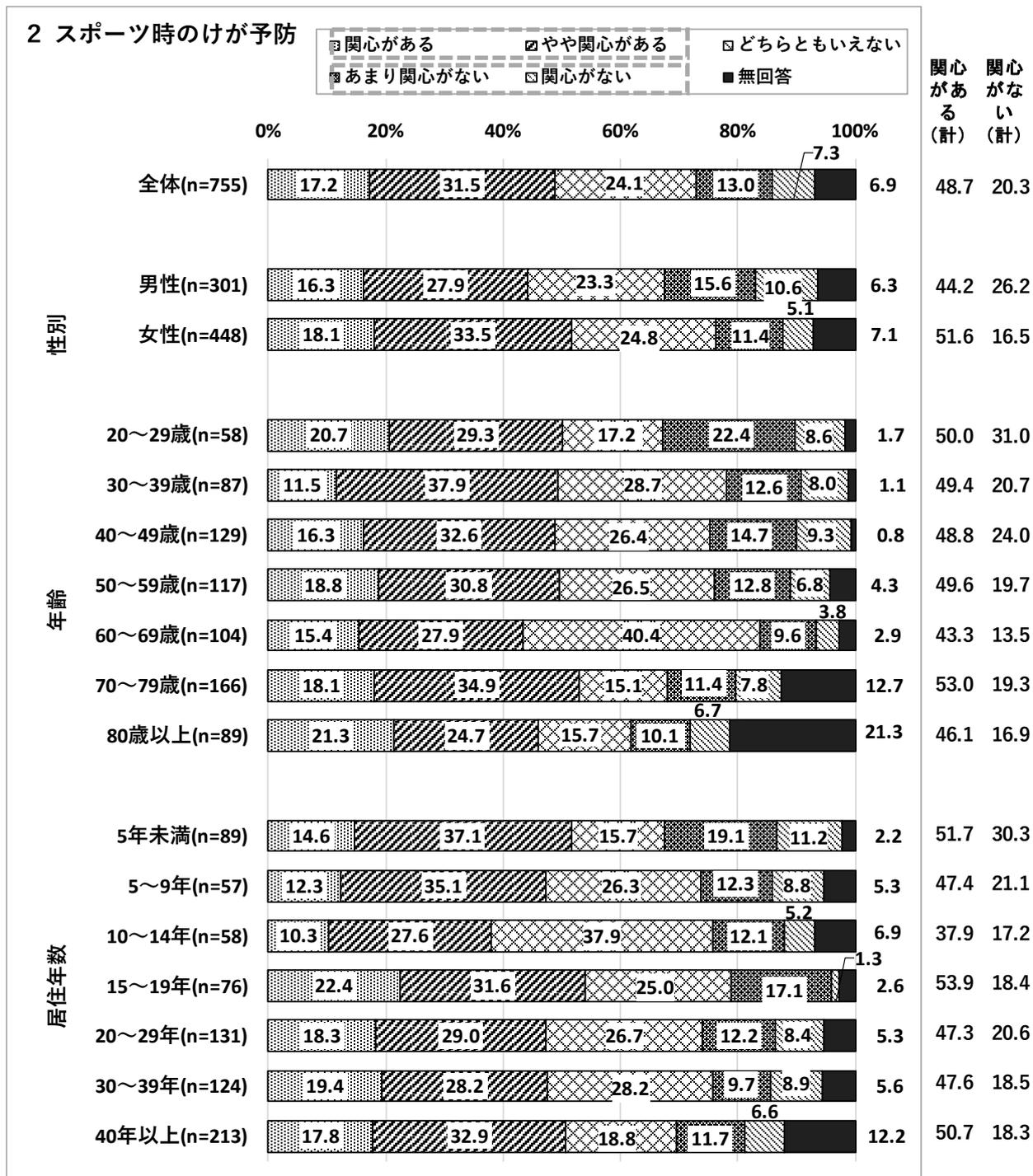
・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』割合は、「男性」より「女性」の方が7.4ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・「15～19年」では「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

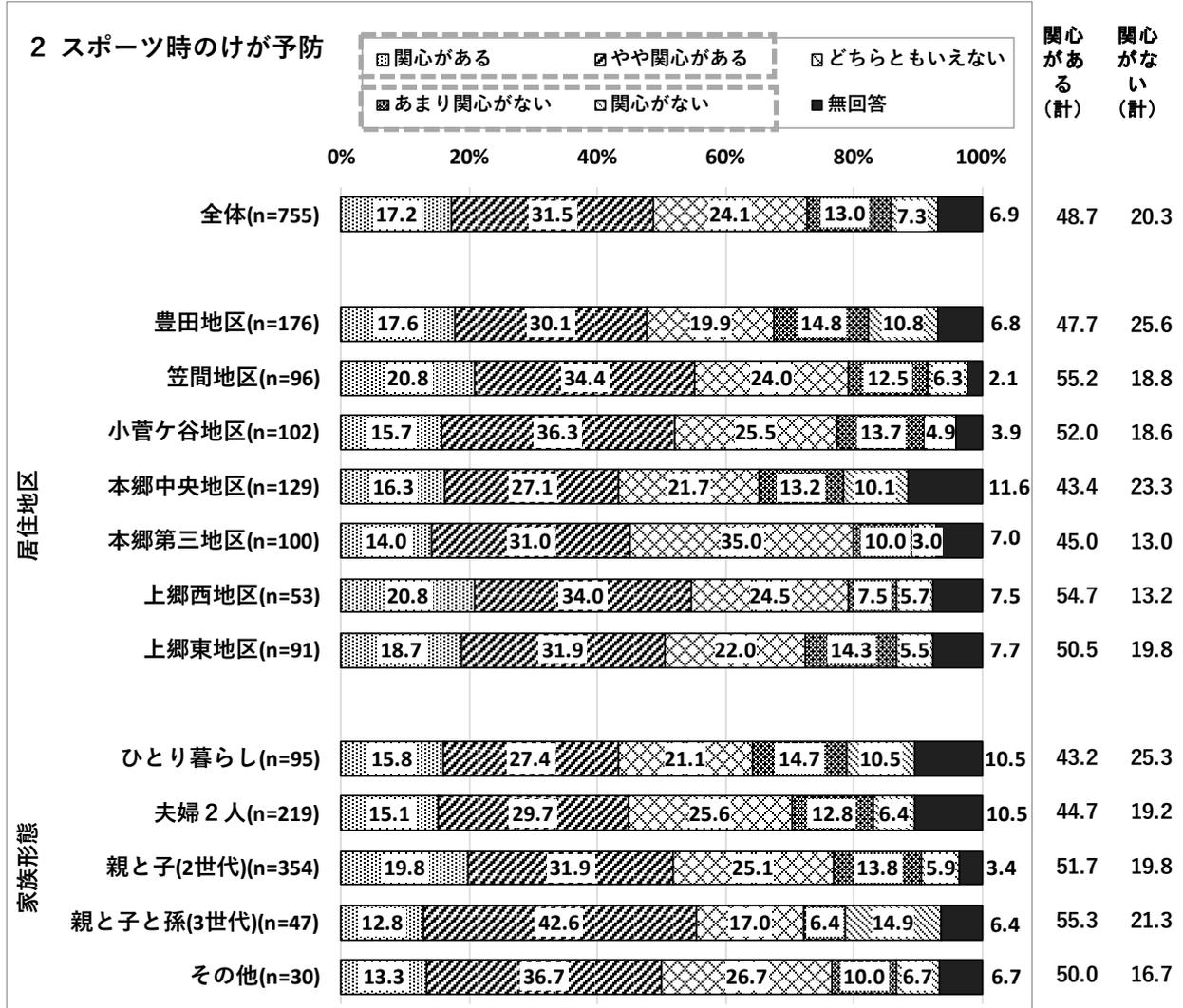


<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

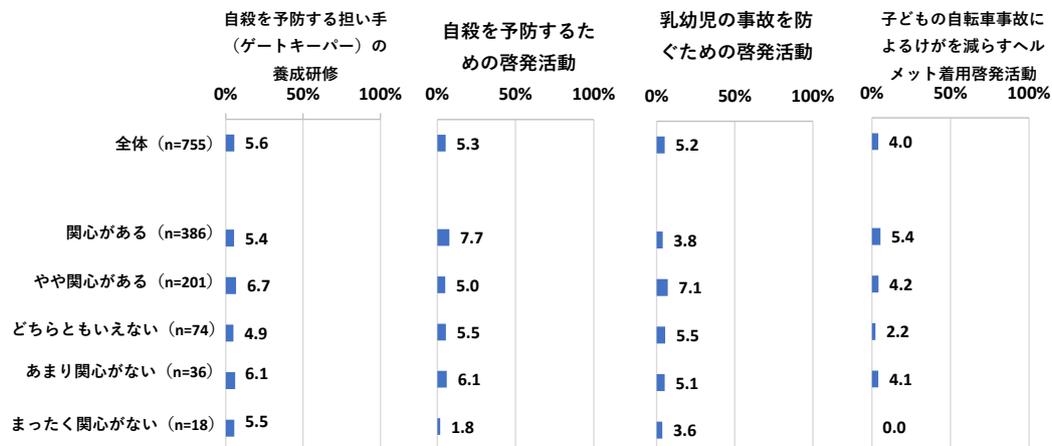
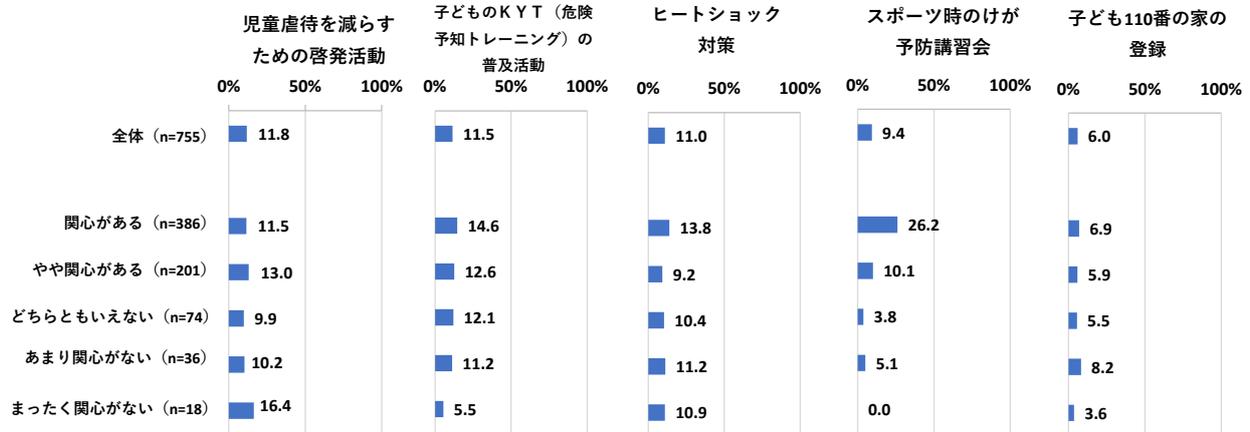
- ・『スポーツ時のけが予防』について「関心がある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」「運動不足解消のためのウォーキング」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より、それぞれ16.8ポイント、10.6ポイント高い。

今後参加したい取組

2 スポーツ時のけが予防



スポーツ時のけが予防への関心



3 交通安全

<性別>

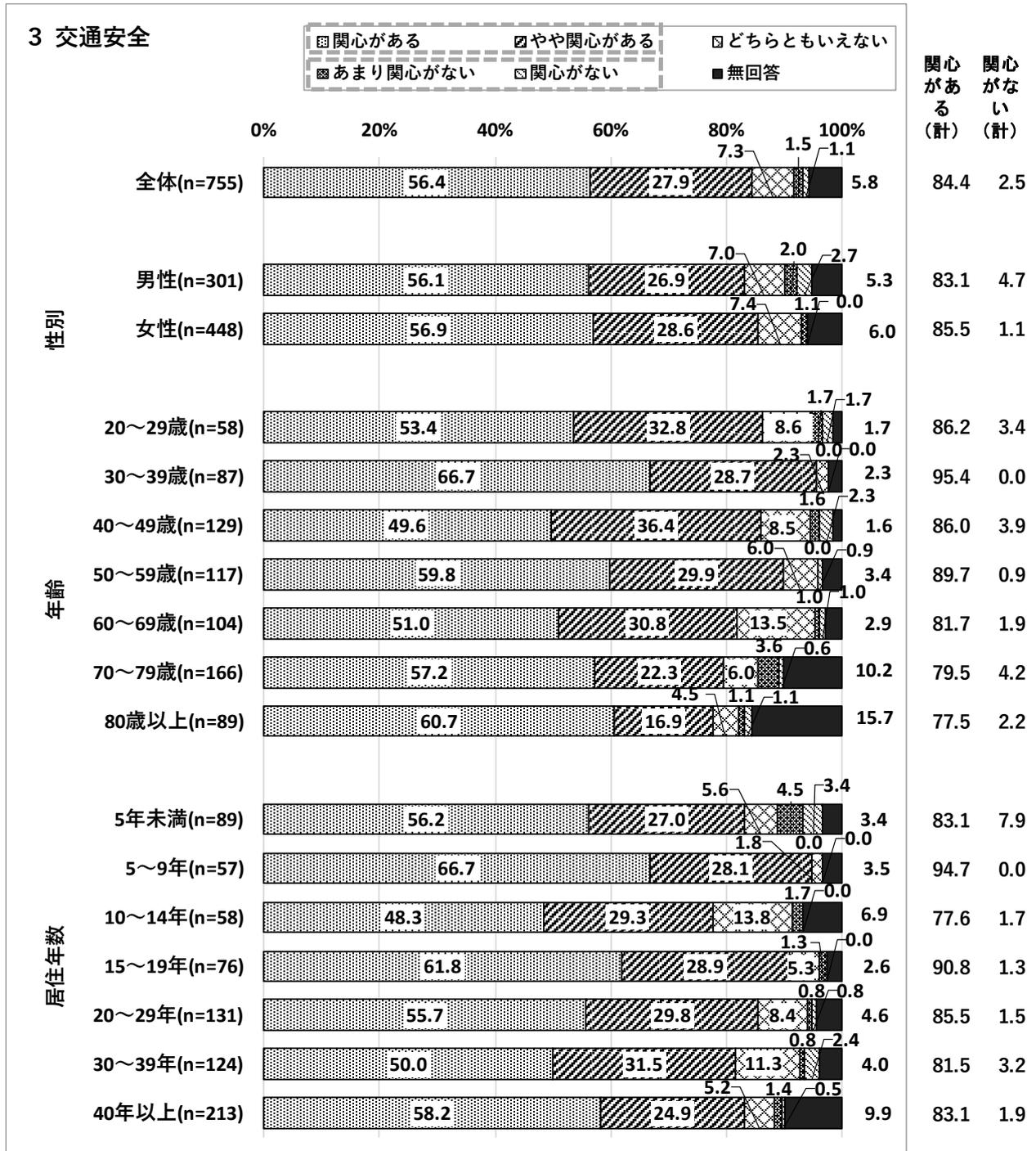
・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

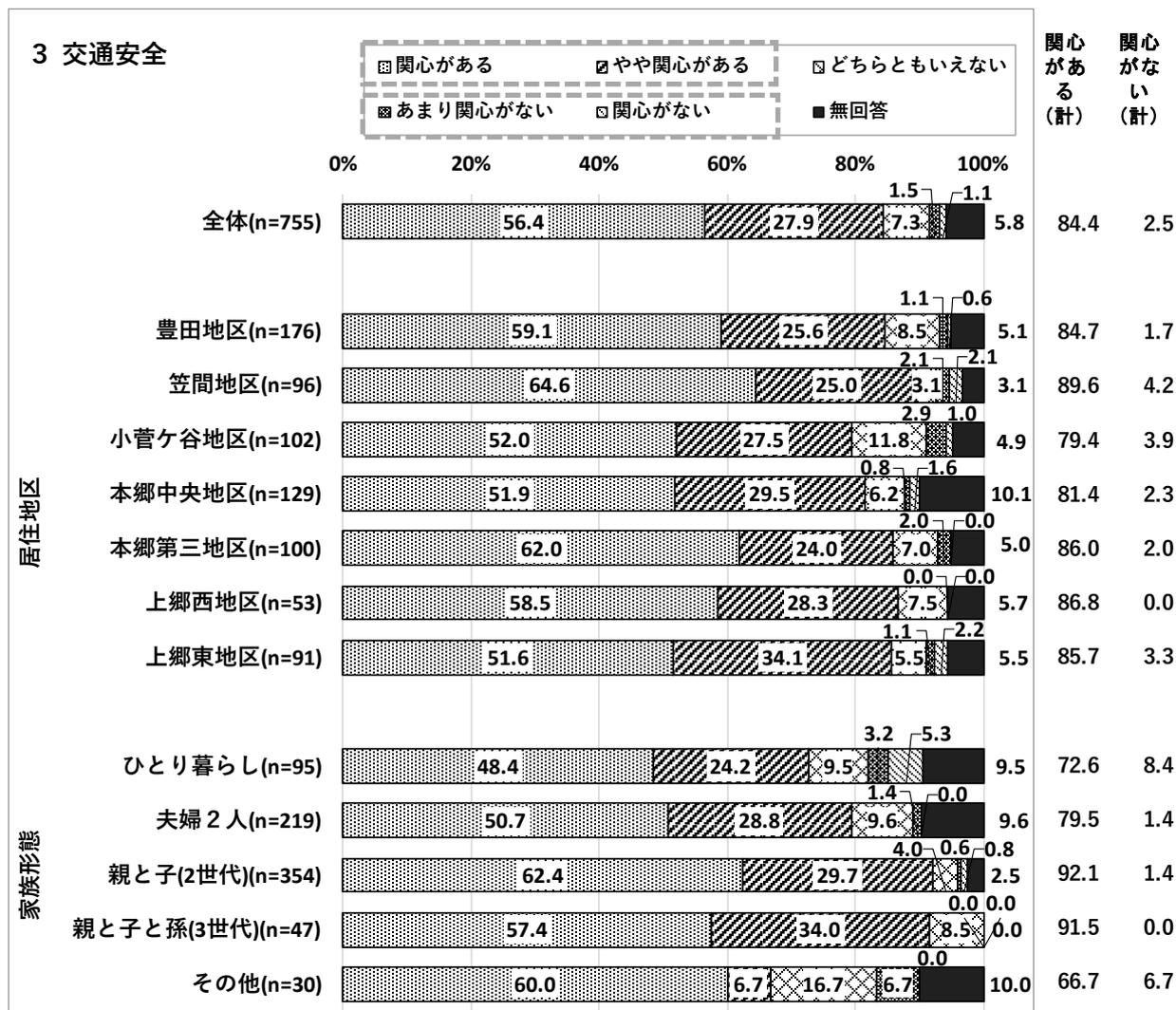


<居住地区別>

・「笠間地区」「本郷第三地区」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

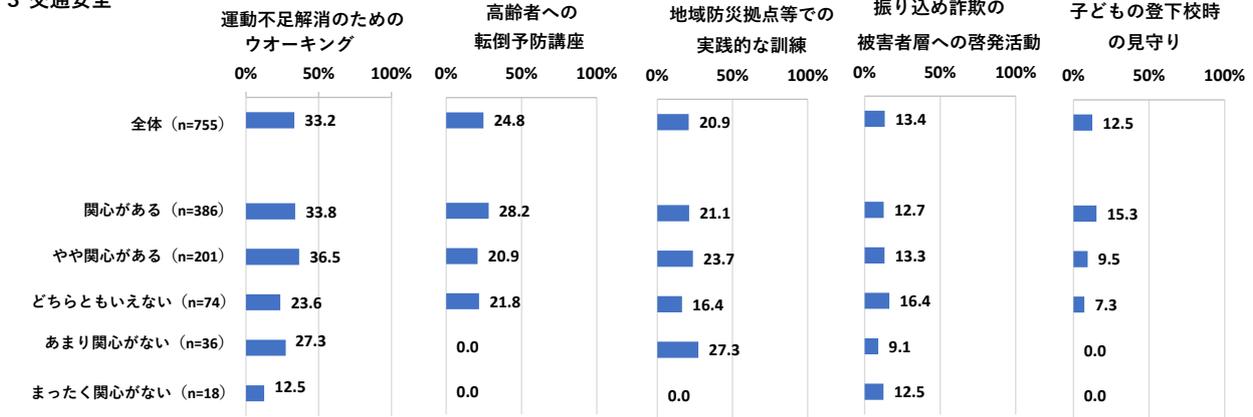


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

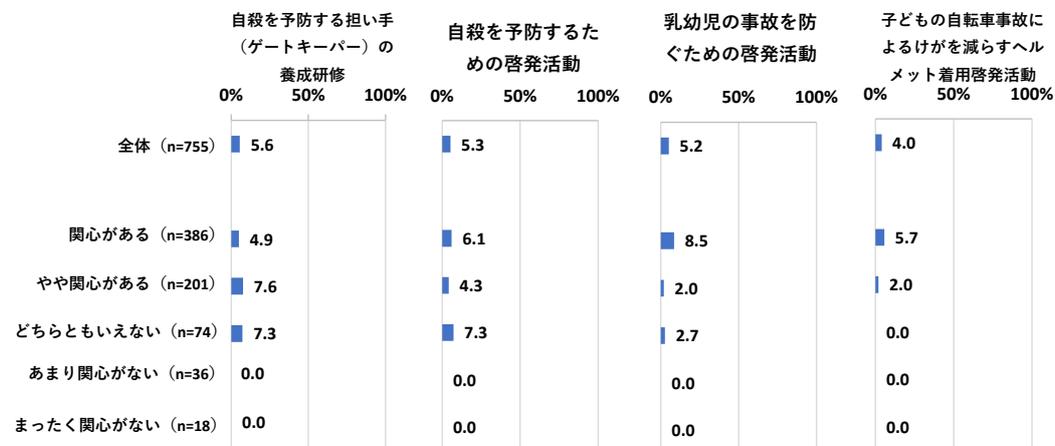
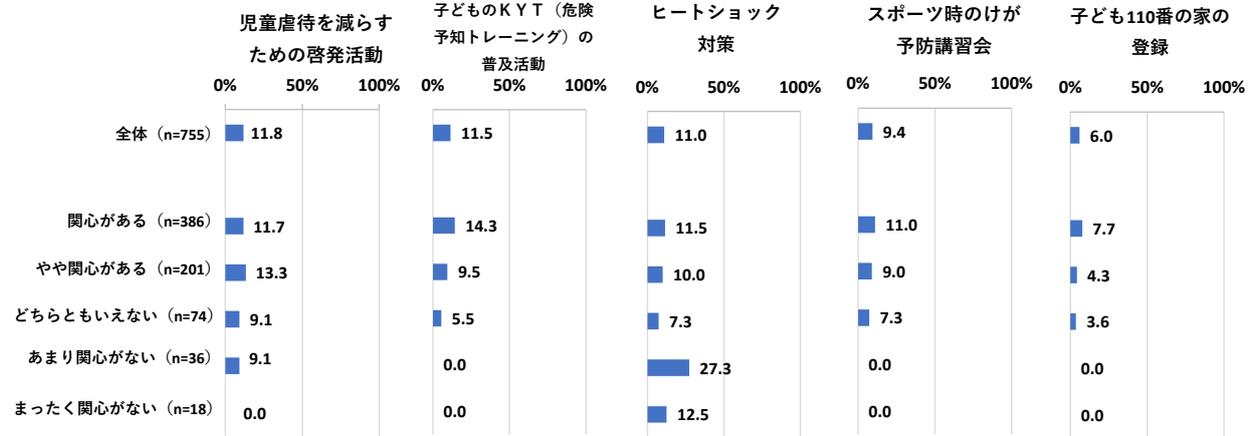
・『交通安全』について関心がある方ほど「高齢者への転倒予防講座」「子どもの登下校時の見守り」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

3 交通安全

今後参加したい取組



交通安全への関心



4 子育て支援と児童虐待

<性別>

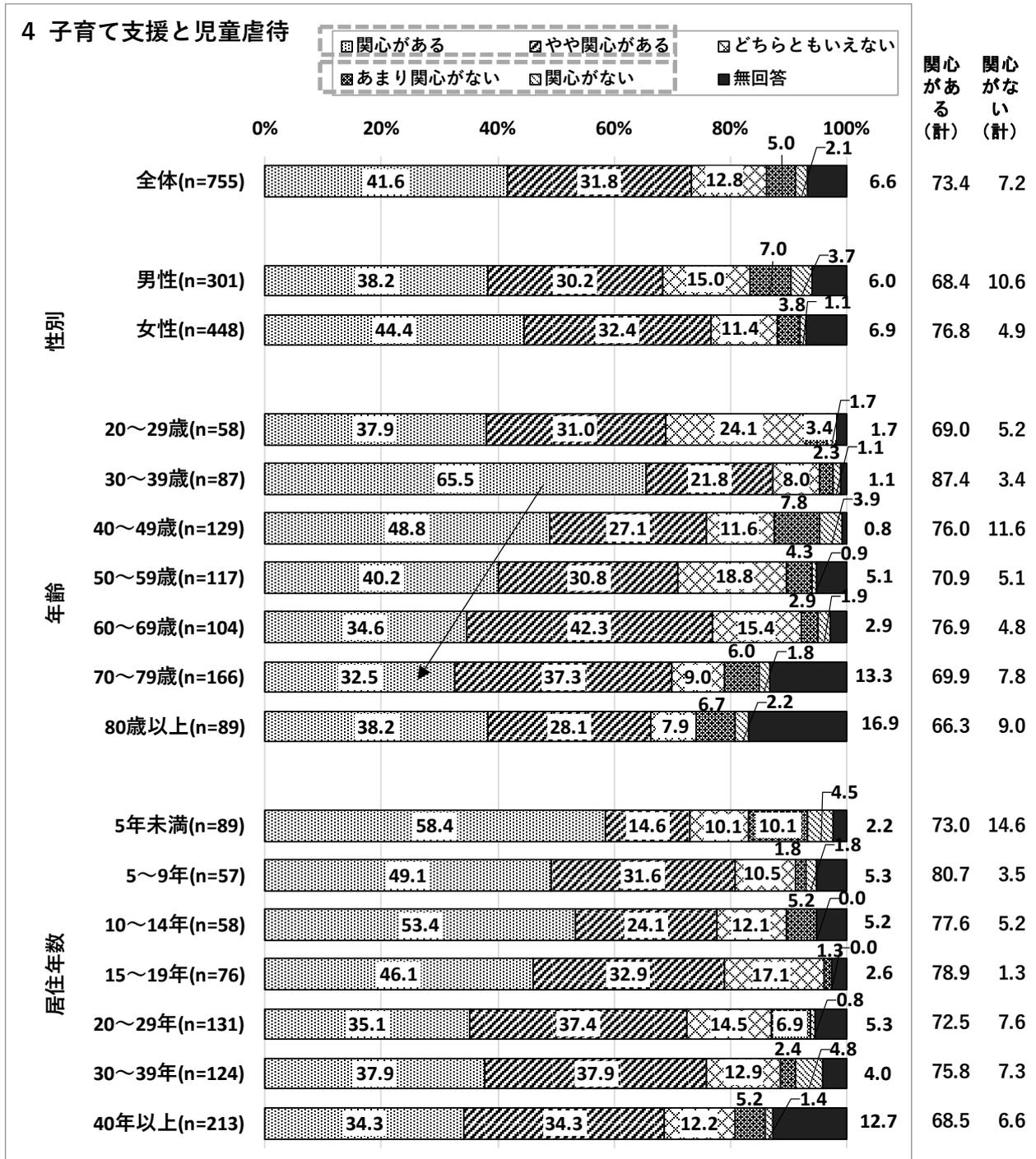
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.2ポイント高い。

<年齢別>

・「30歳から39歳」をピークに「関心がある」の割合は年齢が上がるほど低くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・「10～14年」をピークに「関心がある」の割合は居住年数が長くなるほど低くなる傾向が見られる。

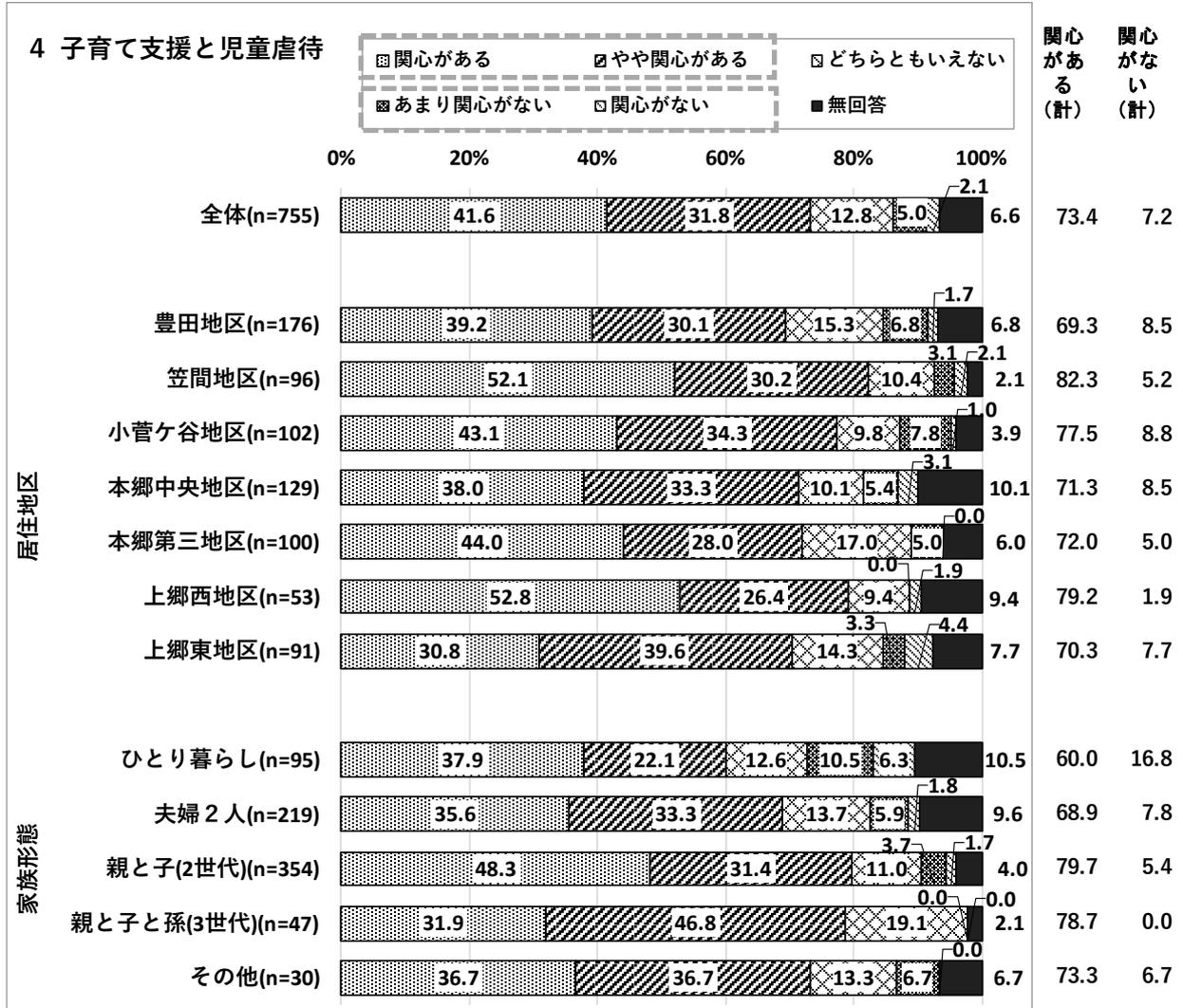


<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

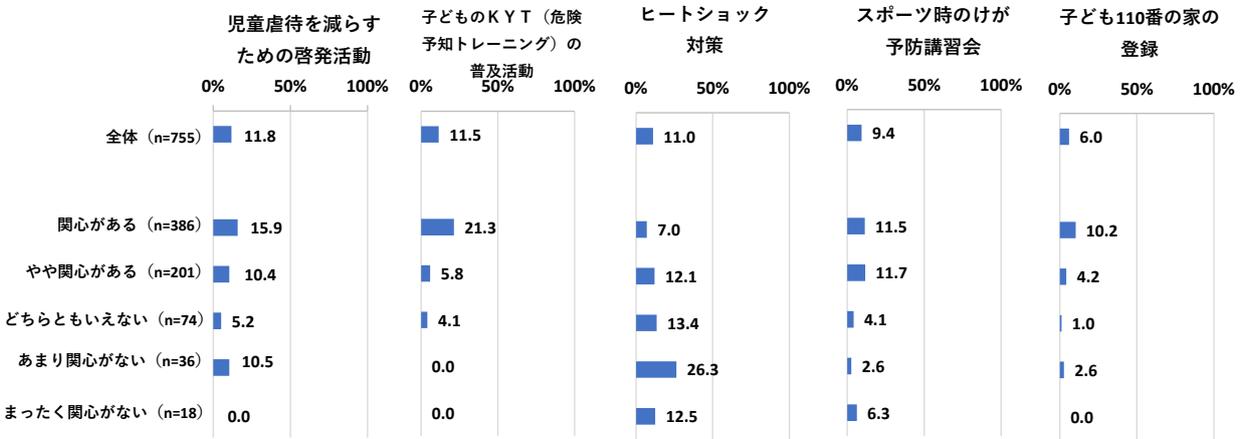
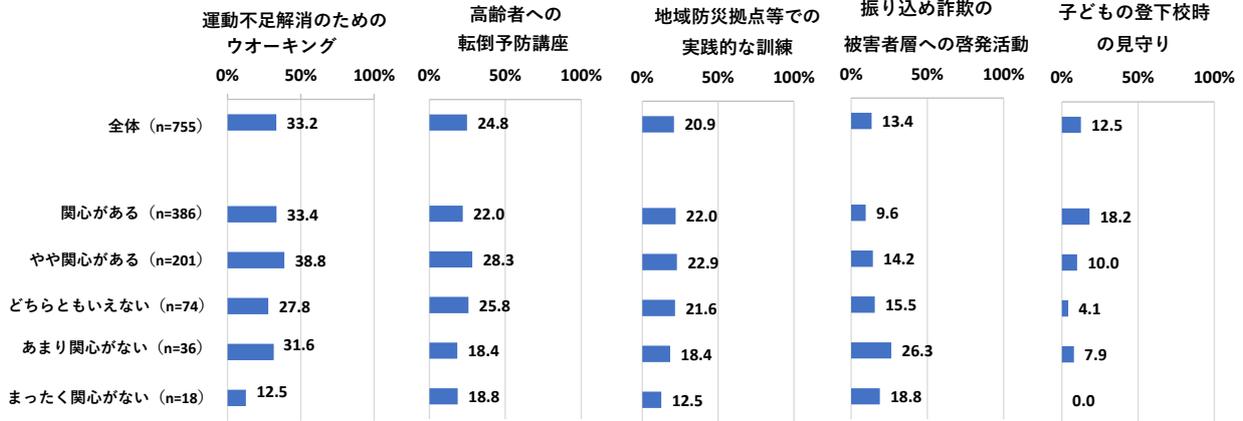


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

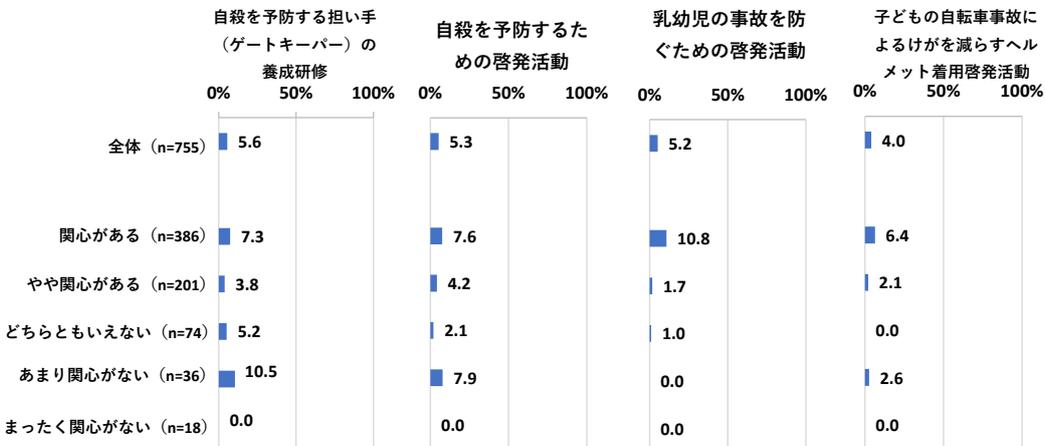
- ・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」「子どもの登下校時の見守り」「乳幼児の事故を防ぐための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

今後参加したい取組

4 子育て支援と児童虐待の防止



子育て支援と児童虐待の防止への関心



5 高齢者の安全

<性別>

・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.3ポイント高い。

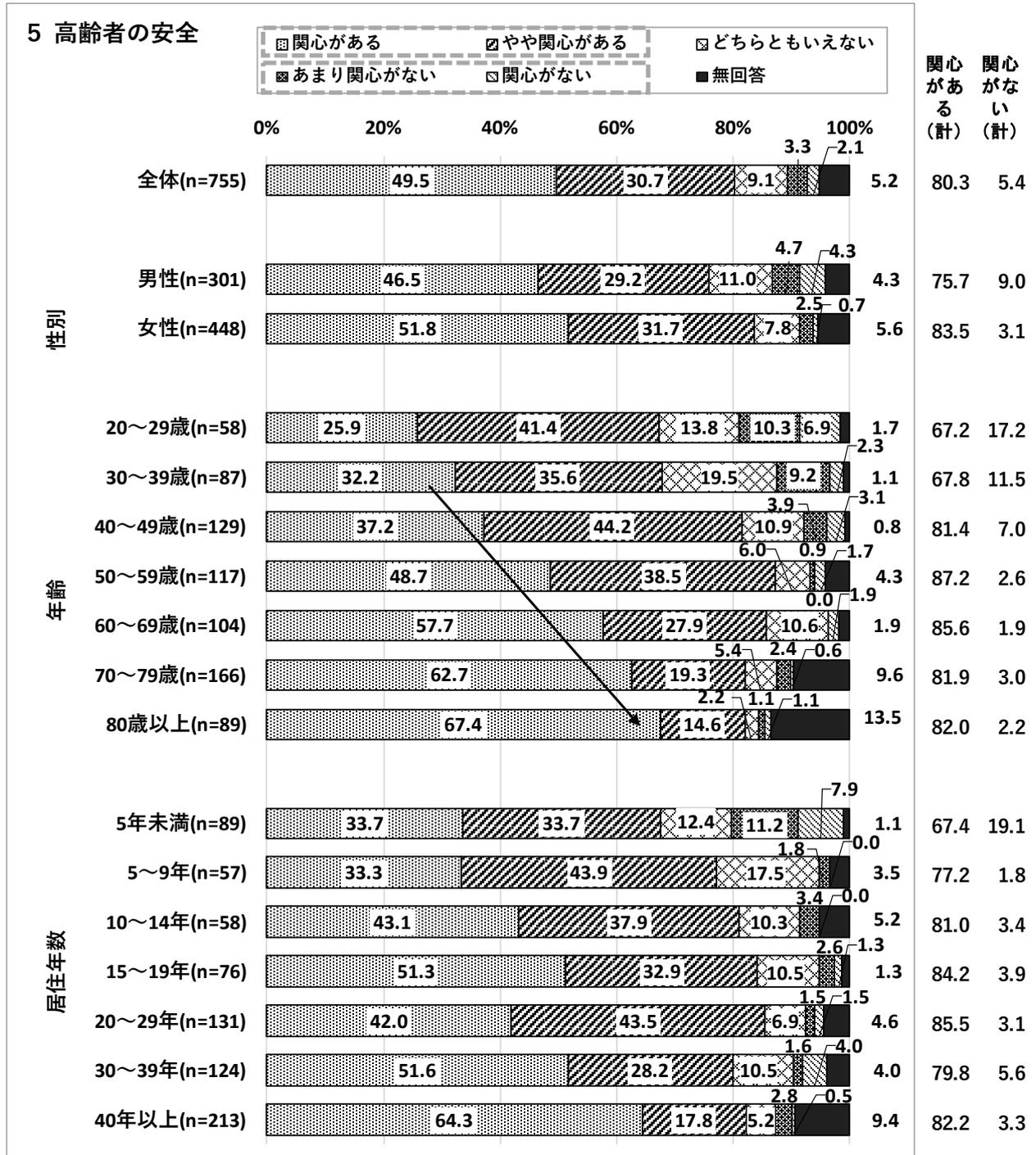
<年齢別>

・「関心がある」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。

・「70～79歳」「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「関心がある」の割合は居住年数が長くなるほど高くなる傾向が見られる。

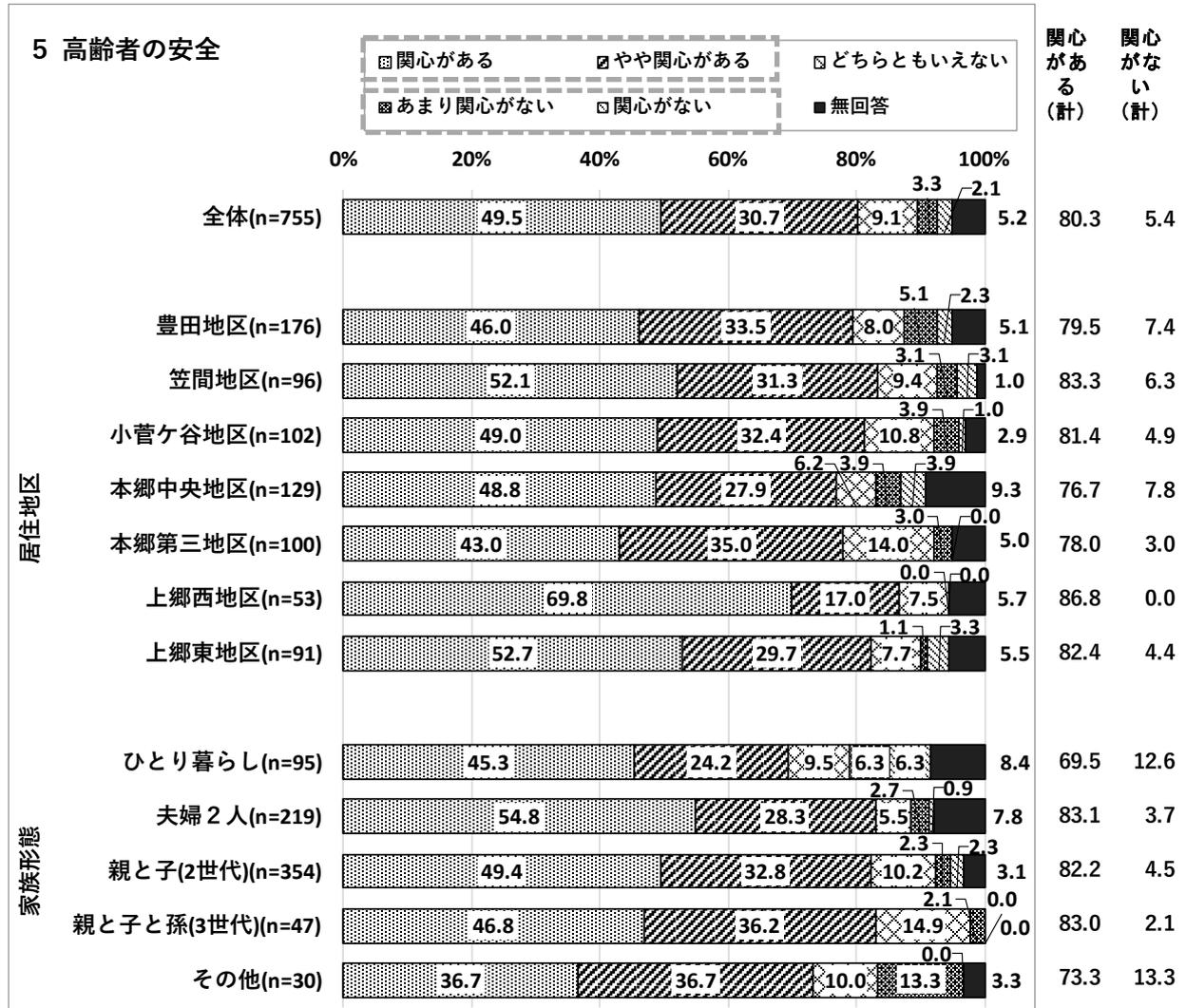


<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より 20 ポイント以上高い。

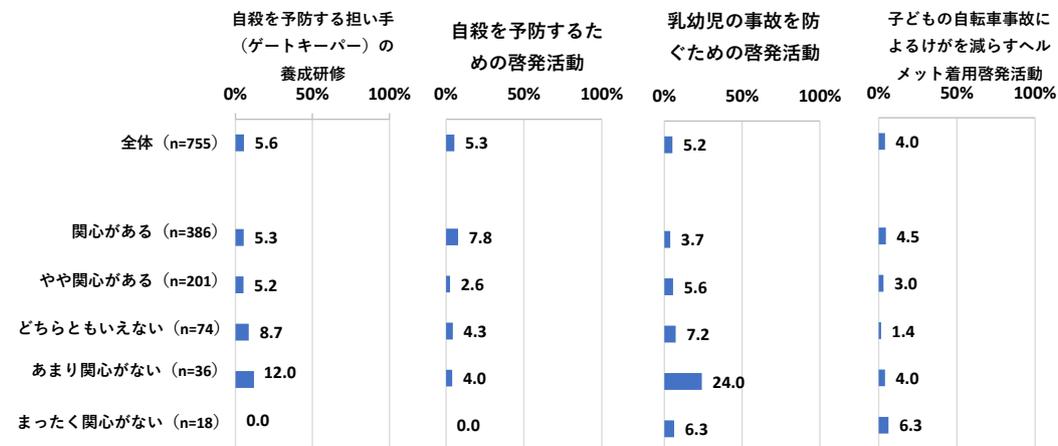
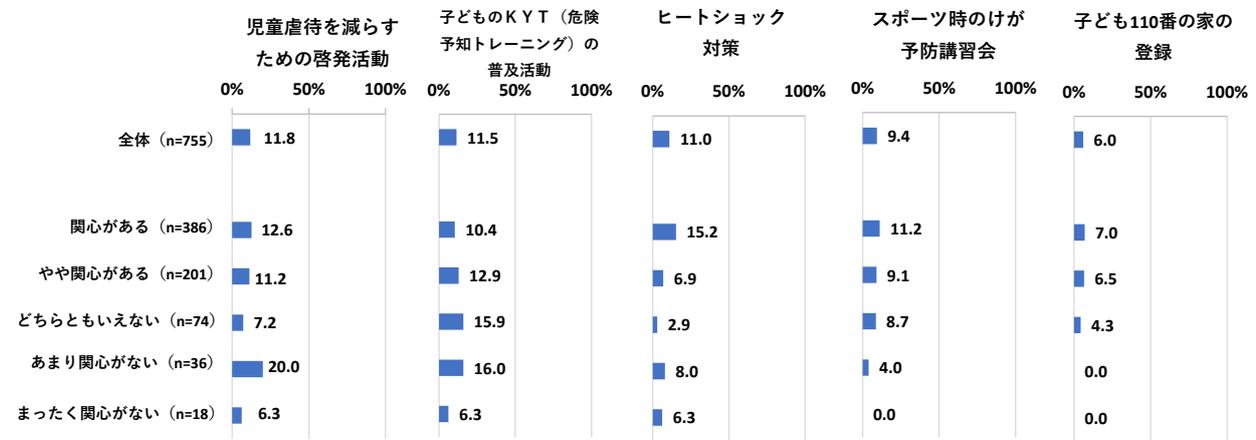
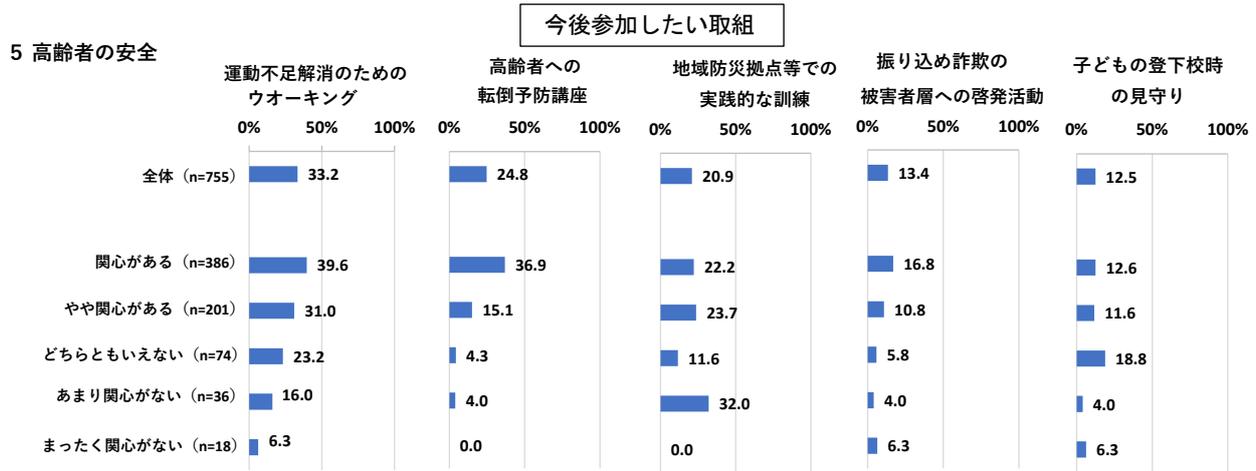
<家族形態別>

・「夫婦 2 人」では、「関心がある」の割合が全体より 5 ポイント以上高い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

- ・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上、「運動不足解消のためのウォーキング」「ヒートショック対策」では5ポイント程度高くなっている。



6 災害への備え

<性別>

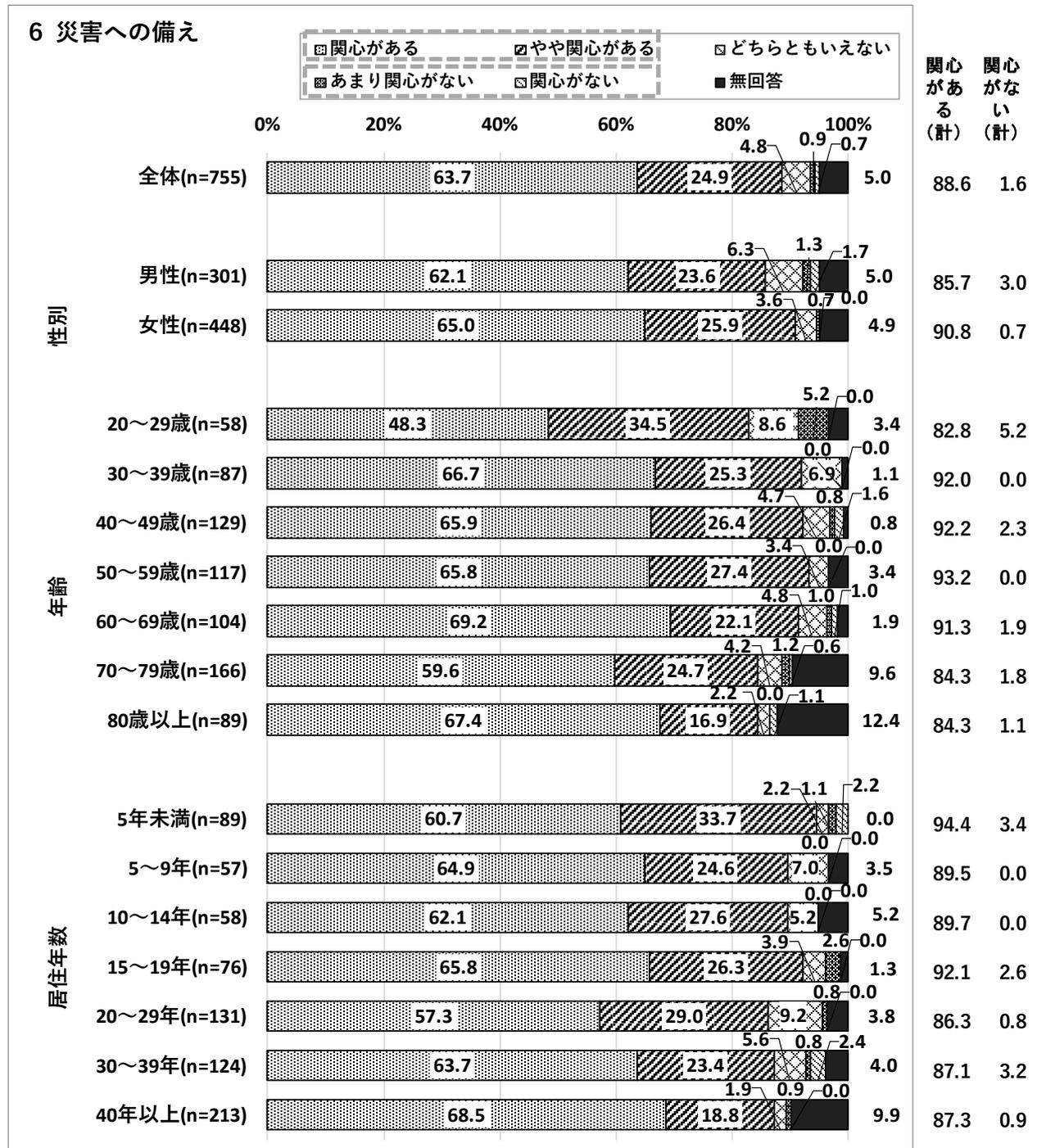
・「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合は、「男性」より「女性」の方が5.1ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

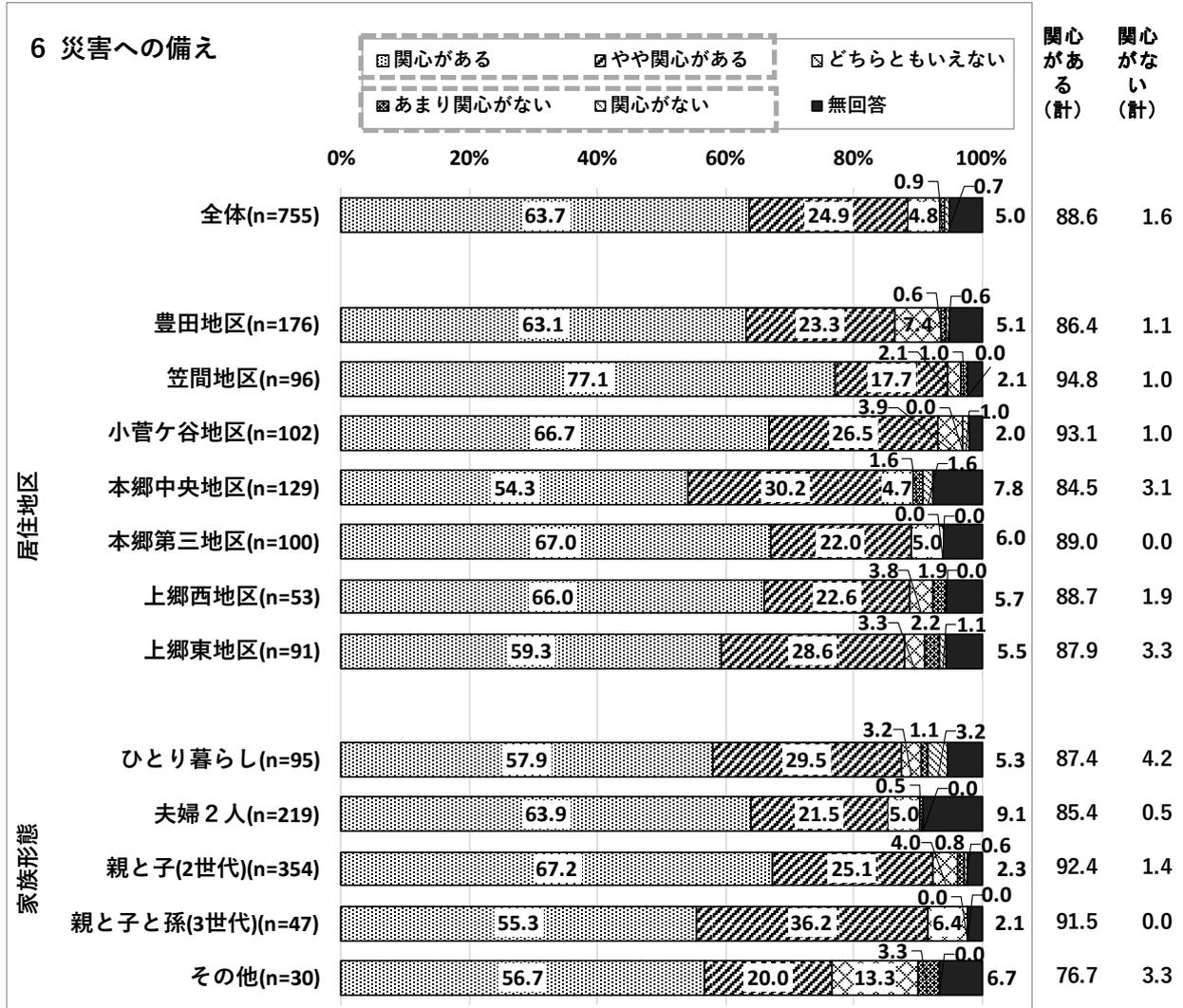


<居住地区別>

・「笠間地区」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差はみられない。

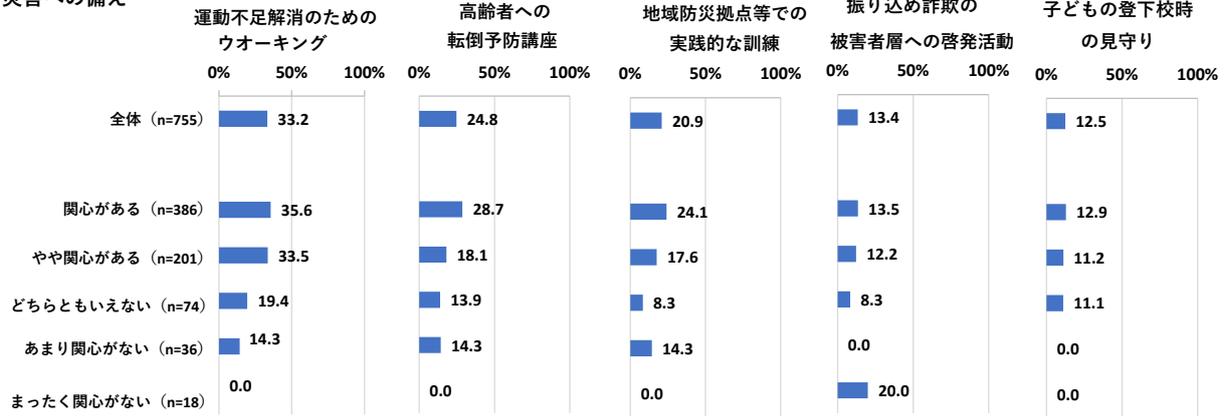


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

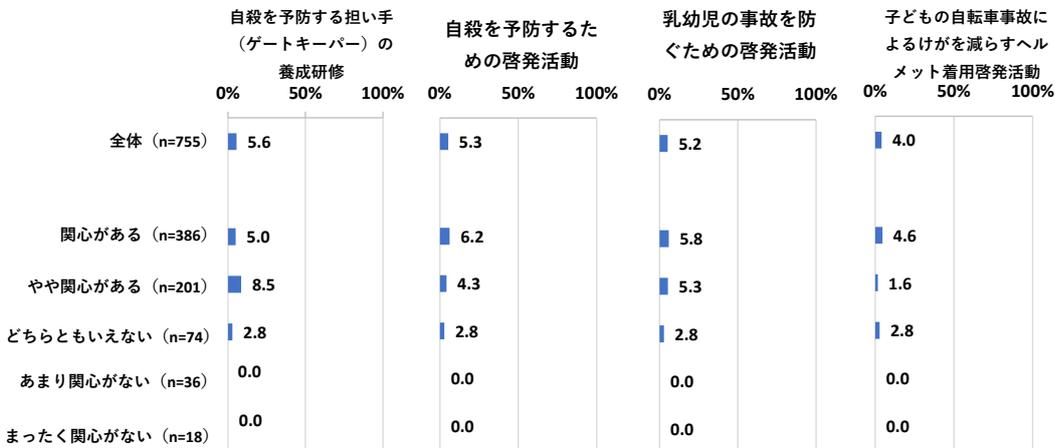
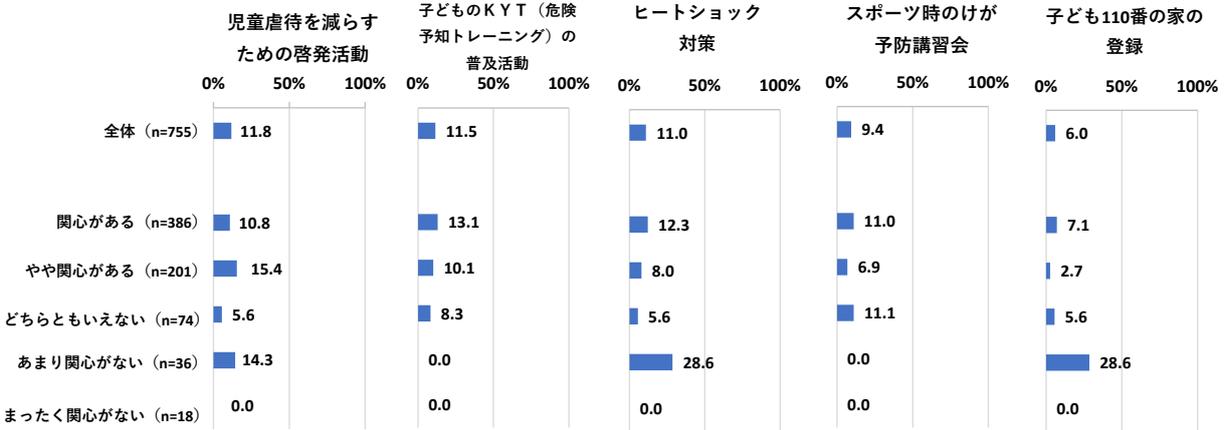
・『災害への備え』について関心が高い方ほど「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

今後参加したい取組

6 災害への備え



災害への備えへの関心



7 自殺予防対策

<性別>

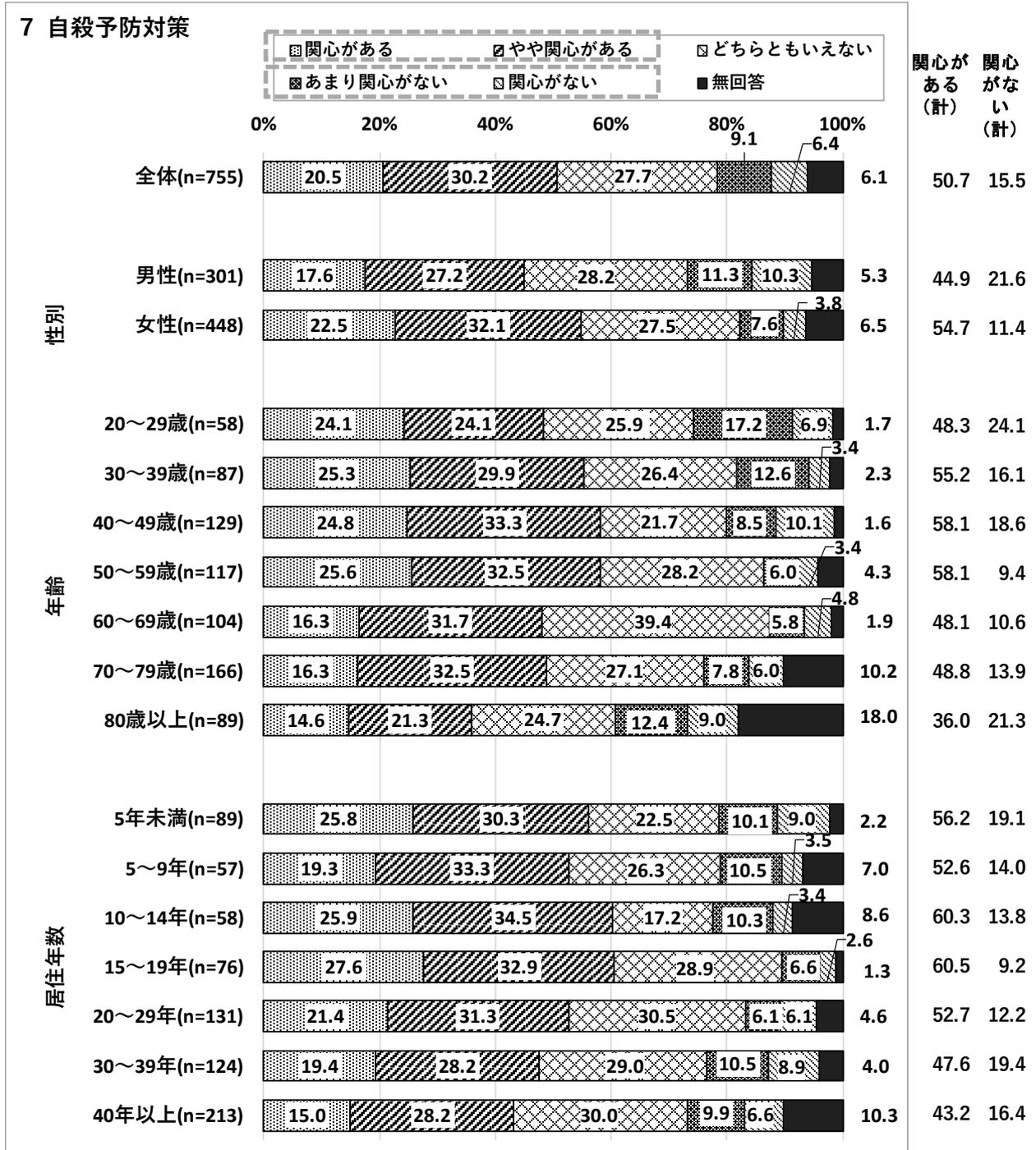
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.9ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

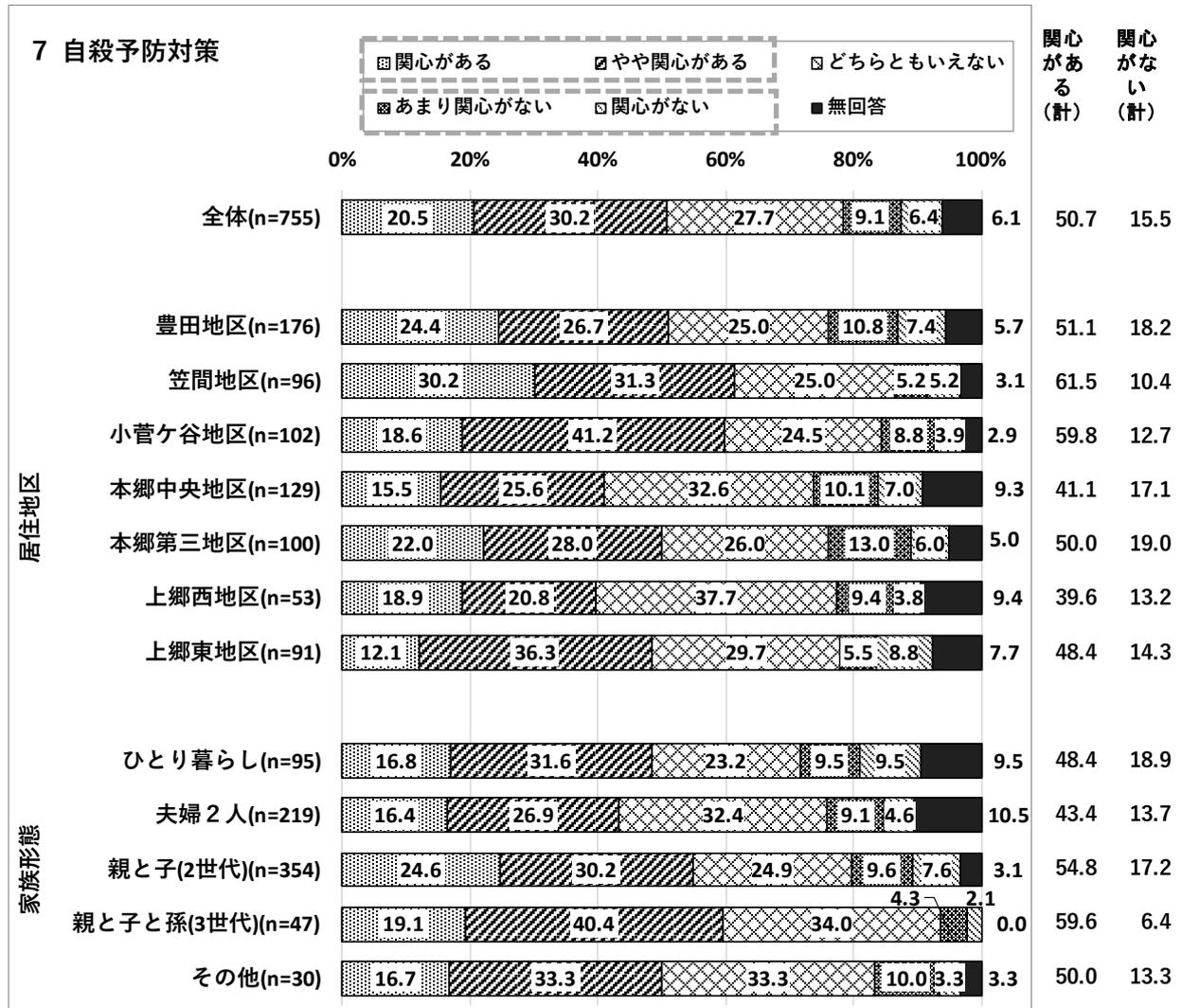


<居住地区別>

・「笠間地区」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高い。

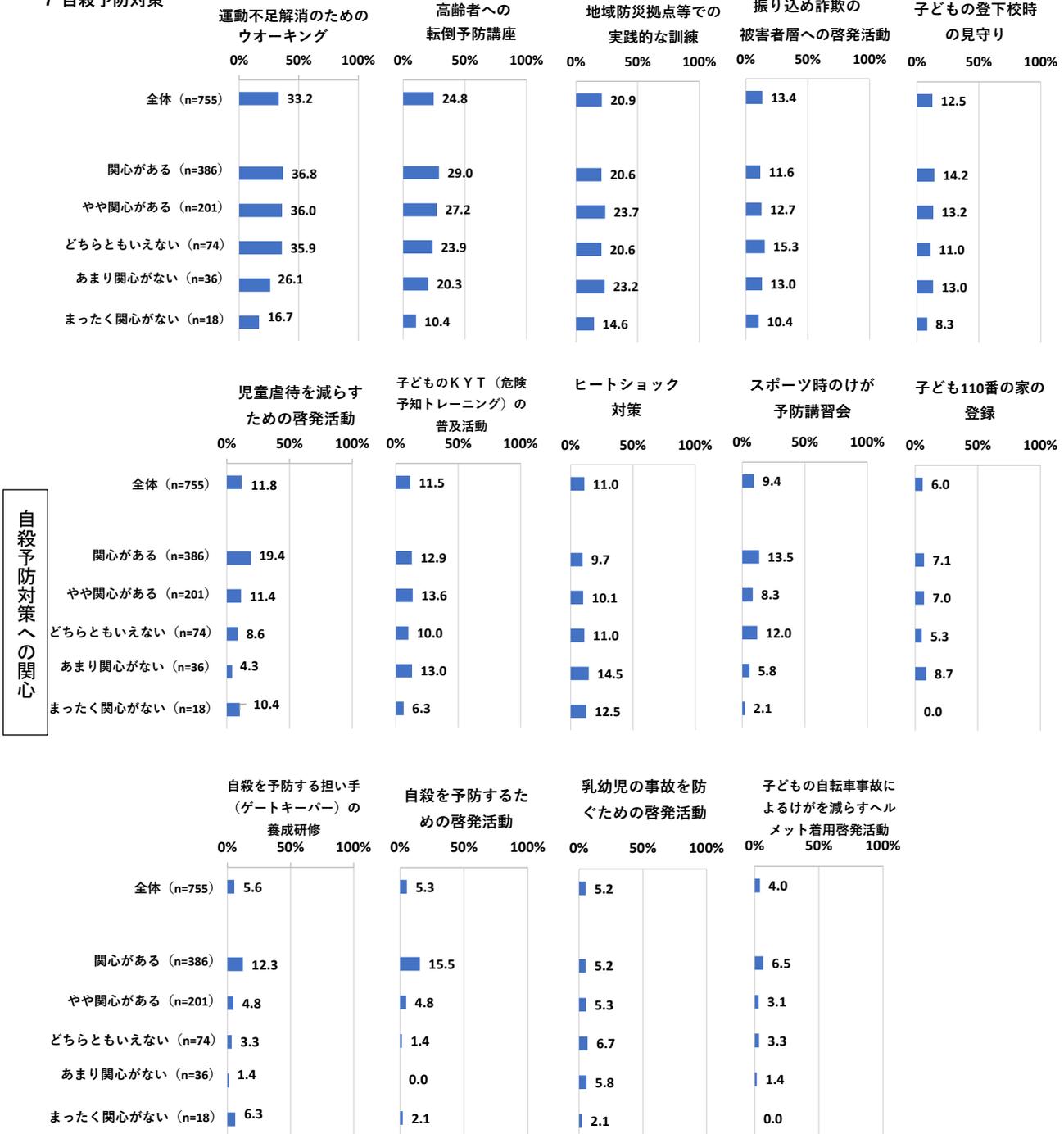


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

- ・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「自殺を予防するための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上、「自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修」「児童虐待を減らすための啓発活動」を挙げる割合が5ポイント以上高い。

今後参加したい取組

7 自殺予防対策



自殺予防対策への関心

8 防犯対策

<性別>

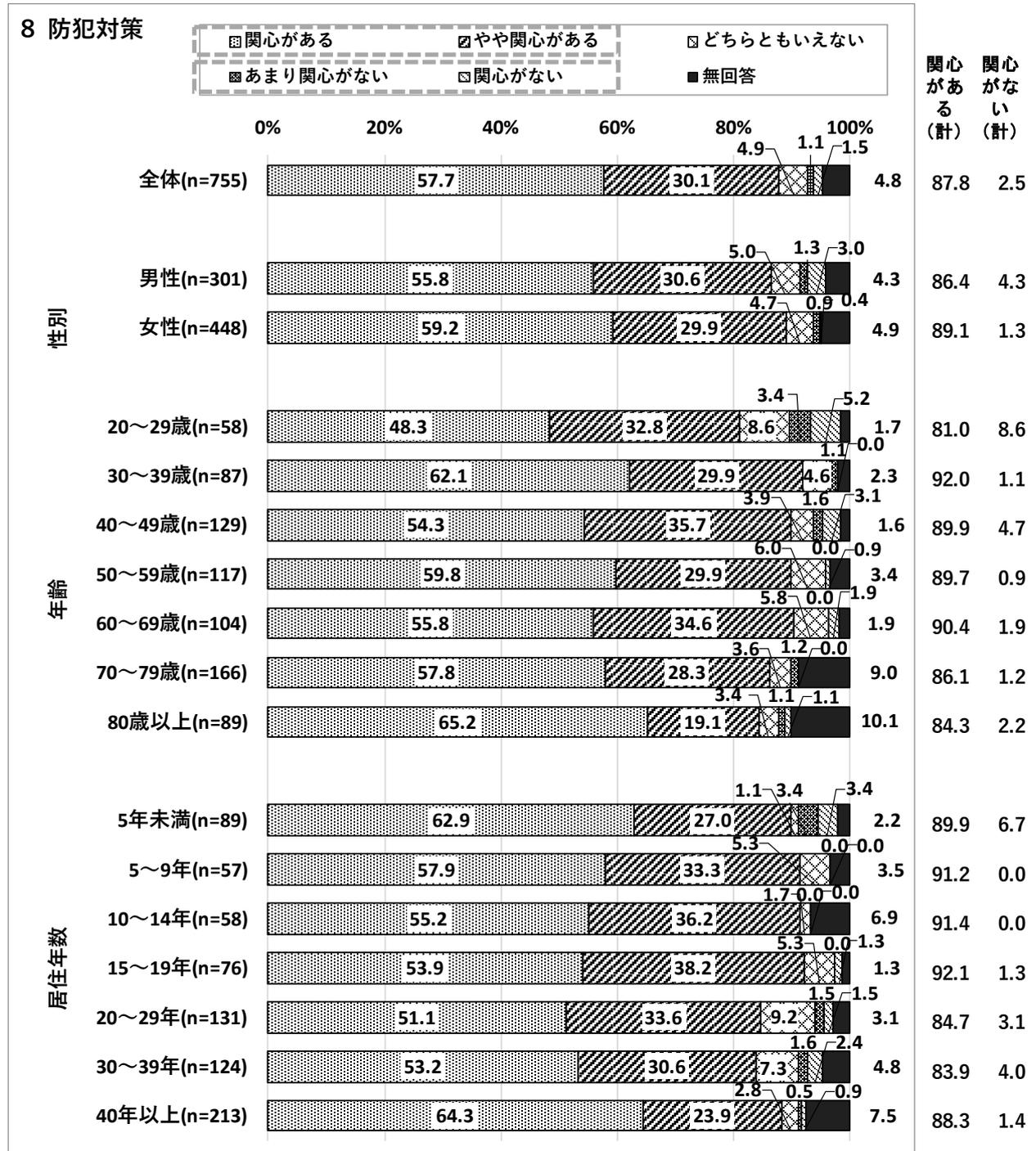
・「関心がある」の割合は、「男性」より「女性」の方が3.4ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」「40年以上」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

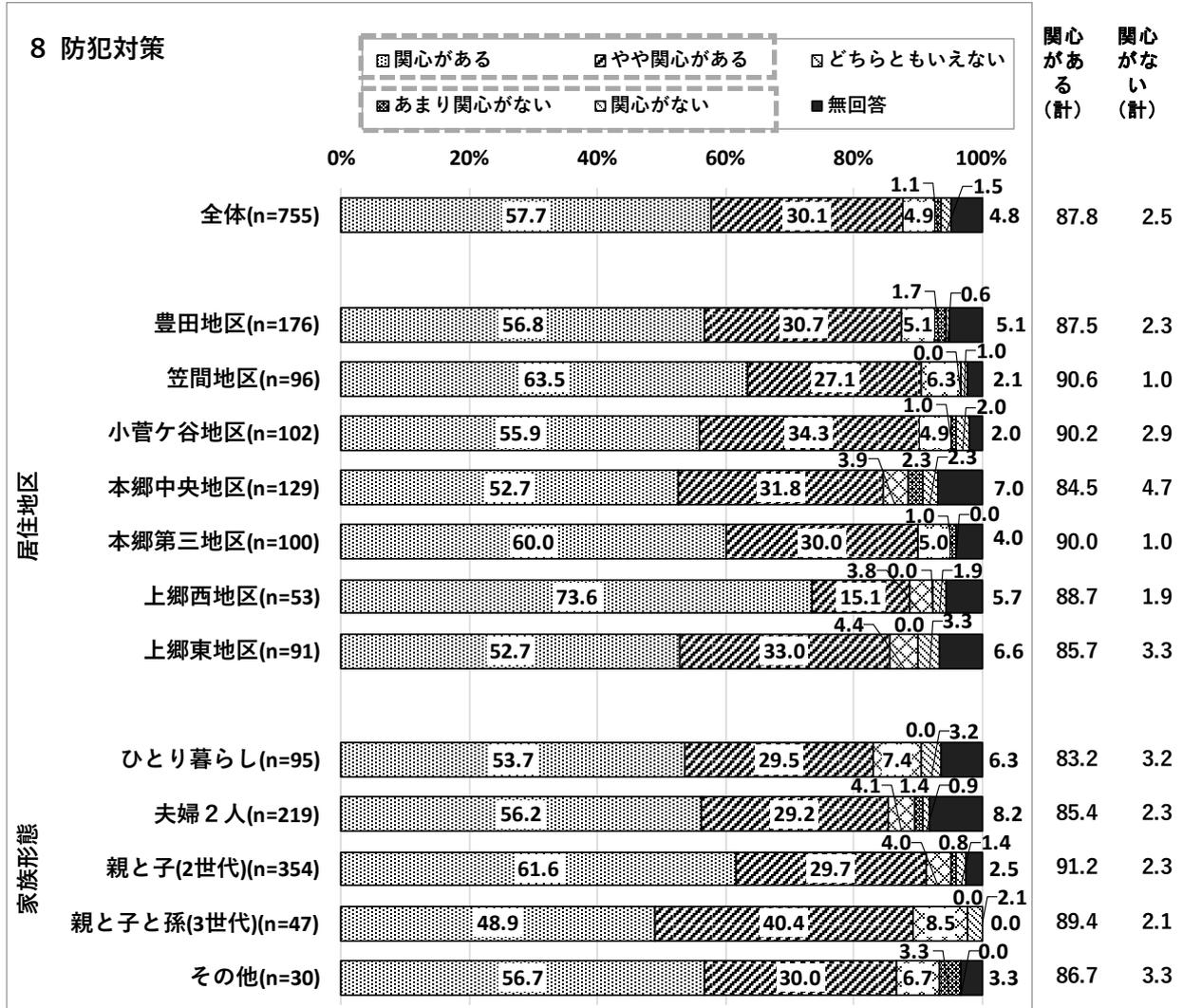


<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差はみられない。

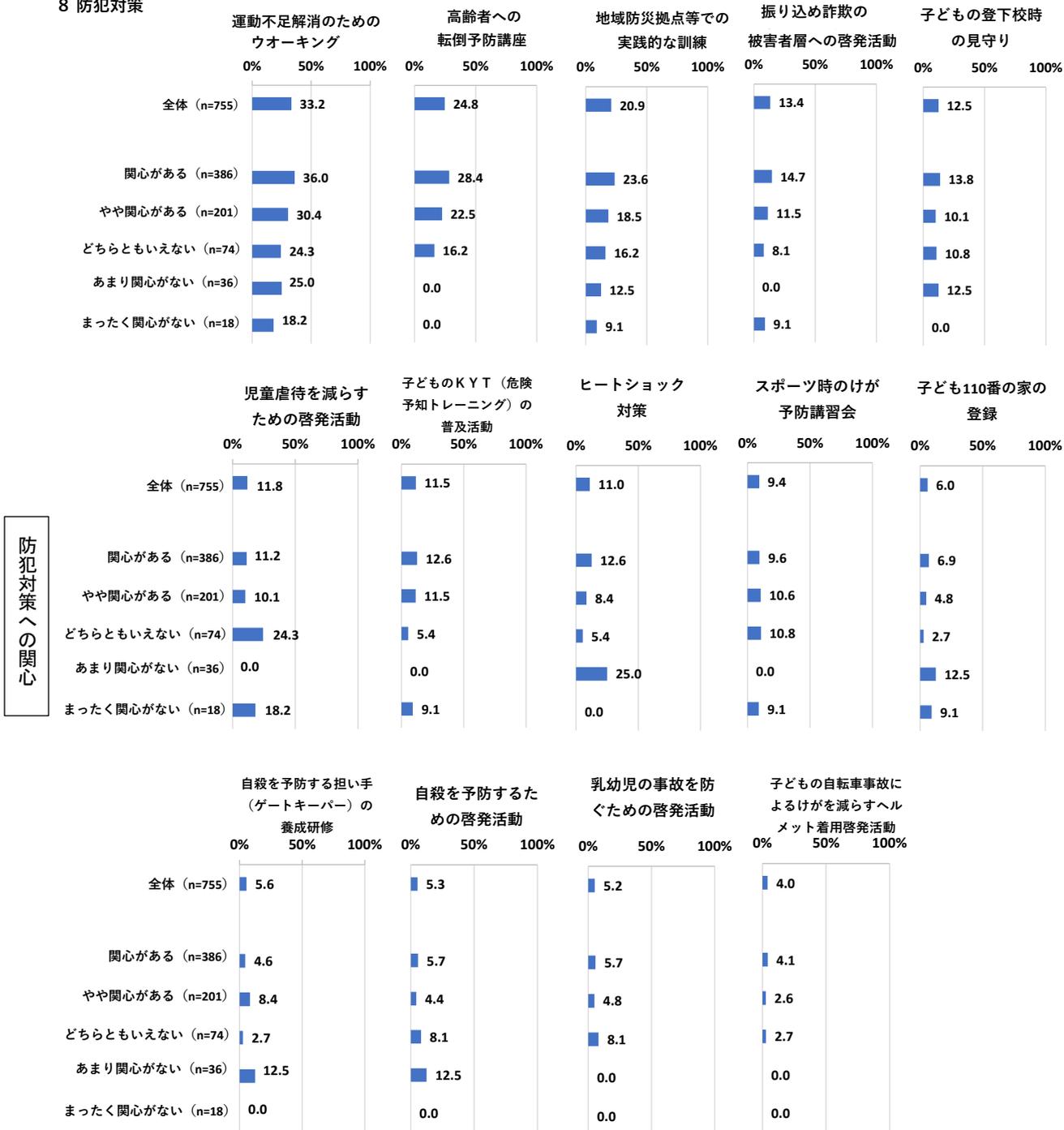


【セーフコミュニティの重点項目への関心：(7)今後参加したい取組との相関】

- ・『防犯対策』について関心が高い方は、「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が比較的高い傾向が見られる。

今後参加したい取組

8 防犯対策



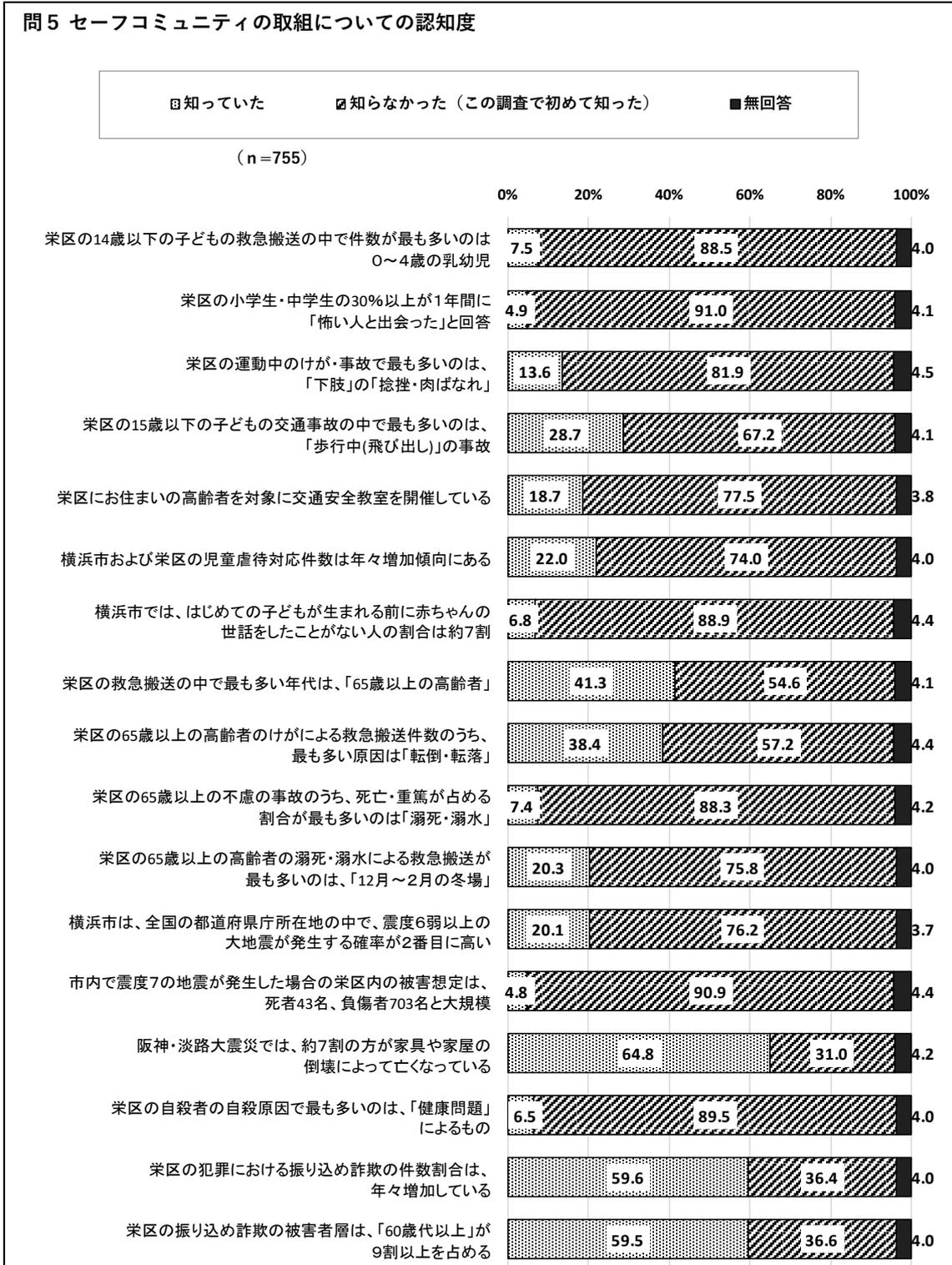
防犯対策への関心

2 日常生活におけるけが・事故の危険性

(5) けが・事故の危険性の認知度

<全体>

・けが・事故の危険性について、阪神・淡路大震災では約7割の方が家具や家屋の倒壊でなくなっていることと振り込め詐欺に関する2問は「知っていた」方が6割前後と高い割合になった。その一方、「知らなかった」方が多いのは、栄区の小中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答していることと、市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定についてで、共に9割以上と高い割合となっている。



※ 以下、問5選択肢「知らなかった (この調査で初めて知った)」は、文章中「知らなかった」と表記

【けが・事故の危険性の認知度： 属性別】

1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送で件数が最も多いのは「0～4歳」の乳幼児である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.3ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

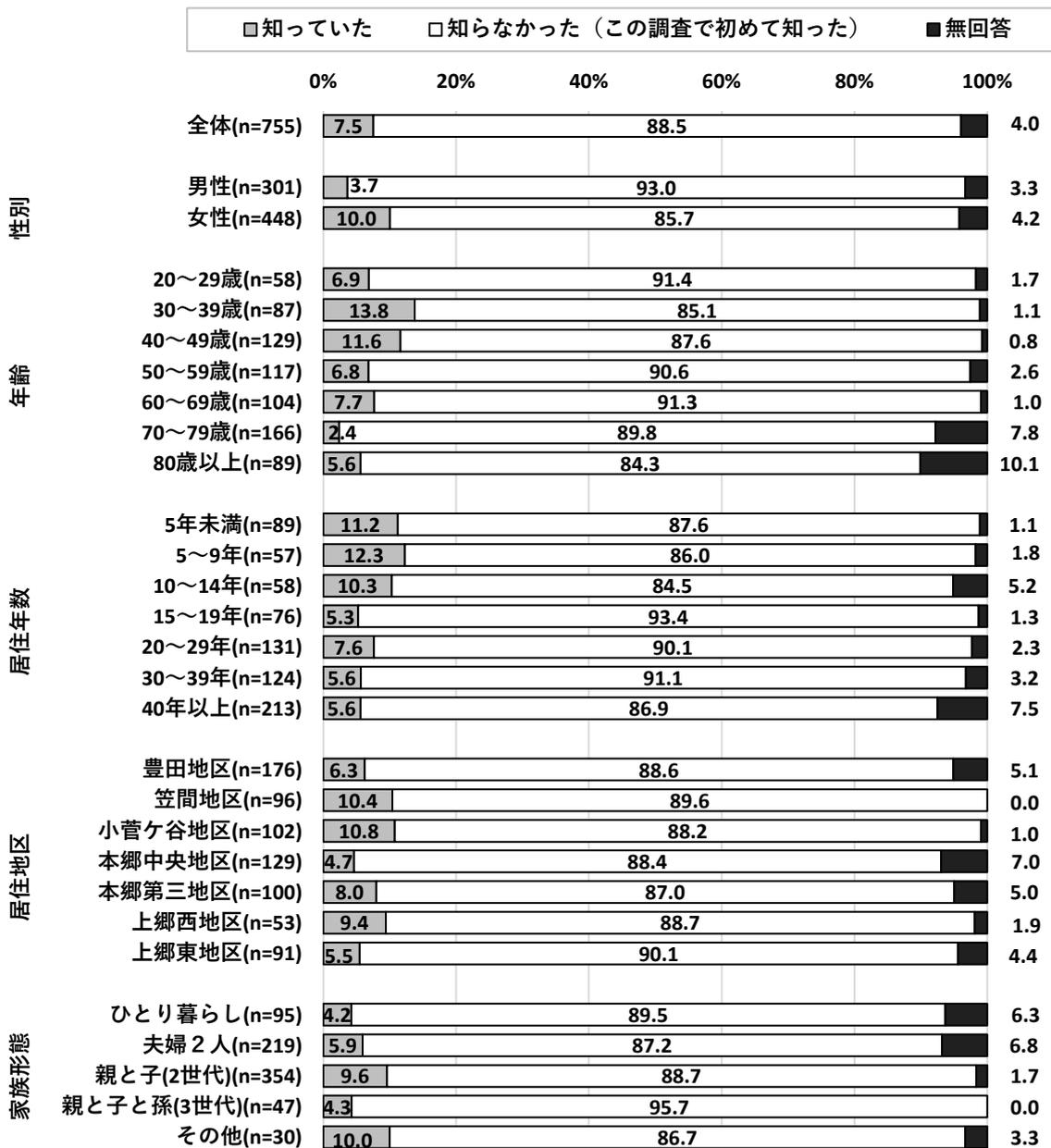
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送で件数が最も多いのは「0～4歳」の乳幼児



2 栄区の小学生・中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答している

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

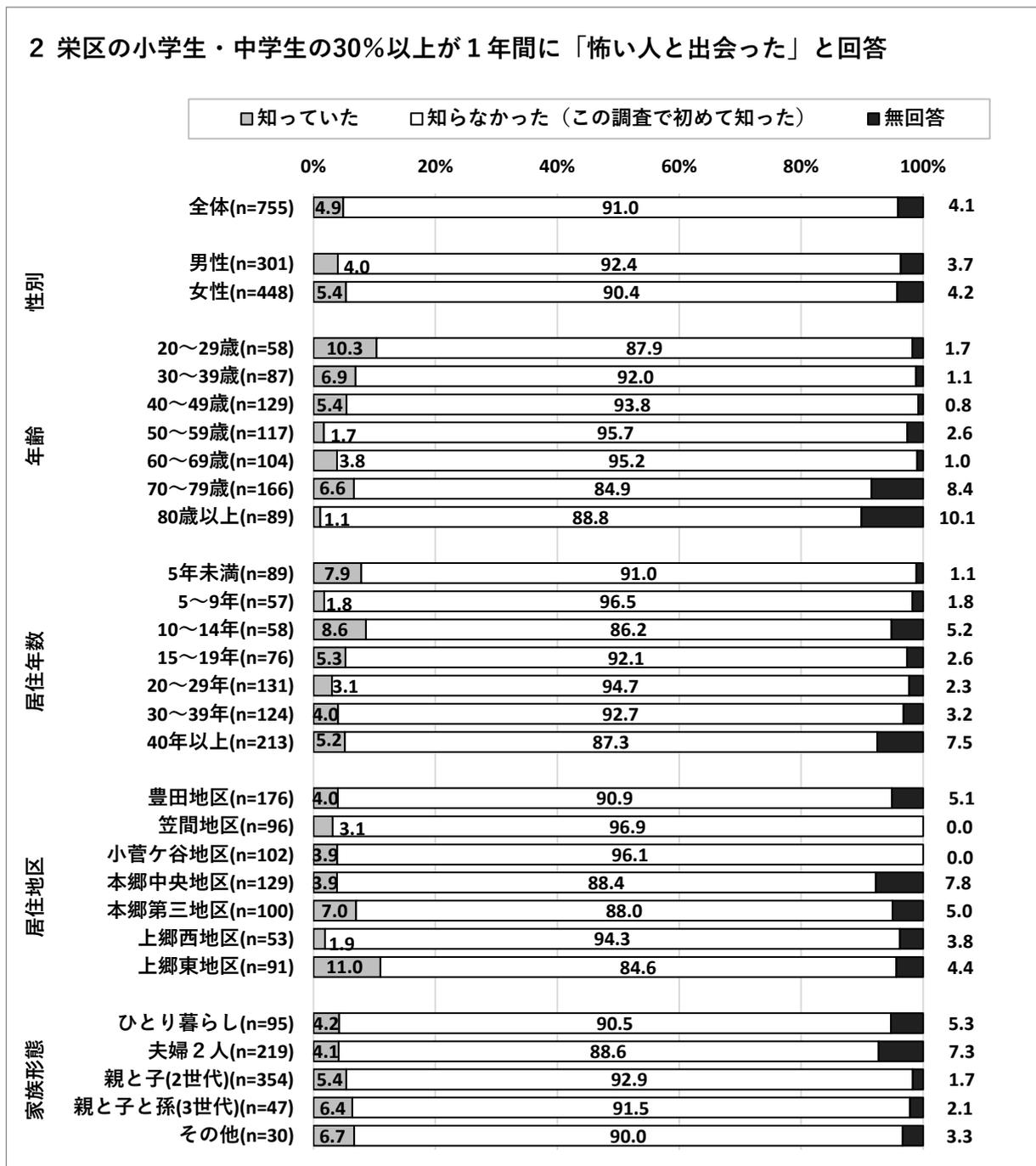
・「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



3 栄区の運動中のけが・事故で最も多いのは、「下肢」の「捻挫・肉ばなれ」である

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「40～49歳」「50～59歳」では「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

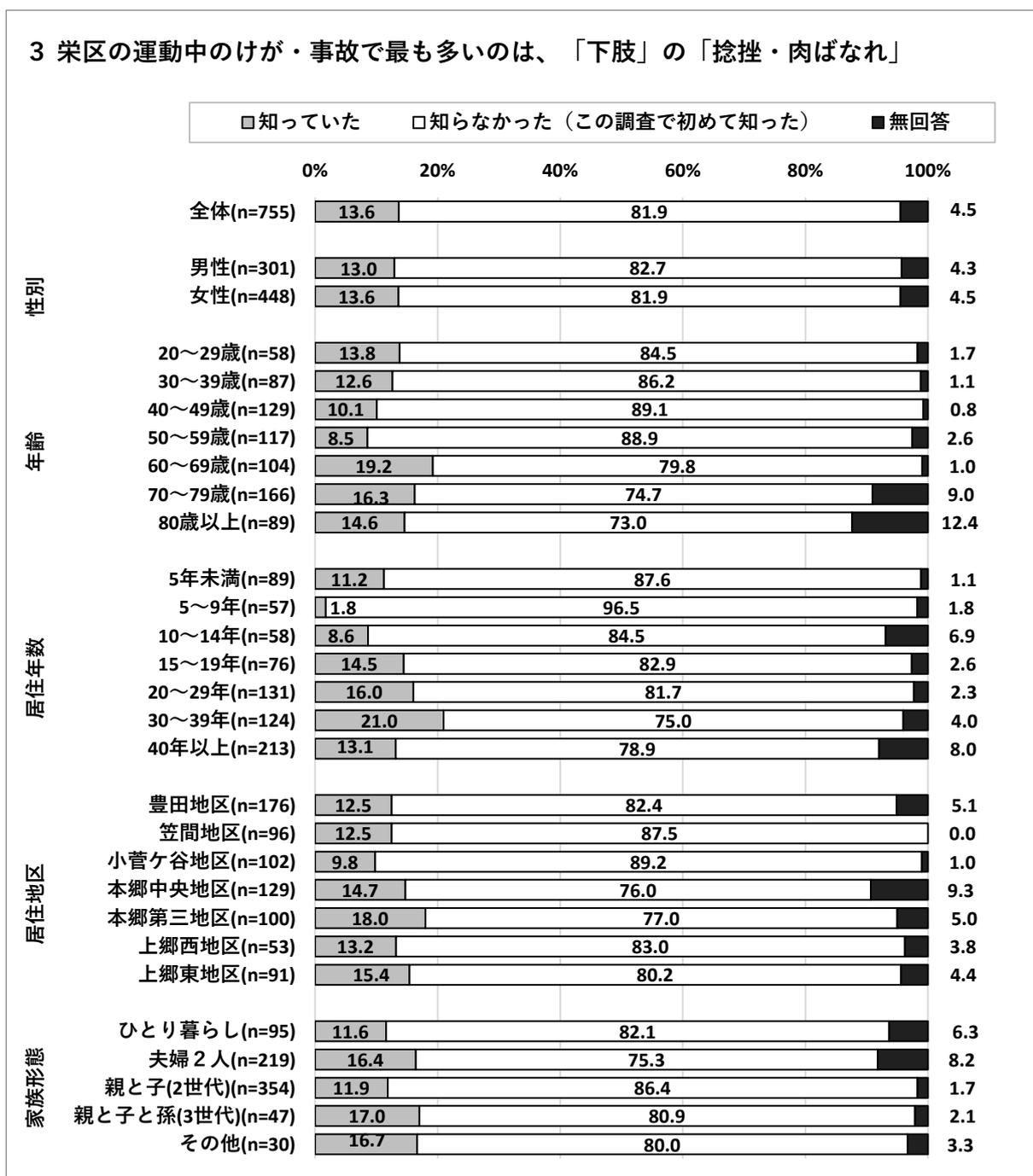
・「30～39年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「知らなかった」の割合は「5～9年」では10ポイント以上、「5年未満」では5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは、「歩行中(飛び出し)」の事故である

<性別>

・「知っていた」の割合は、男女別に差は見られない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

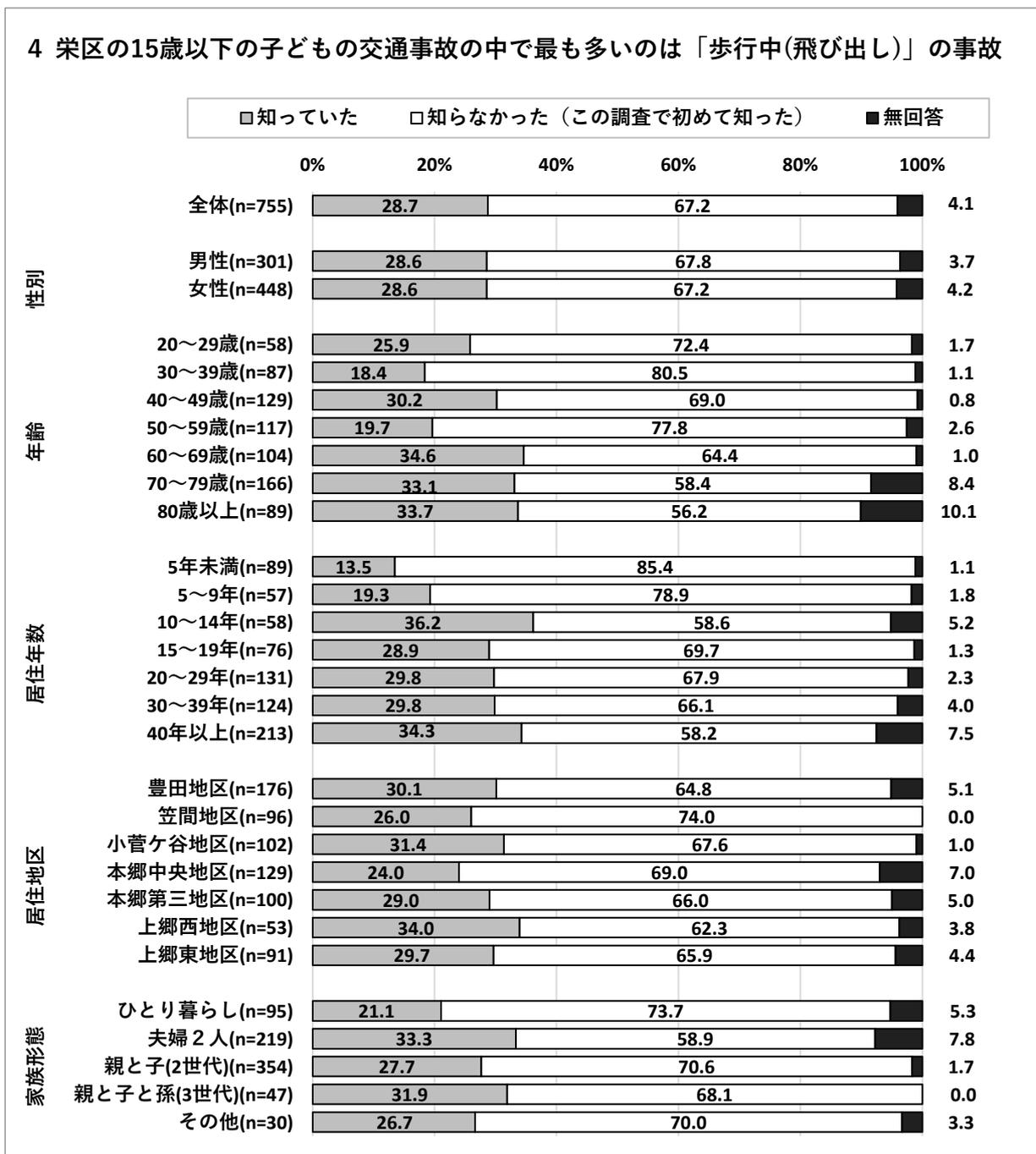
・「10～14年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催している

<性別>

・「知っていた」の割合は、「女性」より「男性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「20～29年」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

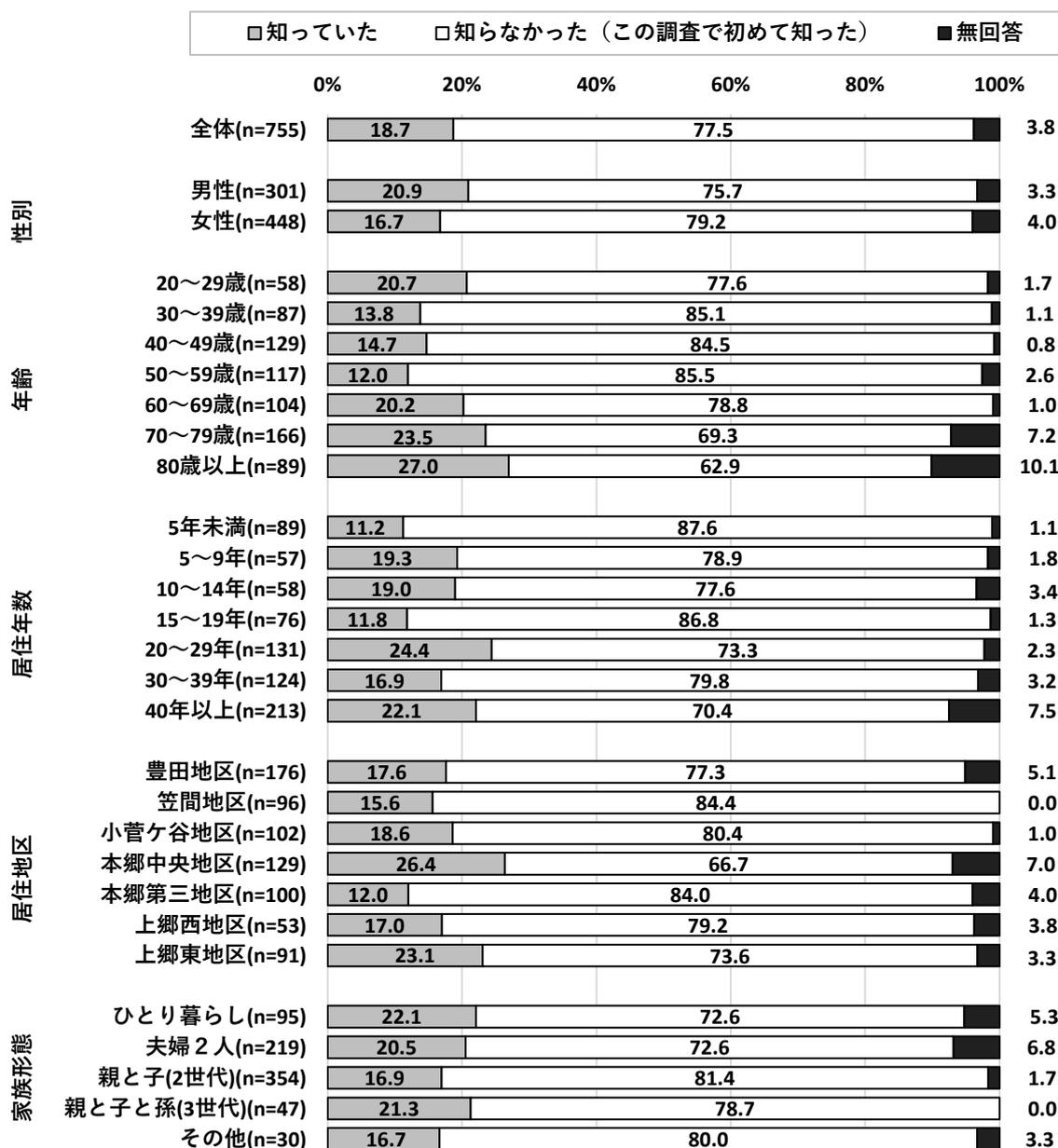
<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「本郷第三地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催



6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向にある

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

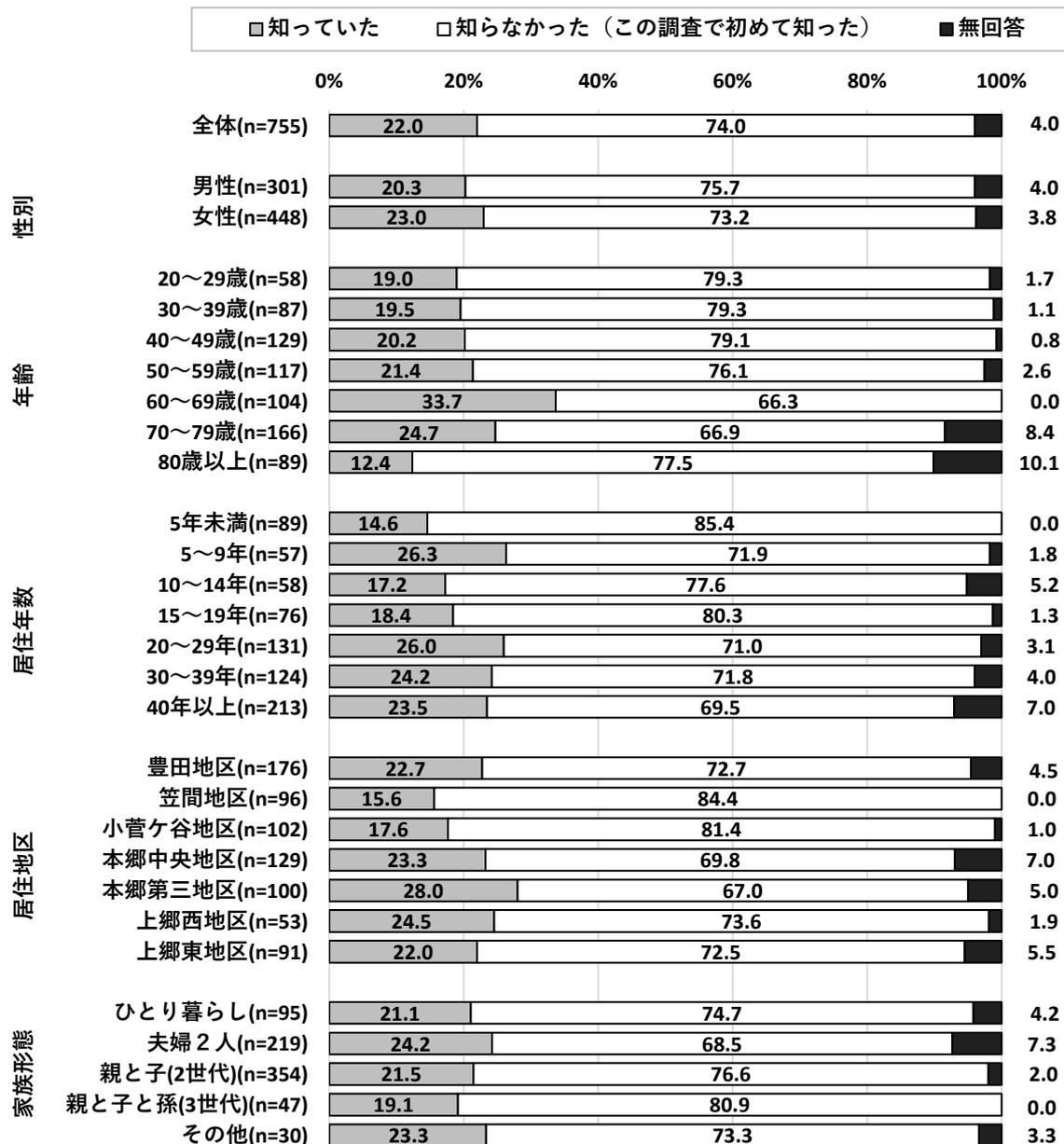
<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知らなかった」の割合が全体よりも5ポイント以上高い。

6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向



7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は「65歳以上の高齢者」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.3ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

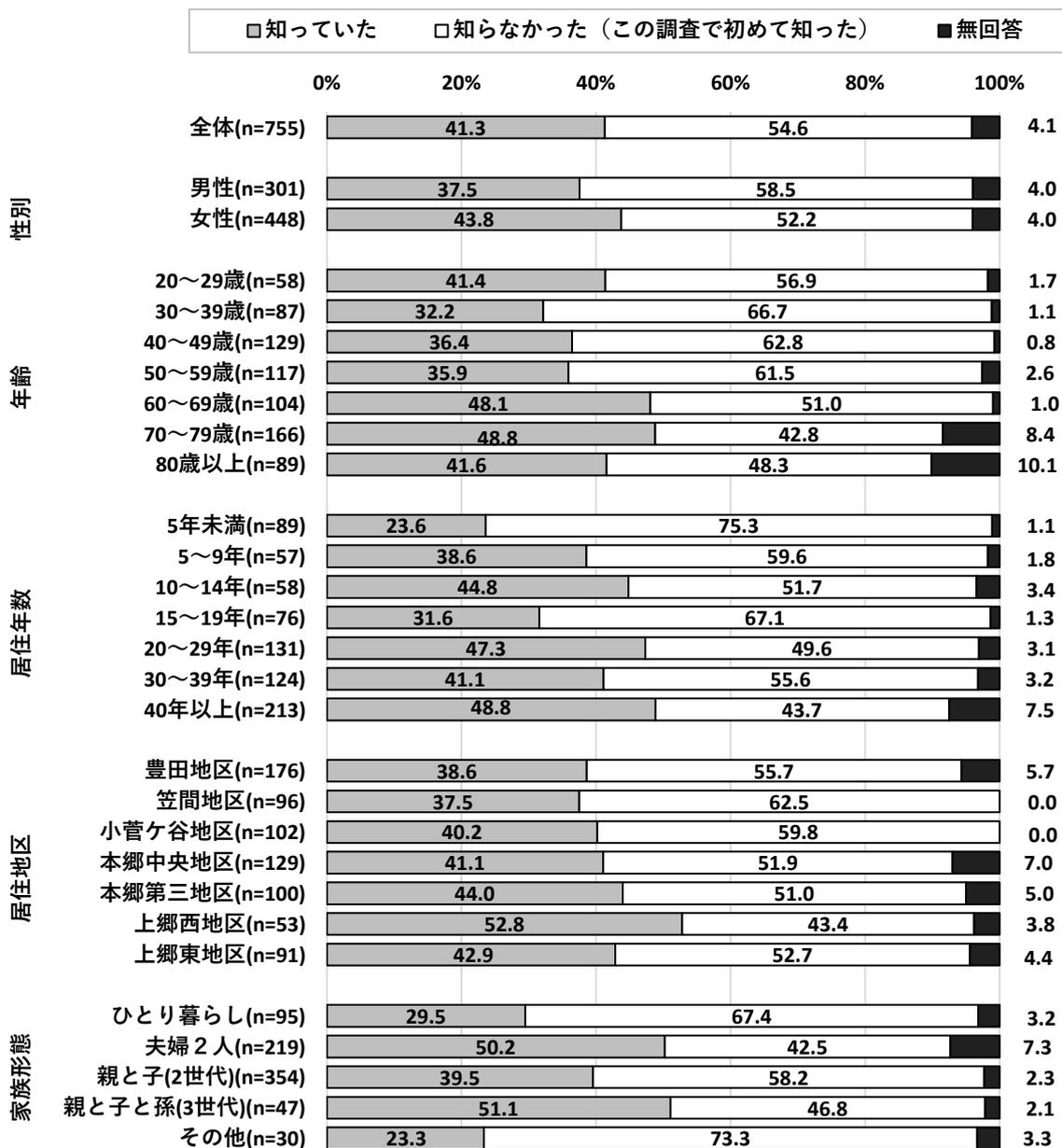
<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は「65歳以上の高齢者」



9 栄区の65歳以上の高齢者のけがによる救急搬送件数のうち、最も多い原因は「転倒・転落」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.0ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

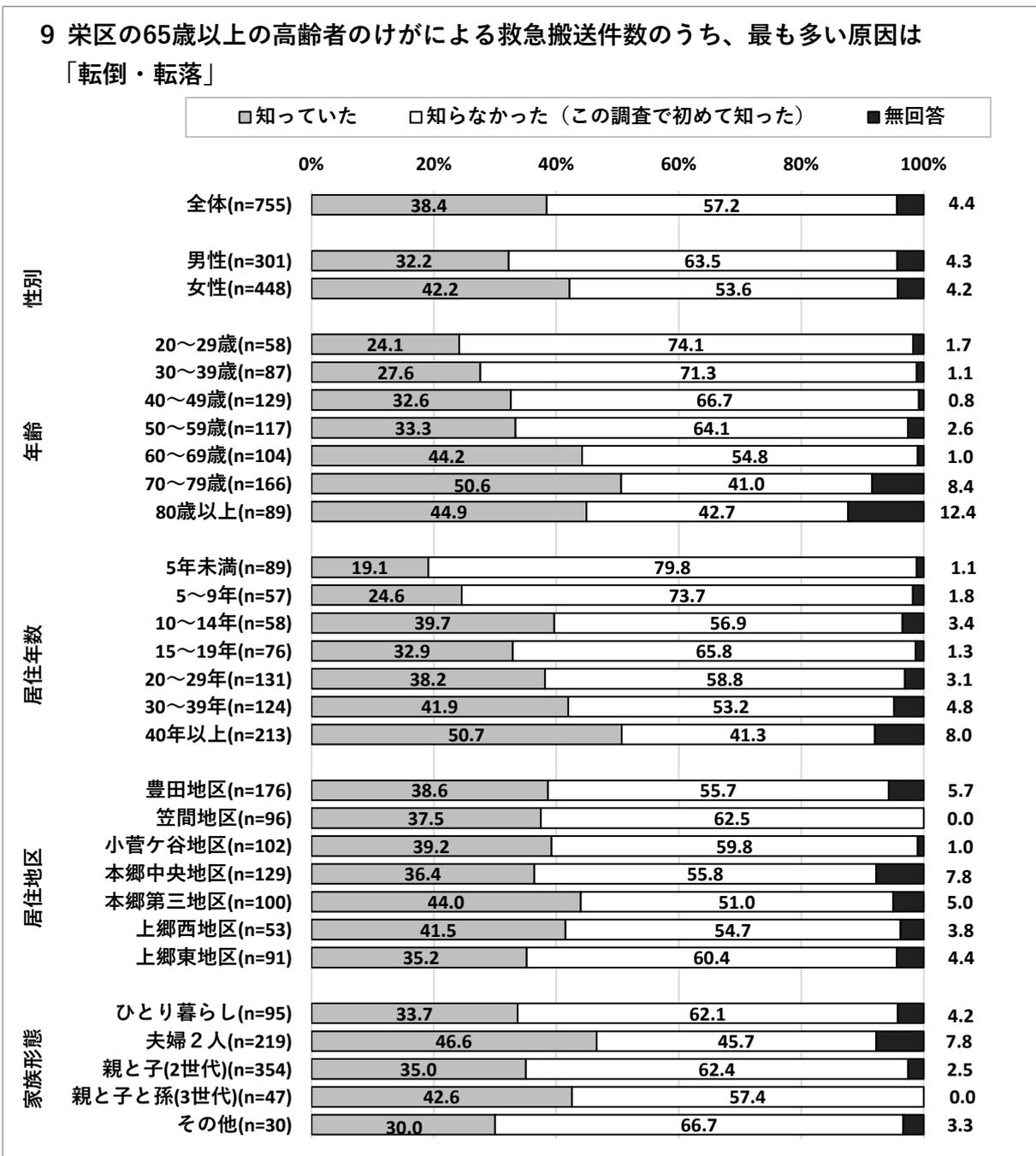
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「親と子(2世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち死亡・重篤に占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.1ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

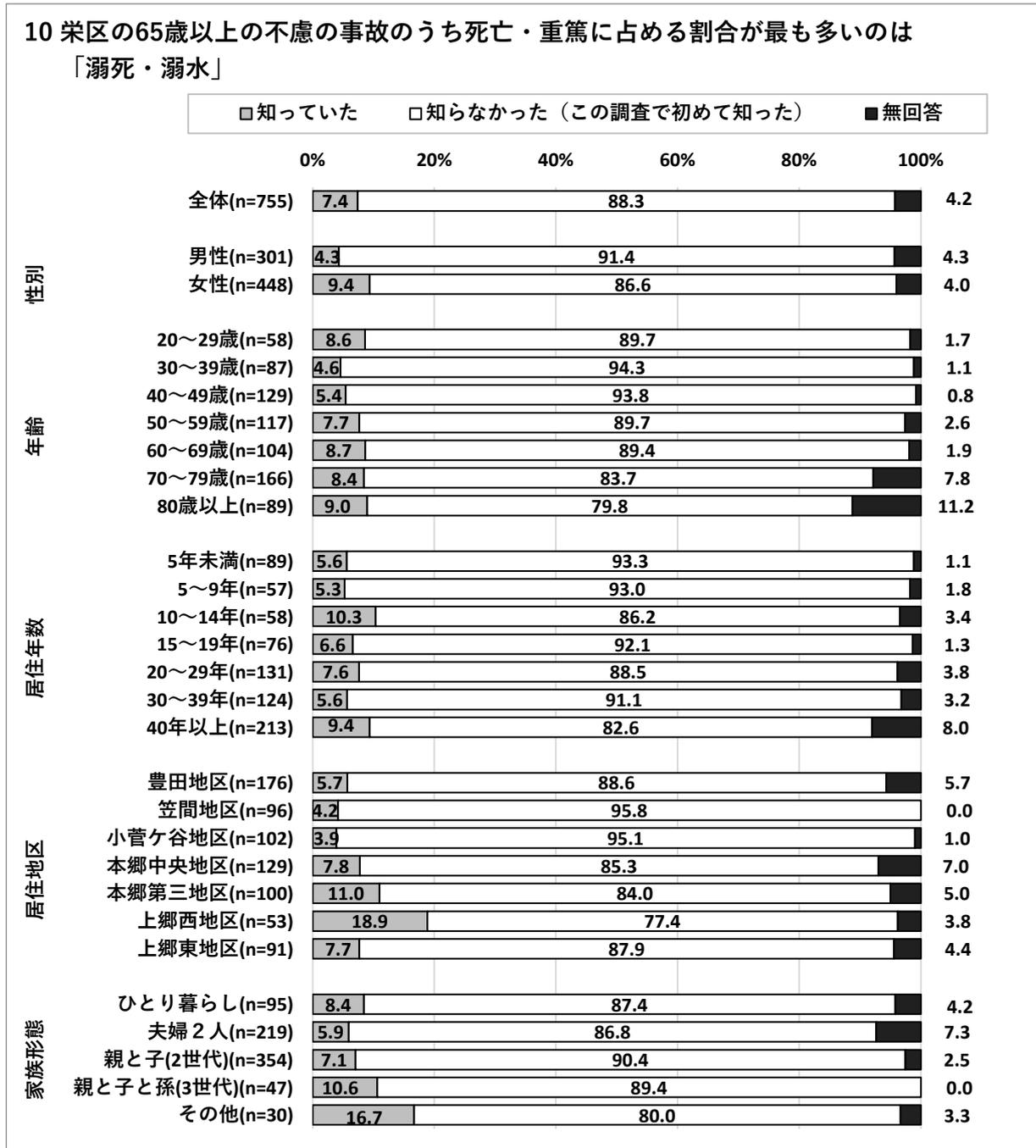
・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が14.1ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

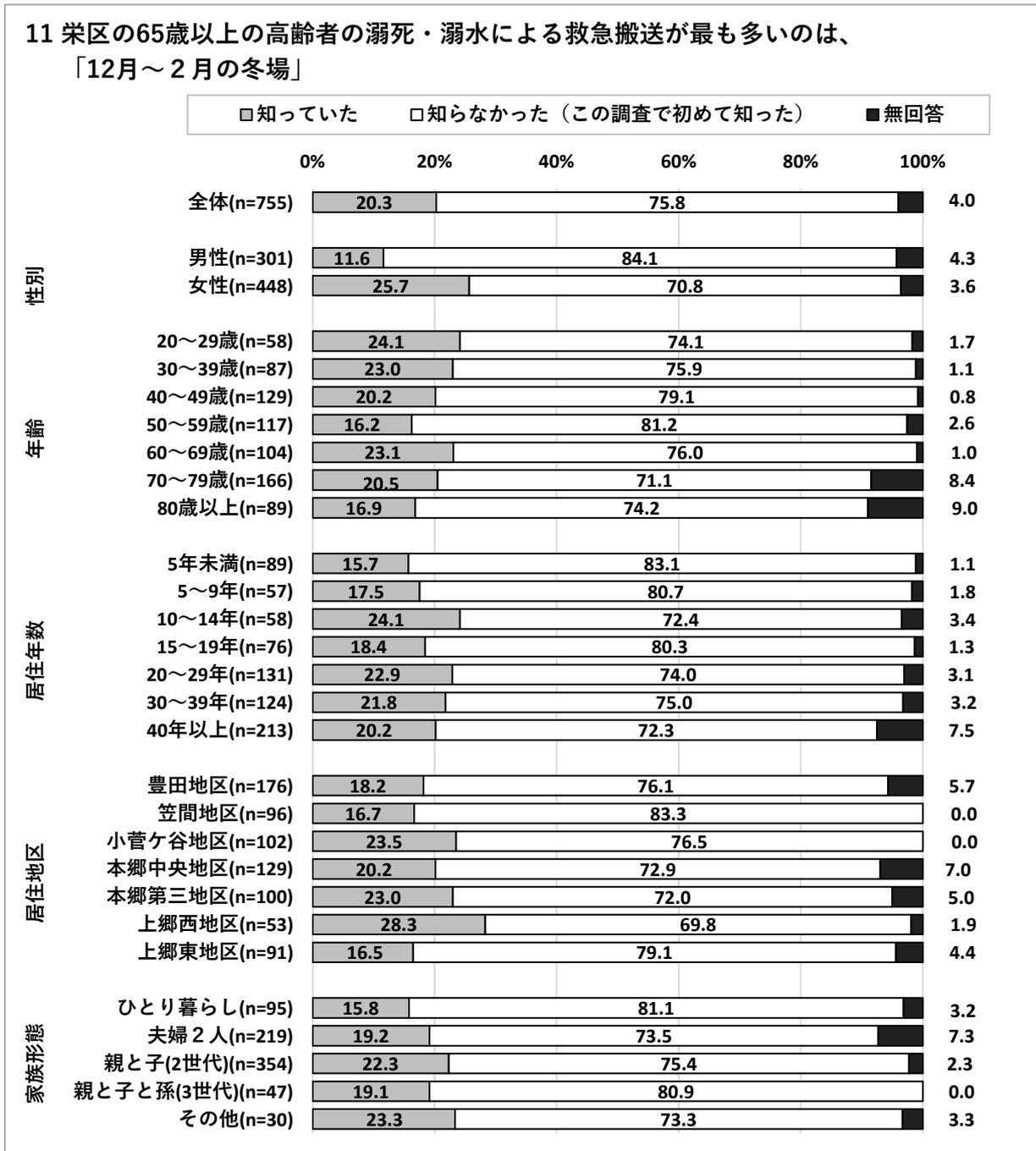
・「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

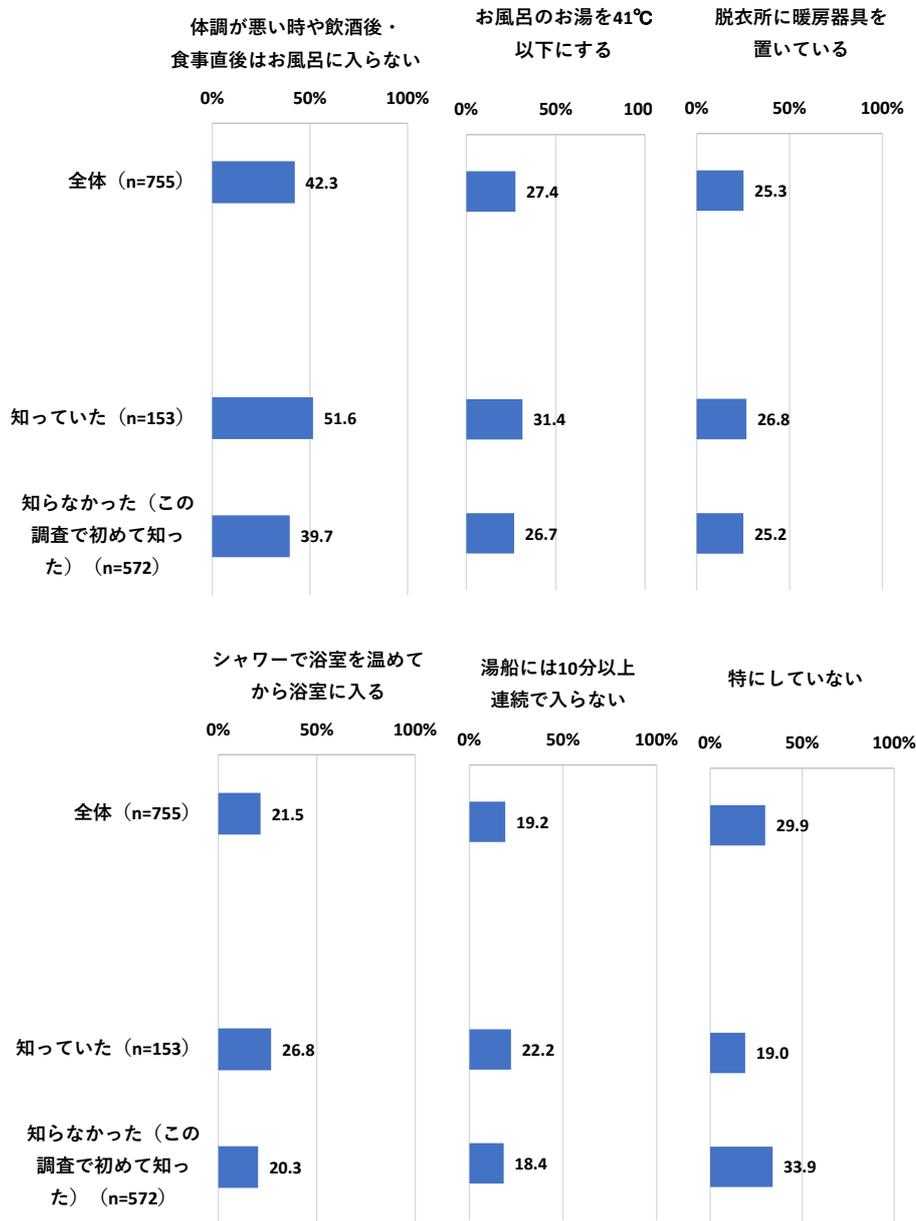
<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(13) ヒートショック対策との関連】

・高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いことを「知っていた」方は「知らなかった」方よりヒートショック対策を行っている割合は高い。特に「体調が悪い時や飲食後・食事直後はお風呂に入らない」と答えた割合は11.9ポイント高い。また、「知らなかった」方の方が「知っていた」方より「ヒートショック」の対策を「特にしていない」と答えた割合が15ポイント高い。



12 横浜市は全国の都道府県庁所在地の中で震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「50～59歳」「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

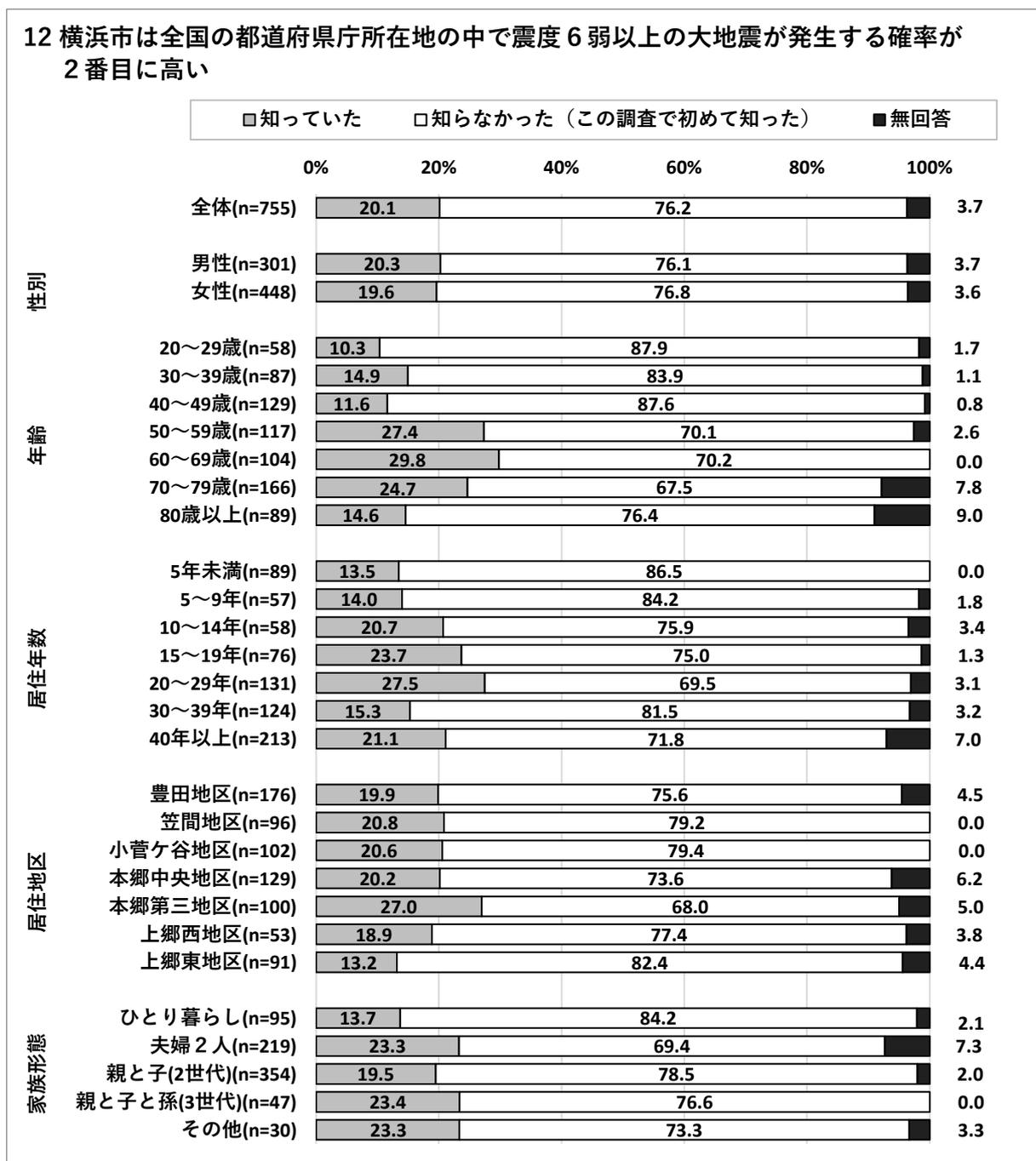
・「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「上郷東地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

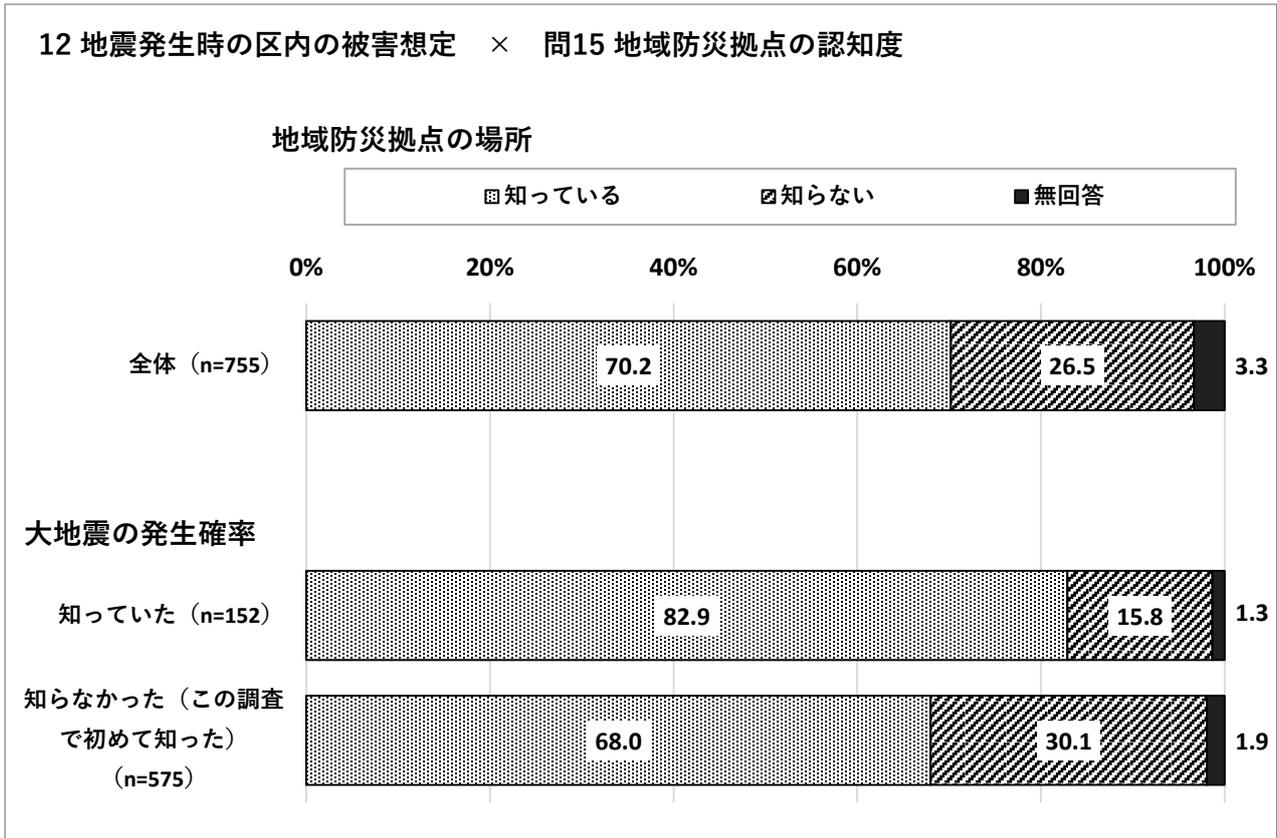
<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(15) 地域防災拠点の認知度との相関】

- ・大地震発生確率について「知っていた」方は「知らなかった」方より地域防災拠点の認知度が 14.9 ポイント高いが、「知っていた」「知らなかった」に関わらず地域防災拠点は約 7 割の区民に認知されている。



13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模である

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

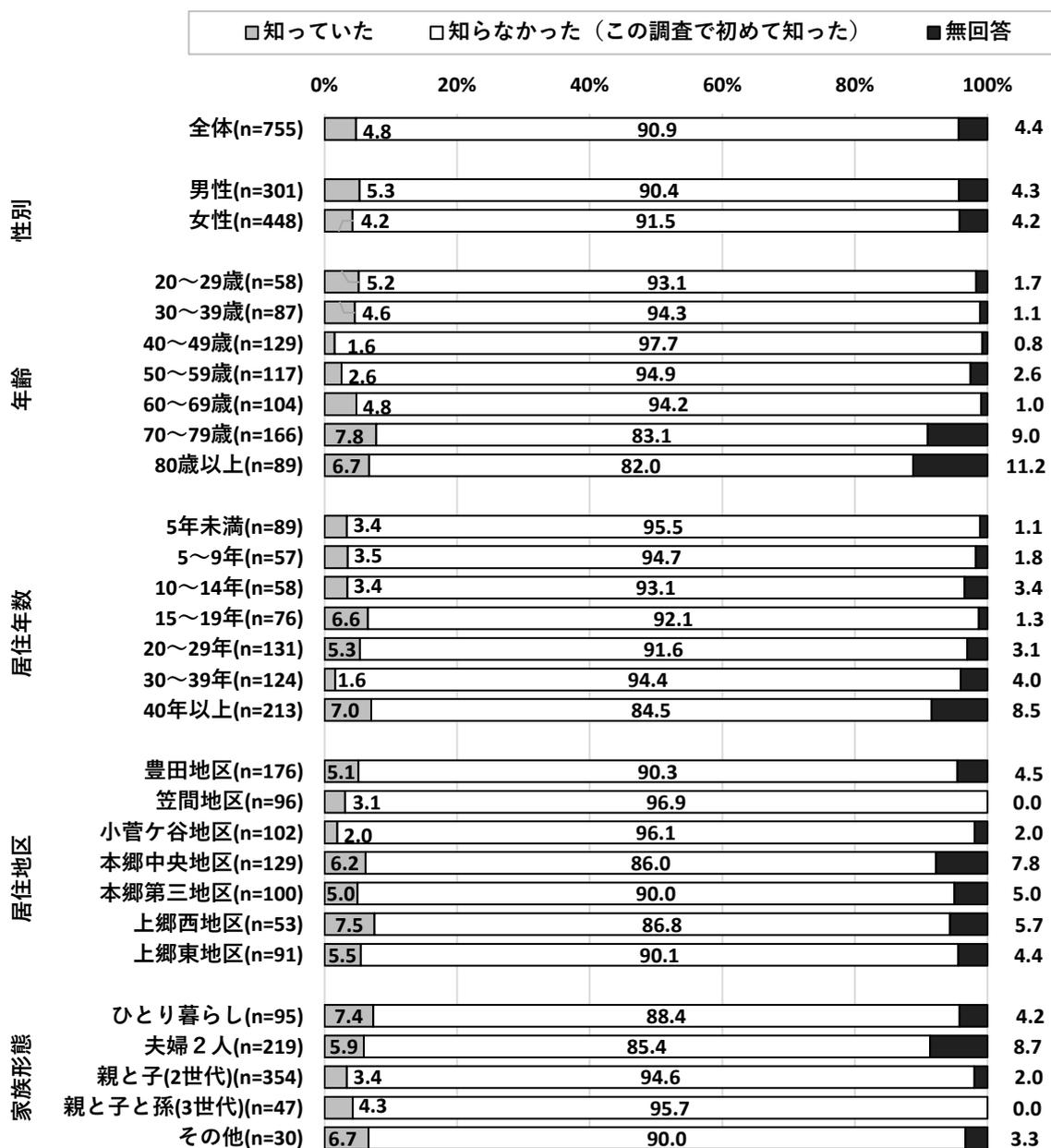
<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模



14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が9.4ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より25ポイント以上高い。

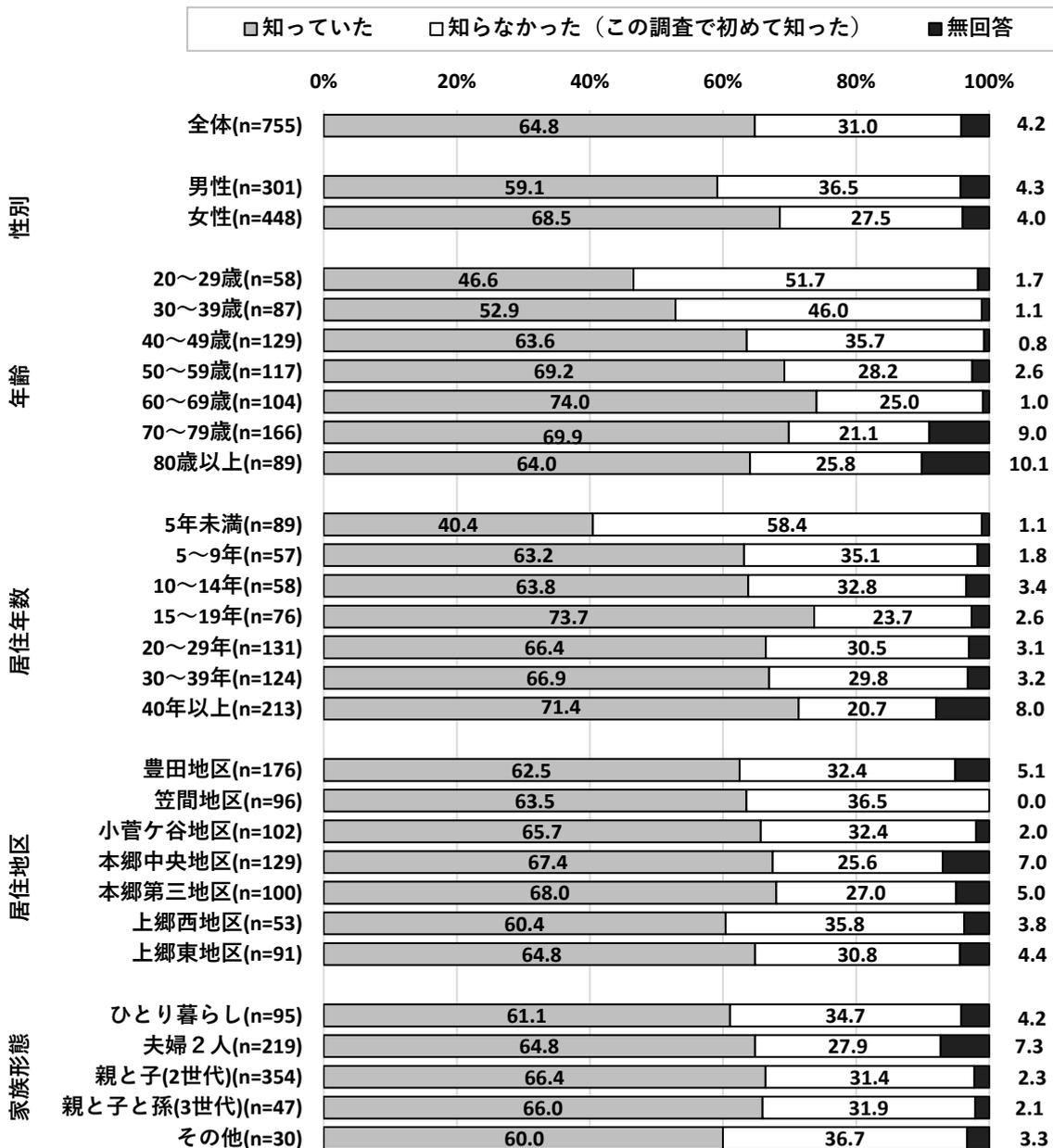
<居住地区別>

・「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている



15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるものである

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

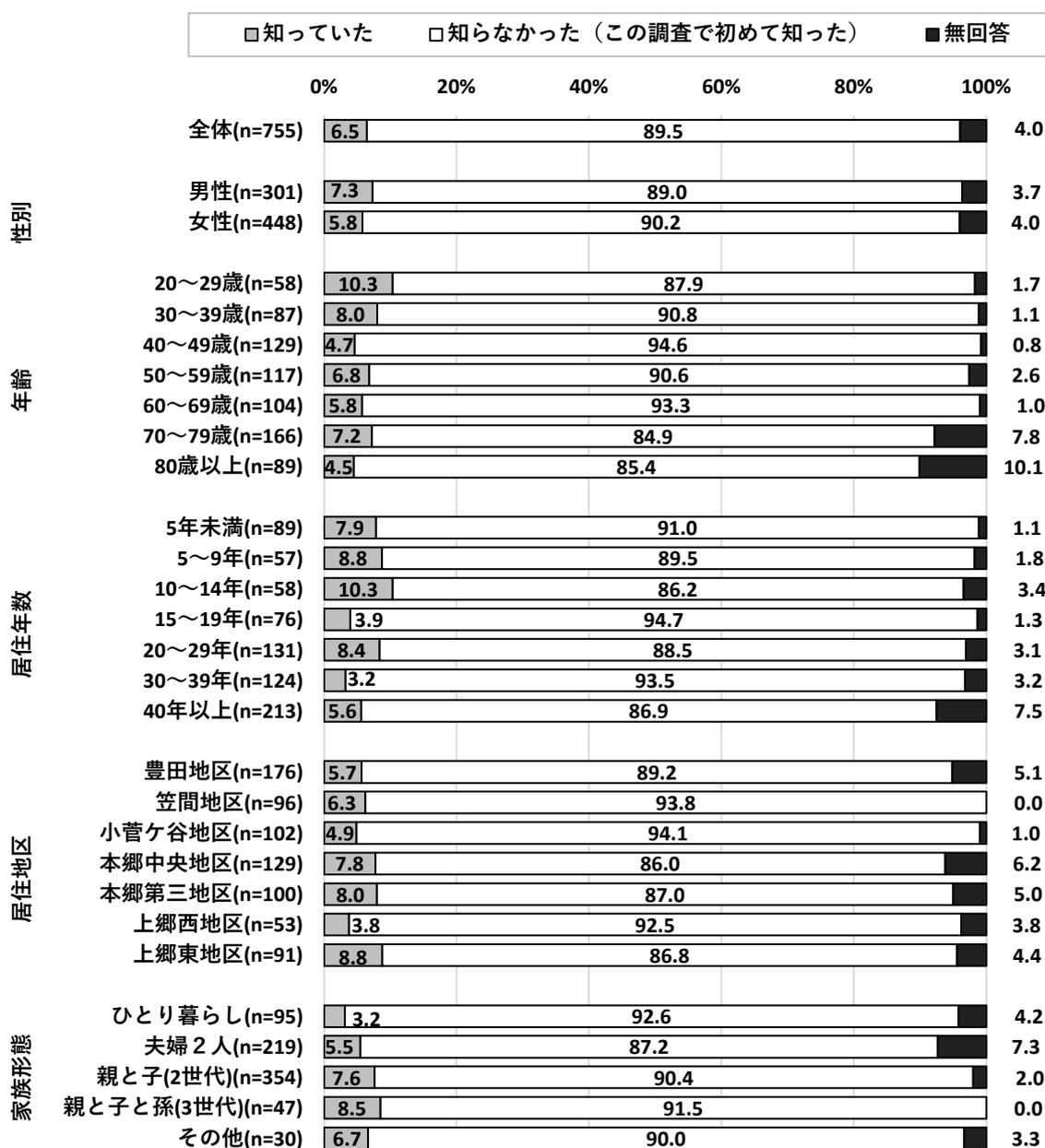
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるもの



16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加している

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.6ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

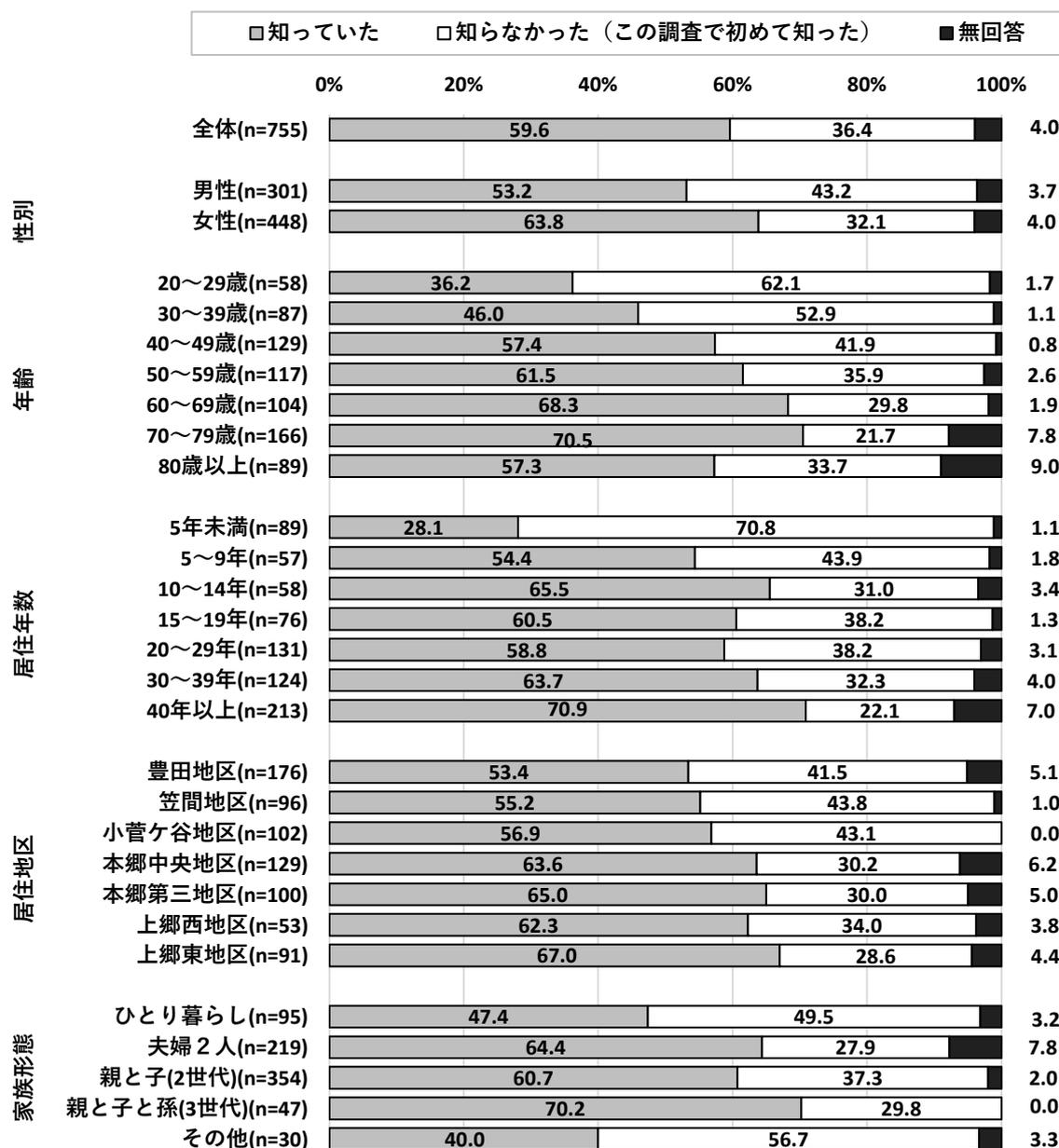
<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

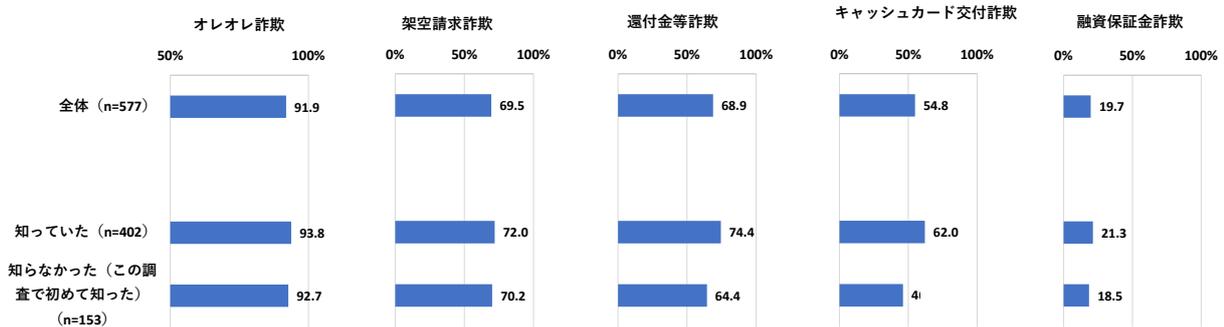
16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加



Ⅲ 集計分析結果 (5) けが・事故の危険性の認知度

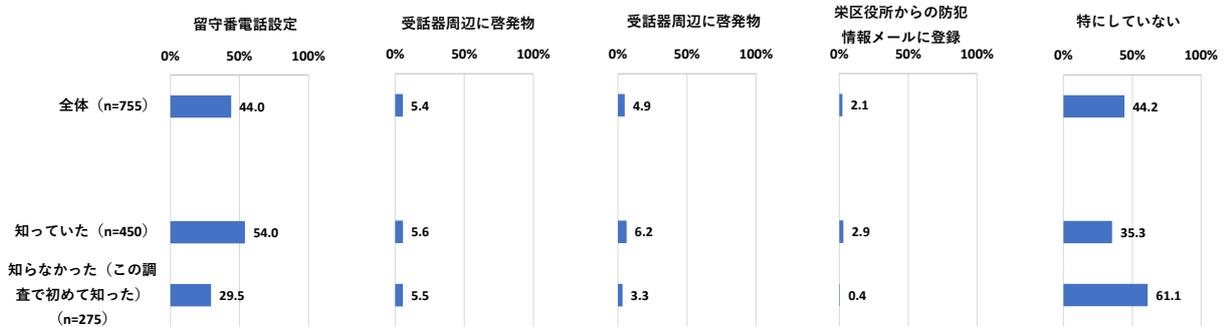
【けが・事故の危険性：(19) 知っている振り込め詐欺との相関】

- 区内の犯罪件数における振り込め詐欺の割合が増えていることを「知らなかった」方より「知っていた」方が、振り込め詐欺対策で「キャッシュカード詐欺」「還付金等詐欺」を知っている割合が10ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(20) 行っている振り込め詐欺対策との相関】

- 区内の犯罪件数における振り込め詐欺の割合が増えていることを「知らなかった」方より「知っていた」方が、振り込め詐欺対策で「留守番電話設定」を行っている割合が24.5ポイント高い。



17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が11.6ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

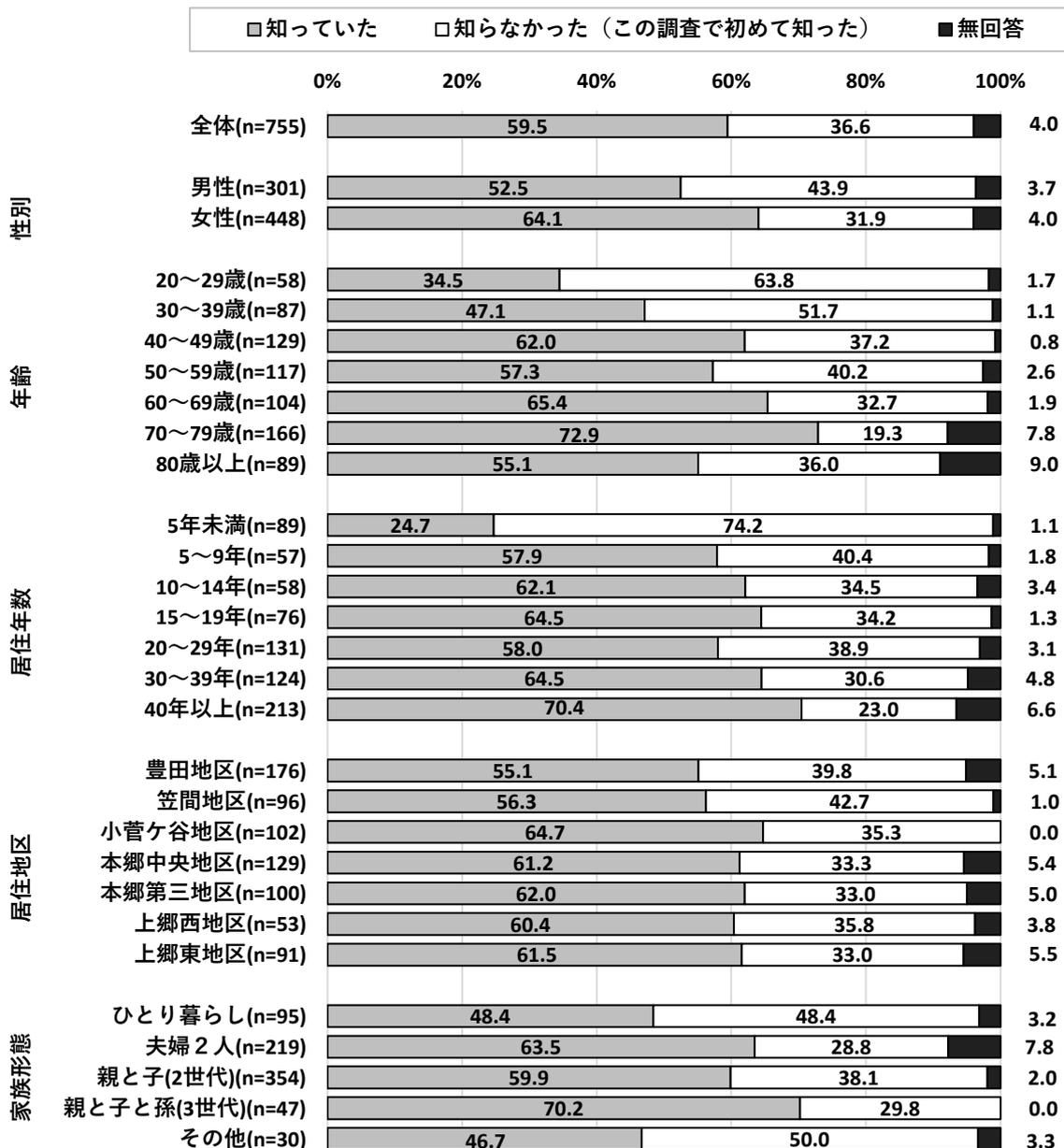
<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める



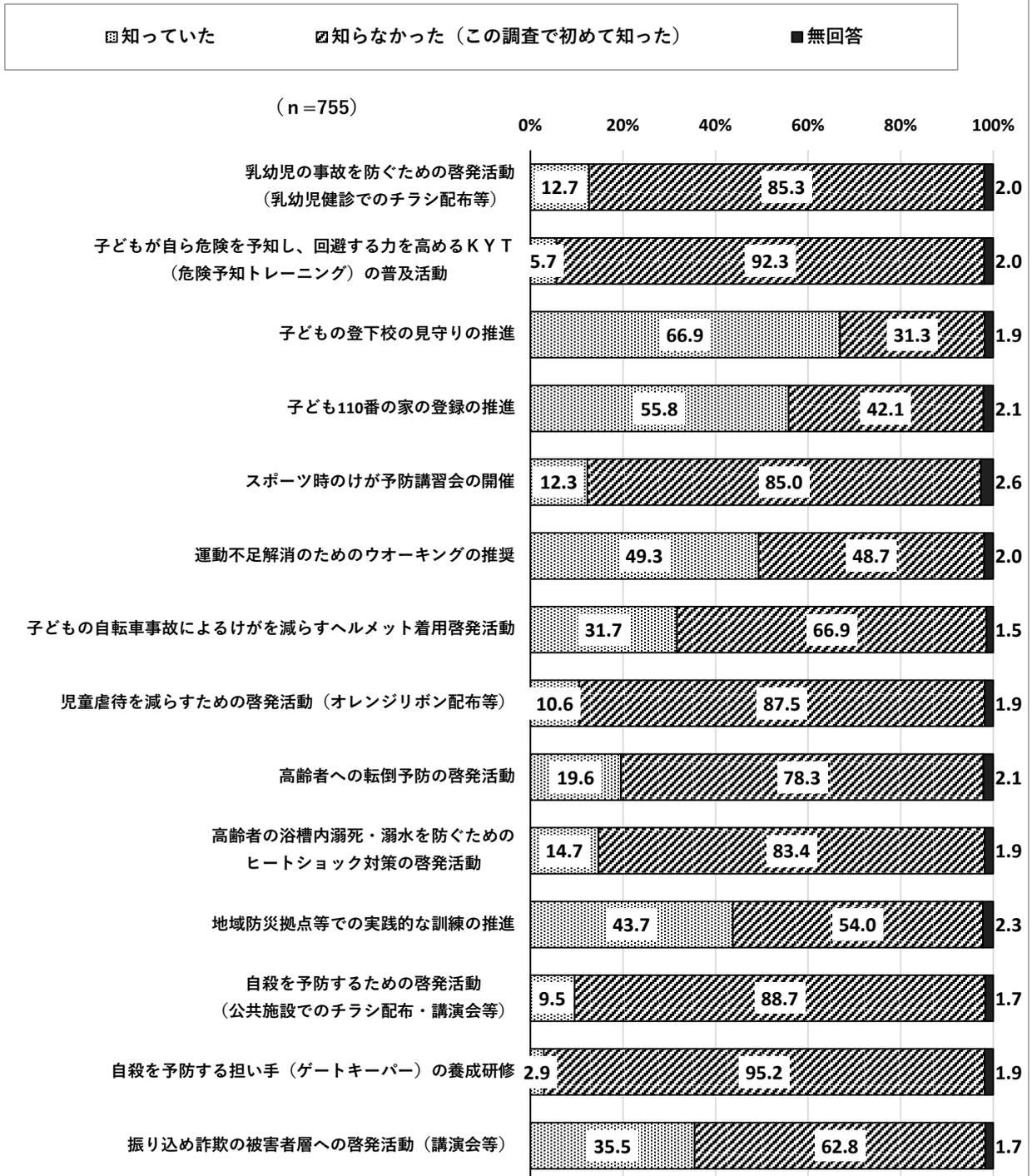
3 セーフコミュニティの取組

(6) けが・事故等の予防の取組の認知度

<全体>

・セーフコミュニティの取組について「知っていた」割合は「子どもの登下校の見守りの推進」が66.9%で最も多く、次いで「子ども110番の家の登録の推進」(55.8%)、「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」(49.3%)の順となった。その一方、「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」「子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT(危険予知トレーニング)の普及活動」を「知らなかった」割合は9割以上となった。

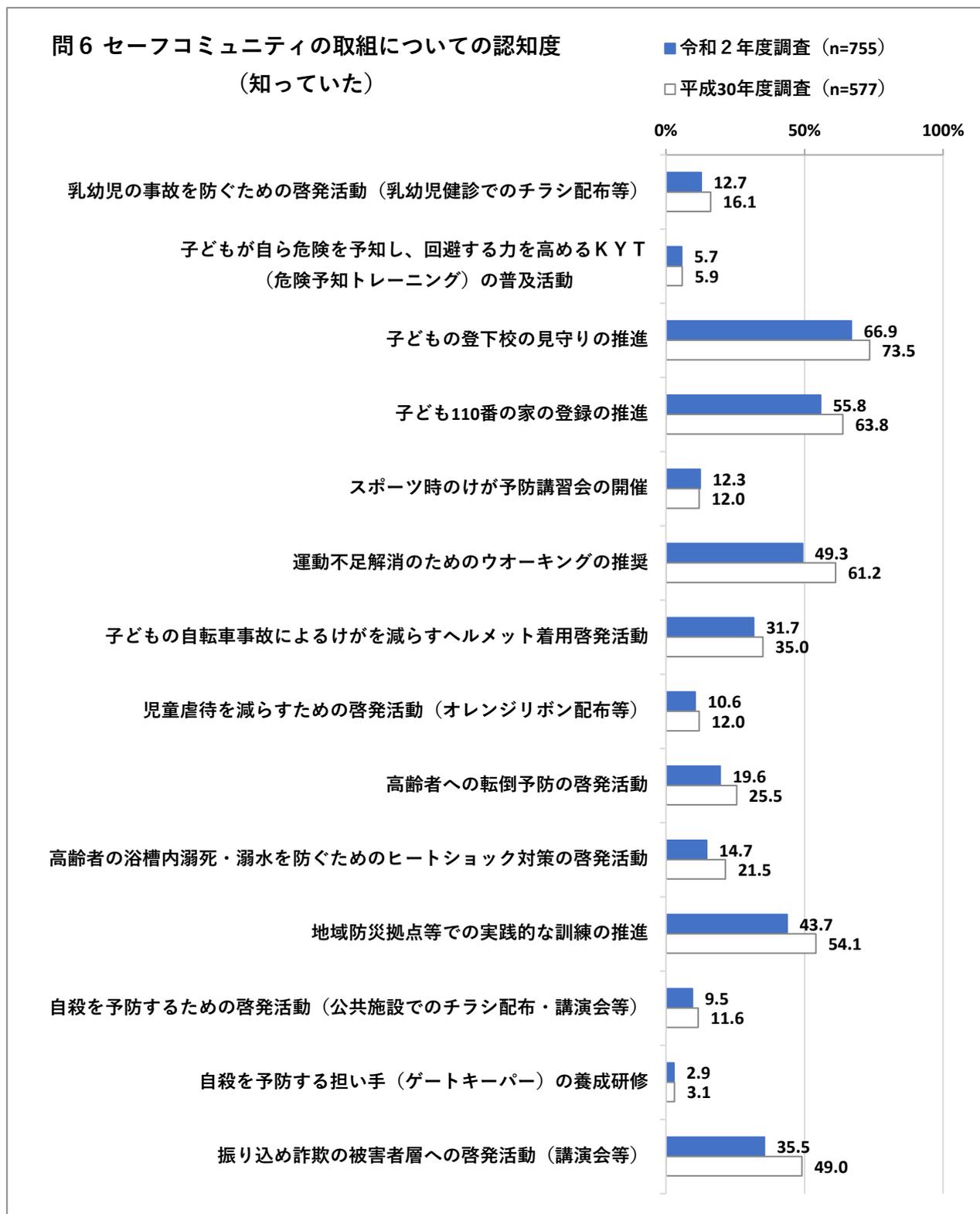
問6 セーフコミュニティの取組についての認知度



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 時系列】

＜平成30年度調査と比較＞

・平成30年度と比較すると、「スポーツの時のけが予防講習会の開催」を除いて、全ての項目で認知度は減少している。



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 属性別】

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が9.5ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高く、「20～29歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

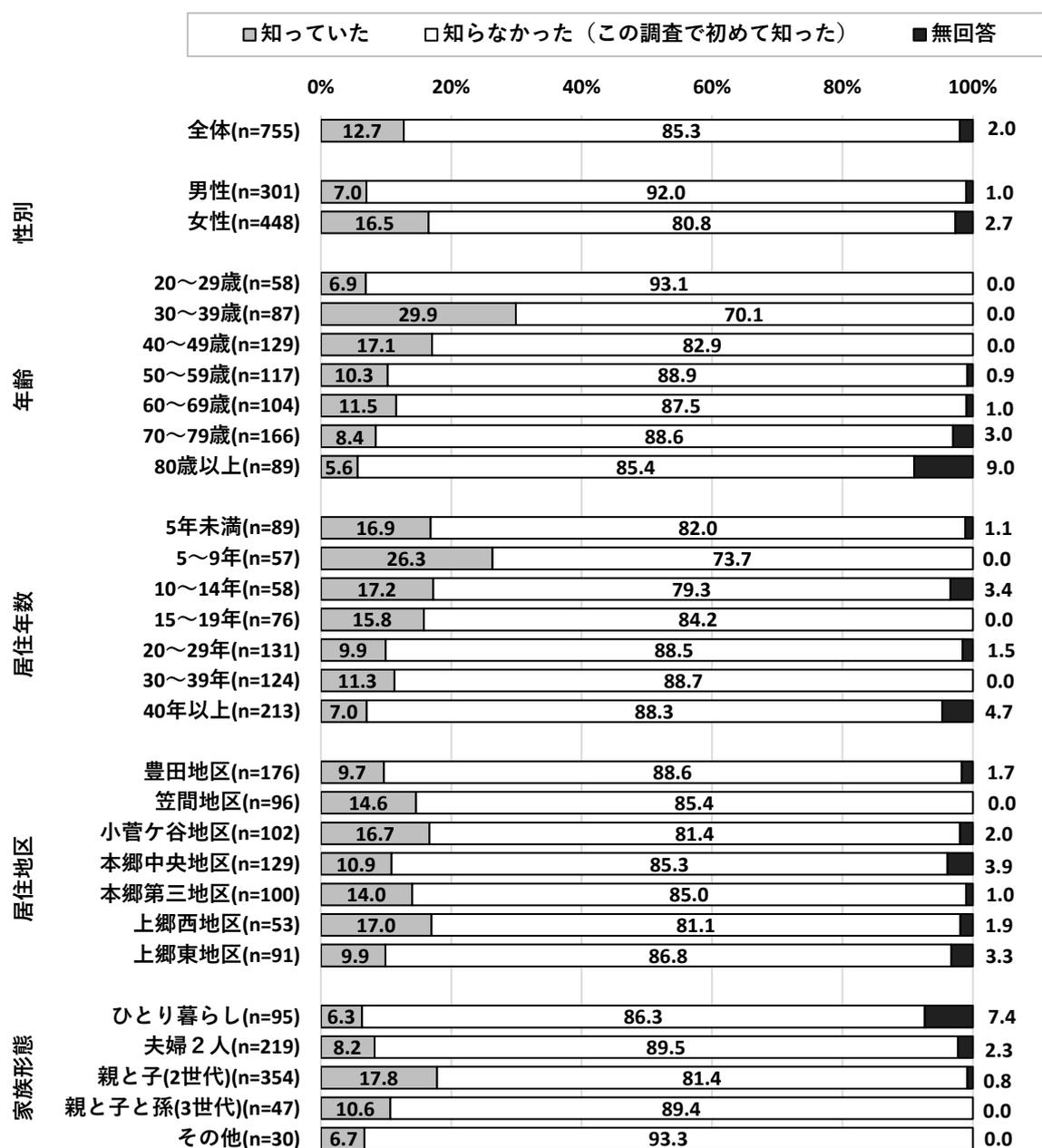
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）



2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

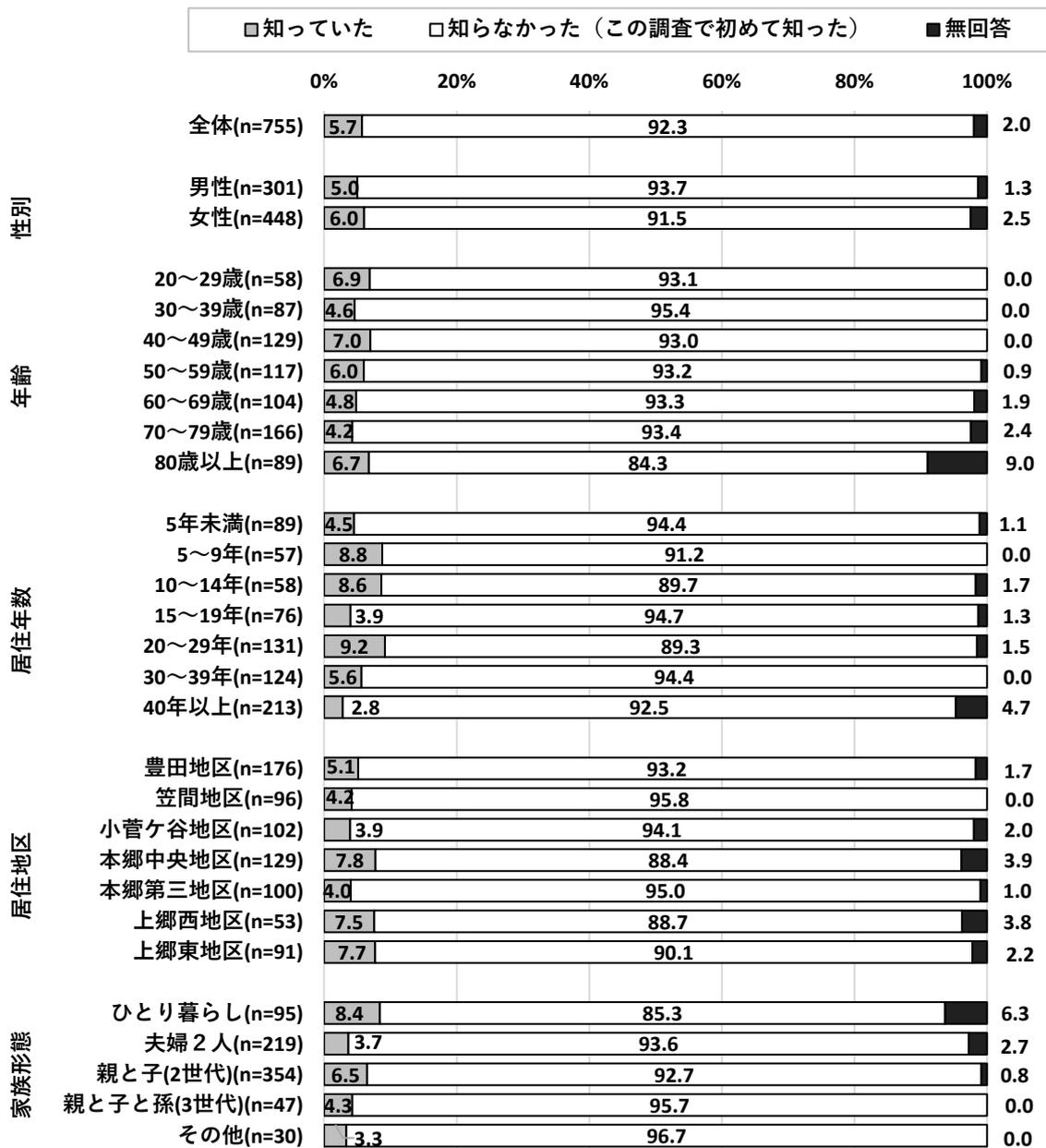
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動



3 子どもの登下校の見守りの推進

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.7ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。30歳以上は、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられる。

<居住年数別>

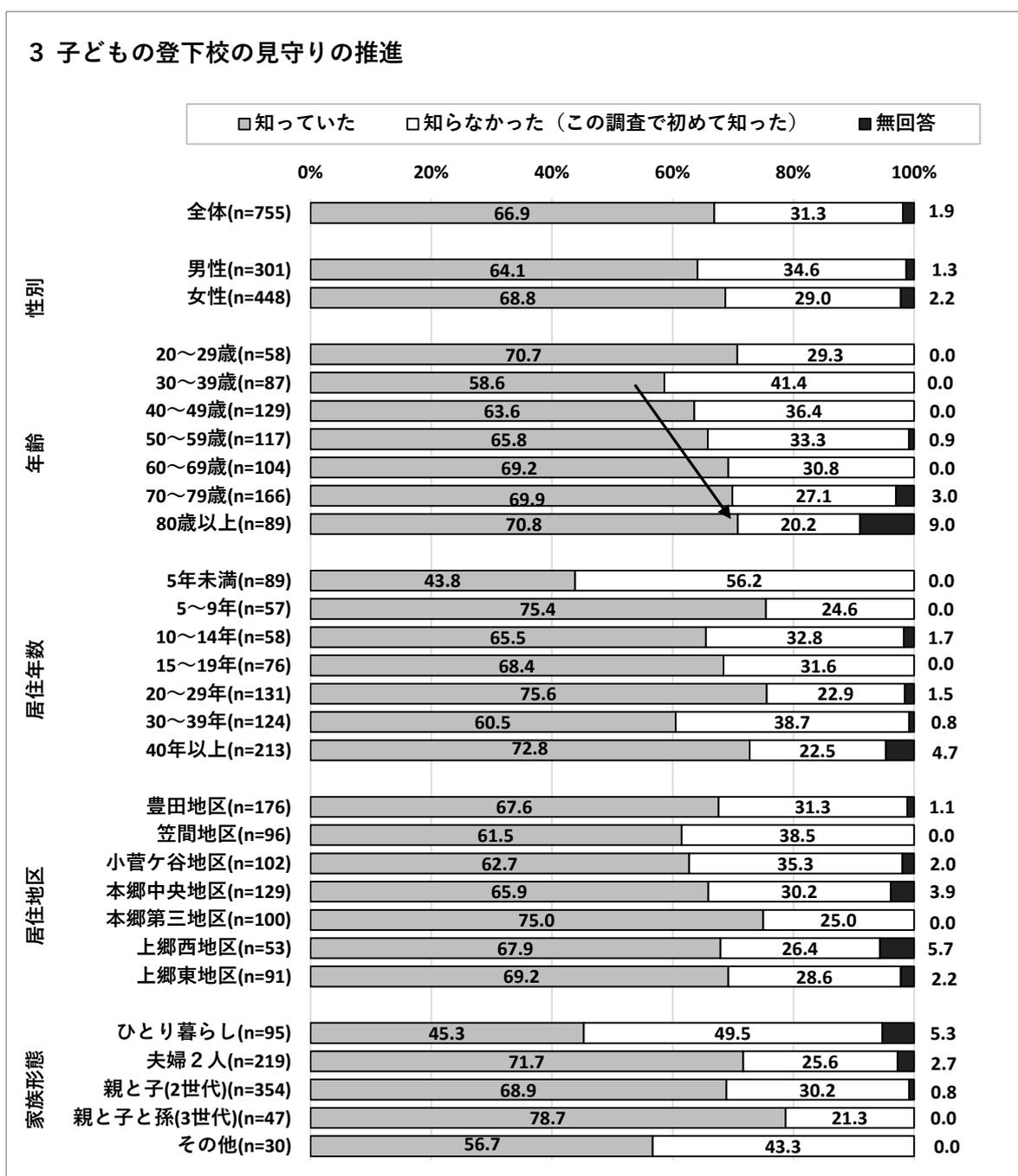
・「5～9年」「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。



4 子ども110番の家の登録の推進

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が11.8ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

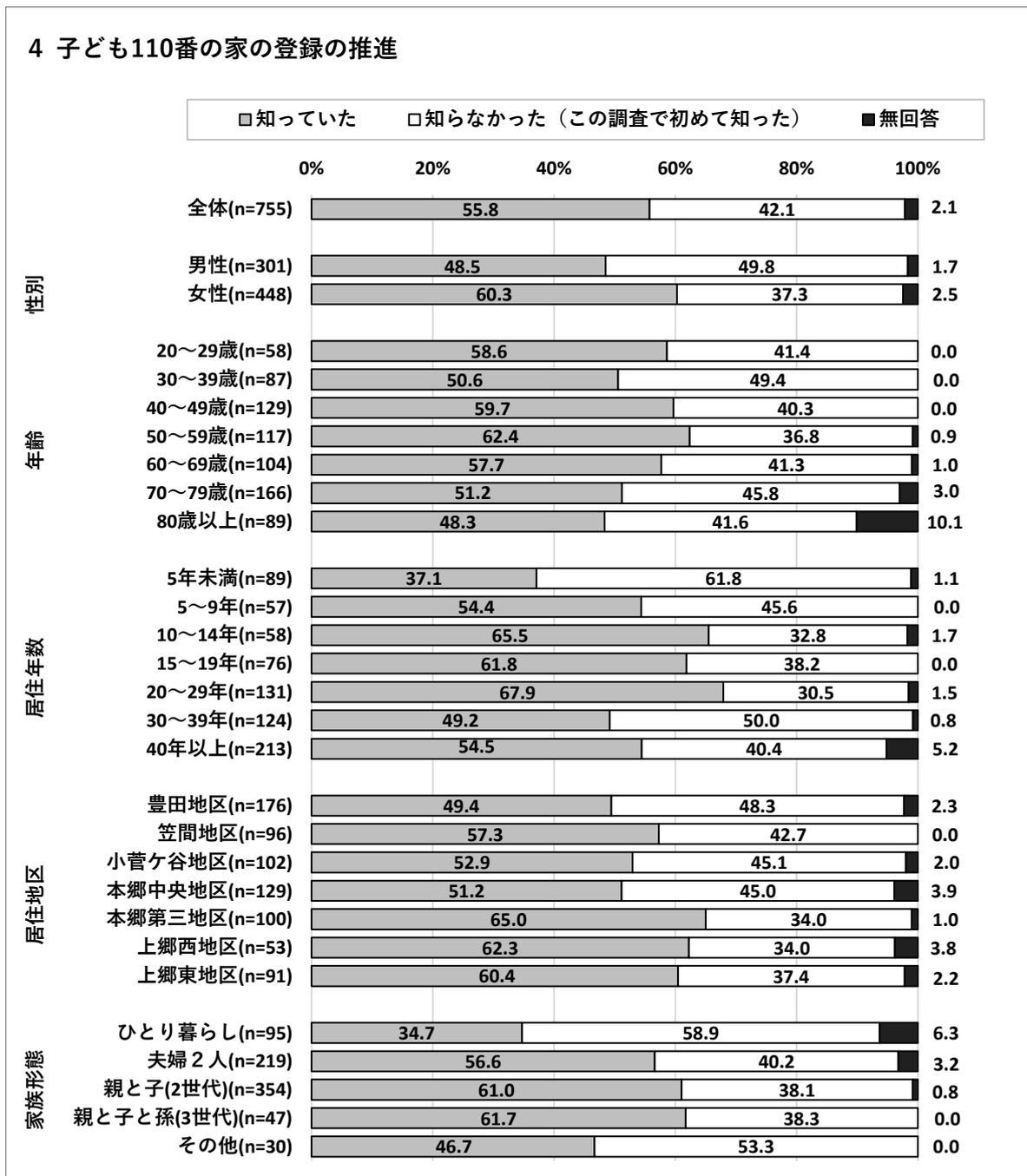
・「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。



5 スポーツ時のけが予防講習会の開催

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

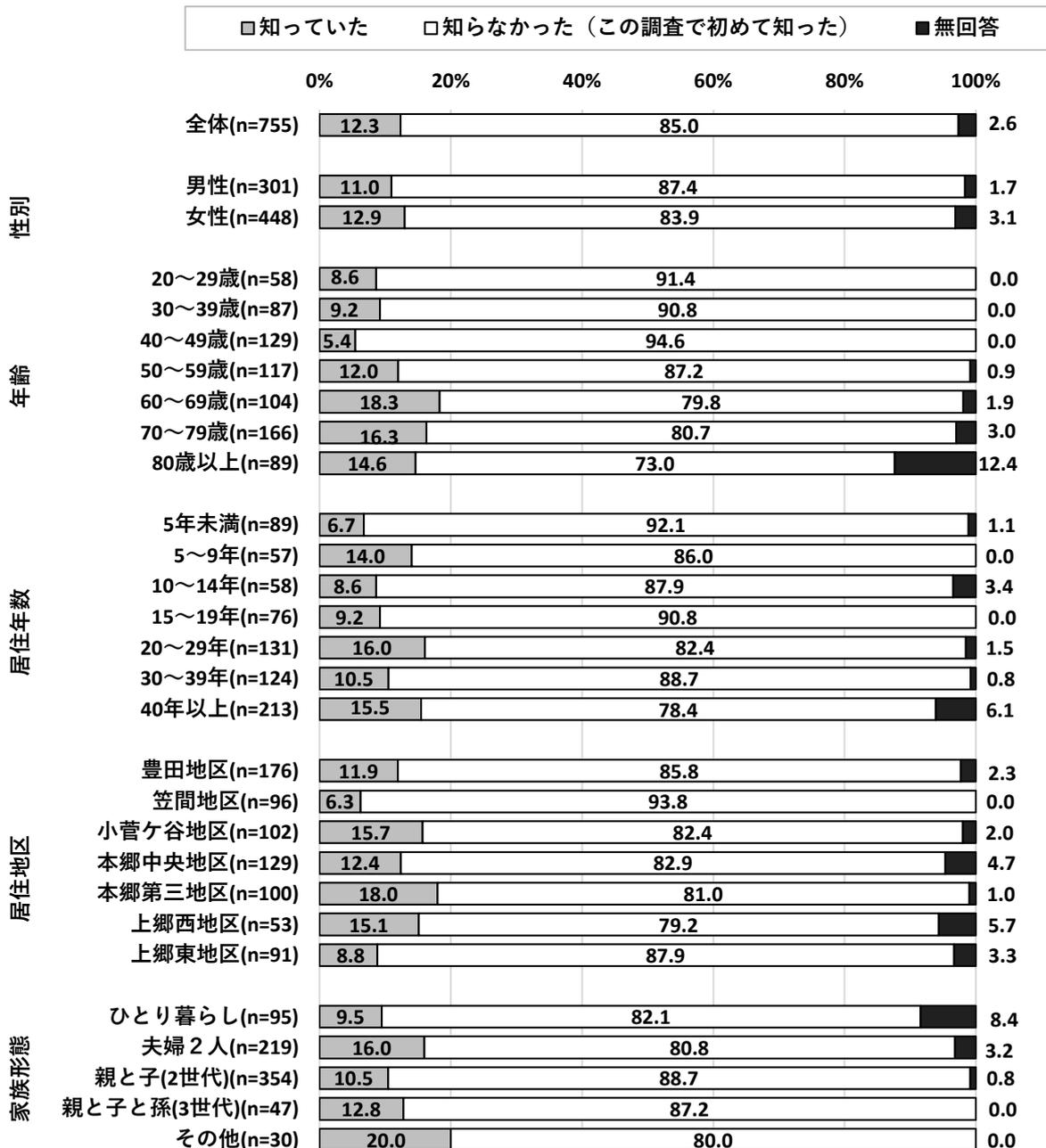
<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな変化は見られない。

5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.5ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「70～79歳」までは、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられる。

<居住年数別>

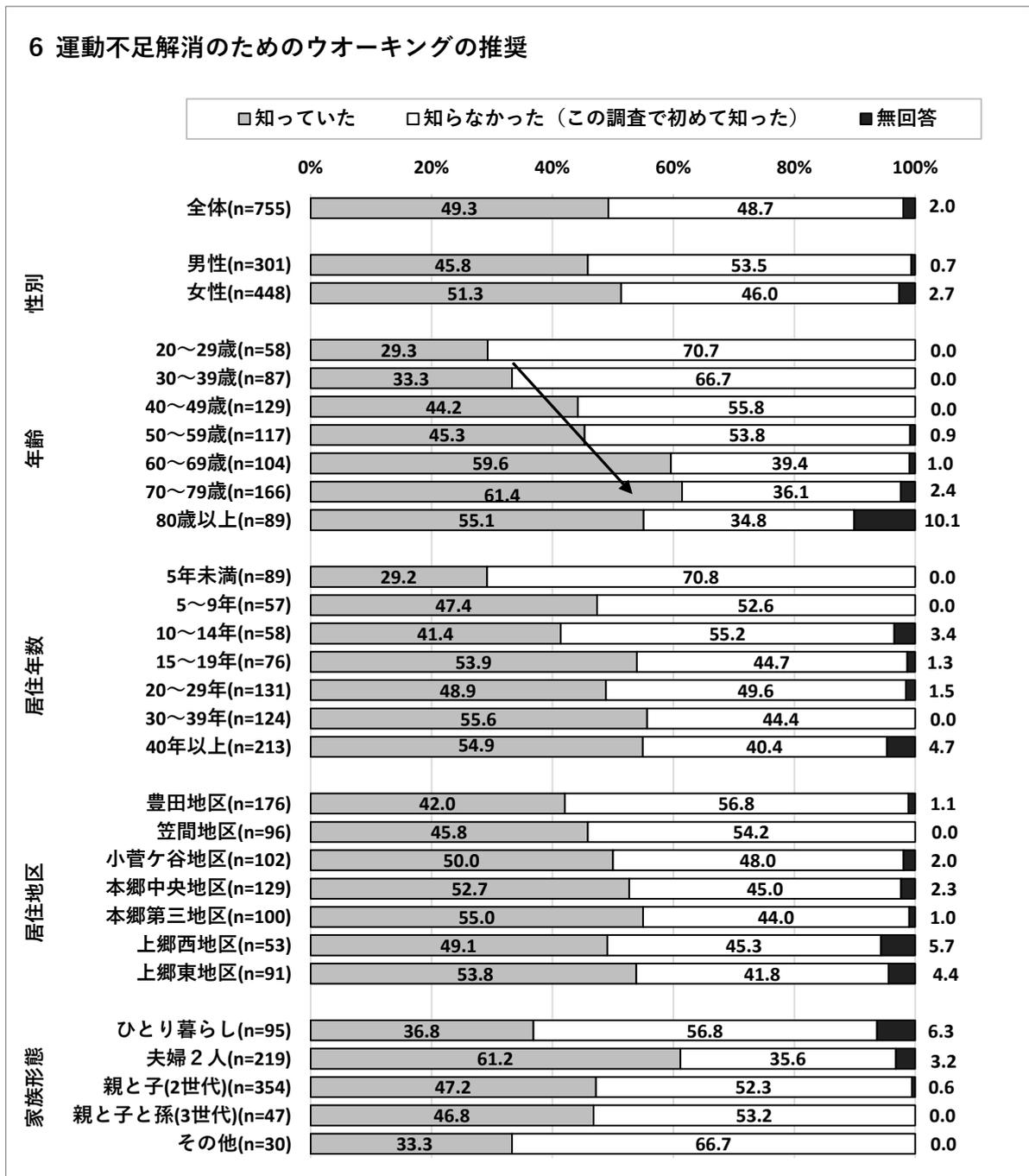
・「30～39年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より20ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.1ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上、「40～49歳」「50～59歳」では5ポイント以上高い。

<居住年数別>

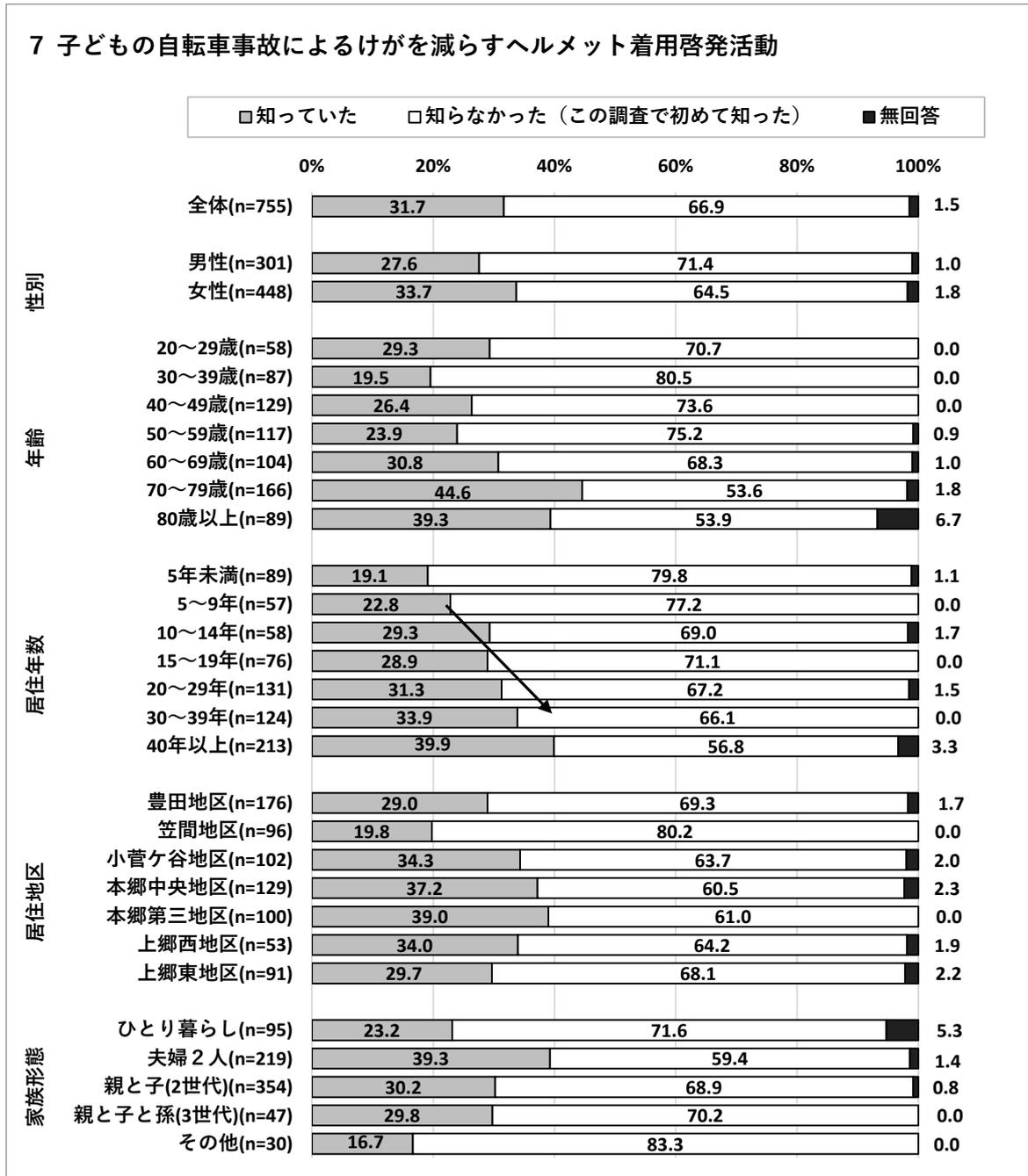
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。また、居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する傾向がみられる。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

・「5～9年」「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

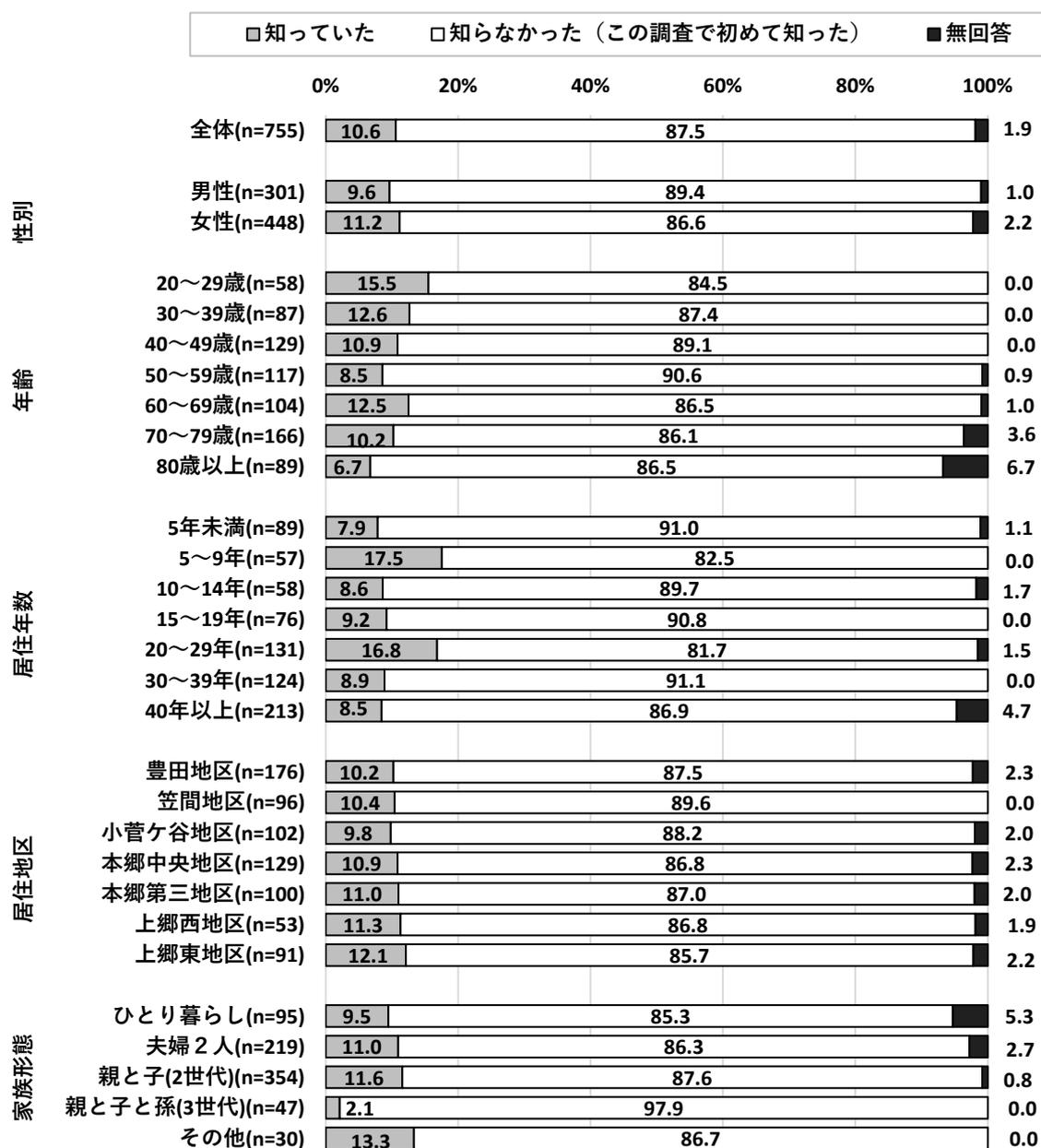
<居住地区別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っている」が全体より10ポイント以上高く、30代から70代までは、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住年数別>

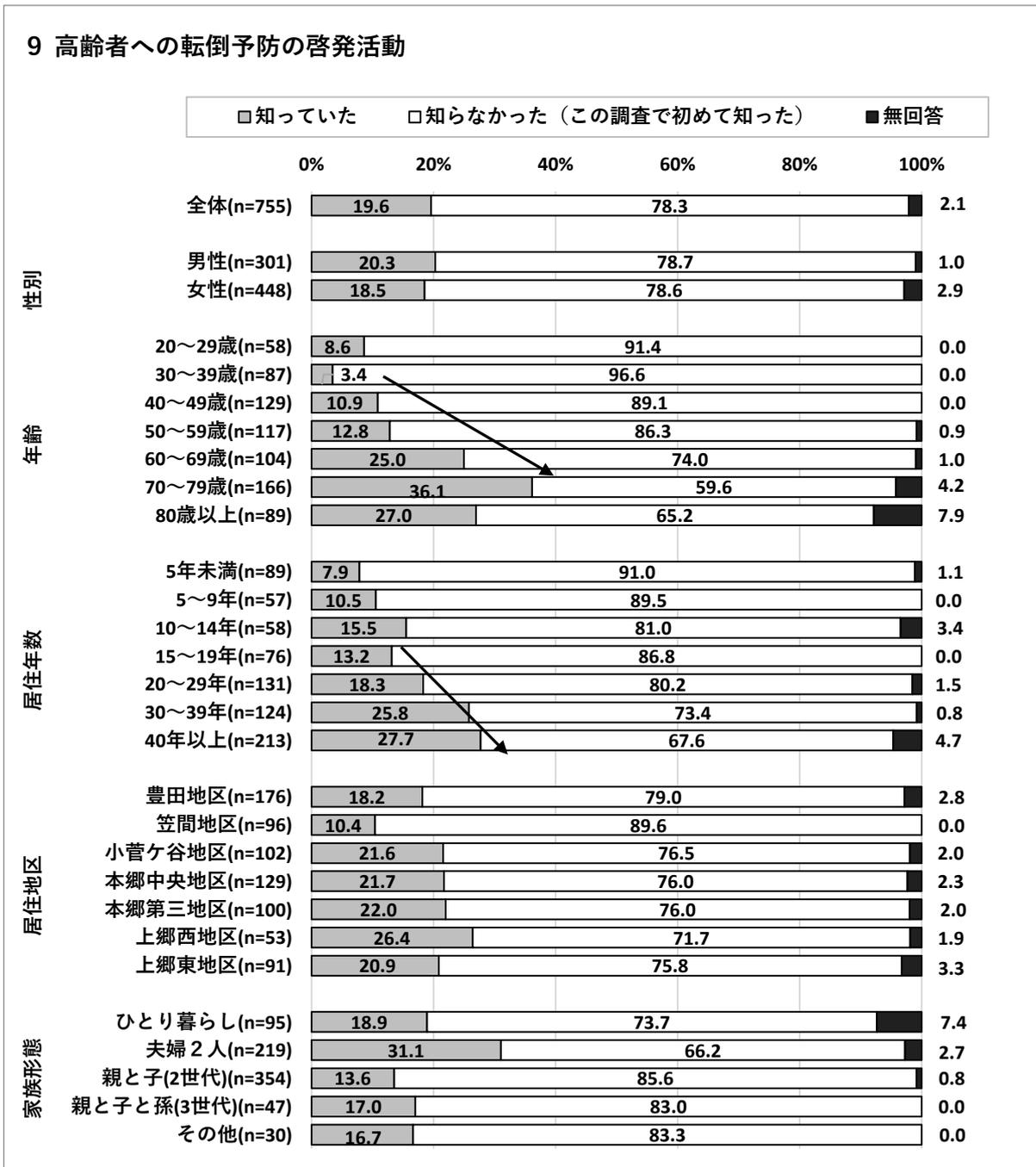
・「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」が全体より10ポイント以上高く、居住年数が「15～19年」以上になると、長くなるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「親と子(2世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知らなかった」が全体より10ポイント以上高く、30代から70代までは、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向が見られる。

<居住年数別>

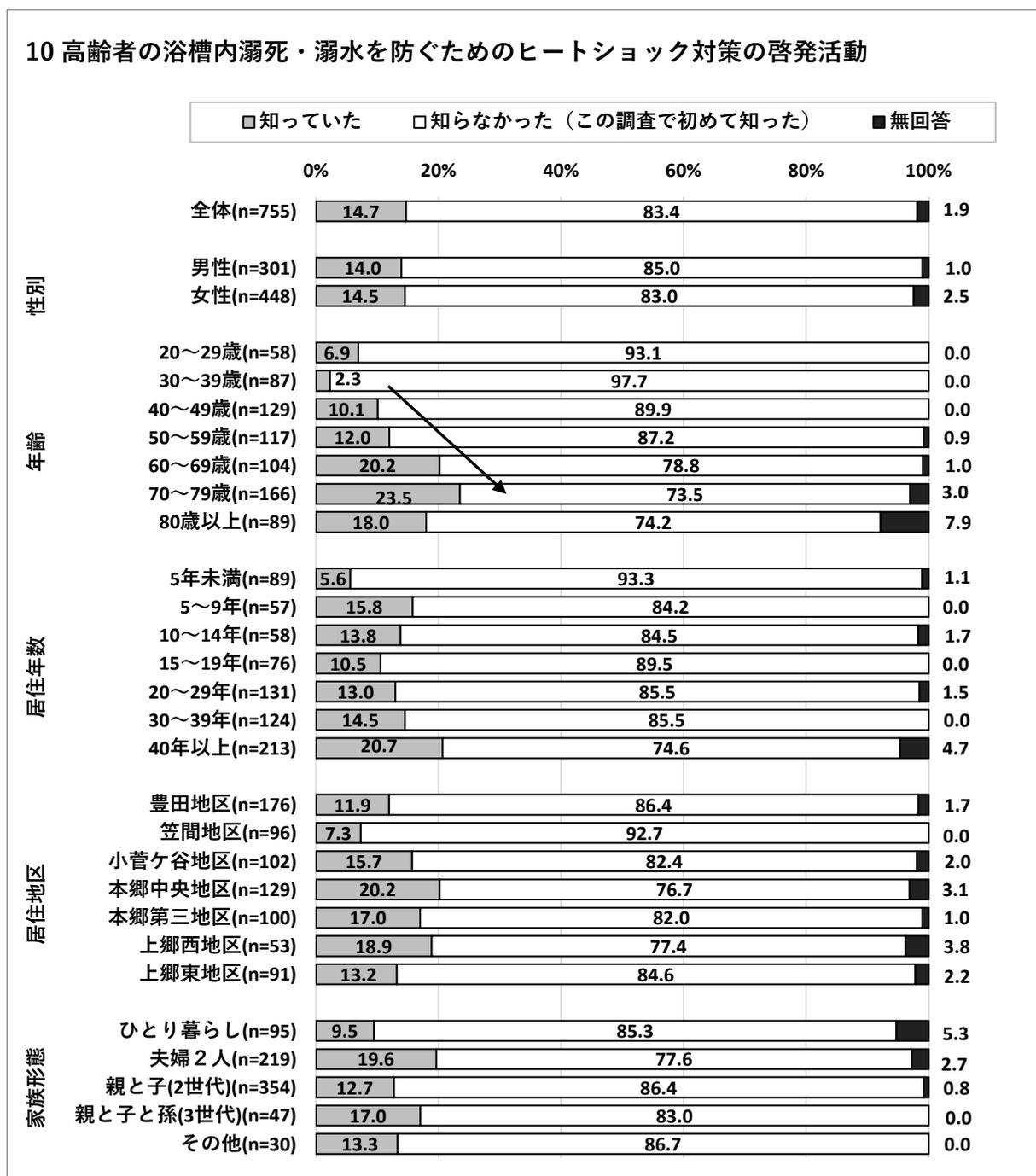
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上、「15～19年」では、5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

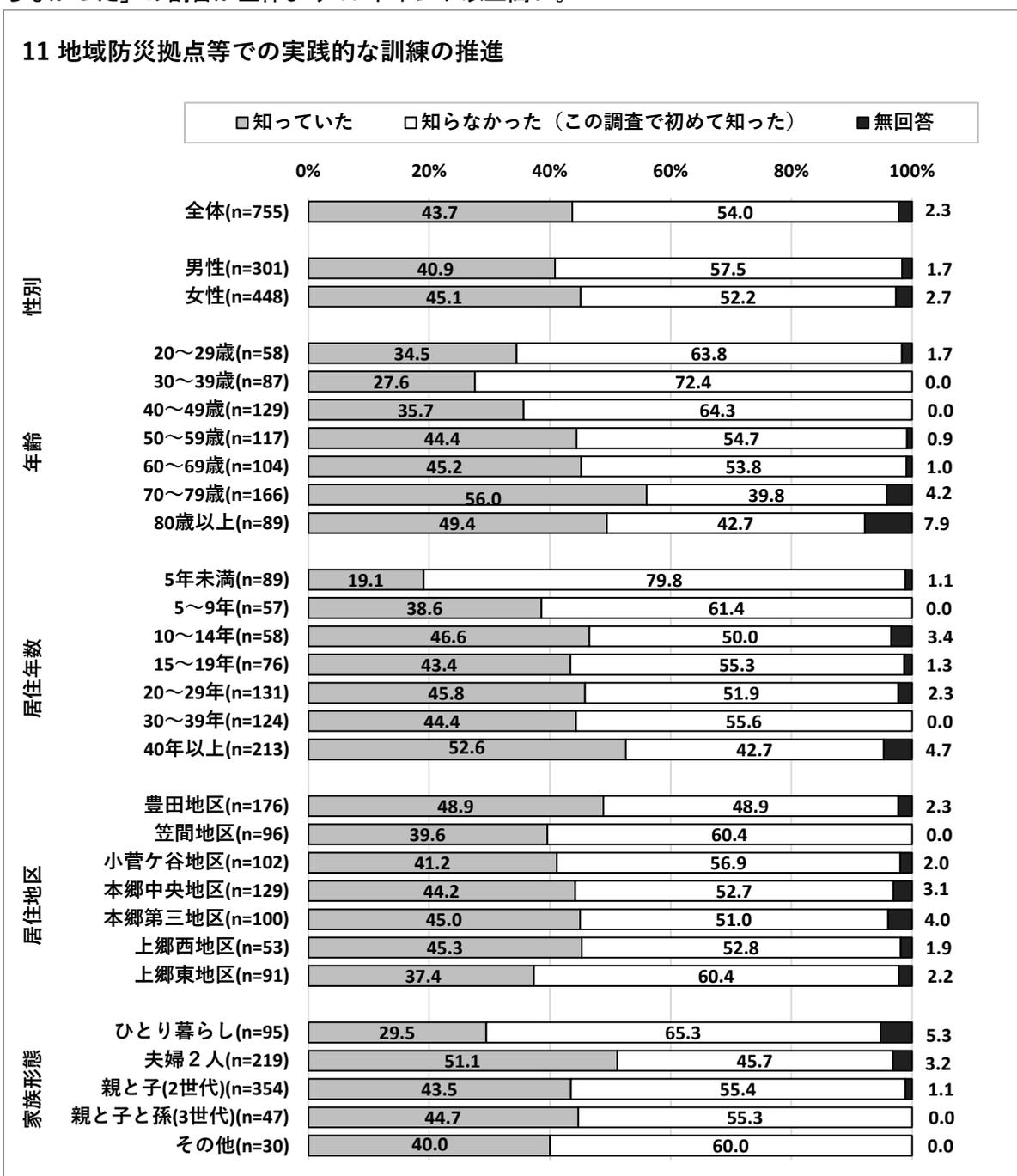
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より25ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「上郷東地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。



12 自殺を予防するための啓発活動（公共施設でのチラシ配布・講演会等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

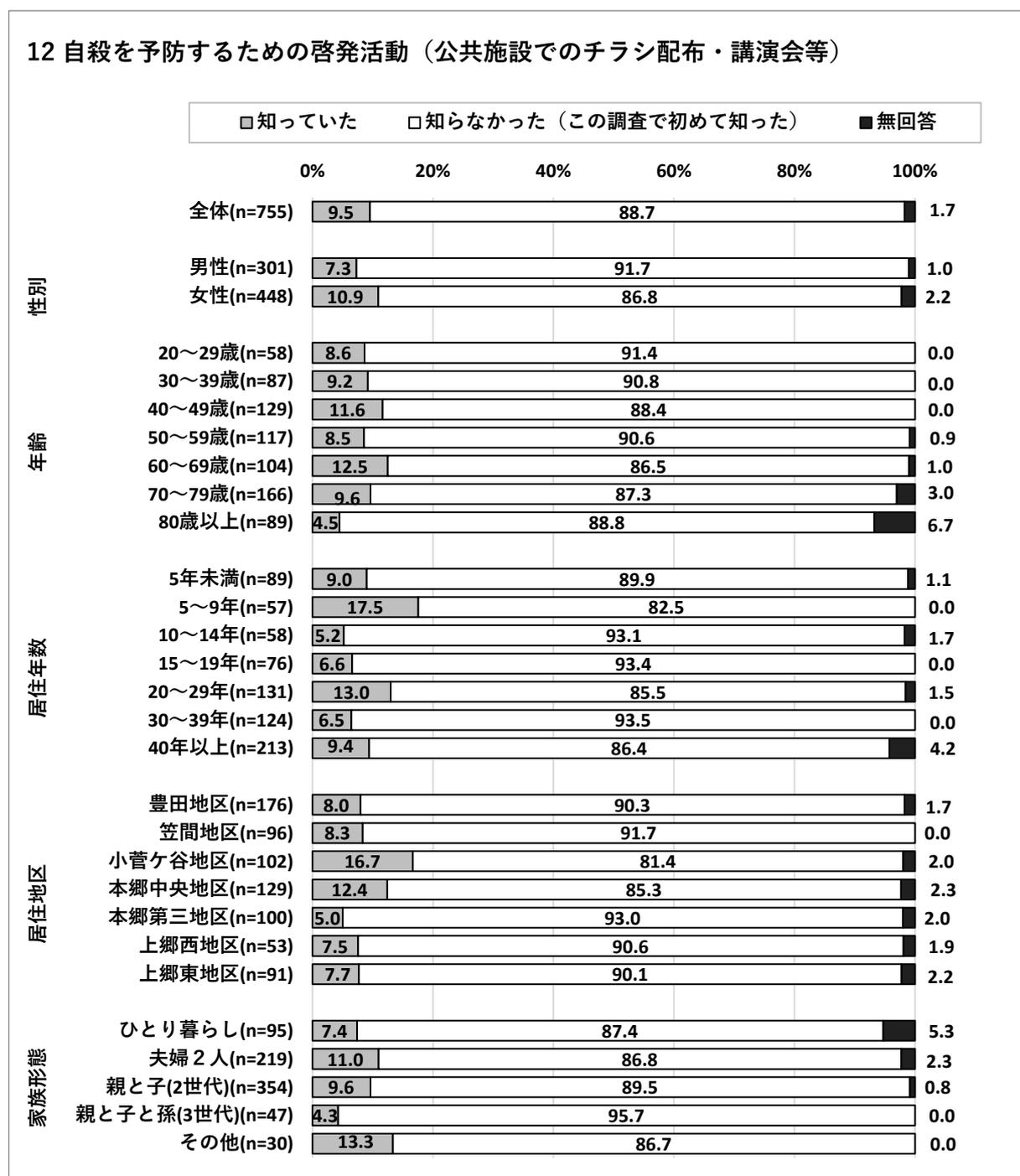
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・年齢別には、大きな差は見られない。

<居住年数別>

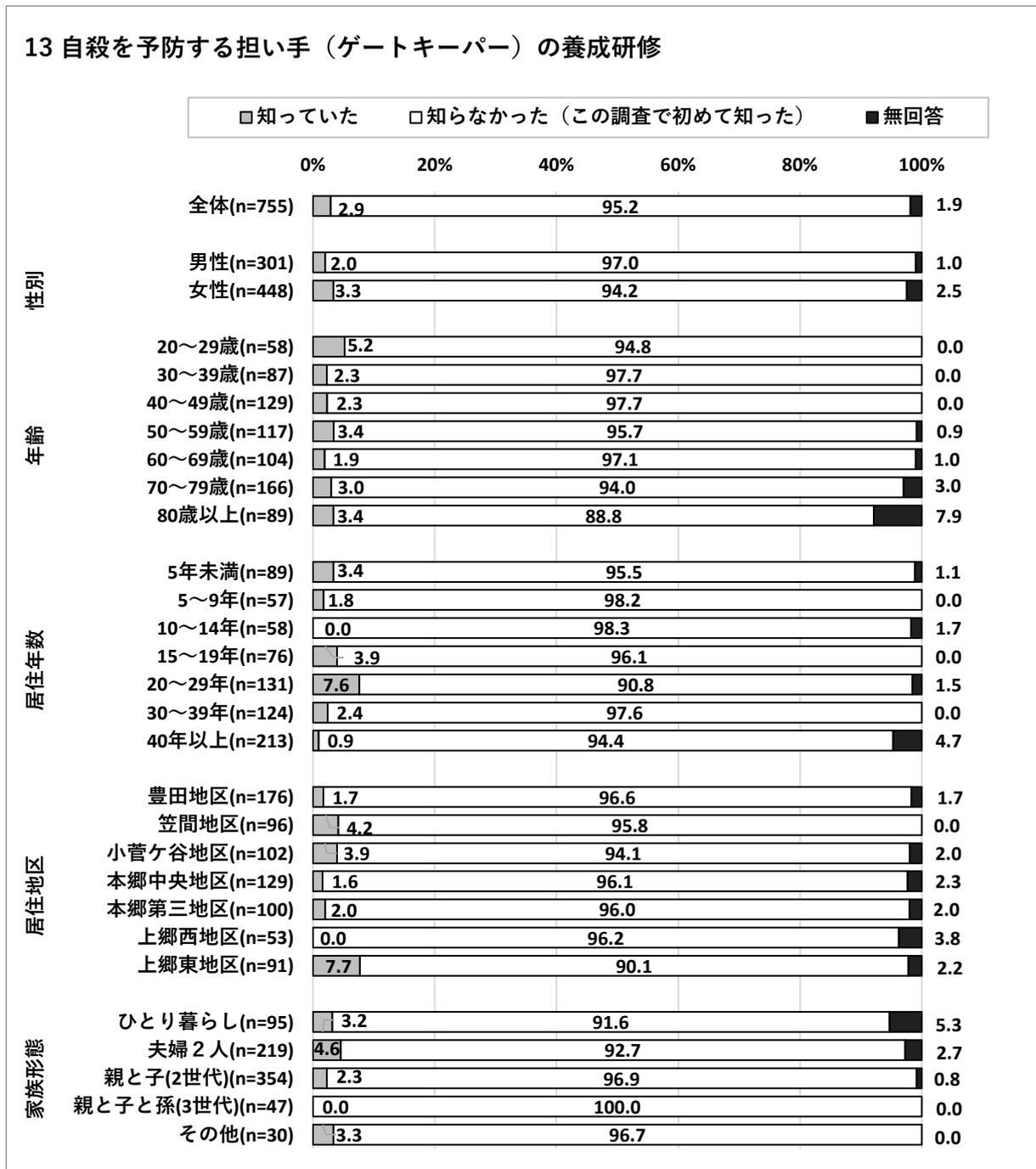
・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動（講演会等）

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上、「60～69歳」では5ポイント以上高く、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

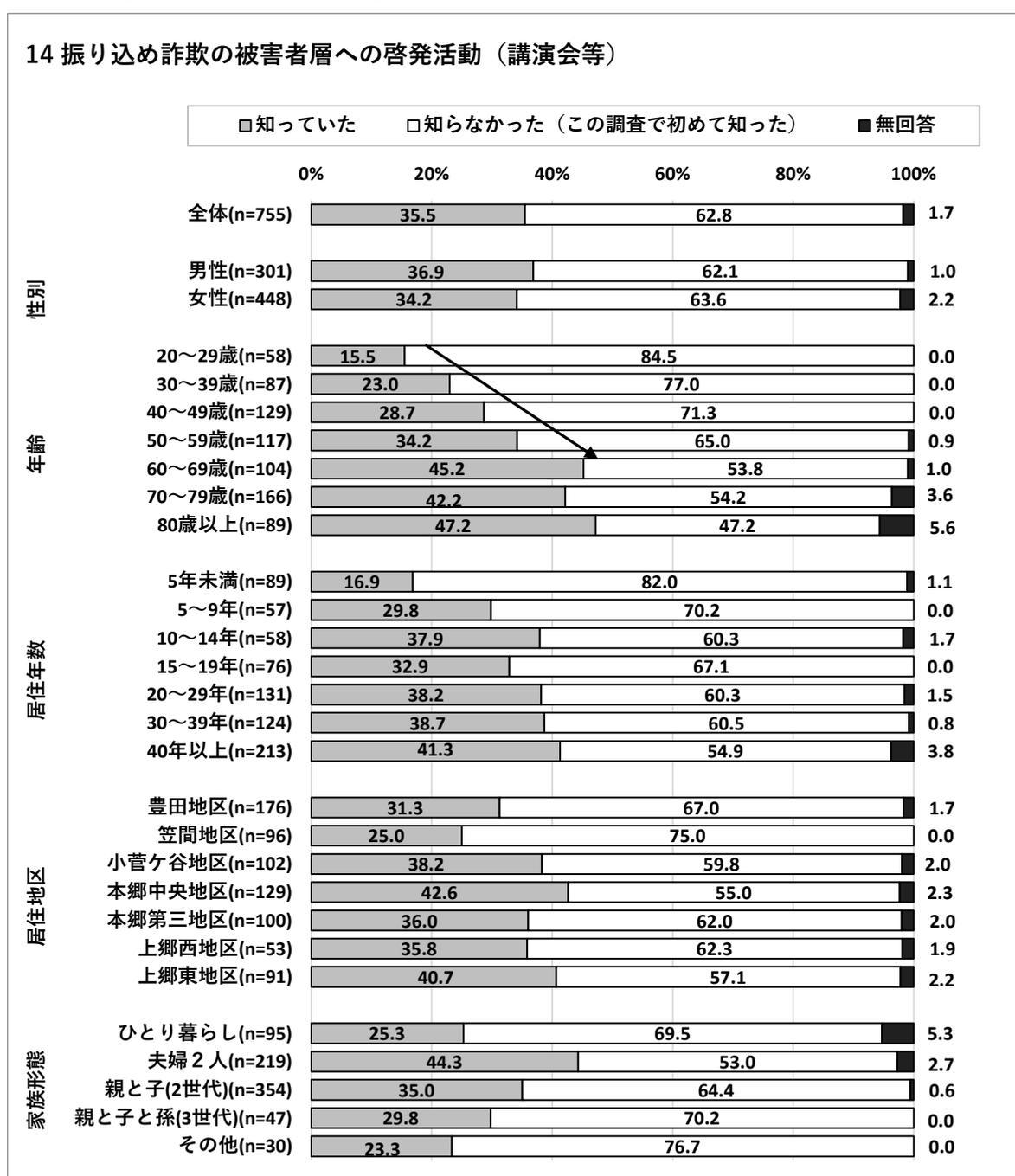
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



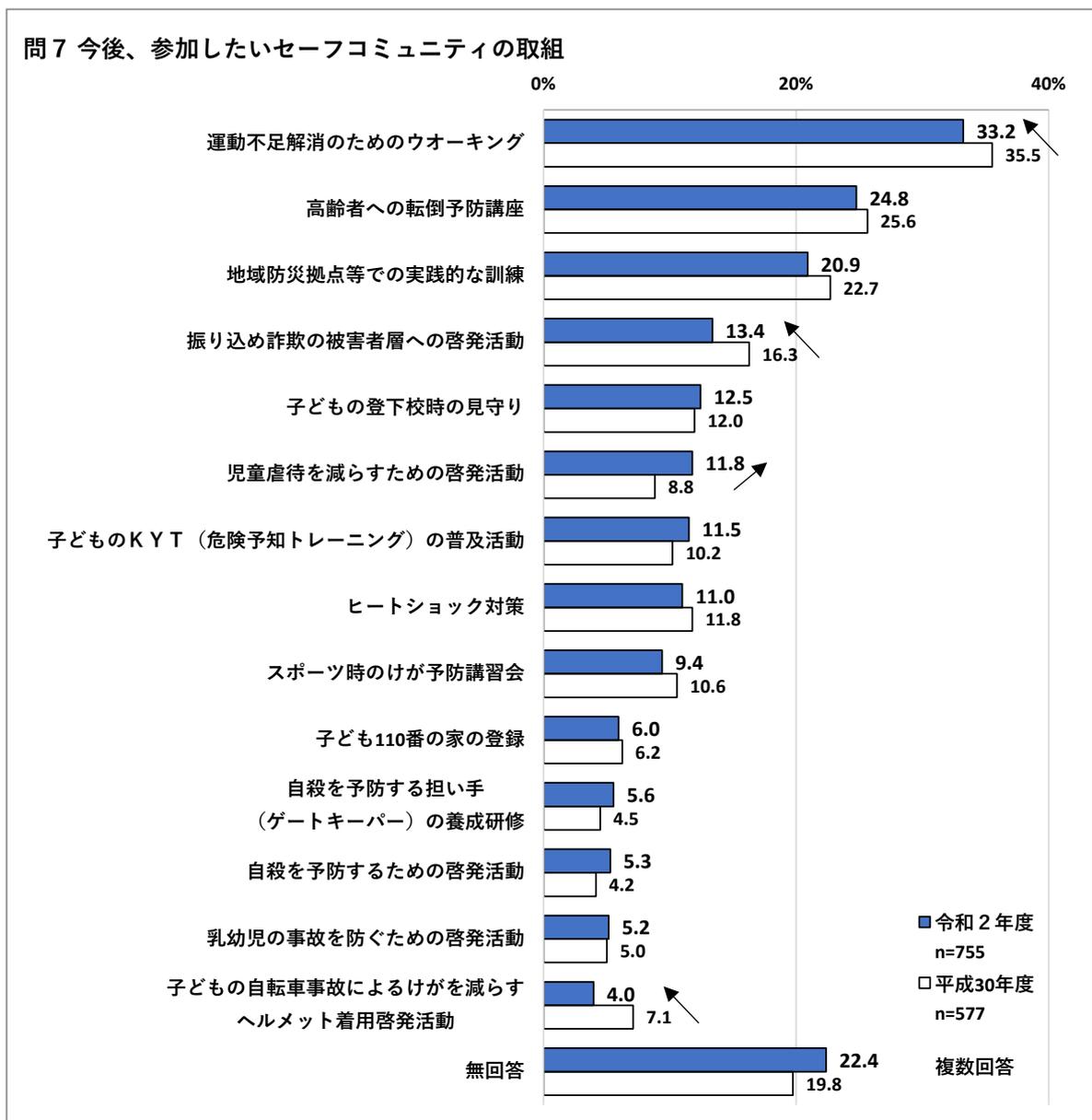
(7) 参加したいセーフコミュニティの取組

<全 体>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」が33.2%で最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(24.8%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(20.9%)、「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」(13.4%)の順である。一方、「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」を挙げた方は5%未満である。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較すると、「児童虐待を減らすための啓発活動」では2.9ポイント増加し、「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「運動不足解消のためのウォーキング」ではそれぞれ約3ポイント減少している。



【参加したいセーフコミュニティの取組： 属性別】上位4項目

<性別>

- ・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」では「女性」の方が、「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では「男性」の方が割合は高い。

<年齢別>

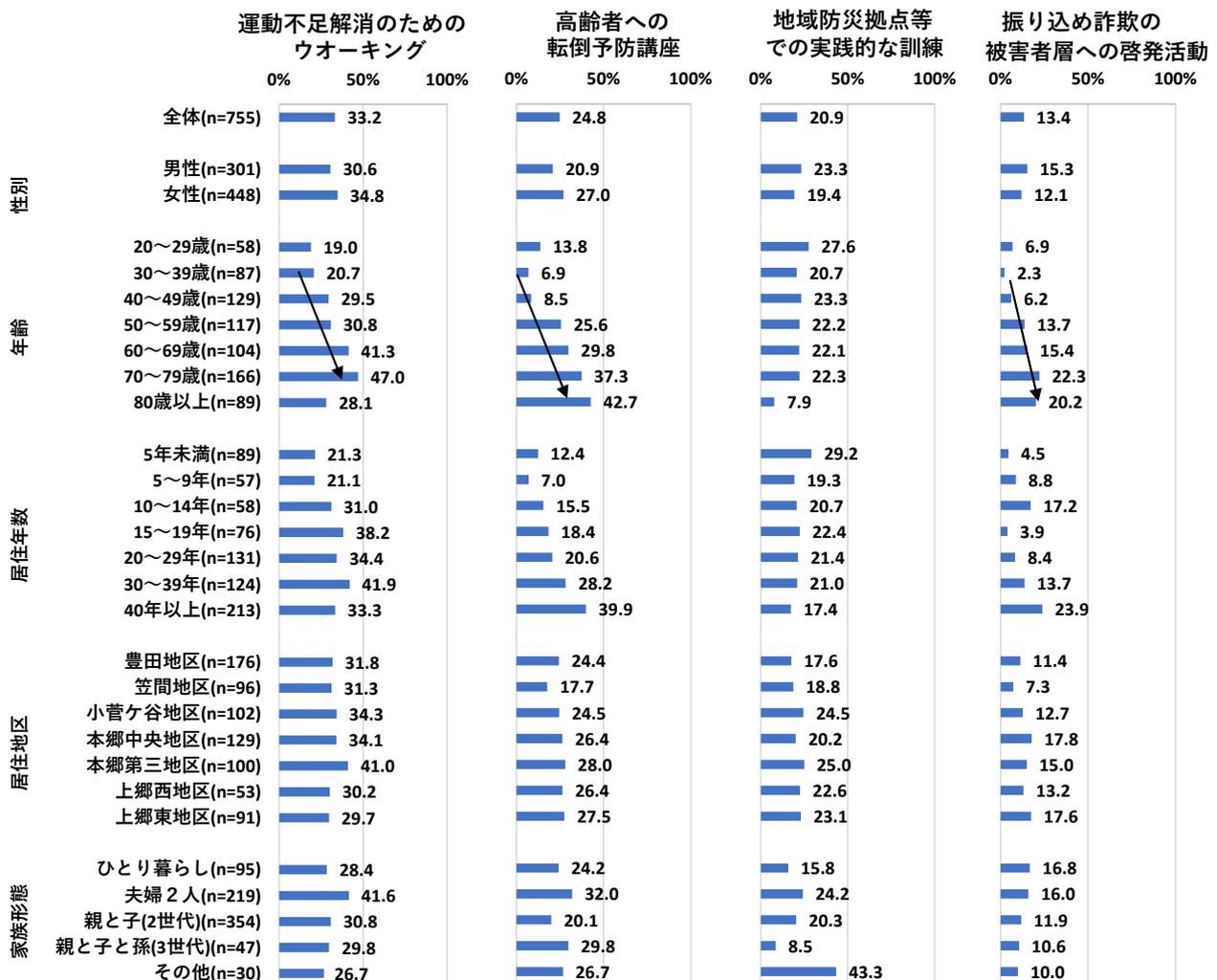
- ・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

- ・「本郷第三地区」では、「運動不足解消のためのウォーキング」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

- ・「夫婦2人」では、「運動不足解消のためのウォーキング」と「高齢者への転倒予防講座」が、「親と子と孫(3世代)」では、「高齢者への転倒予防講座」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



4 安全・安心に関する質問

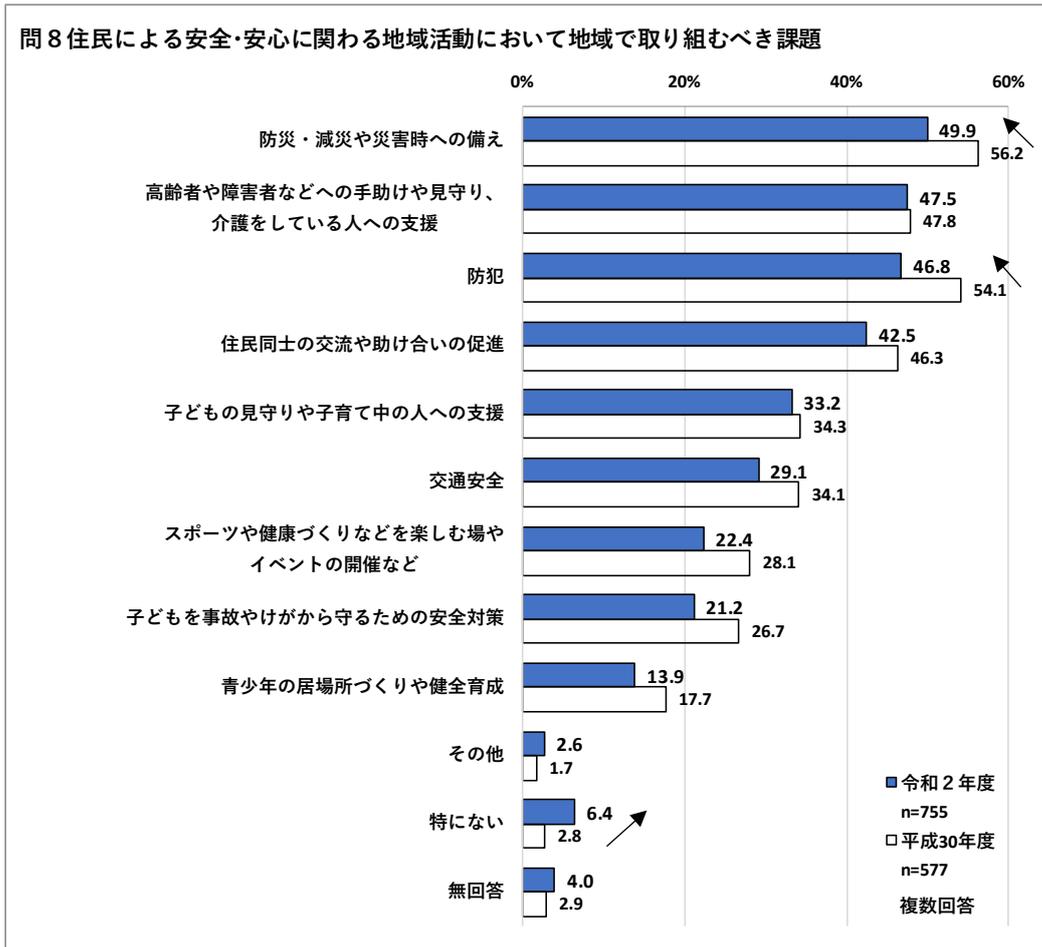
(8) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動

<全体>

・住民による安全・安心に関わる地域活動において地域で取り組むべき課題で最も多く挙げられたのは「防災・減災や災害時への備え」で49.9%、次いで「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.5%)、「防犯」(46.8%)、「住民同士の交流や助け合いの促進」(42.5%)の順となりました。一方、「青少年の居場所づくりや健全育成」を挙げた方は2割以下となっている。

<平成30年度調査と比較>

・平成30年度調査と比較すると、全項目で減少しており、特に「防犯」で7.3ポイント「防災・減災や災害時への備え」で6.3ポイント減少している。一方、「特にない」は3.6ポイント増加している。



問8 住民による安全・安心に関わる地域活動において、地域で取り組むべき課題 (その他記述)					
道路・歩道整備の課題	6	近隣住民との関係・コミュニティ	5	福祉支援・サービス	5
街路樹の伐採等、災害時に備えた整備 自転車運転マナーの指導 植木の剪定等の歩道整備 柏尾川の氾濫対策・笠間の線路沿いの道路整備 歩道整備(ミラーや信号設置) 歩道分離、押しボタン式横断歩道設置		ごみ収集場所の掃除当番制度の見直し コロナ禍での地域コミュニティ力衰退の危機感 近隣トラブルの事例、対応方法 地域の関連性が薄くなっていること 町内会館の利用がしづらい(有料のため)		引きこもりの方やご両親に対する支援 高齢者の移動手段 障害者に対しての支援や対策 窓越しでも会話ができる手話指導 独り暮らしの高齢者への手助け	
道德教育	2	防犯活動	1	区政について	1
子どもたちへの道德教育、親子のマナー教育 子育て中の親のマナー教育		グループでの夜回り等		区政の縮小、無駄減らし	
計					20件

【地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動： 属性別】上位4項目

<性別>

・「防災・減災や災害時への備え」「防犯」では「男性」の方が、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では「防災・減災や災害時への備え」「防犯」が、「60～69歳」では「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

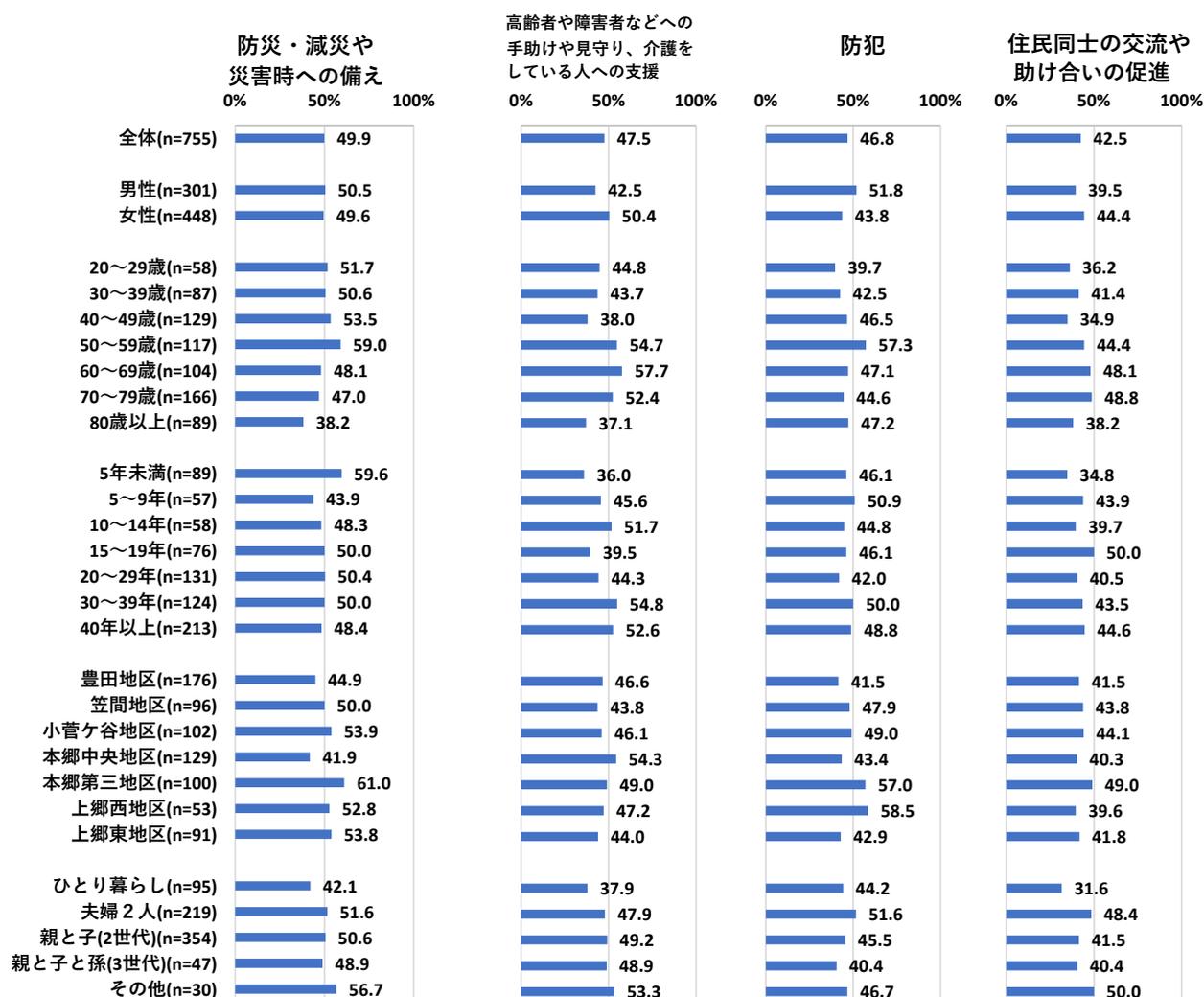
・「5年未満」では「防災・減災や災害時への備え」、「30～39年」「40年以上」では「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」、「15～19年」では「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では「防災・減災や災害時への備え」と「防犯」、「上郷西地区」では「防犯」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



(9) 救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度

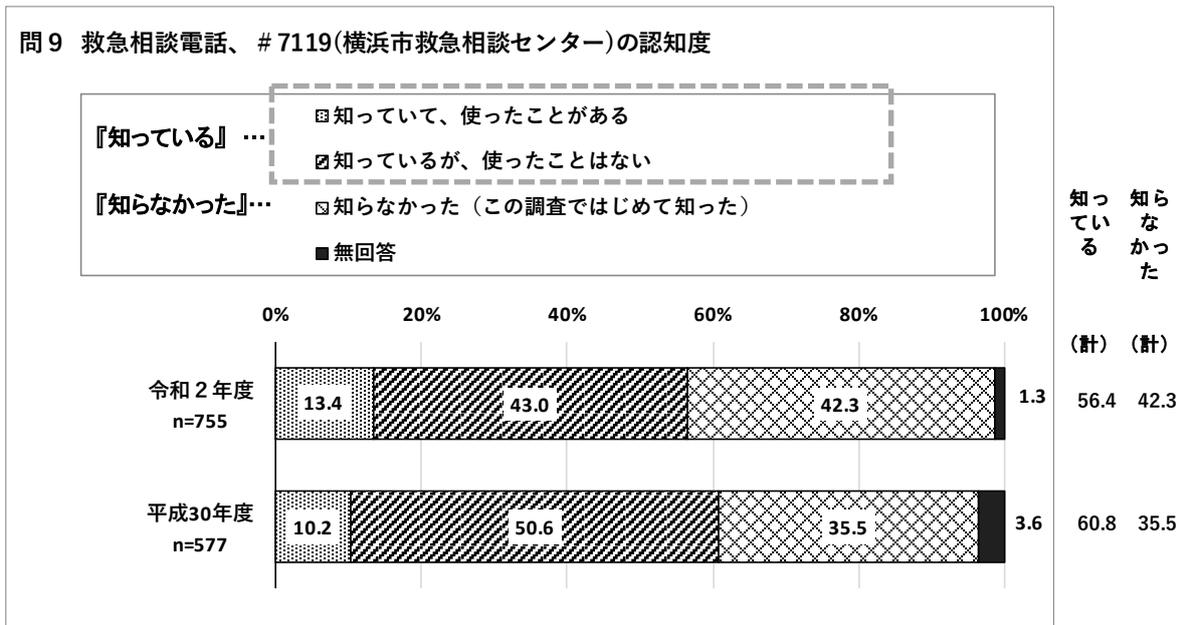
【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 時系列】

<全 体>

- ・ 「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は56.4%である。また、「使ったことがある」方は13.4%である。一方、「知らなかった（この調査ではじめて知った）」方は42.3%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は4.4ポイント減少している。



【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 属性別】

<性別>

・『知っている』の割合は、「男性」より「女性」の方が5.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

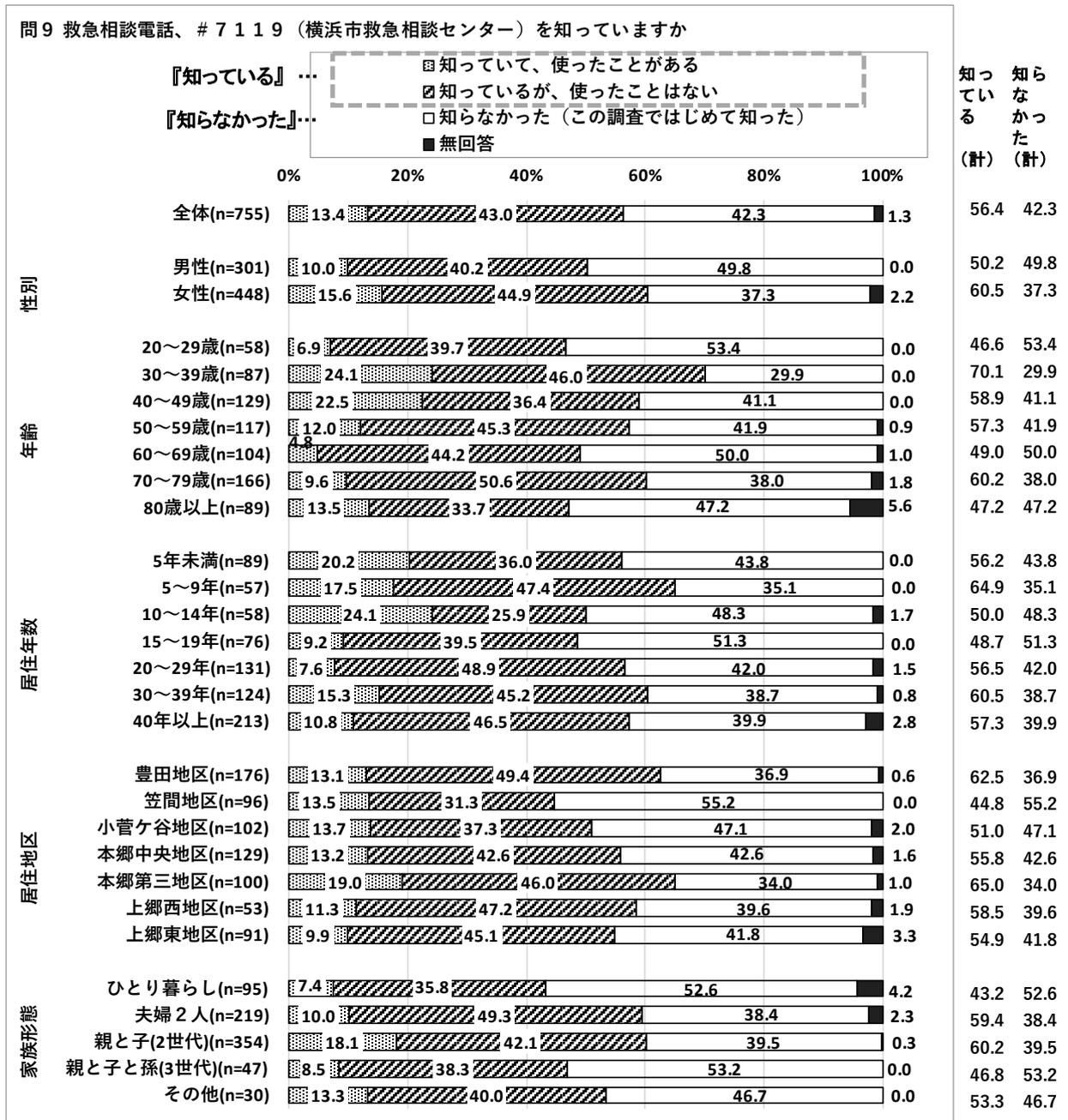
・「5～9年」では、『知っている』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「本郷第三地区」では、『知っている』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上低い。

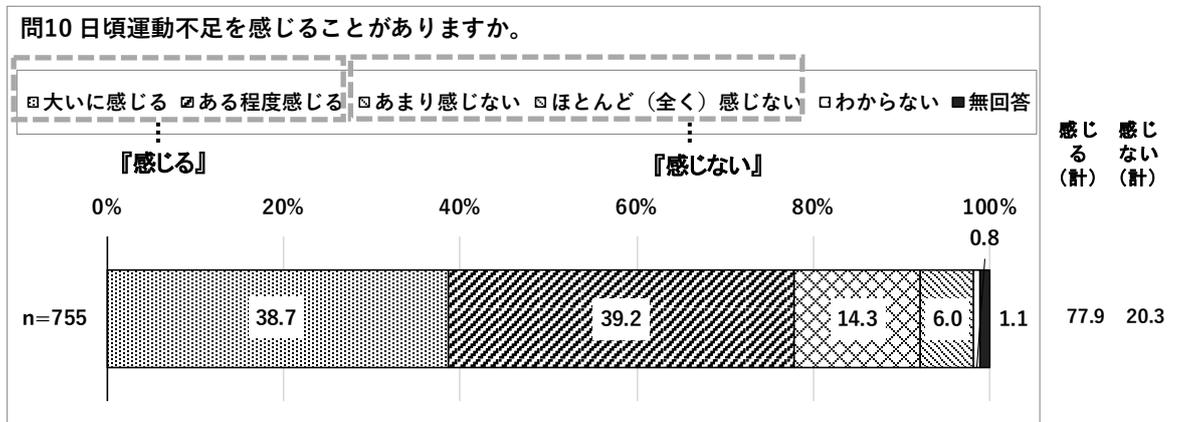


(10) 運動不足の実感

【運動不足の実感： 時系列】

<全 体>

- ・ 日頃運動不足を感じるかどうかについて「大いに感じる」「ある程度感じる」を合わせた『感じる』方が77.9%、「あまり感じない」「ほとんど（全く）感じない」を合わせた『感じない』方が20.3%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている。



【運動不足の実感： 属性別】

<性別>

・「大いに感じる」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では「大いに感じる」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

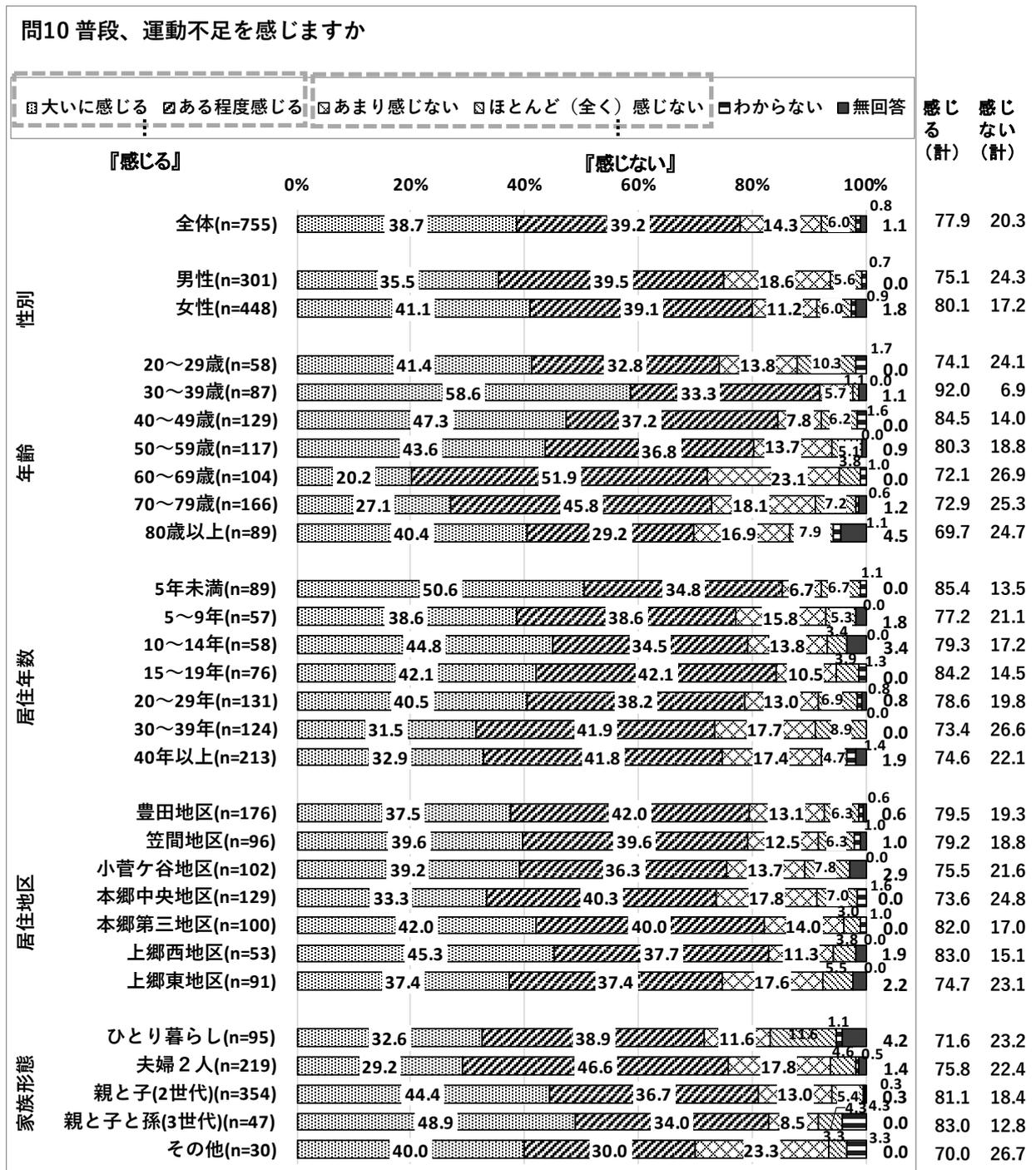
・「5年未満」では、「大いに感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「大いに感じる」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

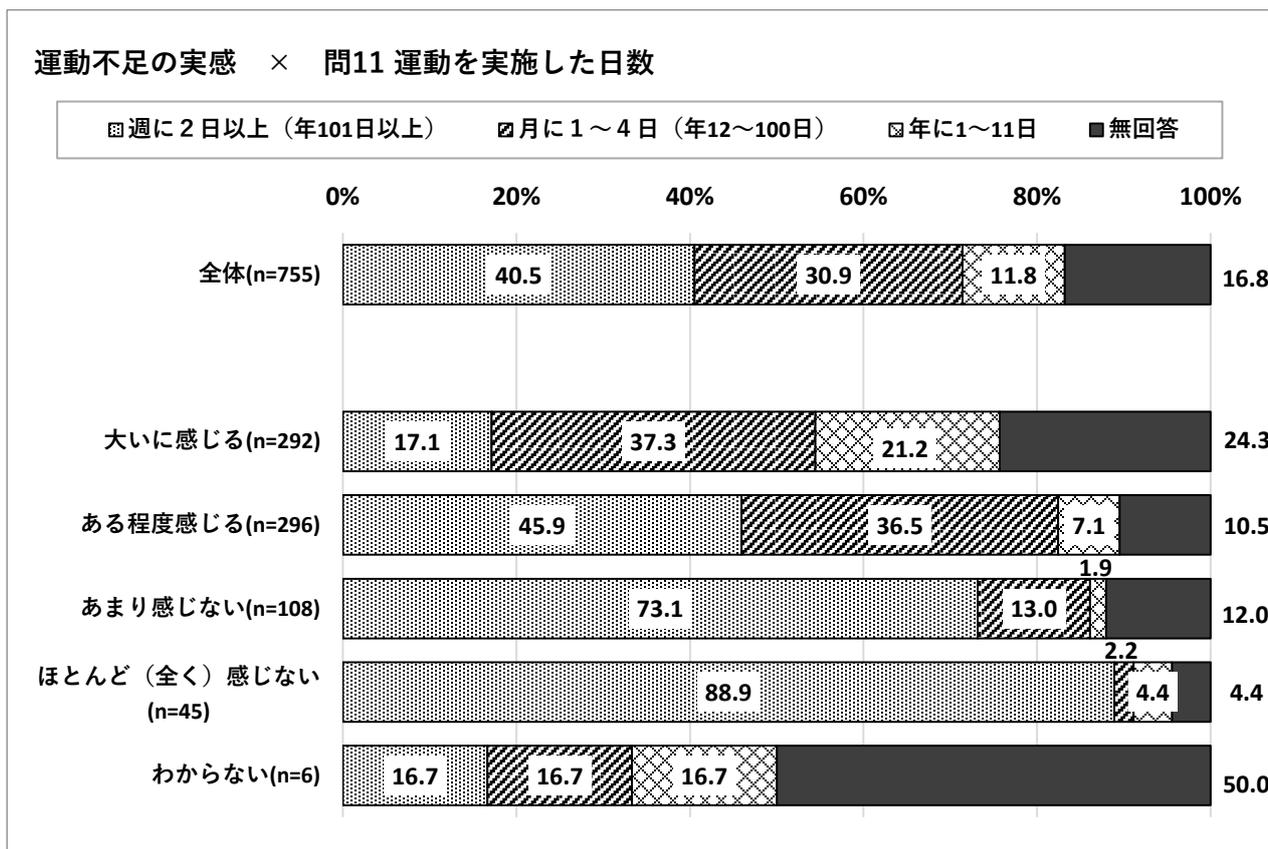
・「親と子と孫（3世代）」では、「大いに感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。



Ⅲ 集計分析結果 (10)運動不足の実感

【運動不足の実感： (11)スポーツをする頻度との相関】

- ・運動不足を「ほとんど（全く）感じない」方の9割近く、「あまり感じない」方の8割近くは、「週に2日以上（年101日以上）」ウォーキング等の運動を実施している。

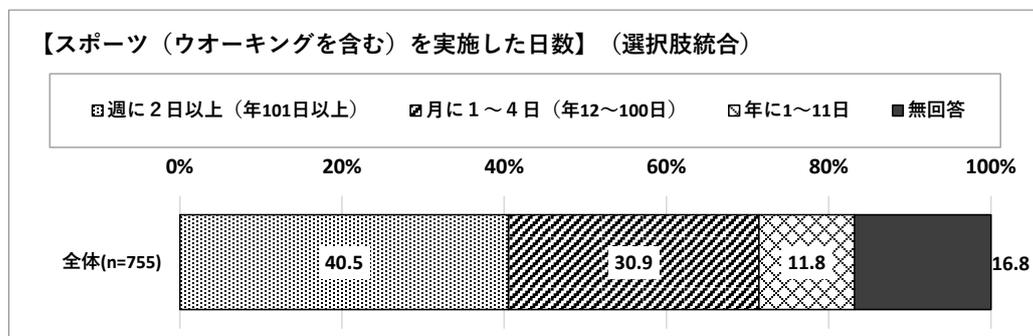
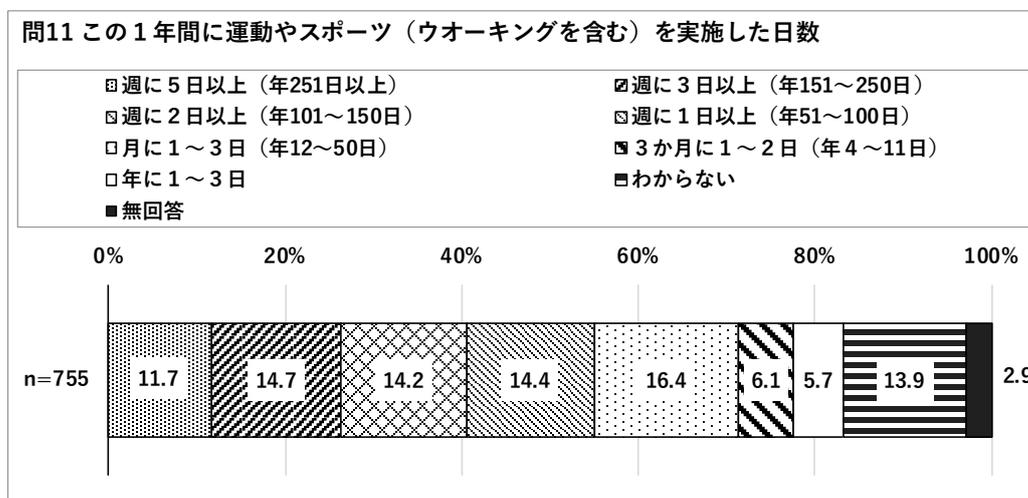


(11) スポーツをする頻度 【新規】

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度】 【新規】

<全 体>

- ・ スポーツをする頻度については「月に1～3日（年12～50日）」と回答した方が16.4%で最も多い。また、『週1日以上』スポーツをしている方は55.0%、『月1日以上』スポーツをしている方は71.4%となっている。全体的に各自それぞれにあった頻度でスポーツをしている傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (11)スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 属性別】

<性別>

・『月1日以上』では、「女性」より「男性」の方が2.1ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

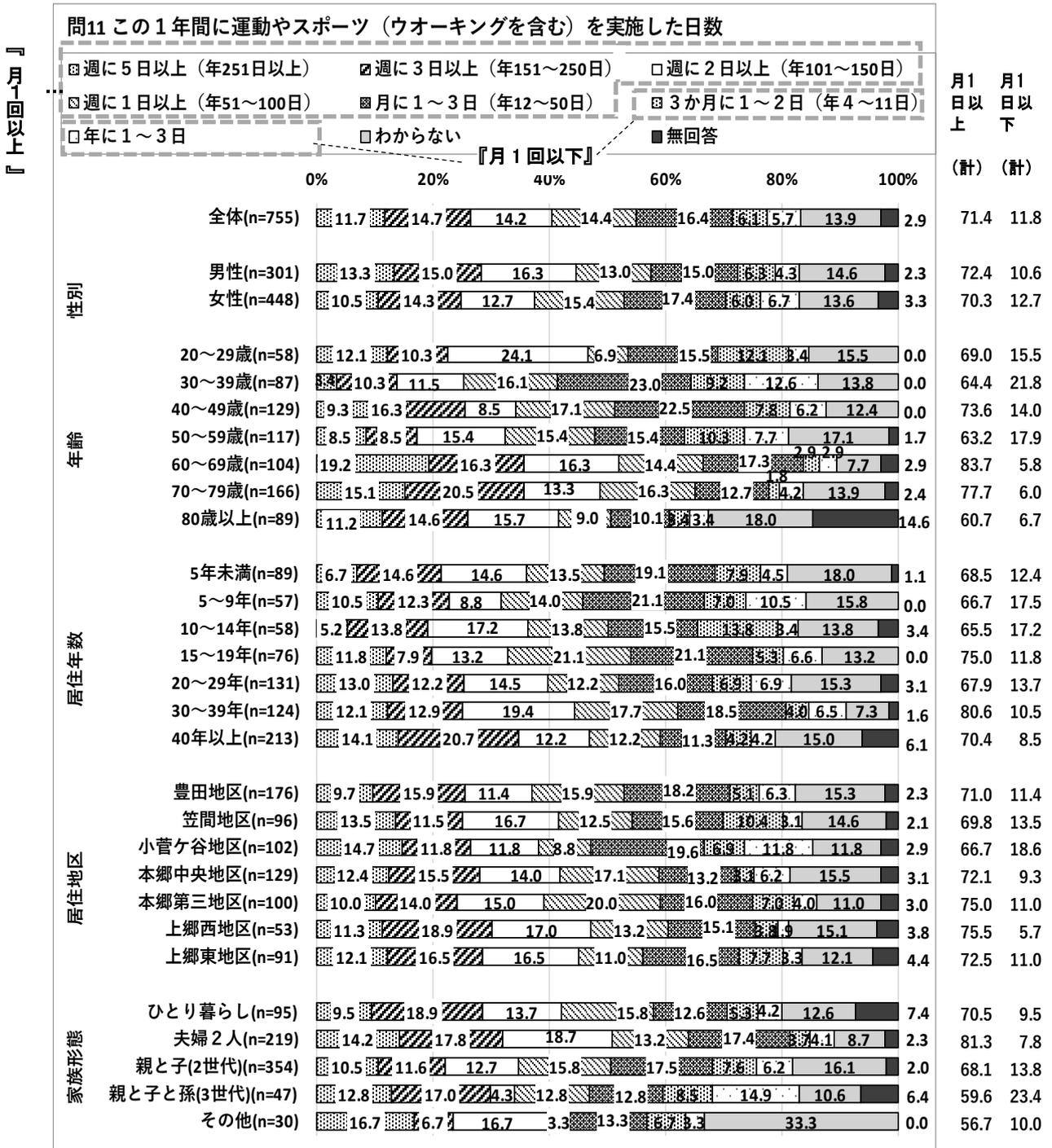
・「30～39年」では、『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」を除いて、家族形態が広がるほどスポーツをする割合が低くなる傾向が見られる。



【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度（選択肢統合）： 属性別】

<性別>

・「週に2日以上（年101日以上）」では、「男性」の方が高く、「月に1～4日（年12～100日）」「年に1～11日」では「女性」の方が高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では「週に2日以上（年101日以上）」、「30～39歳」では「年に1～11日」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「月に1～4日（年12～100日）」の割合が全体より10ポイント以上高い。

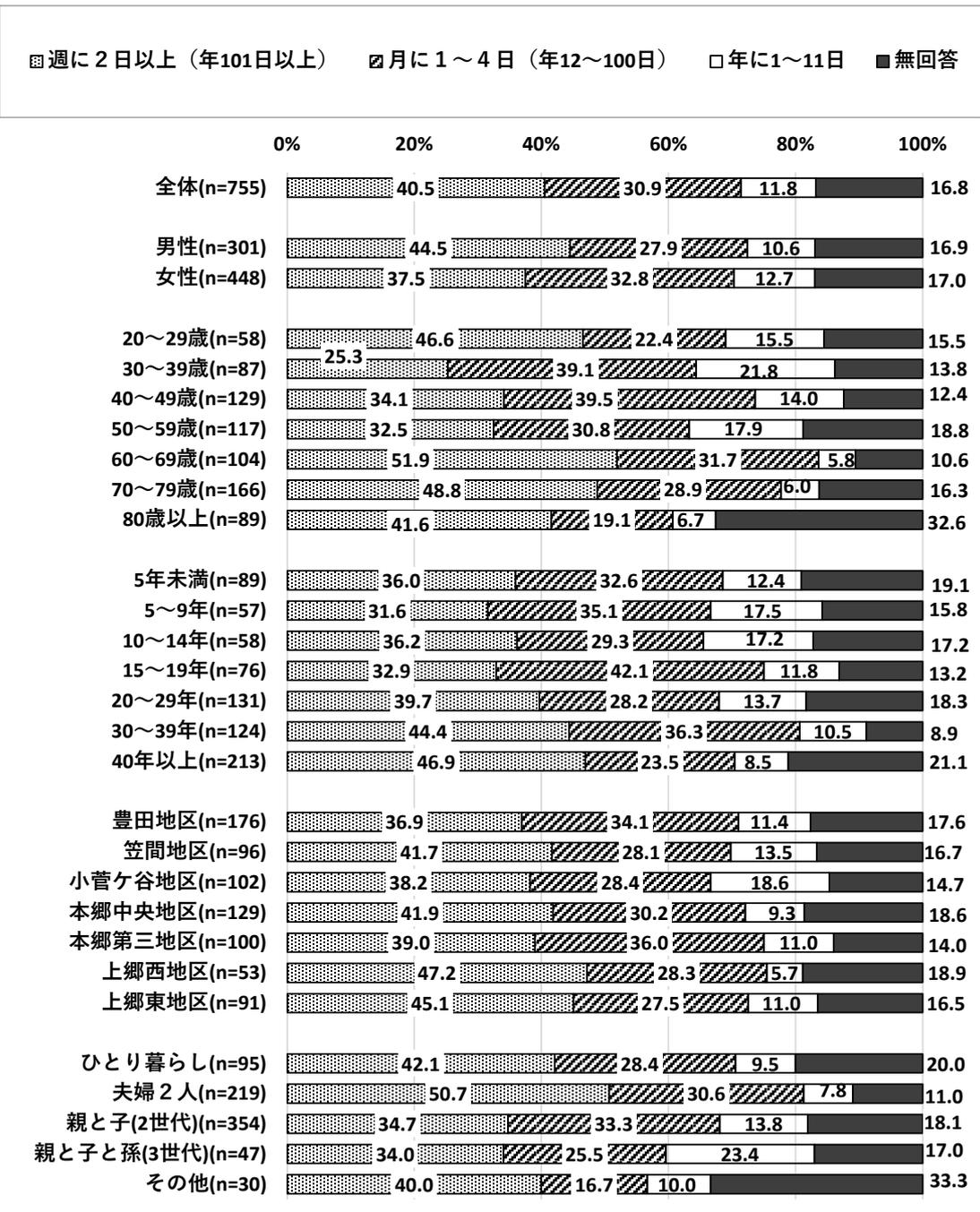
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「週に2日以上（年101日以上）」、「親と子と孫（3世代）」では、「年に1～11日」の割合が全体より10ポイント以上高い。

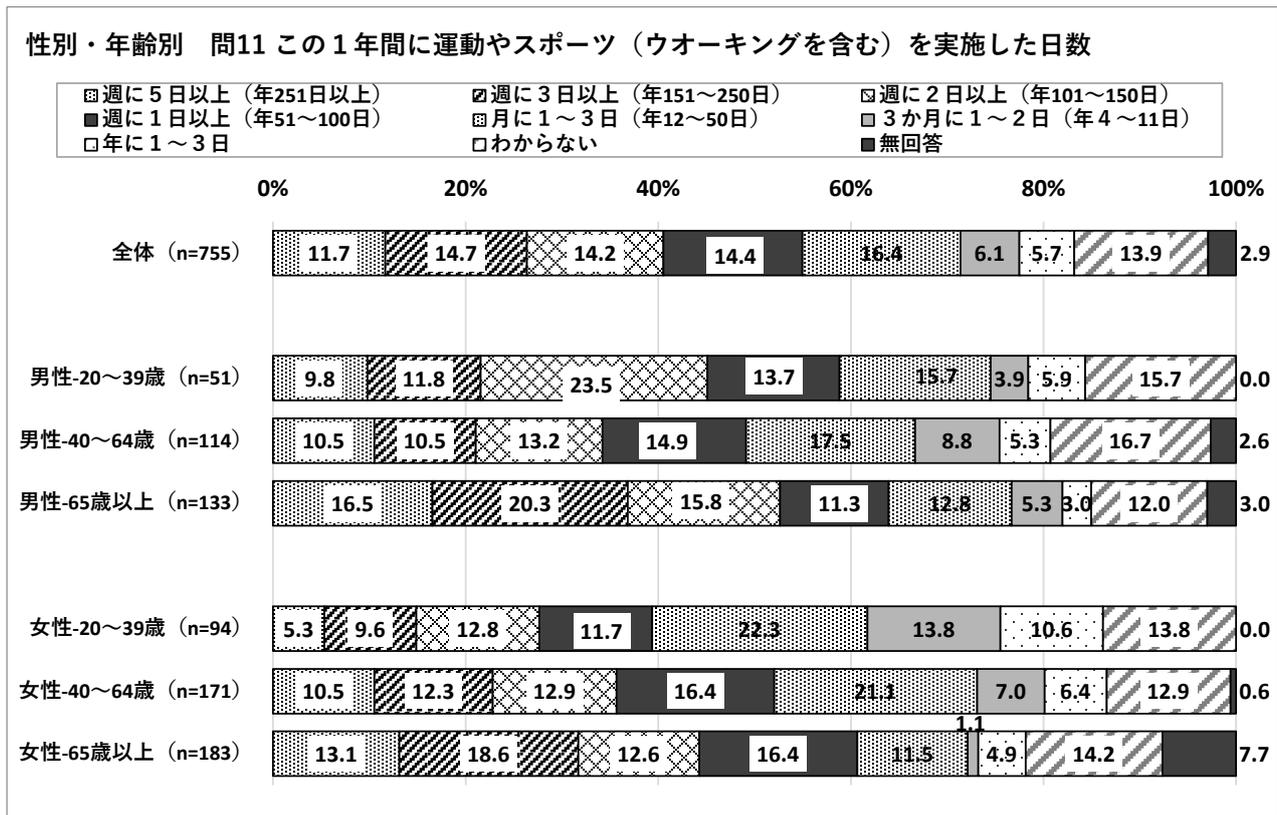
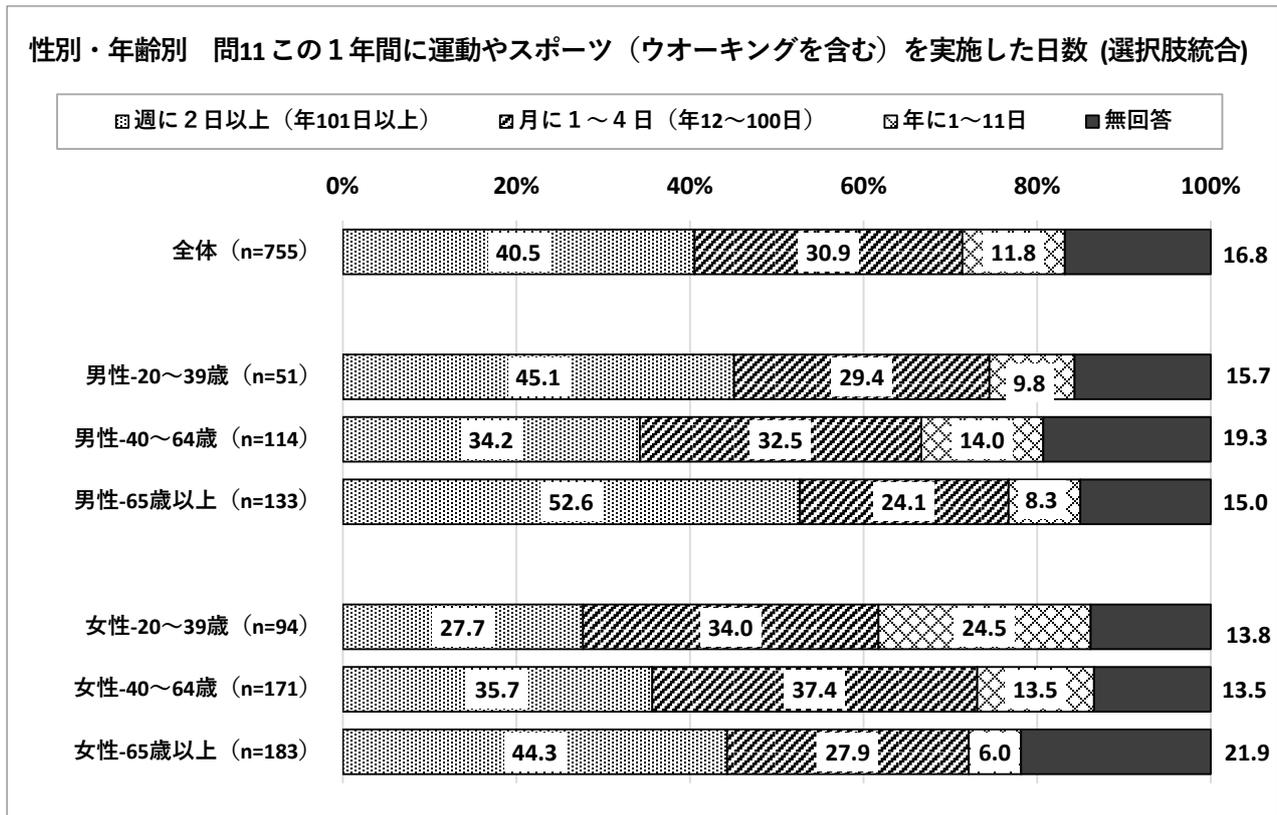
問11 この1年間に運動やスポーツ（ウォーキングを含む）を実施した日数（選択肢統合）



Ⅲ 集計分析結果 (11)スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 性別・年齢別】

- ・女性「20～39歳」では、「年に1～11日」が全体の割合より10ポイント以上高い。
- ・男性「65歳以上」では、「週に2日以上（年101日以上）」運動している方が全体の割合より10ポイント以上高い。



(12) ウオーキングをする頻度

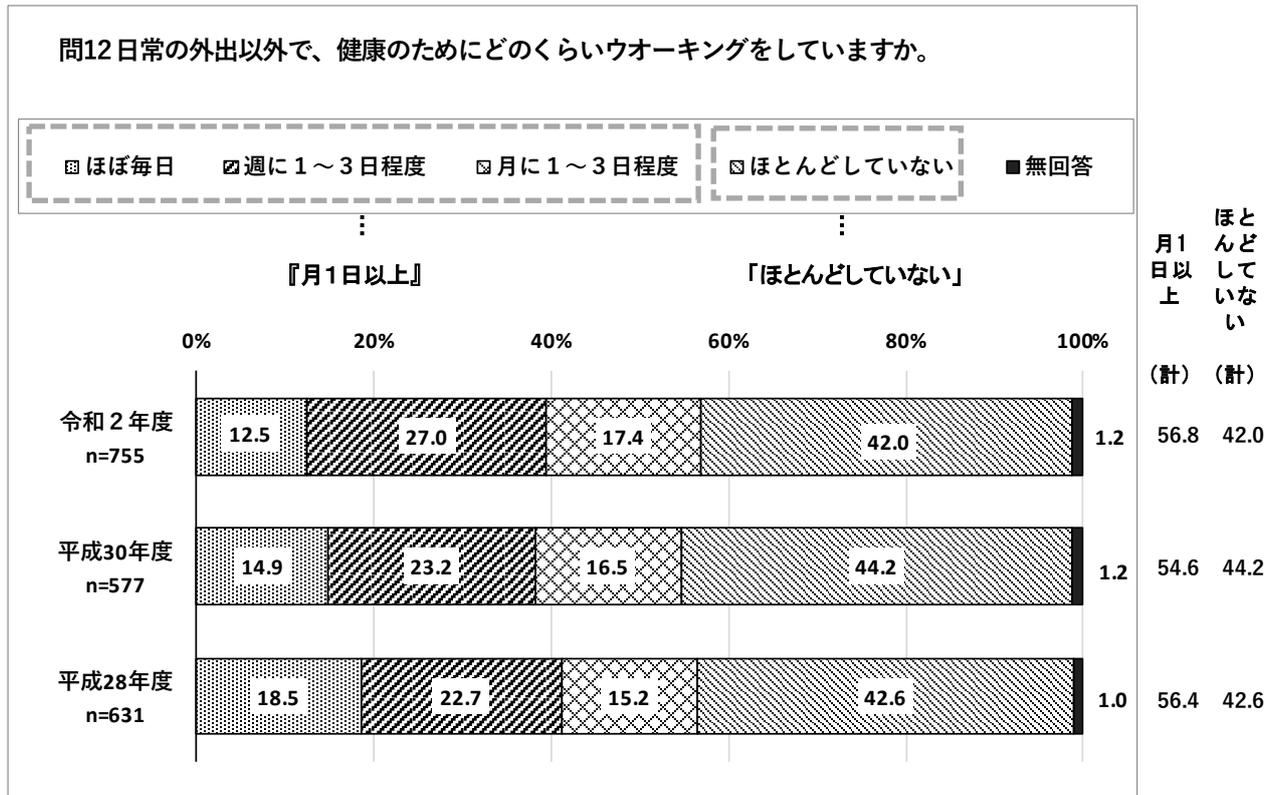
【ウオーキングをする頻度： 時系列】

<全体>

- ・ 日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウオーキングをしているかについては、「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」「月に1～3日程度」を合わせた『月に1日以上』の方は56.8%、「ほとんどしていない」方が42.0%と5割以上の区民が月1日以上ウオーキングをしている。

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、『月1日以上』の割合にほとんど差はみられないが、「ほぼ毎日」の割合については、減少の傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (12)ウオーキングをする頻度

【ウオーキングをする頻度： 属性別】

<性別>

・『月1日以上』の割合は、「女性」より「男性」の方が8.7ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

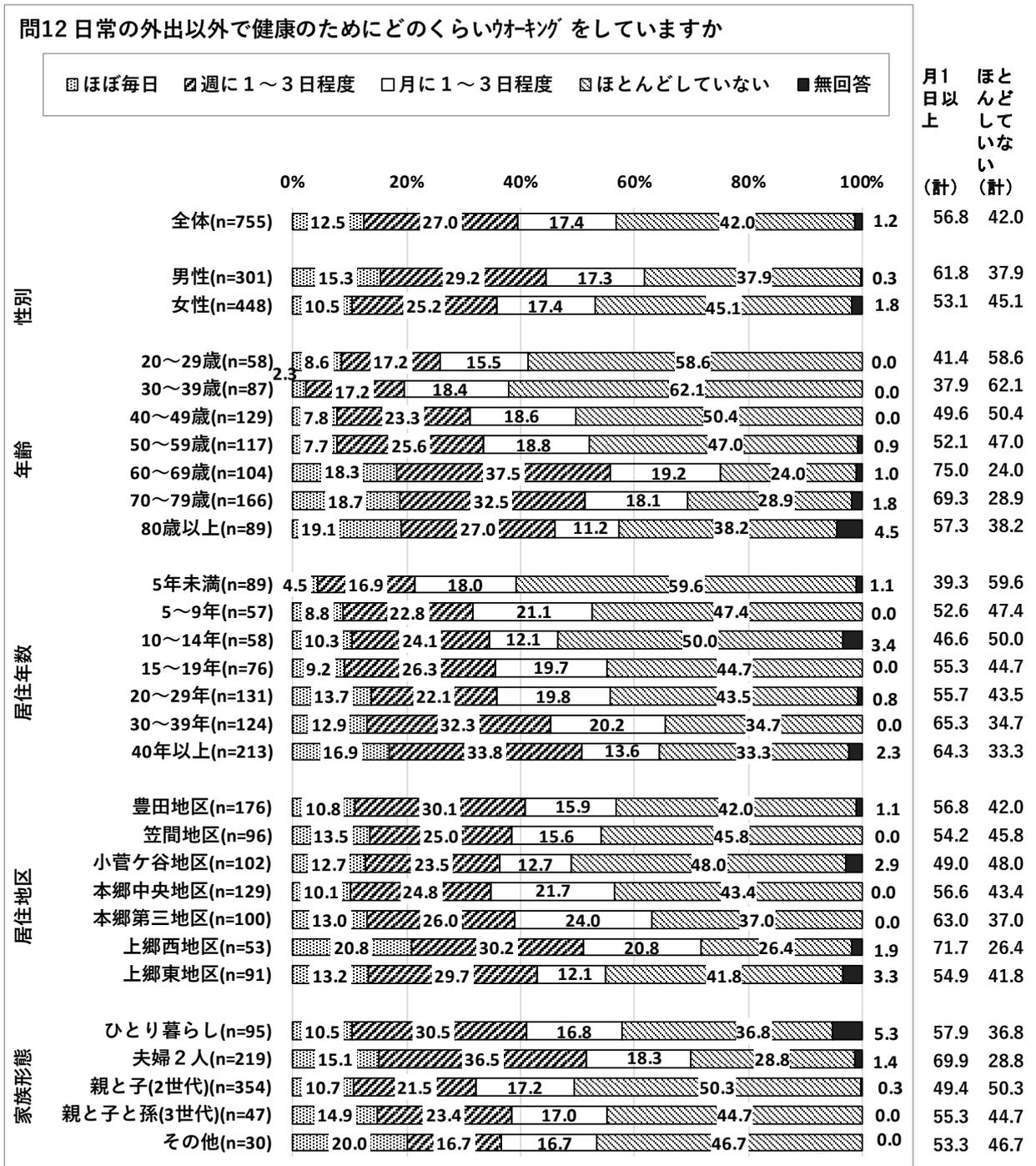
・「30～39年」「40年以上」では、『月1日以上』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『月1日以上』の割合が全体より10ポイント以上高い。

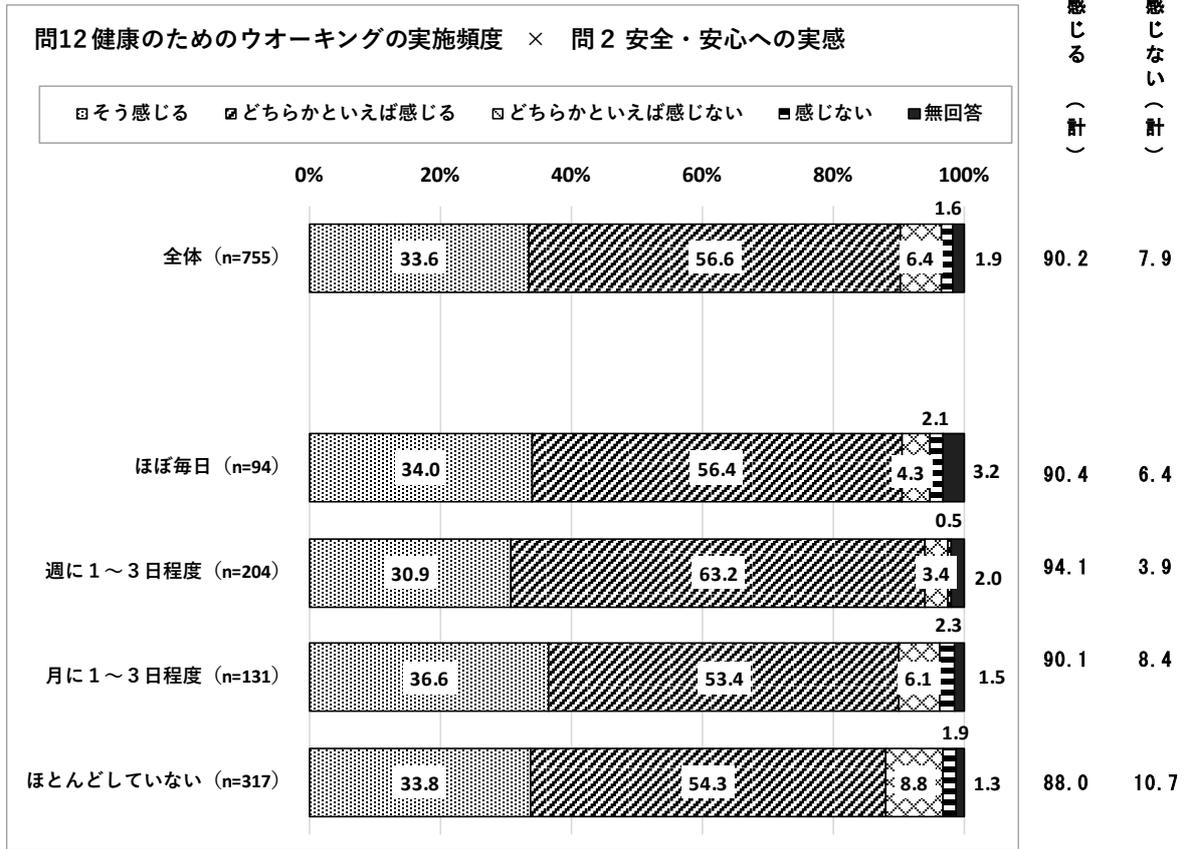
<家族形態別>

・「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント程度高い。



【ウオーキングをする頻度：(2)安心・安全への実感との相関】

・ウオーキングの実施頻度と体感治安の相関について、「週に1～3日程度」のウオーキングをしている方は、「栄区は安全・安心なまちだと感じますか」という問いに対し、「そう感じる」「どちらかといえば感じる」と答えている割合が高く、ウオーキングを「ほとんどしていない」方は「どちらかといえば感じる」「そう感じる」と答える割合が高い。



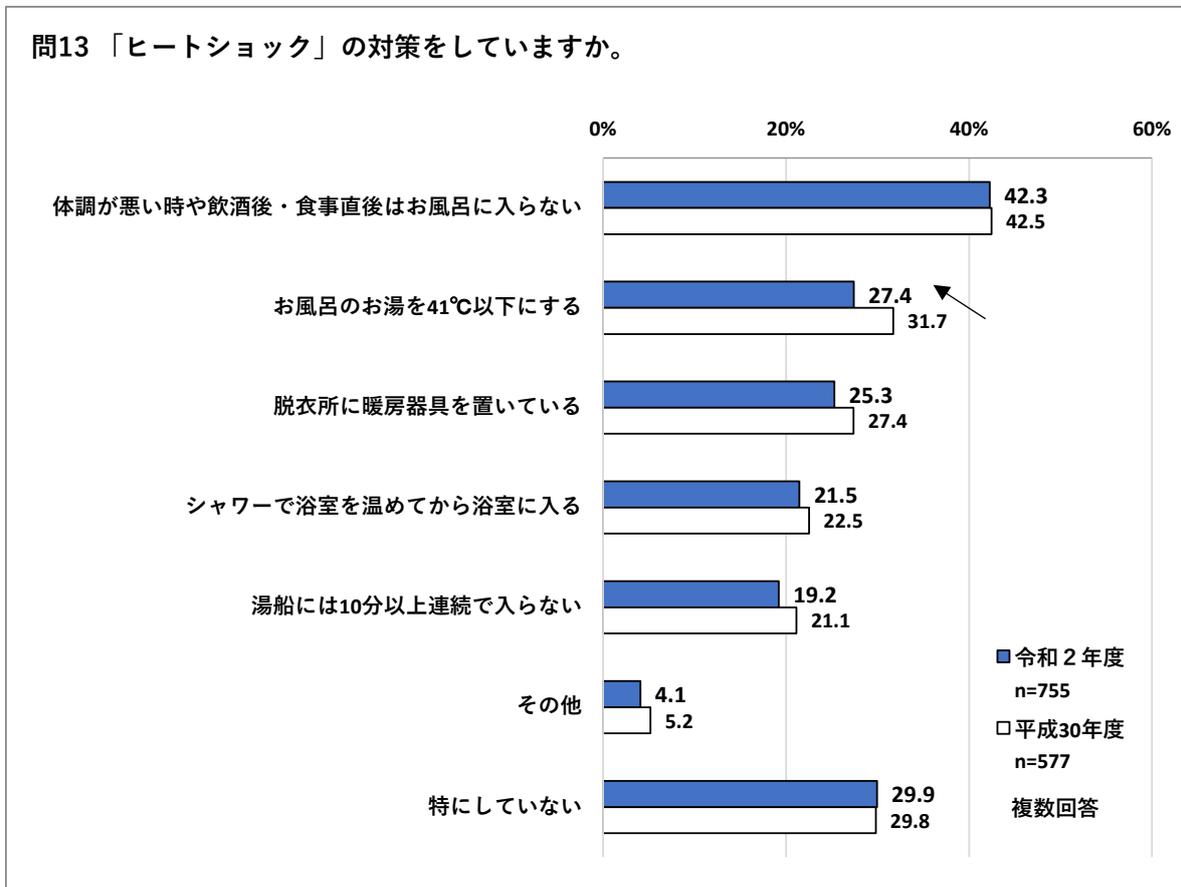
(13)「ヒートショック」の対策

<全 体>

- ・「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」が42.3%で最も多く、次いで「お風呂のお湯を41℃以下にする」(27.4%)、「脱衣所に暖房器具を置いている」(25.3%)の順である、一方、「特にしていない」は29.9%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較すると全項目で減少傾向が見られるが、特に「お風呂のお湯を41℃以下にする」では、4.3ポイント減少している。



問13「ヒートショック」の対策をしていますか (その他記述)			
浴室暖房	17	湯かけをしてから入る	2
入る前に蓋を開けておく	4	銭湯	1
家全体の暖房	3	高齢者は1番風呂にいれない	1
シャワーのみ	2		
			計 30件

【「ヒートショック」の対策： 属性別】上位4項目

<性別>

・上位4項目では、全て「男性」より「女性」の方が行っている割合が高い。

<年齢別>

・どの項目も年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。
 ・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「特にしていない」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

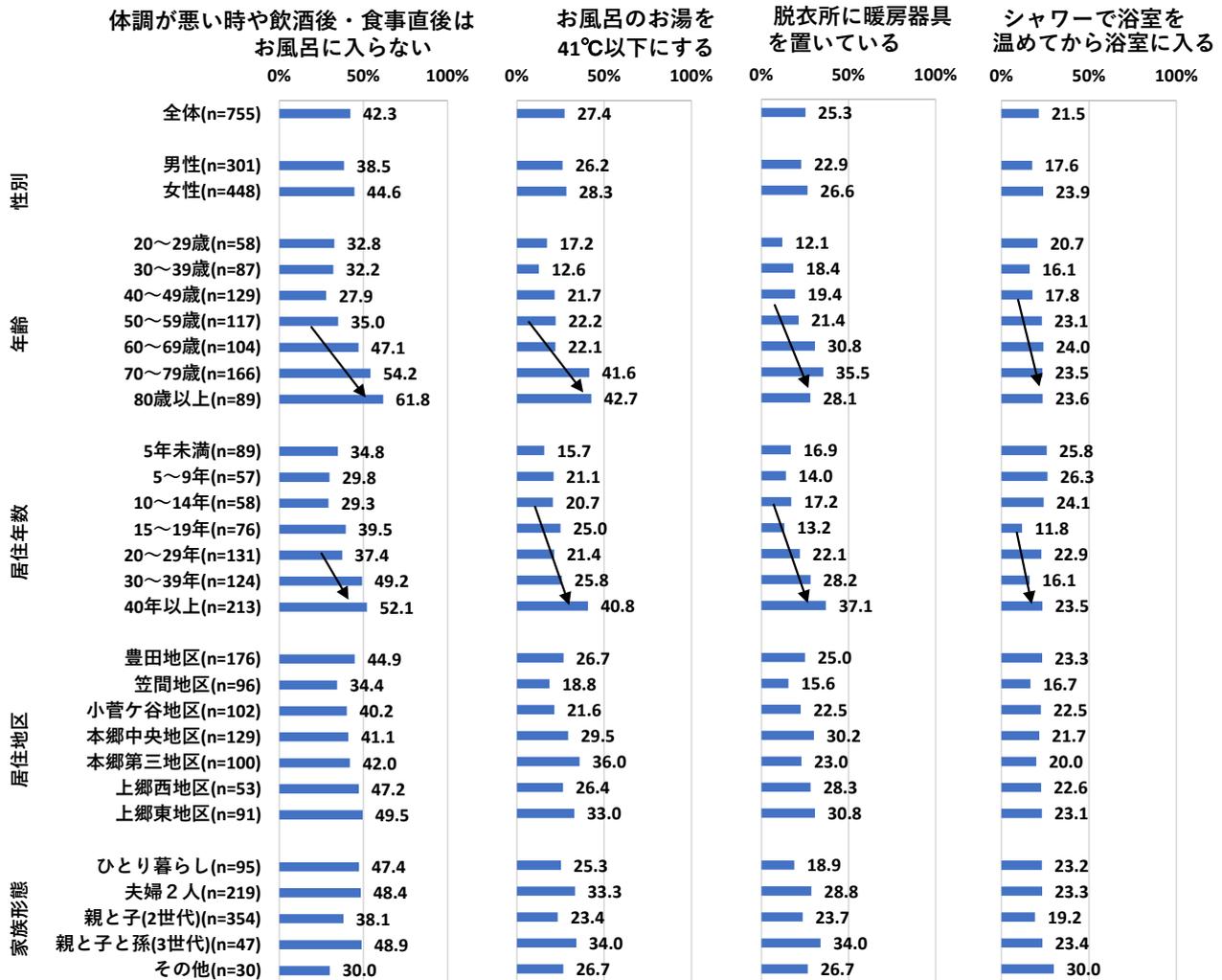
・どの項目も15年を過ぎると居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。
 ・「5年未満」「5～9年」では、「特にしていない」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ヒートショック」の対策をしている割合が他地区と比べて高い傾向が見られる。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

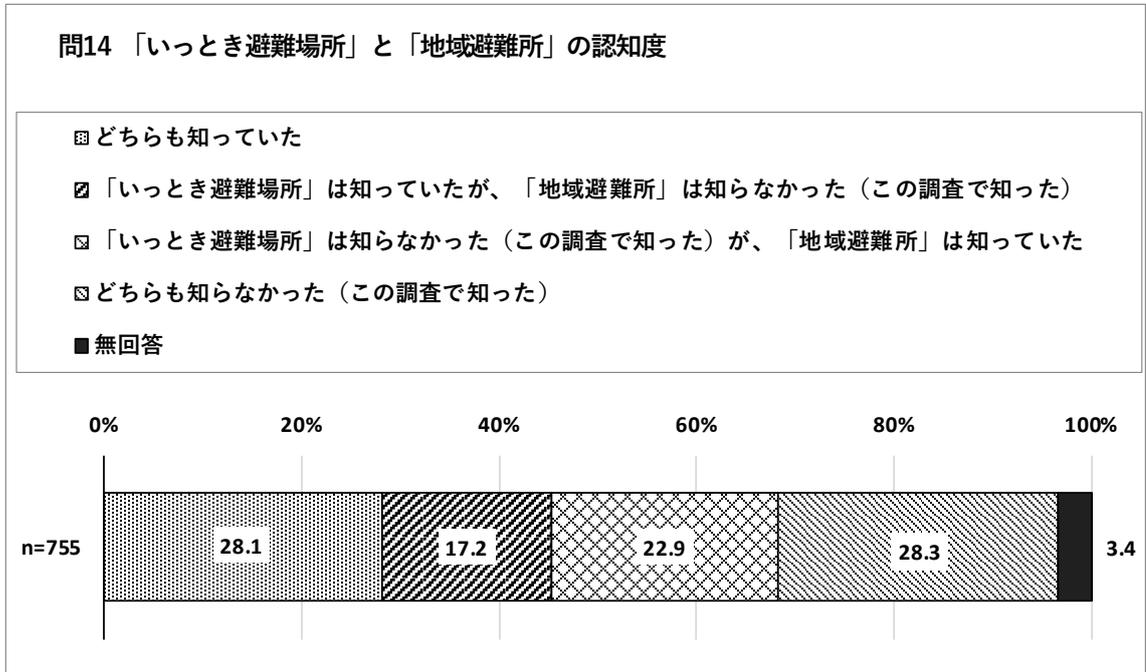


(14) いつとき避難場所と地域避難所の認知度 【新規】

【いつとき避難場所と地域避難所の認知度】

<全 体>

- ・ いつとき避難場所と地域避難所の認知度については、「どちらも知っていた」と「どちらも知らなかった（この調査で知った）」が 28.1%と 28.3%で拮抗している。また、「いつとき避難場所」のみ知っている方は 17.2%、「地域避難所」のみ知っている方は 22.9%と「地域避難所」の方が「いつとき避難場所」より 5.7 ポイント知っている方が多くなっている。



【いつとき避難場所と地域避難所の認知度： 属性別】

<性別>

・「どちらも知っていた」の割合は、「女性」より「男性」の方が3.1ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

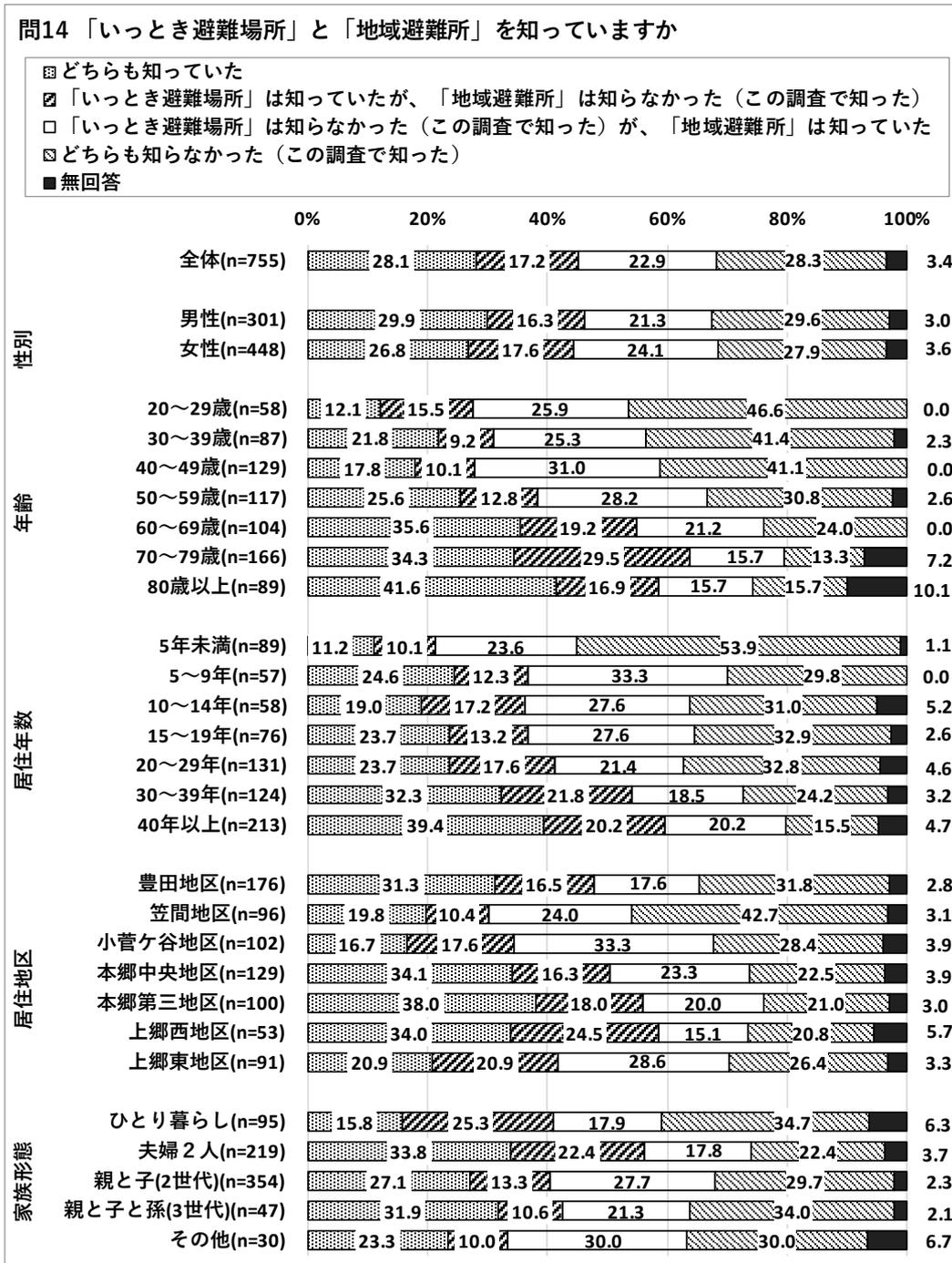
・「40年以上」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では「どちらも知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「どちらも知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



(15) 地域防災拠点の認知度

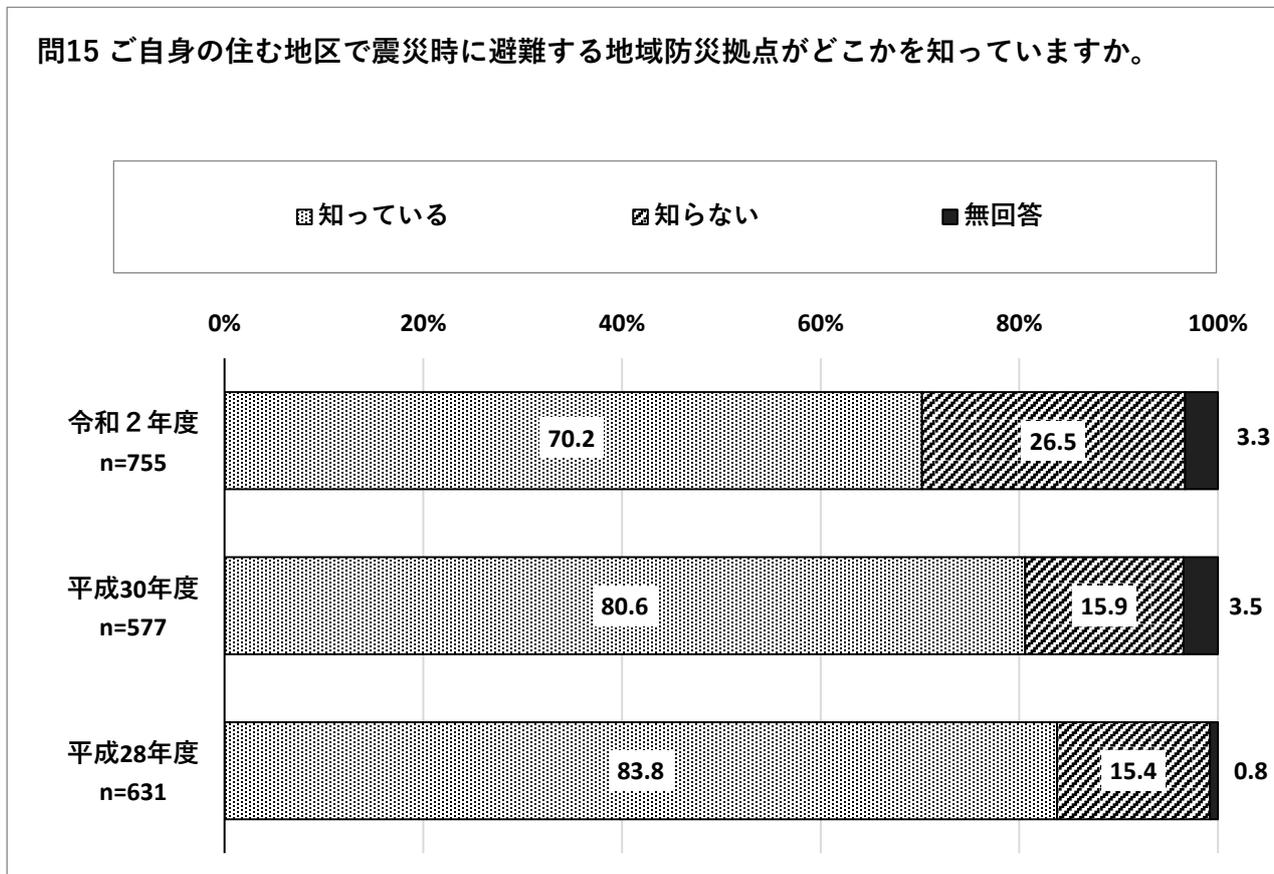
【地域防災拠点の認知度： 時系列】

<全 体>

- ・ 地区で震災時に避難する地域防災拠点を「知っている」方が70.2%と、「知らない」方を大きく上回っている。

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、「知っている」割合は減少傾向、「知らない」割合は増加傾向が見られる。



【地域防災拠点の認知度： 属性別】

<性別>

・「知っている」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では「知らない」の割合が全体より10ポイント以上高く、80歳以上を除き年齢が上がるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・「5年未満」では「知らない」の割合が全体より30ポイント以上高く、居住年数が長くなるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

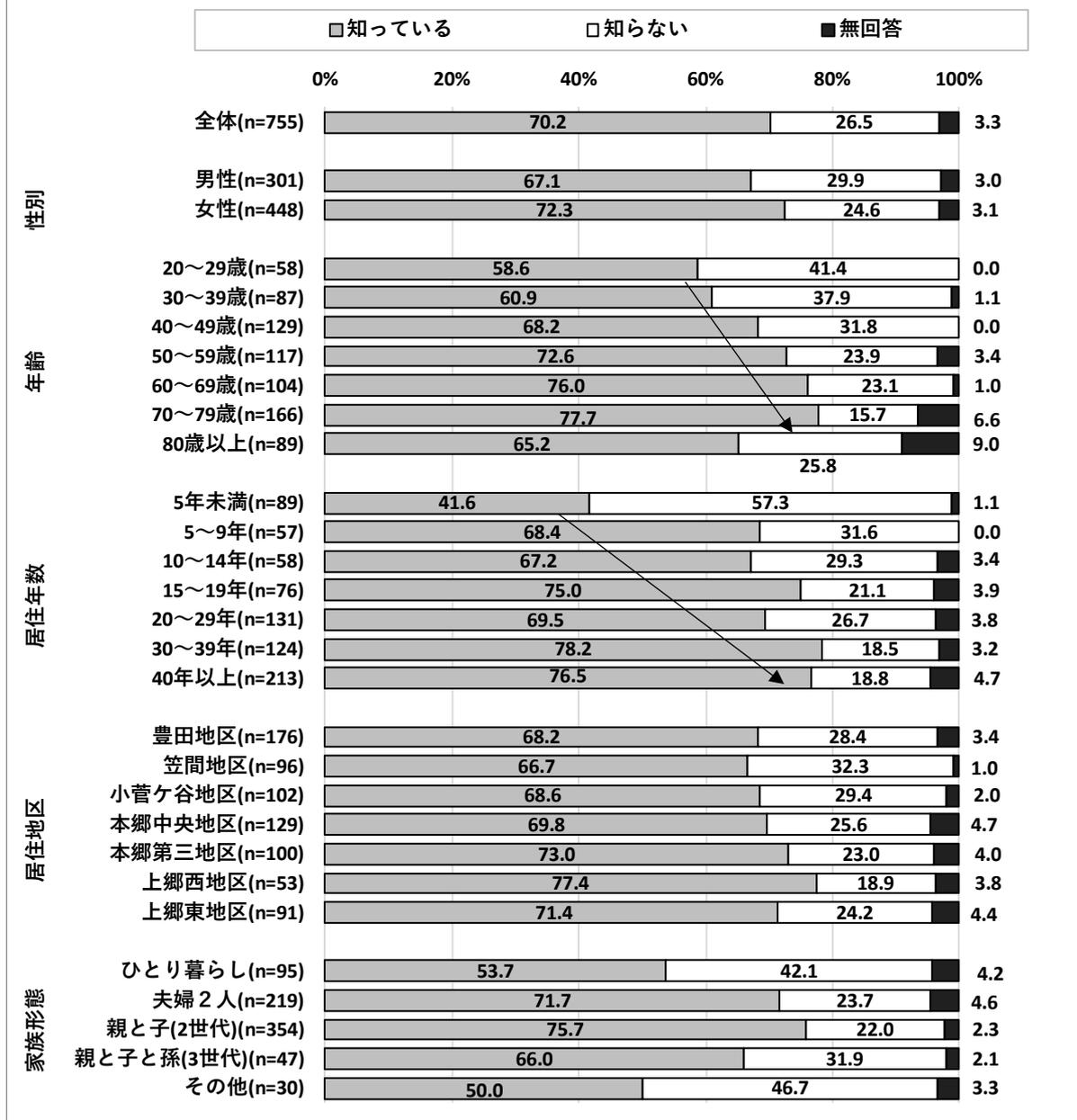
<居住地区別>

・「上郷西地区」では「知っている」が、「笠間地区」では「知らない」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では「知らない」の割合が全体より15ポイント以上高い。

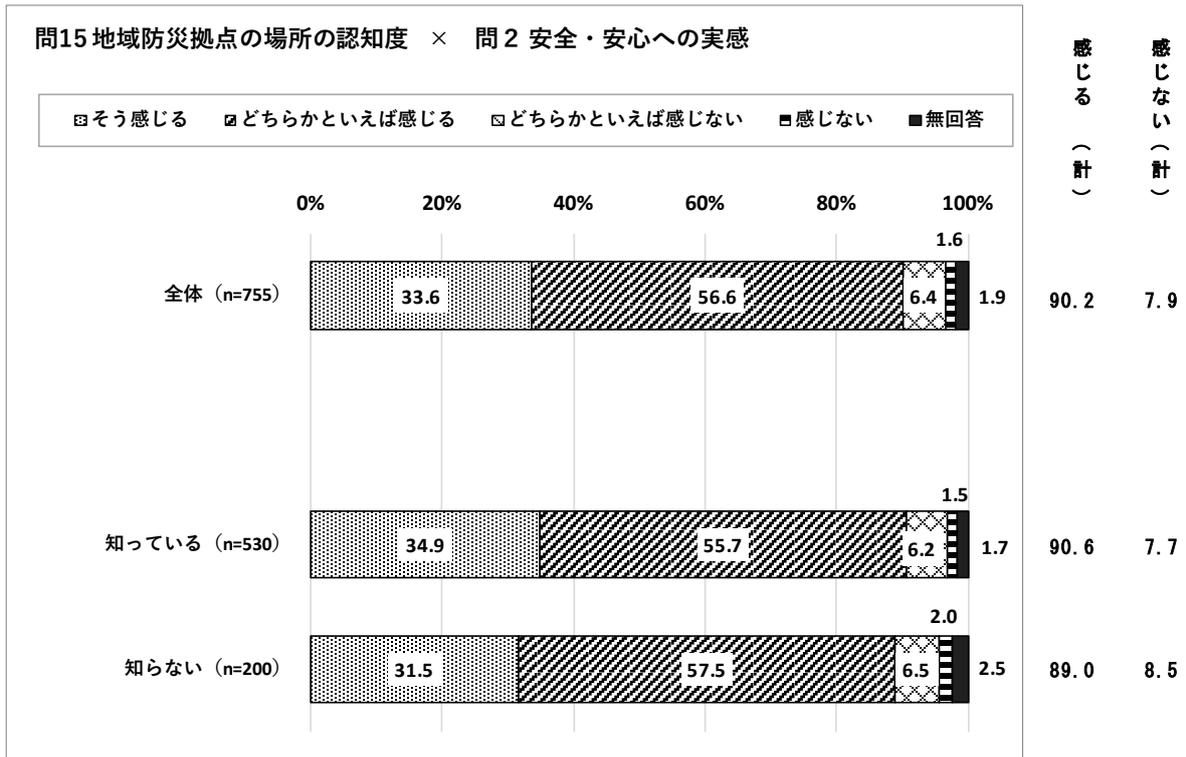
問15 ご自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点がどこかを知っていますか。



Ⅲ 集計分析結果 (15)地域防災拠点の認知度

【地域防災拠点の認知度：(2)安全・安心への実感との相関】

・統計的に有意な差はみられない。



(16) 地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合

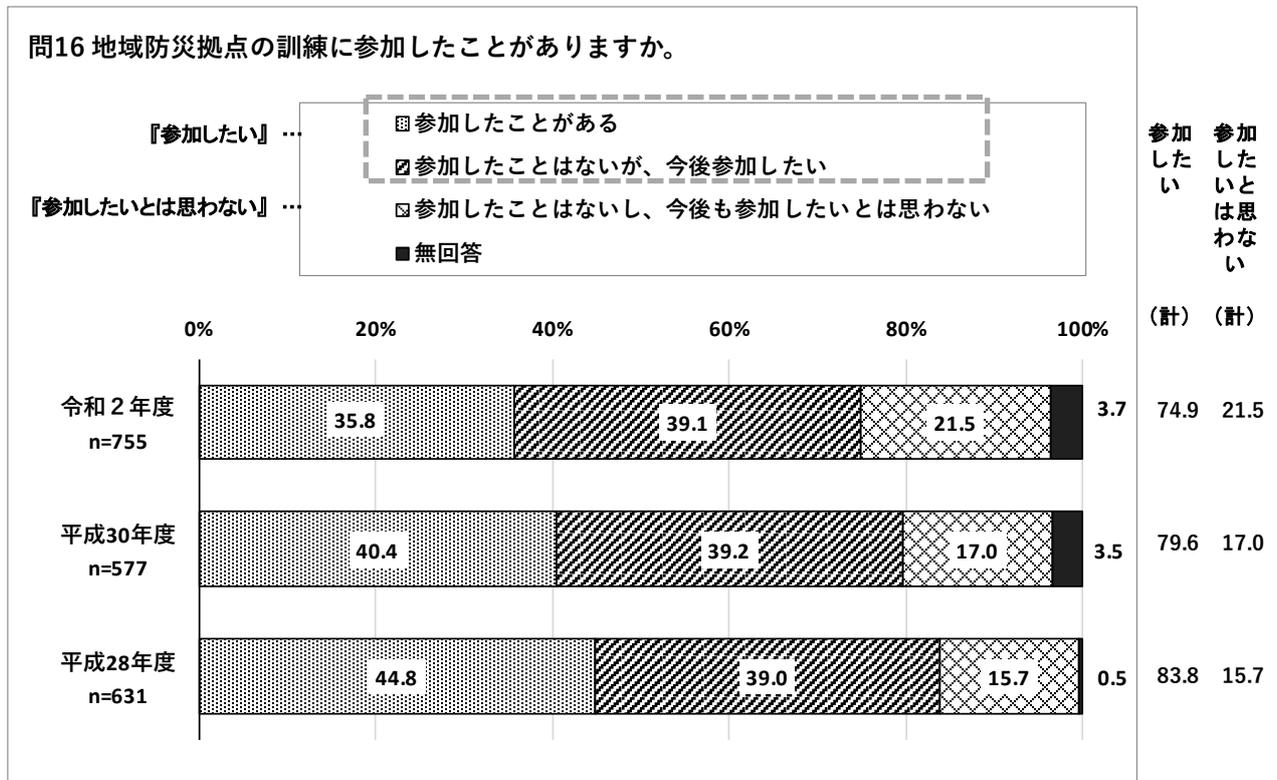
【地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合： 時系列】

＜全体＞

- ・「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた『参加したい』の割合は74.9%となっており、7割以上の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意図がある。

＜平成28年度調査・平成30年度調査と比較＞

- ・平成28年度調査・平成30年度調査と比較して、『参加したい』割合は減少傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果 (16)地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合

【地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合： 属性別】

<性別>

・「参加したことがある」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.8ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」を除いて、年齢が上がるほど「参加したことがある」の割合が高くなっている。

<居住年数別>

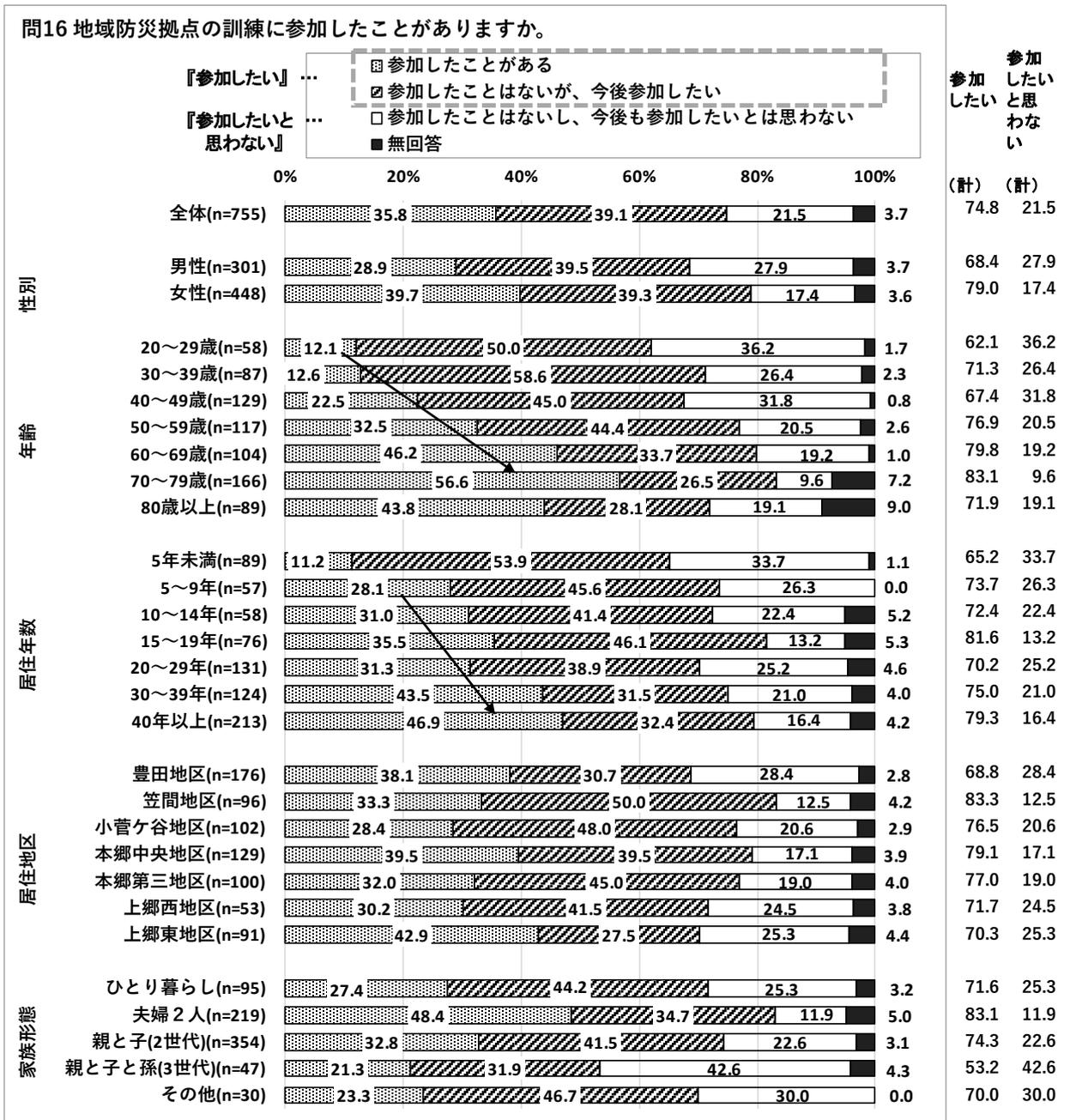
・居住年数が長くなるほど「参加したことがある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「参加したことがある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



(17) 震災等の災害に対する備え

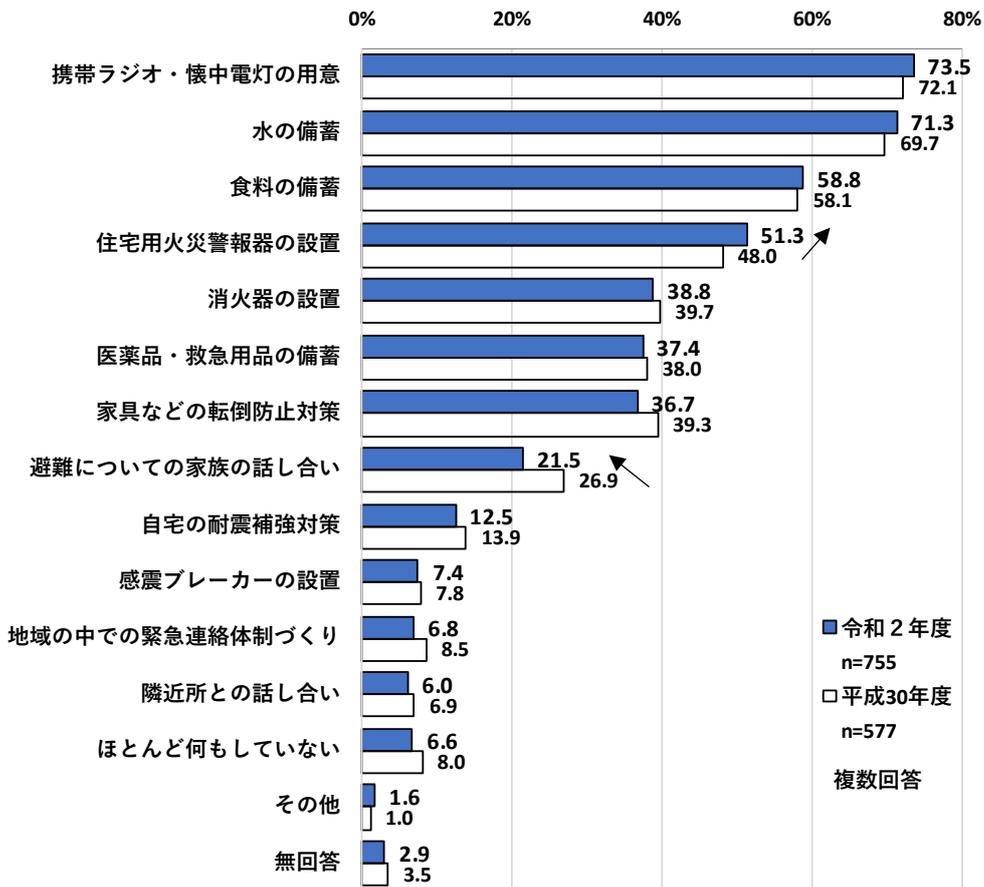
<全 体>

- ・ 区民が行っている震災等の災害に対する備えについては「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が73.5%で最も多く、次いで「水の備蓄」(71.3%)、「食料の備蓄」(58.8%)、「住宅用火災警報器の設置」(51.3%)の順になっている。一方、「ほとんど何もしていない」は6.6%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、特に「住宅用火災警報器の設置」が3.3%増加、「避難についての家族の話し合い」が5.4%減少している。

問17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか。



問17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか (その他記述)			
防災バッグ	4	テント、ポータブルトイレ、3源冷蔵庫	1
日々意識している	2	耐震に強い家	1
携帯トイレ、バッテリー、発電機	1	地域の中での緊急連絡体制づくりに力点	1
電池の買い置きストック	1		
			計 11件

Ⅲ 集計分析結果 (17) 震災等の災害に対する備え

【震災等の災害に対する備え： 属性別】上位4項目と「ほとんど何もしていない」

<性別>

- ・上位4項目では、「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」「住宅用火災警報器」では「男性」の方が、「水の備蓄」「食料の備蓄」では「女性」の割合が高い。

<年齢別>

- ・「80歳以上」では「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」、「20～29歳」「30～39歳」では「食料の備蓄」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

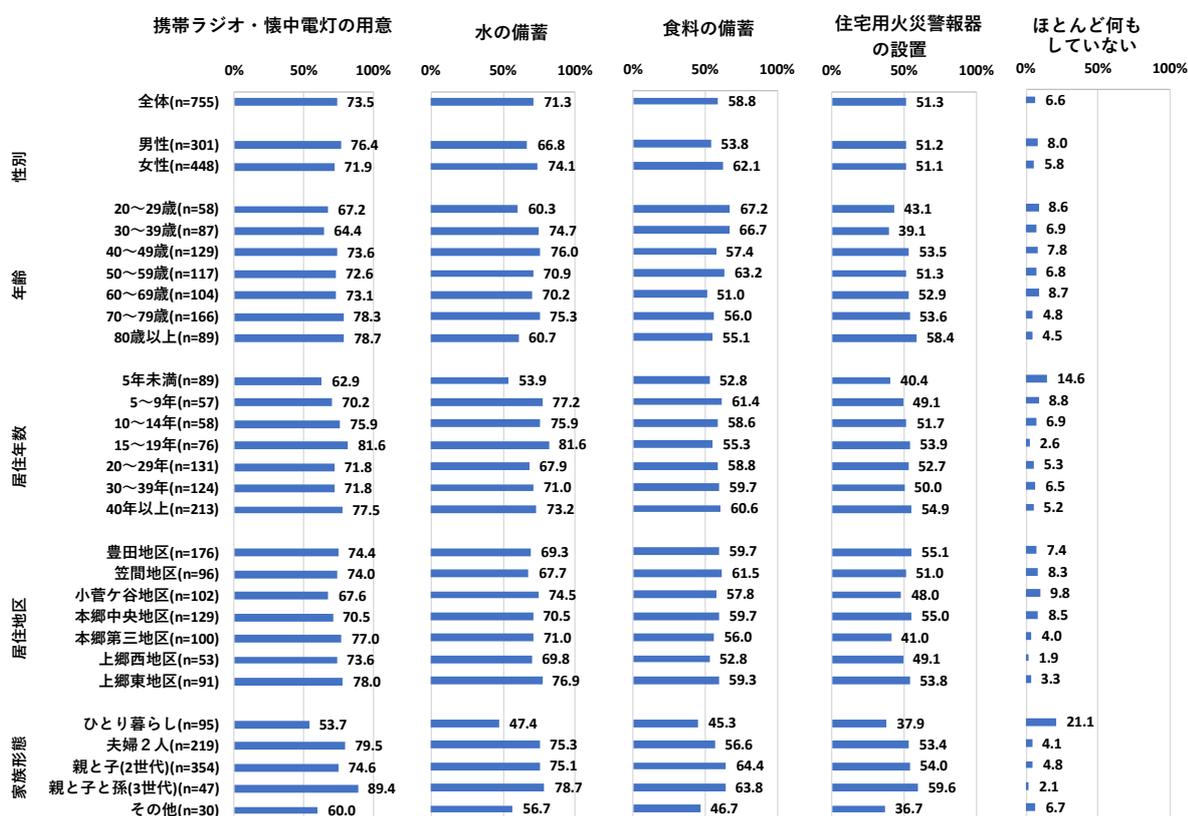
- ・「5年未満」では「水の備蓄」の割合が全体より15ポイント以上低く、「15～19年」では「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が5ポイント以上、「水の備蓄」が10ポイント以上全体より高い。

<居住地区別>

- ・「上郷東地区」では「水の備蓄」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

- ・「住宅用火災警報器の設置」は家族形態が広がるほど割合が高くなる傾向があり、「親と子と孫（3世代）」では、「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」の割合が全体より15ポイント以上高い。
- ・「ひとり暮らし」では、「ほとんど何もしていない」割合が高い。



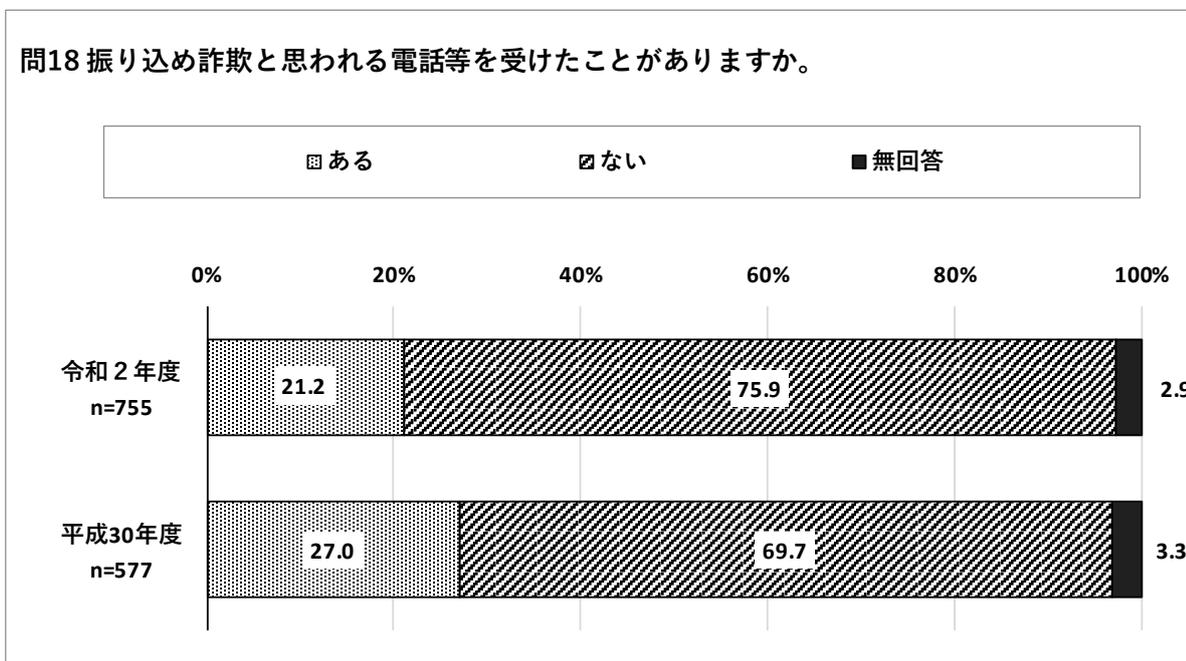
(18) 振り込め詐欺の受電経験の有無

<全 体>

- ・ 振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある区民は 21.2%になっている。

<平成 30 年度調査と比較>

- ・ 平成 30 年度調査と比較して、振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある方の割合は 5.8 ポイント減少している。



【振り込め詐欺の受電経験の有無： 属性別】

<性別>

・「ある」の割合は「男性」より「女性」の方が4.7ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」「80歳以上」では、「ある」の割合が全体より20ポイント以上高く、年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

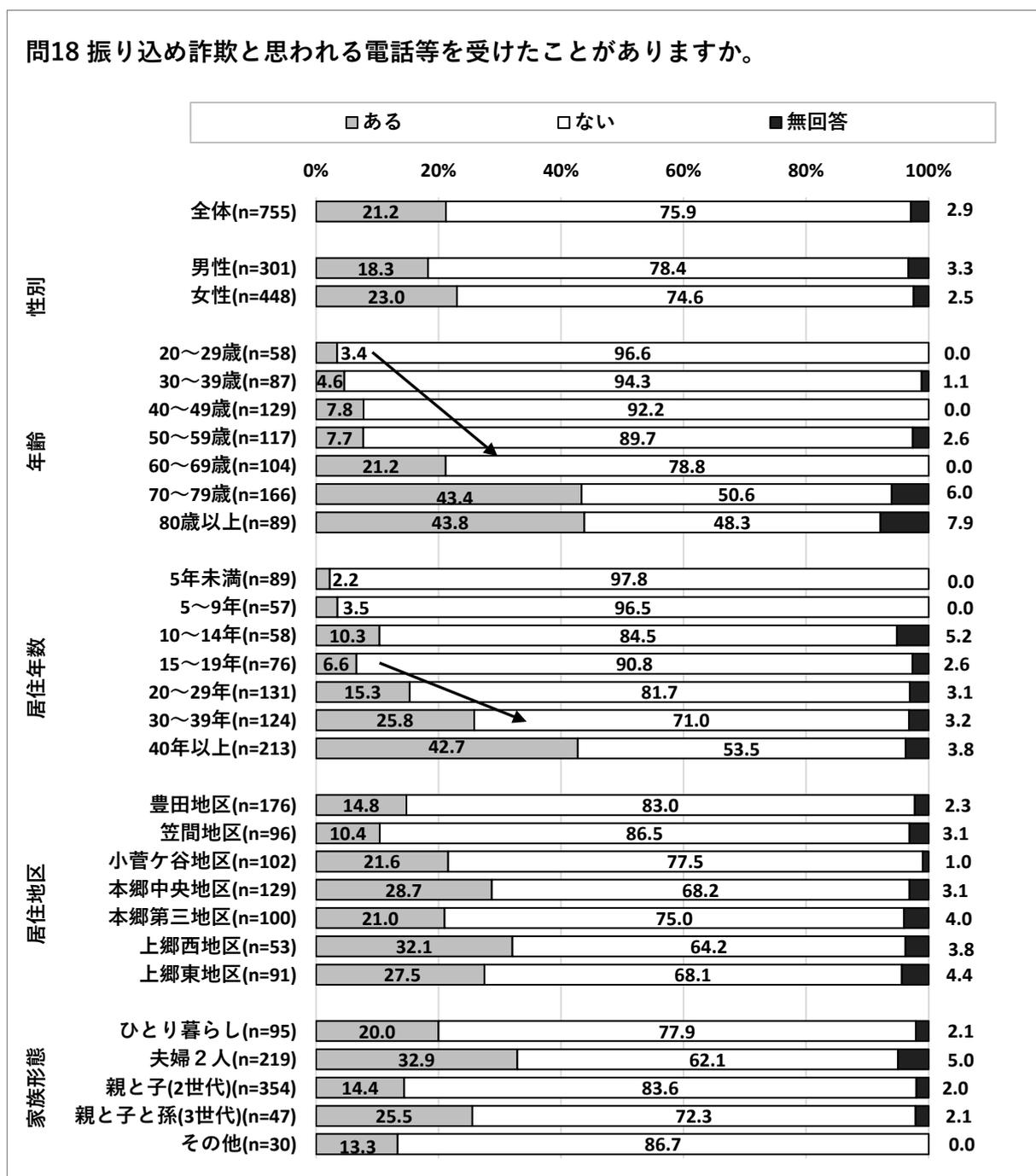
・居住年数が長くなるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。
 ・「本郷中央地区」「上郷東地区」では、「ある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

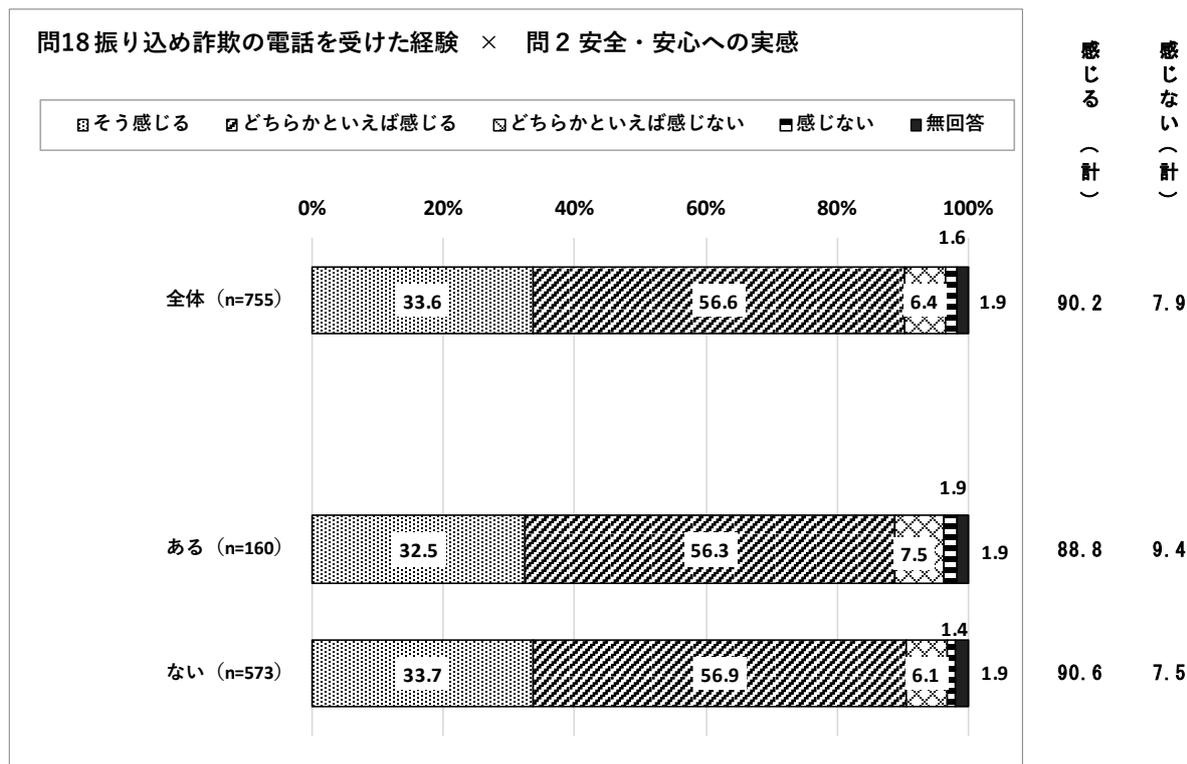
<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



【振り込め詐欺の受電経験の有無：(2)安全・安心への実感との相関】

・統計的に有意な差はみられない。



Ⅲ 集計分析結果 (19)知っている振り込め詐欺

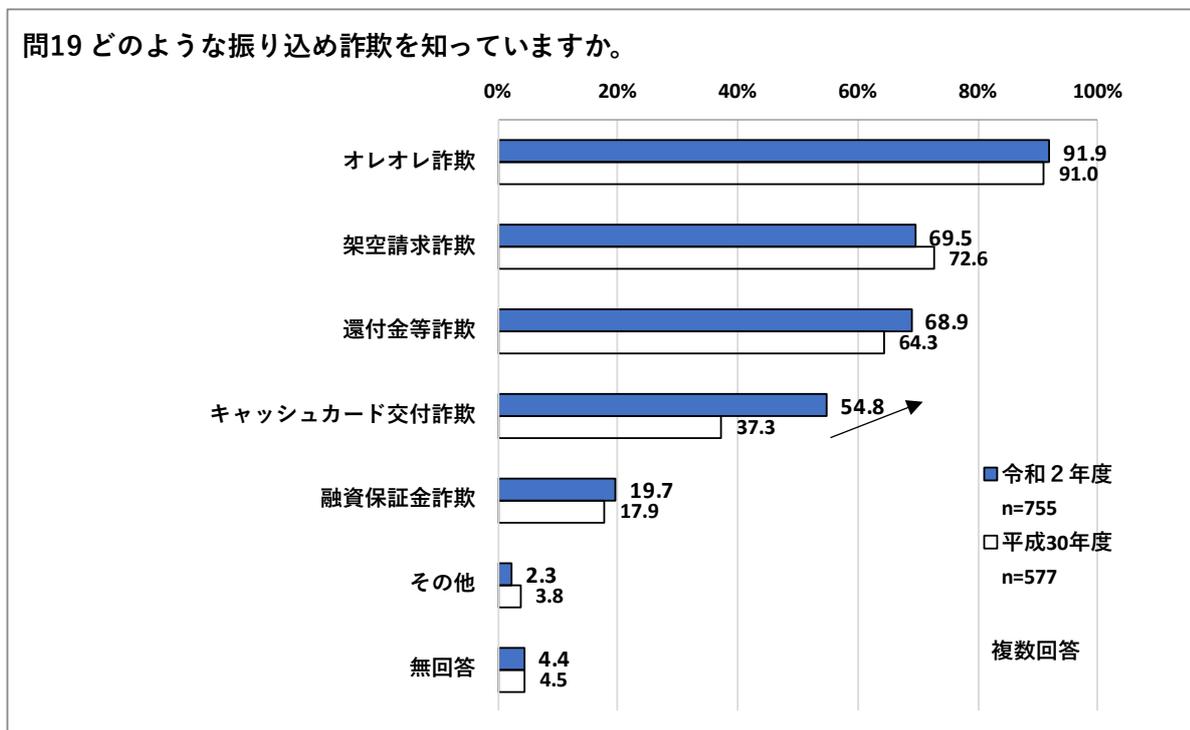
(19) 知っている振り込め詐欺

<全 体>

- ・ 知っている振り込め詐欺で最も多く挙げられたのは「オレオレ詐欺」が91.9%、次いで「架空請求詐欺」(69.5%)、「還付金等詐欺」(68.9%)の順となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・ 平成30年度調査と比較して、特に「キャッシュカード交付詐欺」が17.6ポイント増加している。



問19 どのような振り込め詐欺を知っていますか (その他記述)			
ガス点検	1	ワンクリック詐欺	1
キャッシュカード不正使用	1	未公開株購入勧誘詐欺	1
電話からの詐欺	1	警察官になりすまし詐欺	1
示談金の支払詐欺	1	不動産詐欺	1
母さん助けてサギ	1	その他	2
			計 11件

【知っている振り込め詐欺： 属性別】 上位4項目

<性別>

・「架空請求詐欺」では「男性」の方が高い。

<年齢別>

・いずれの項目でも「50～59歳」で認知度が最も高く、それをピークに年齢が上がるほど認知度は低くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

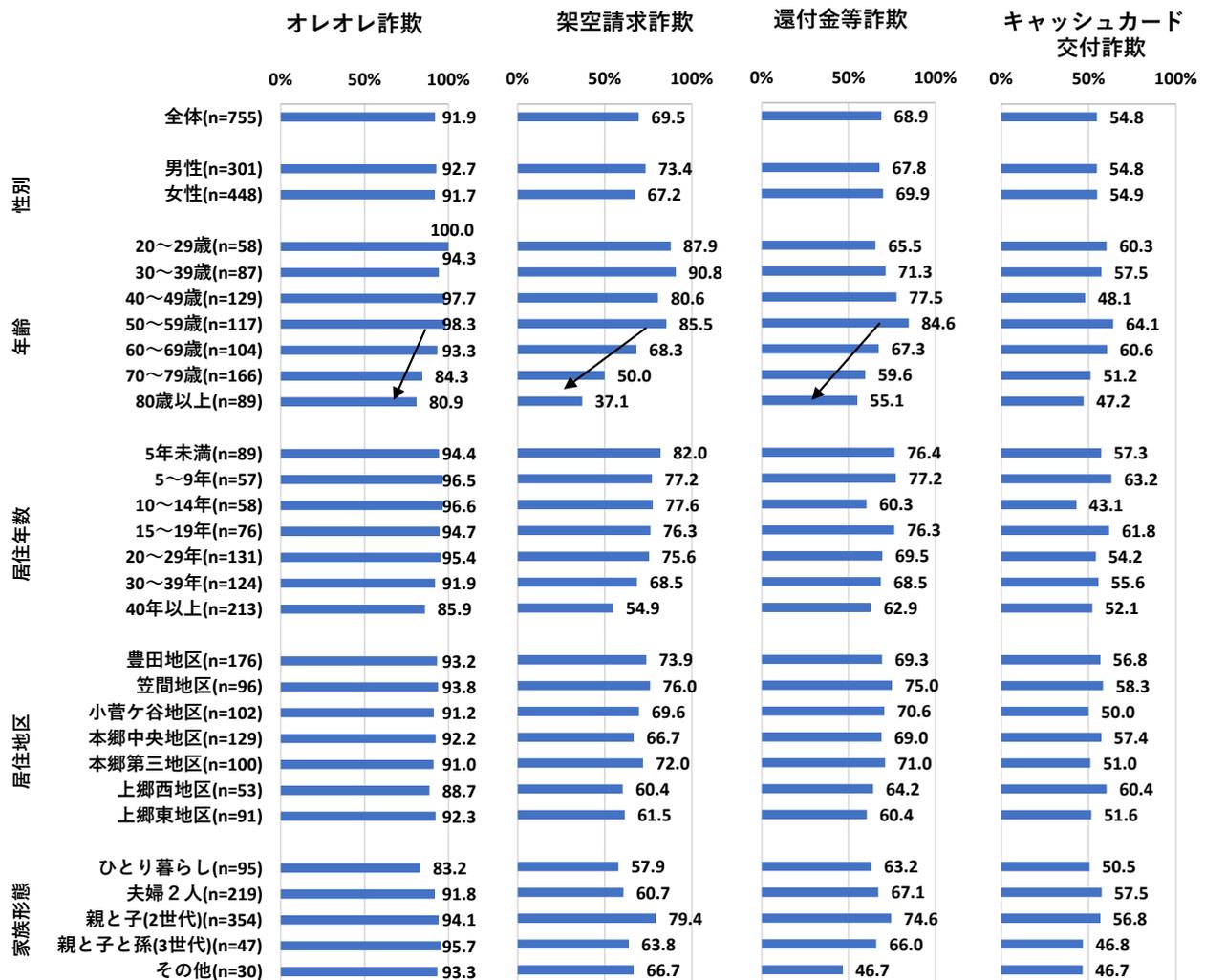
・「5年未満」では、「架空請求詐欺」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



Ⅲ 集計分析結果 (20)行っている振り込め詐欺対策

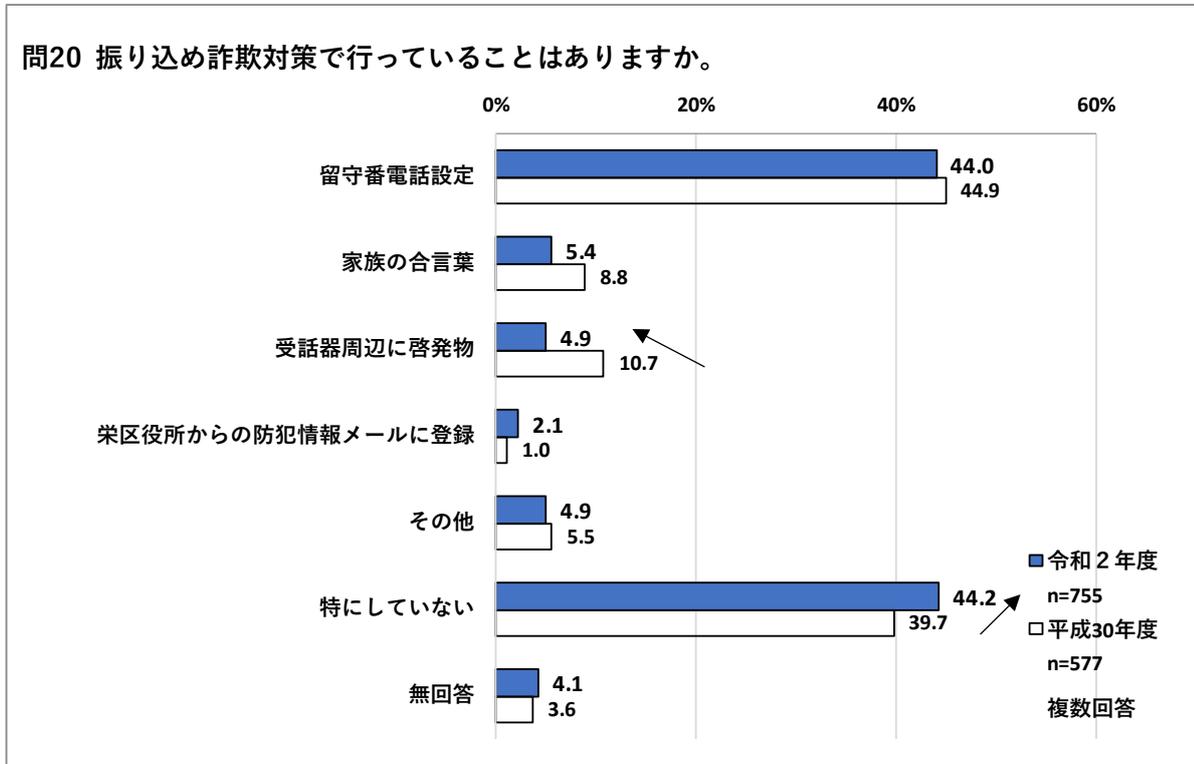
(20) 行っている振り込め詐欺対策

<全 体>

- ・行っている振り込め詐欺対策については、「留守番電話設定」が44.0%、次いで「家族の合言葉」(5.4%)、「受話器周辺に啓発物」(4.9%)の順となっている一方、「特にしていない」が44.2%となっている。

<平成30年度調査と比較>

- ・平成30年度調査と比較して、特に「受話器周辺に啓発物」が5.8ポイント減少している。一方、「特にしていない」は4.5ポイント増加している。



問20 振り込め詐欺対策で行っていること (その他記述)			
ナンバーディスプレイで知らない電話に出ない			15
非通知電話拒否	4	固定電話撤去	2
家族での話し合い	2	固定電話を設置しない	2
通話の録音	2	情報収集(TV等)	1
頭で考えているだけ	1	電話に出ない	1
隣近所への通知	1	録音装置	1
話の内容で判断	1	その他	1
カードを持たないお金も持たない(家族管理)			1
			計 35件

【行っている振り込め詐欺対策： 属性別】

<性別>

- ・「特にしていない」を除き、全ての項目で「男性」より「女性」の割合が高い。「特にしていない」では、「女性」より「男性」の割合が5.3ポイント高い。

<年齢別>

- ・全体的に年齢が高いほど振り込め詐欺対策を行っている割合が高くなる傾向があり、年齢が低いほど「特にしていない」割合が高くなる傾向がみられる。
- ・「70～79歳」では、「留守番電話設定」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

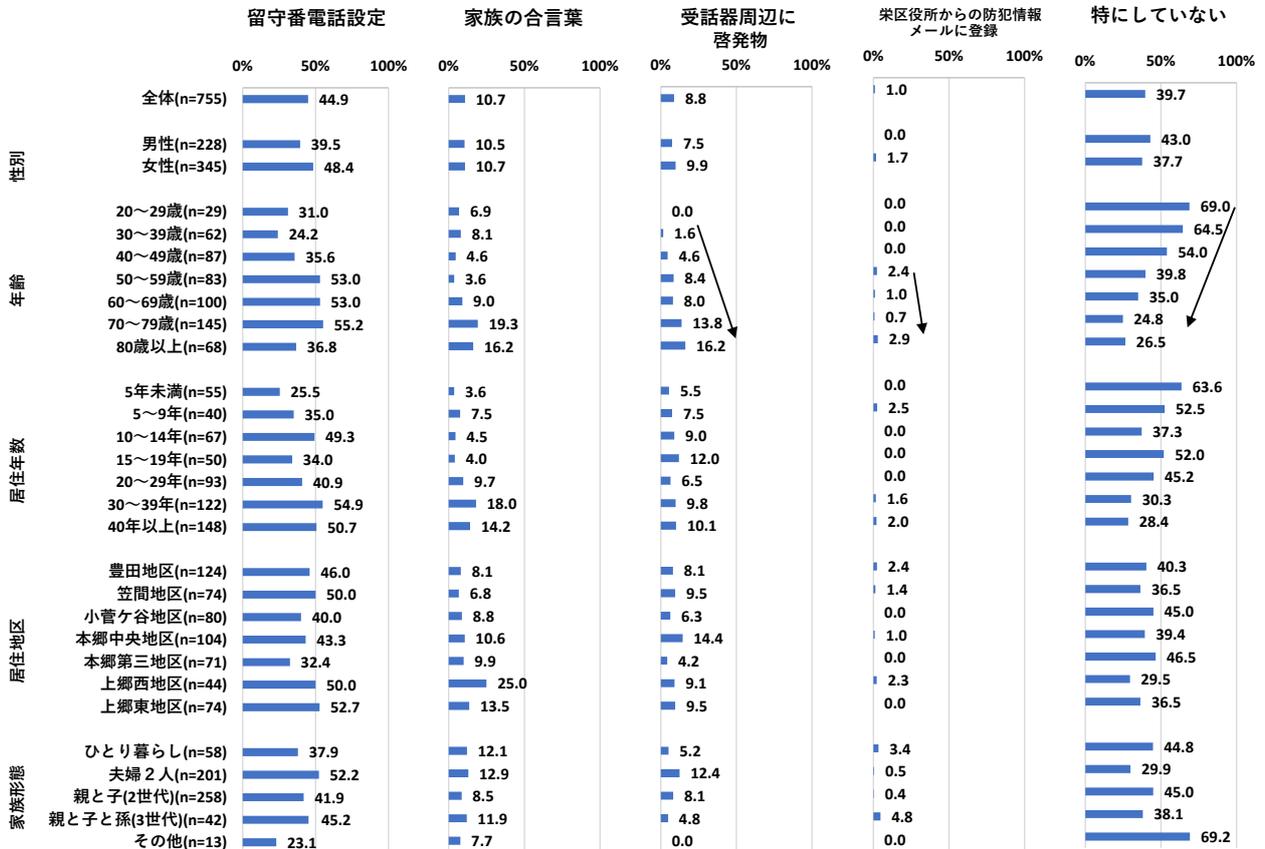
- ・「30～39年」では、「留守番電話設定」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

- ・「笠間地区」「上郷西地区」「上郷東地区」では、「留守番電話設定」が全体より5ポイント以上高い。
- ・「上郷西地区」では、「家族の合言葉」が全体より10ポイント以上高い。
- ・「本郷中央地区」では、「受話器周辺に啓発物」が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

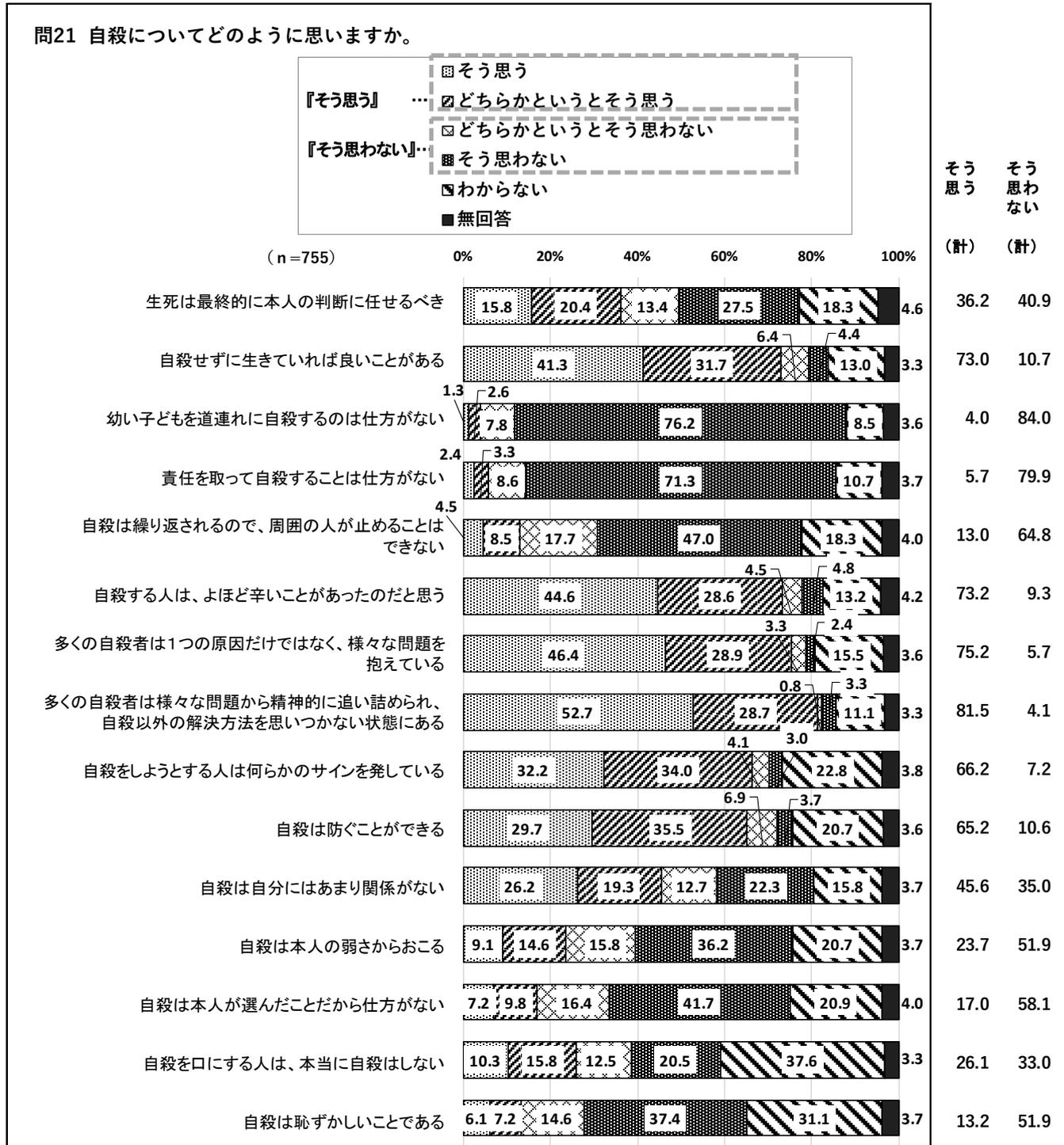
- ・「夫婦2人」では、「留守番電話設定」が全体より5ポイント以上高い。
- ・「ひとり暮らし」「親と子(2世代)」では、「特にしていない」が全体より5ポイント以上高い。



(21) 自殺についての考え方

<全 体>

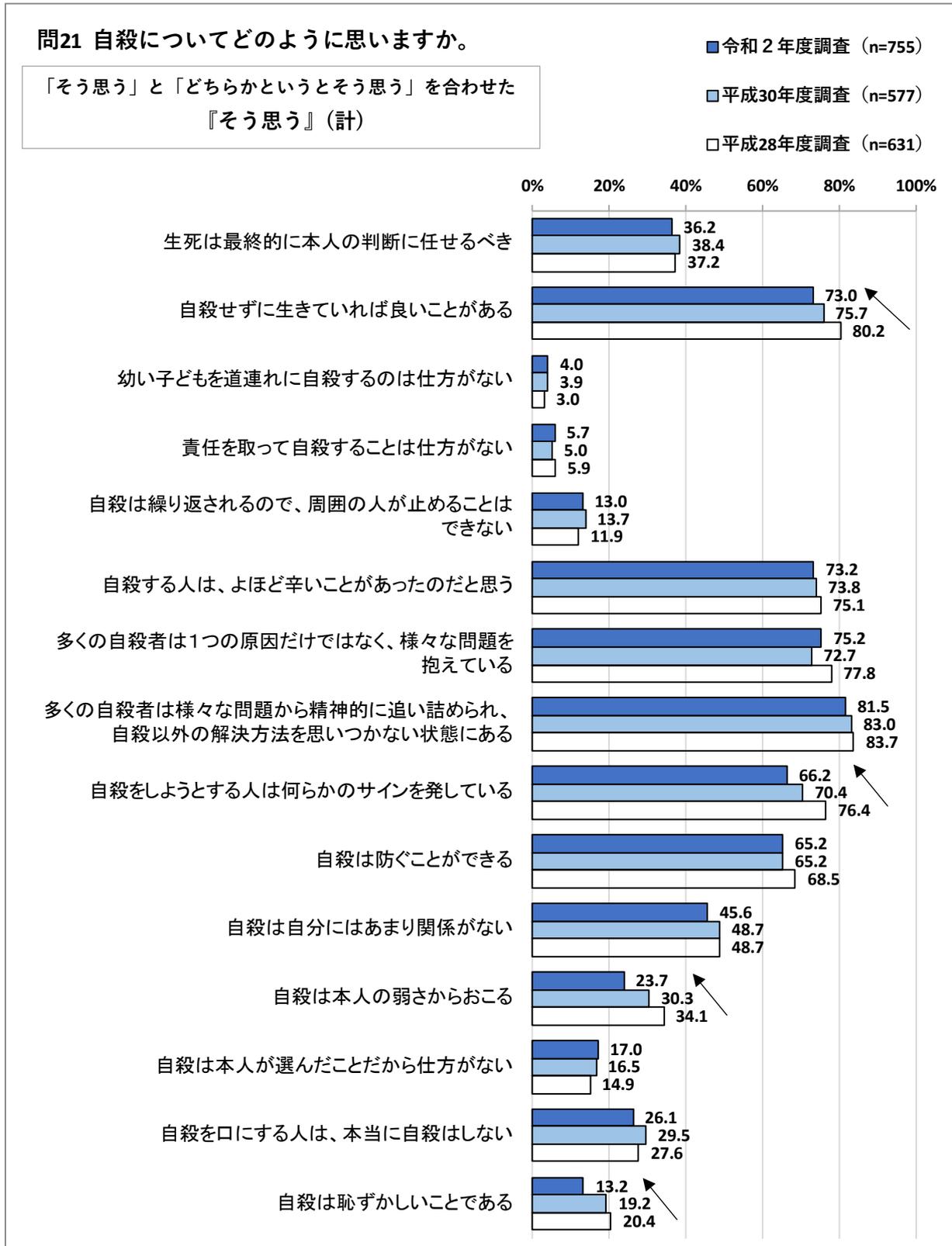
- ・ 「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」は「**『そう思う』**」と「**『どちらかというと思う』**」を合わせた『**『そう思う』**』方が8割以上、「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」「**『責任を取って自殺することは仕方がない』**」は「**『そう思わない』**」と「**『どちらかというと思わない』**」を合わせた『**『そう思わない』**』方が約8割と高い割合になっている。



【自殺についての考え方： 時系列】

<平成28年度調査・平成30年度調査と比較>

- ・平成28年度調査・平成30年度調査と比べると、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』の割合で比較すると、意識にあまり差はないが、特に「自殺せずに生きていれば良いことがある」「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」「自殺は本人の弱さからおこる」「自殺は恥ずかしいことである」で、『そう思う』割合が減少している。



【自殺についての考え方： 属性別】

「そう思う」「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思う』
 「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較

1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

<性別>

・「女性」より「男性」の方が『そう思う』で7.0ポイント高く、『そう思わない』で0.1ポイント高い。「女性」の2割が「わからない」と回答し、「男性」より5.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

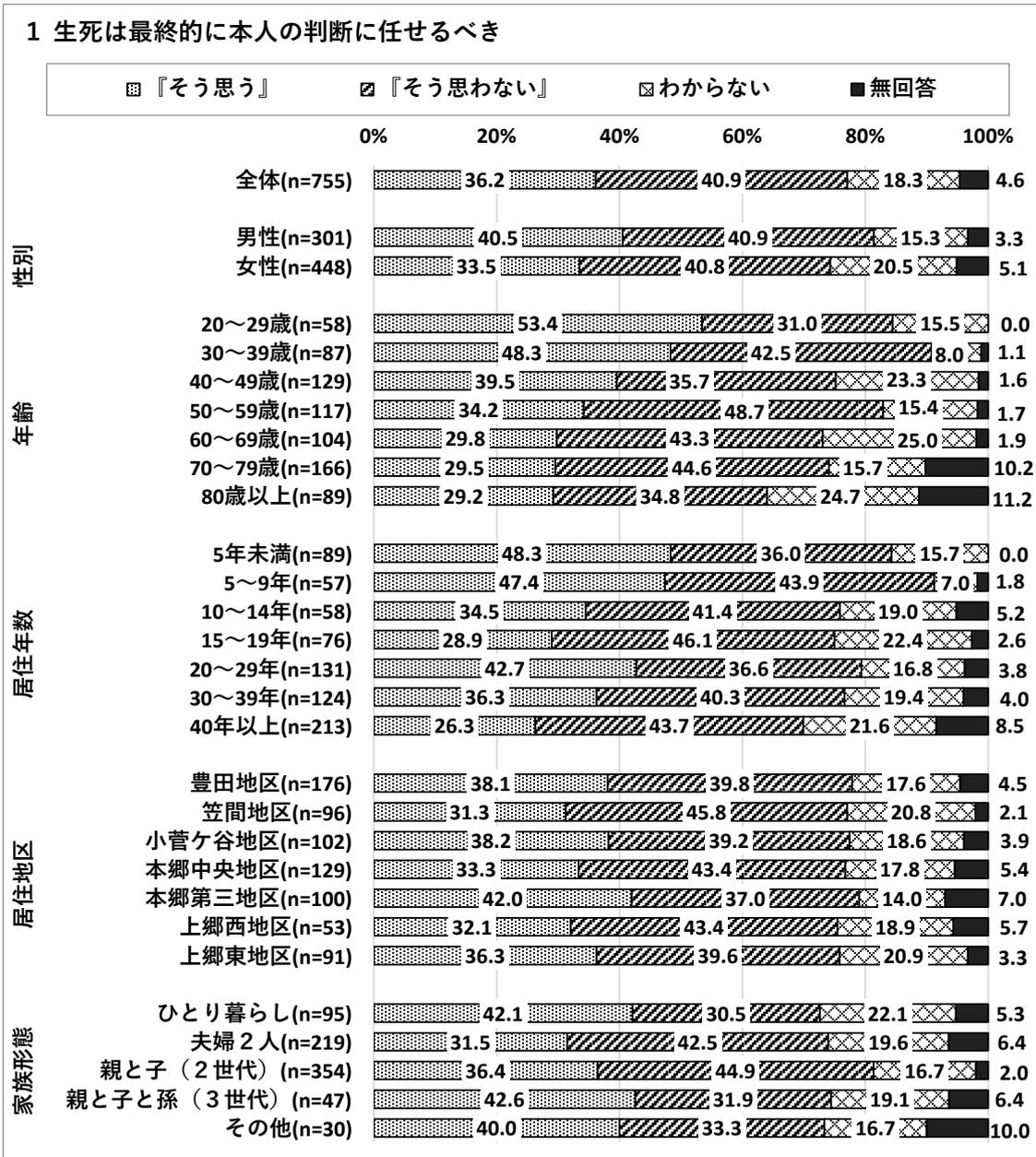
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



2 自殺せずに生きていれば良いことがある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で0.6ポイント高いがほぼ差は見られない。

<年齢別>

・年齢が上がるほど『そう思わない』の割合が低くなる傾向が見られる。「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い

<居住年数別>

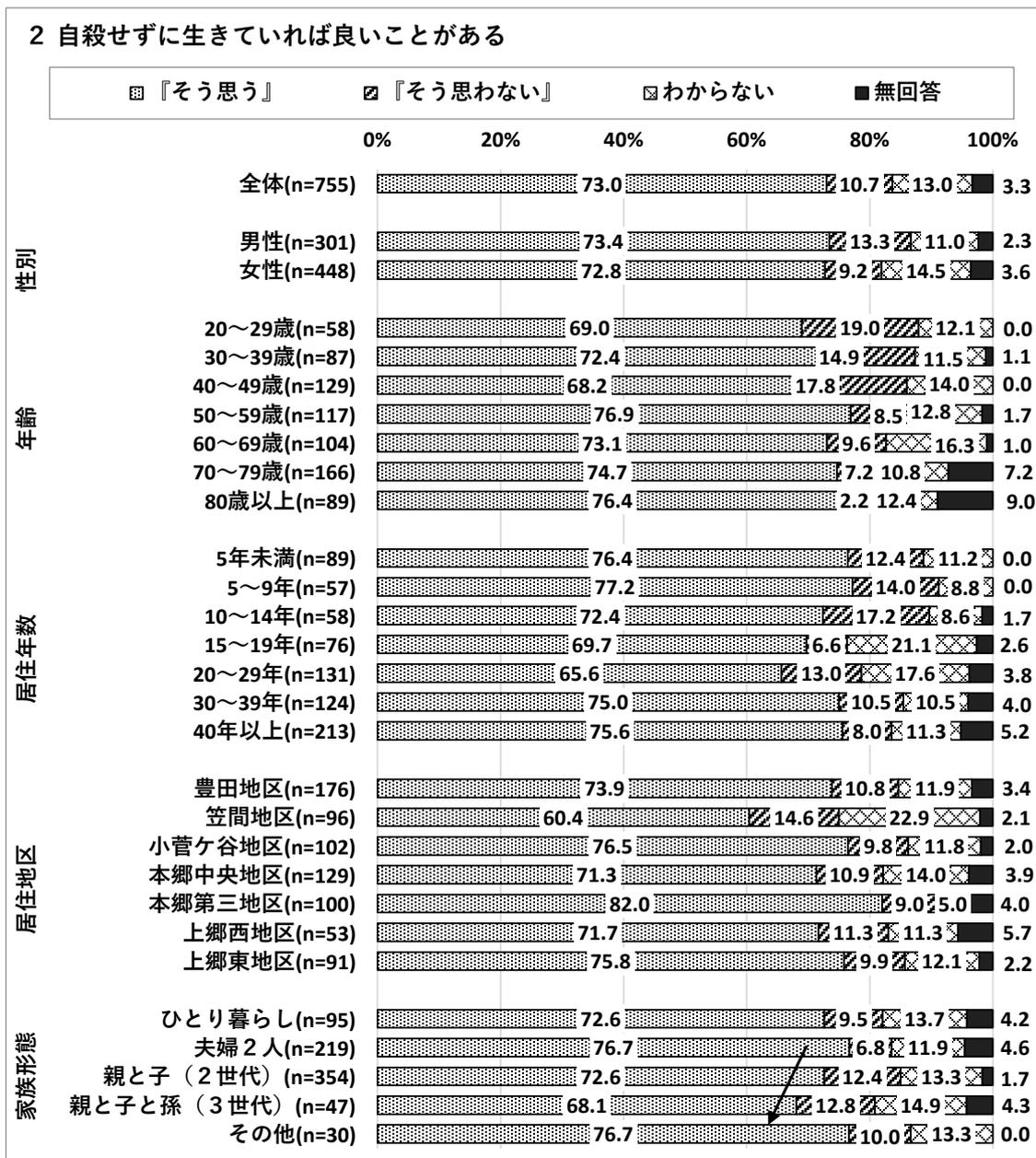
・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」を除くと、家族形態が広がるほど『そう思う』の割合は低くなる傾向が見られる。



3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思わない』が4.6ポイント高いが男女共に8割以上の区民が「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント程度高い。

<居住年数別>

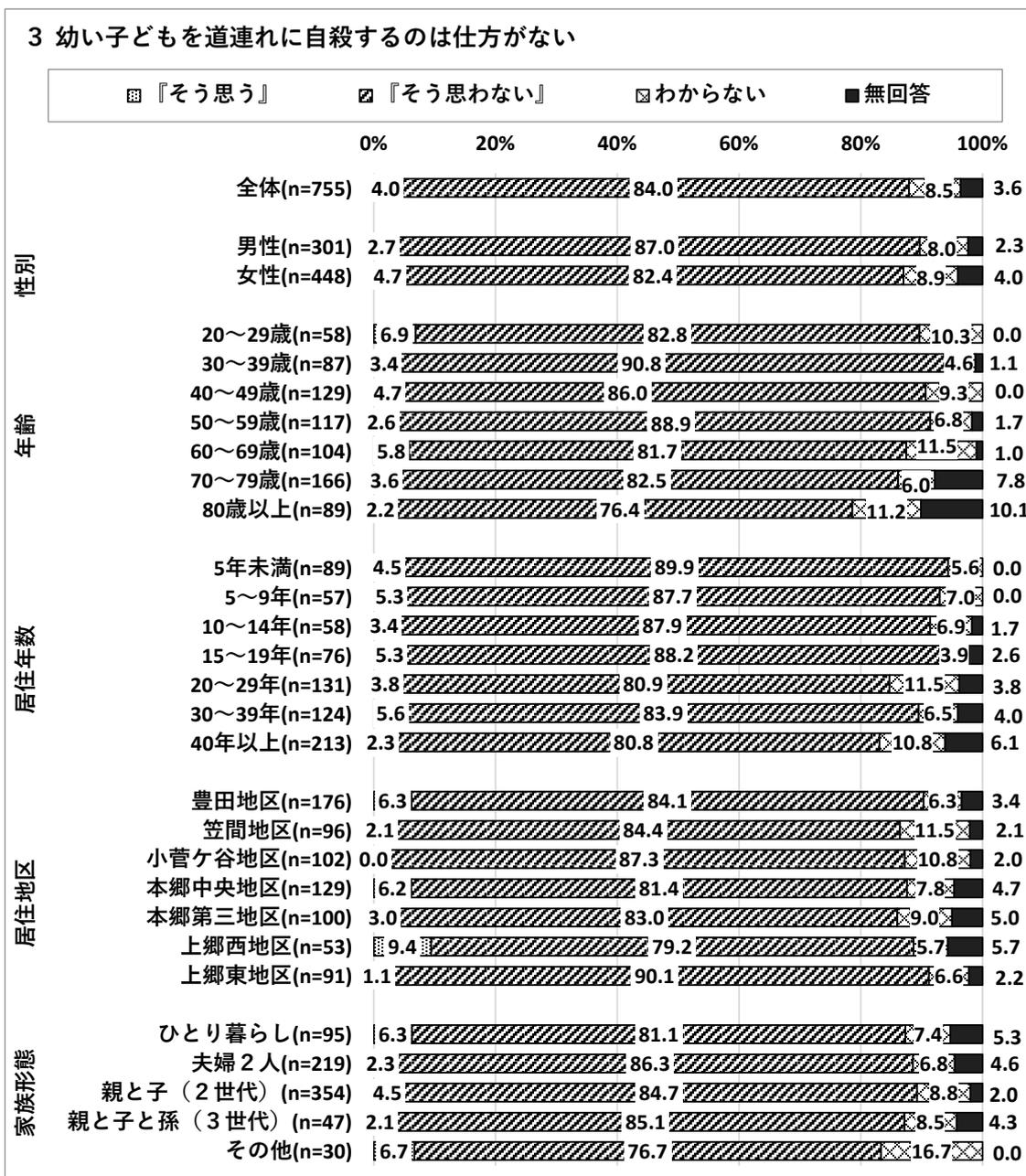
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思わない』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態には、大きな差はみられない。



4 責任を取って自殺することは仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が2.3ポイント高いが男女共に約8割の区民が「責任を取って自殺をすることは仕方がない」とは思ってはいない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が93.1%と全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

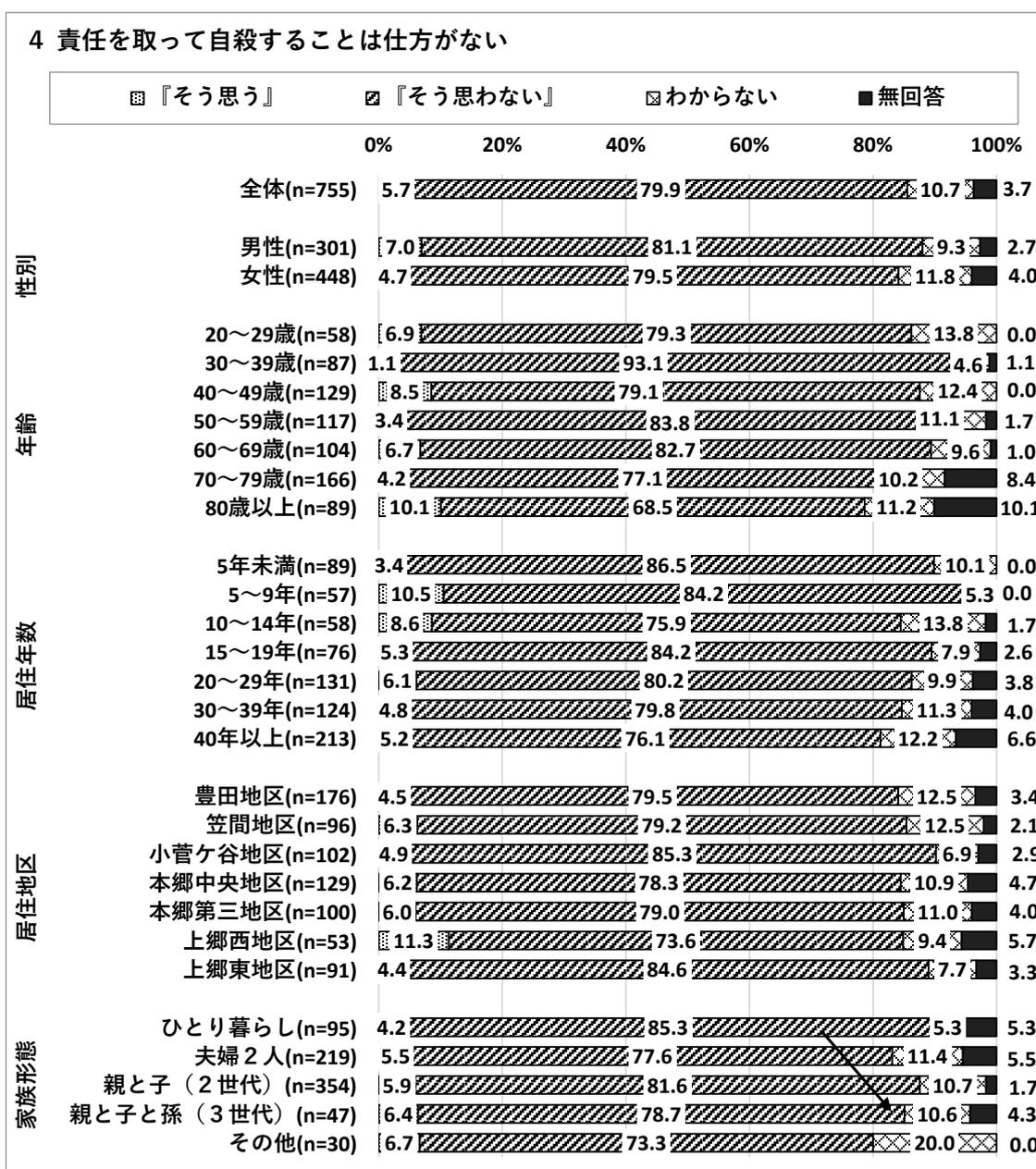
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では『そう思う』の割合が、「小菅ヶ谷地区」では『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高いが、「ひとり暮らし」以外では、家族形態が広がるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が3.6ポイント高いが男女共に6割以上の区民が「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

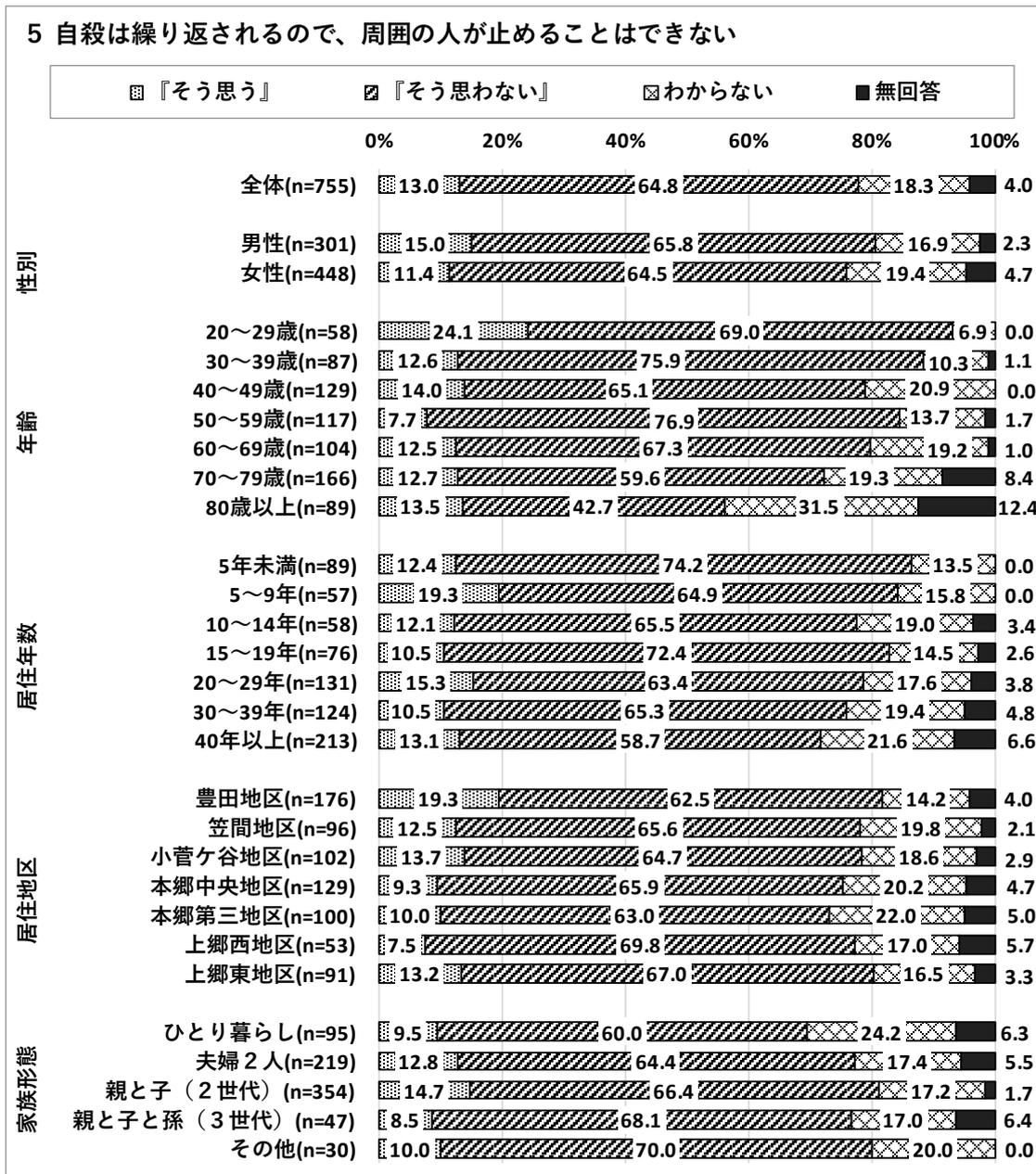
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「15～19年」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

<性別>

・「女性」より「男性」よりの方が、『そう思う』の割合が3.5ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「自殺をする人はよほど辛いことがあったのだと思う」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」「60～69歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

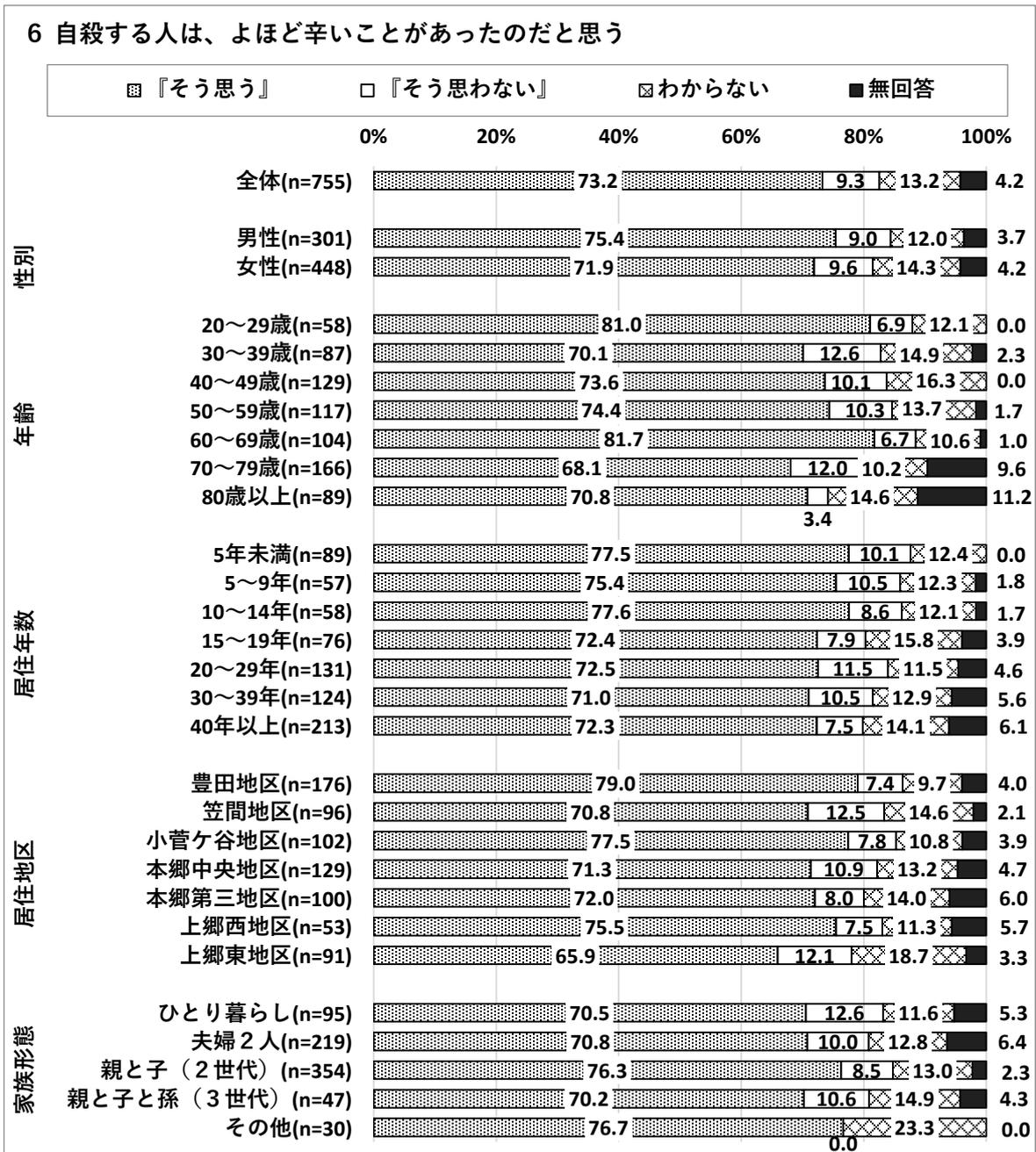
・居住年数別では、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「豊田地区」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.8ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど低くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、全体の10ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

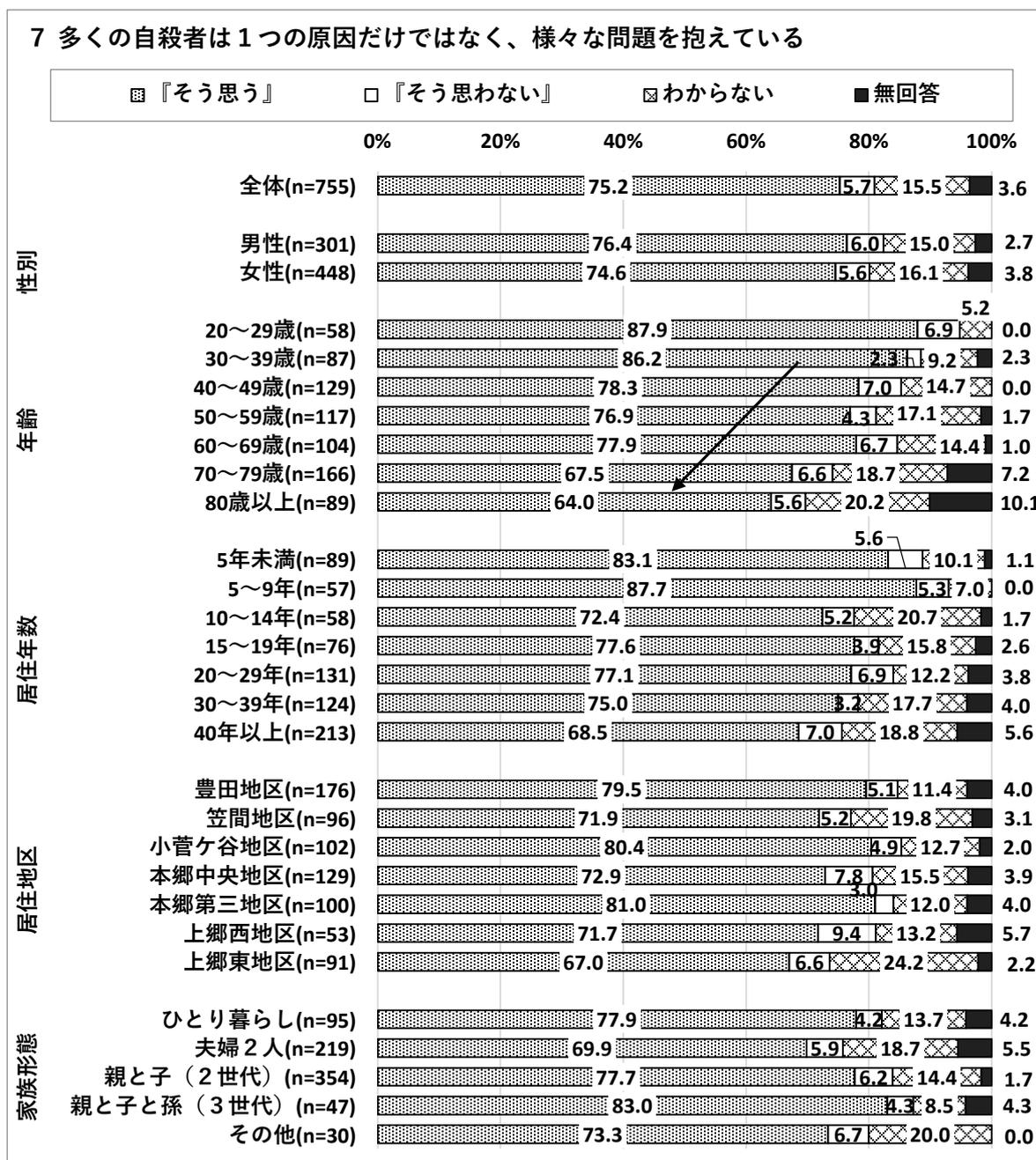
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「本郷第三地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.4ポイント高いが、男女共に8割以上の区民が「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と感じている。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、年齢があがるほど低くなる。

<居住年数別>

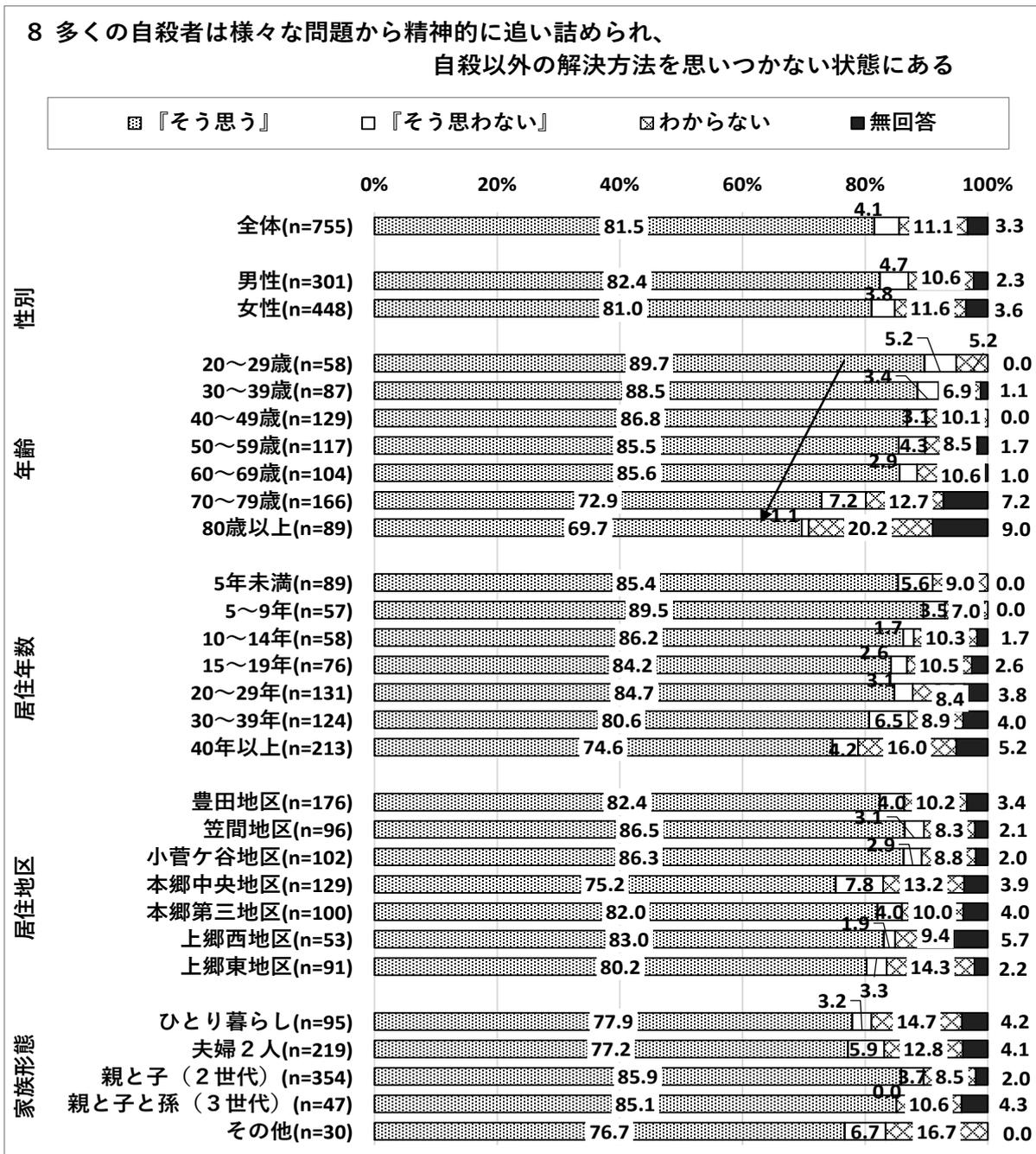
・「5～9年」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、1.9ポイント高いが、男女共に6割以上の区民が「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」と感じている。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

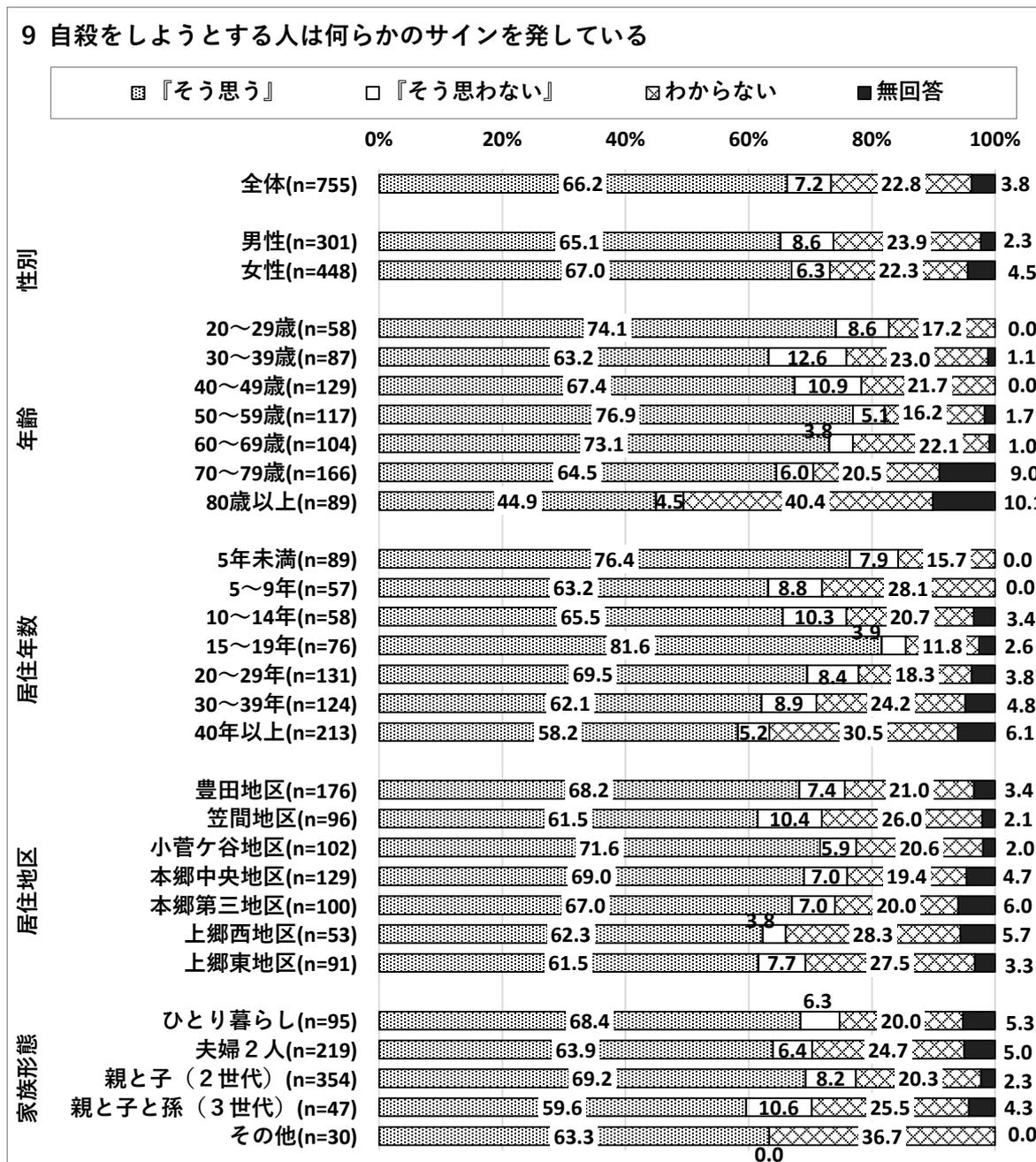
・「5年未満」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



10 自殺は防ぐことができる

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思わない』が2.4ポイント高いが、男女共に6割以上の区民が「自殺は防ぐことができる」と感じている。

<年齢別>

・「60～69歳」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

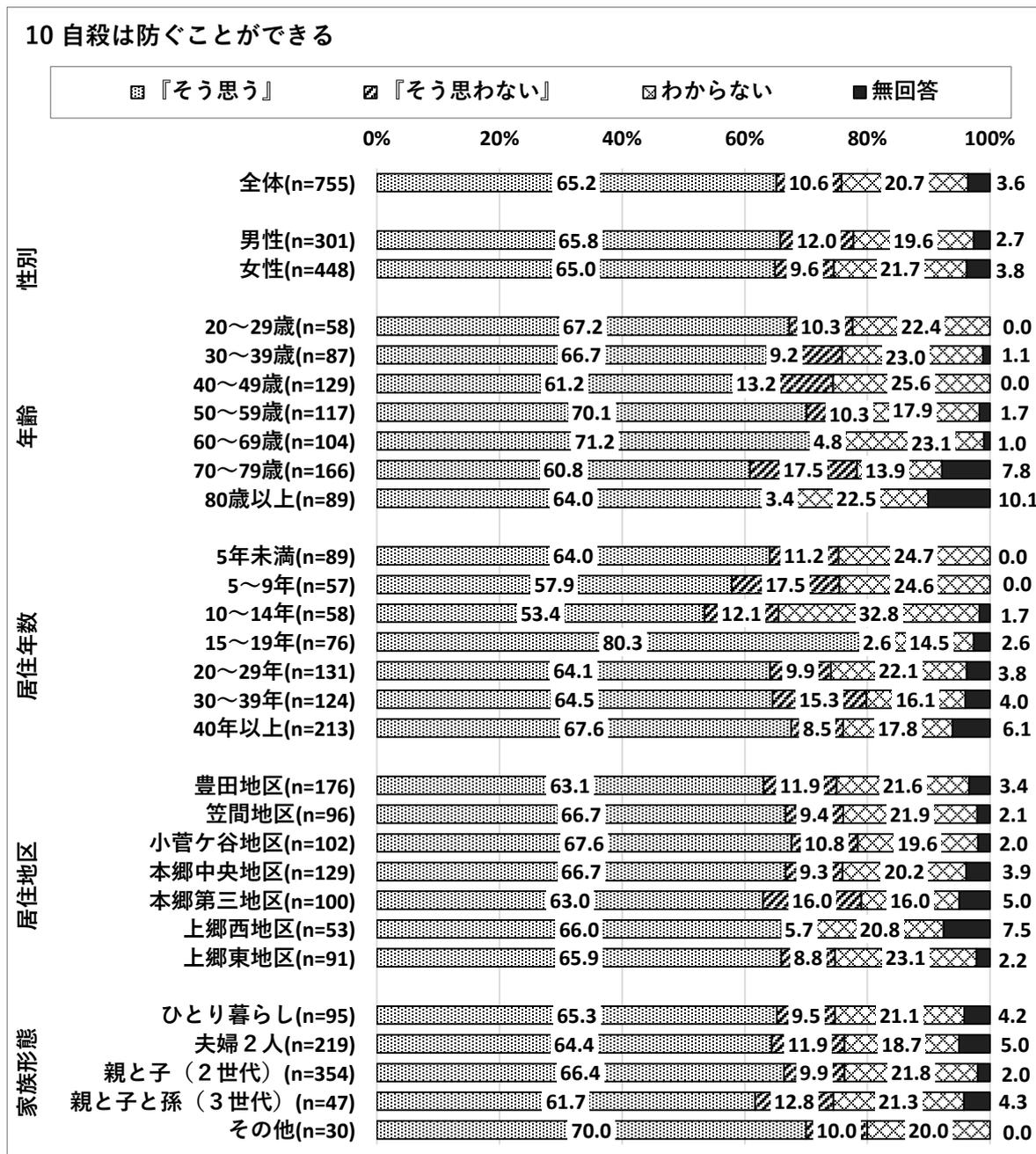
・「15～19年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



11 自殺は自分にはあまり関係がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.9ポイント高いが、大きな差は見られない。

<年齢別>

・「30～39歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

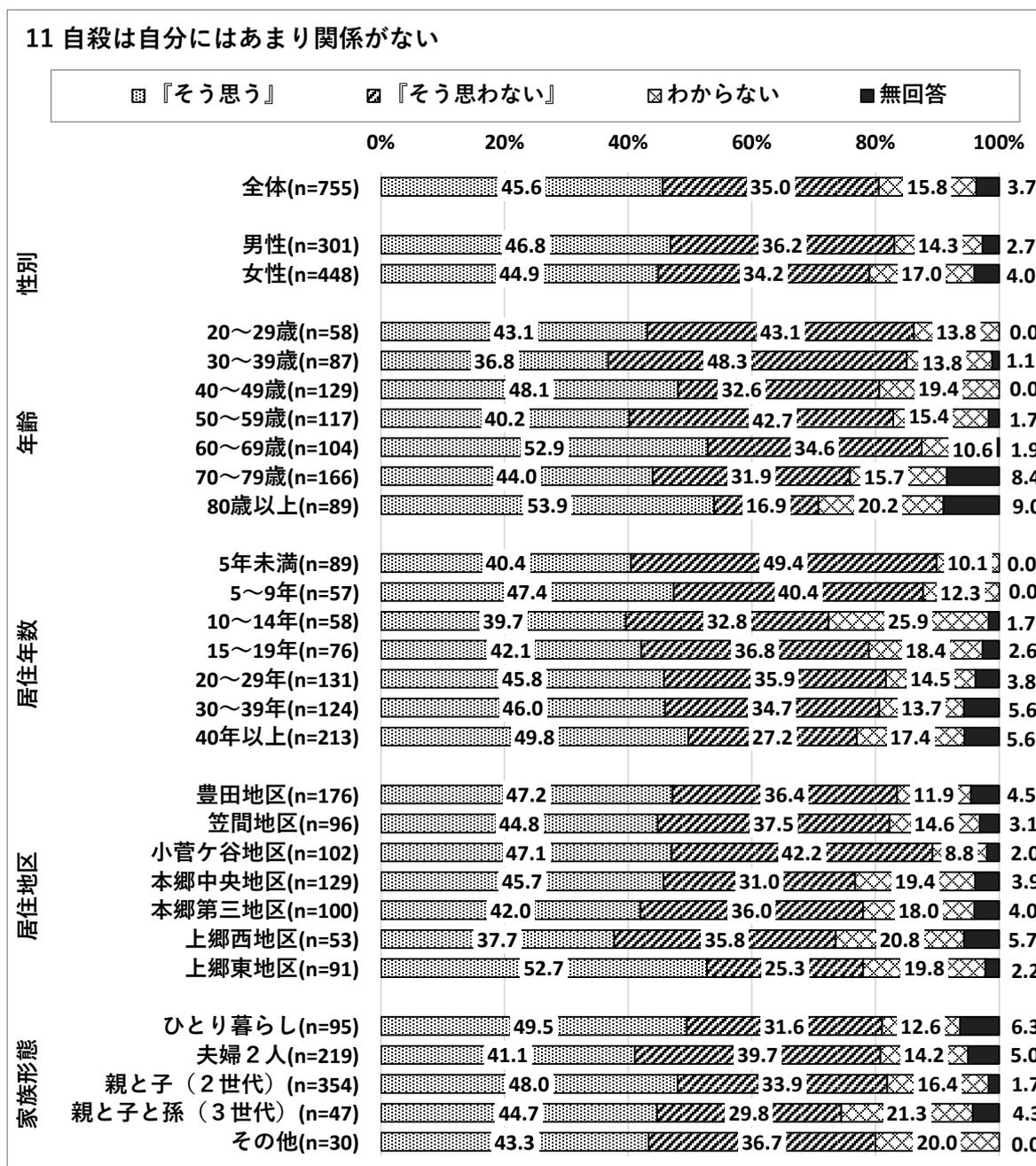
・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷東地区」では、『そう思う』が、「小菅ヶ谷地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



12 自殺は本人の弱さからおこる

<性別>

・「男性」の約3割が『そう思う』で、「女性」より15.8ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高く、「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

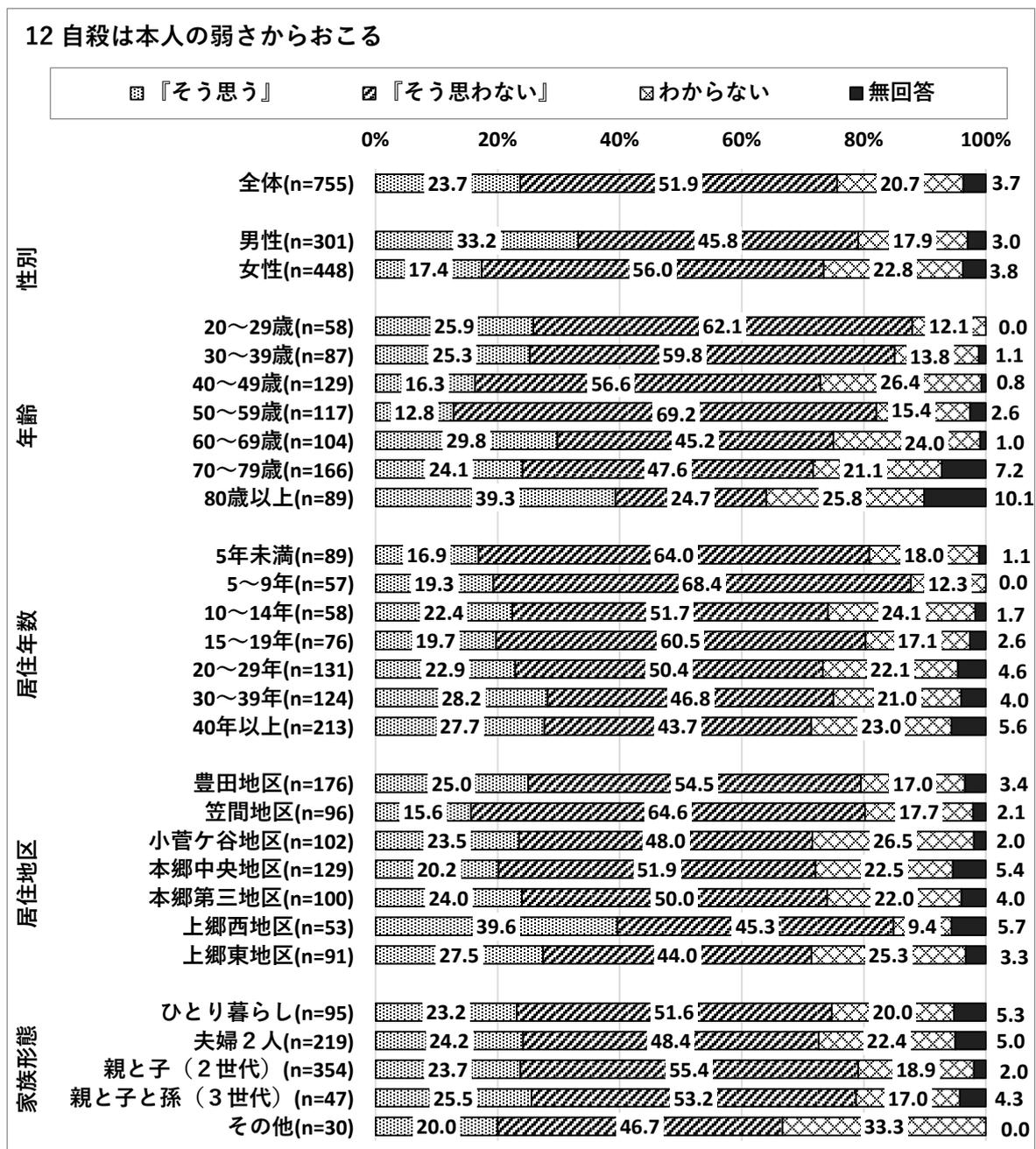
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思う』が、「笠間地区」では『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別では、大きな差は見られない。



13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』が3.3ポイント高いが、男女共に約6割の区民が「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5年未満」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

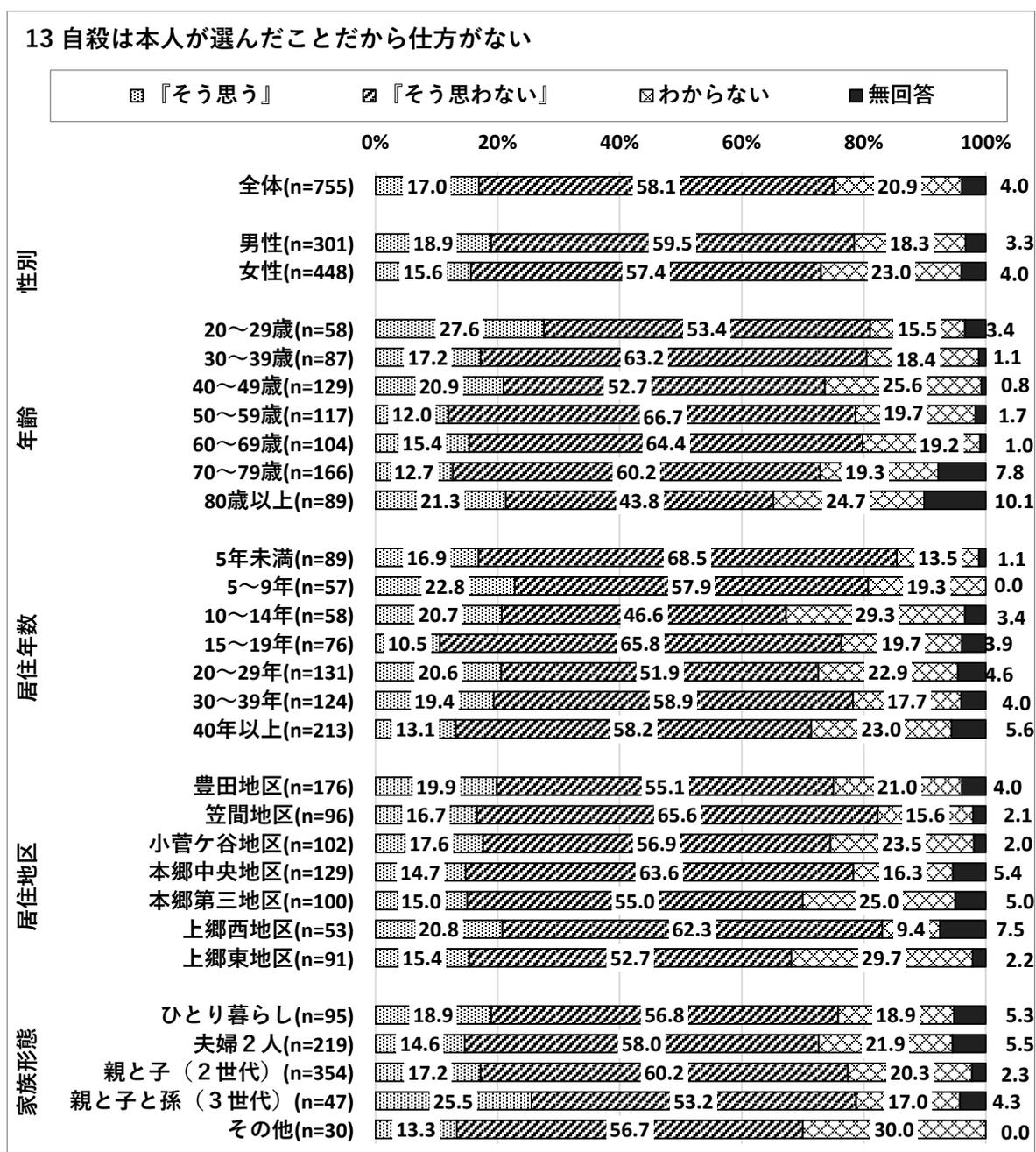
・「5年～9年」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「本郷中央地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。



14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

<性別>

・男女共に、『そう思う』と『そう思わない』が3割程度で拮抗しており、男女間に大きな差はない。

<年齢別>

・「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思わない』が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

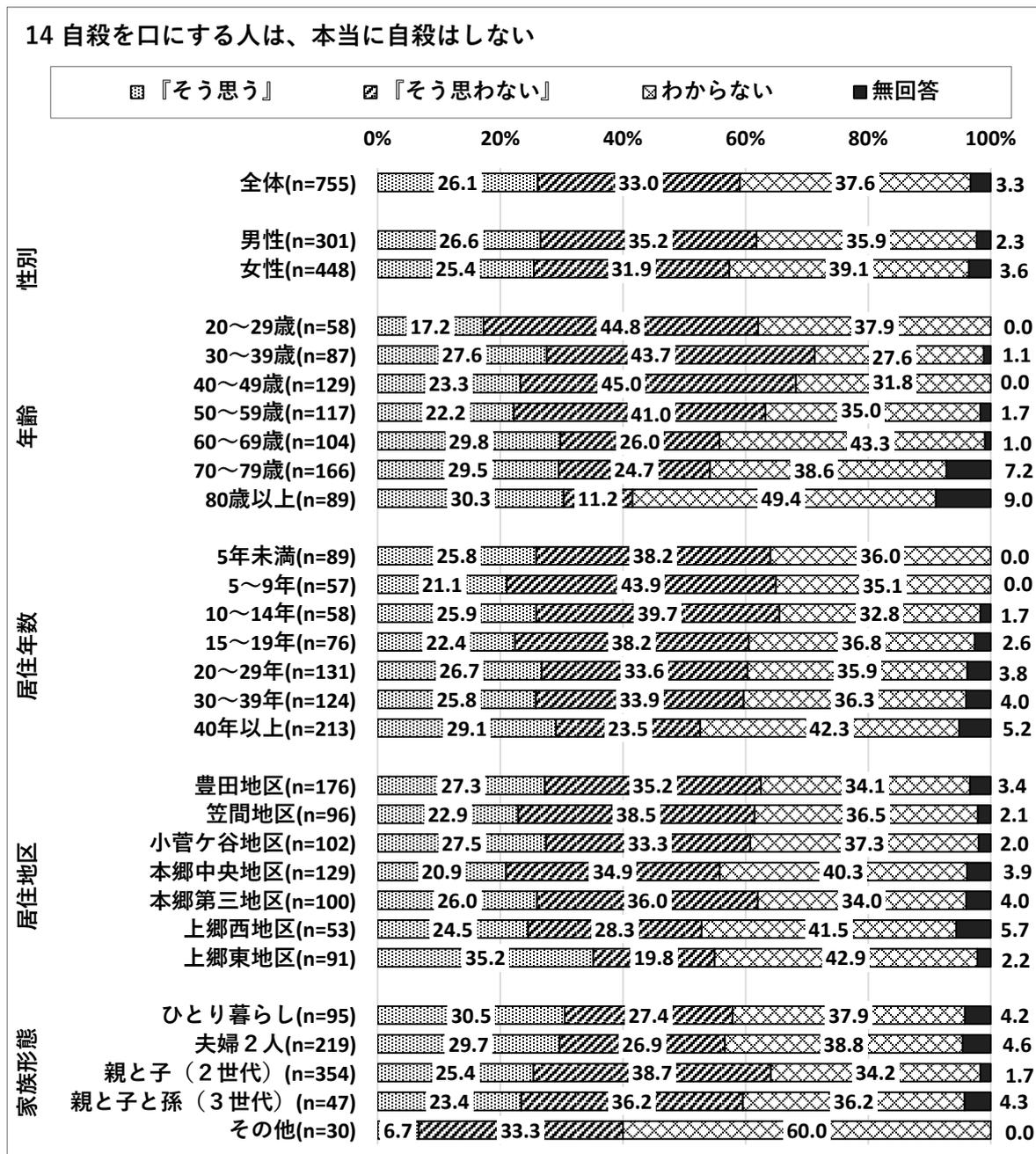
・「5～9年」では、『そう思わない』割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、『そう思わない』割合が全体より5ポイント以上高い。



15 自殺は恥ずかしいことである

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で9.7ポイント高いが、男女共に約5割以上の区民が「自殺は恥ずかしいことである」とは思っていない。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

・40歳以上で年齢が上がるほど『そう思う』の割合が増える傾向がみられる。

<居住年数別>

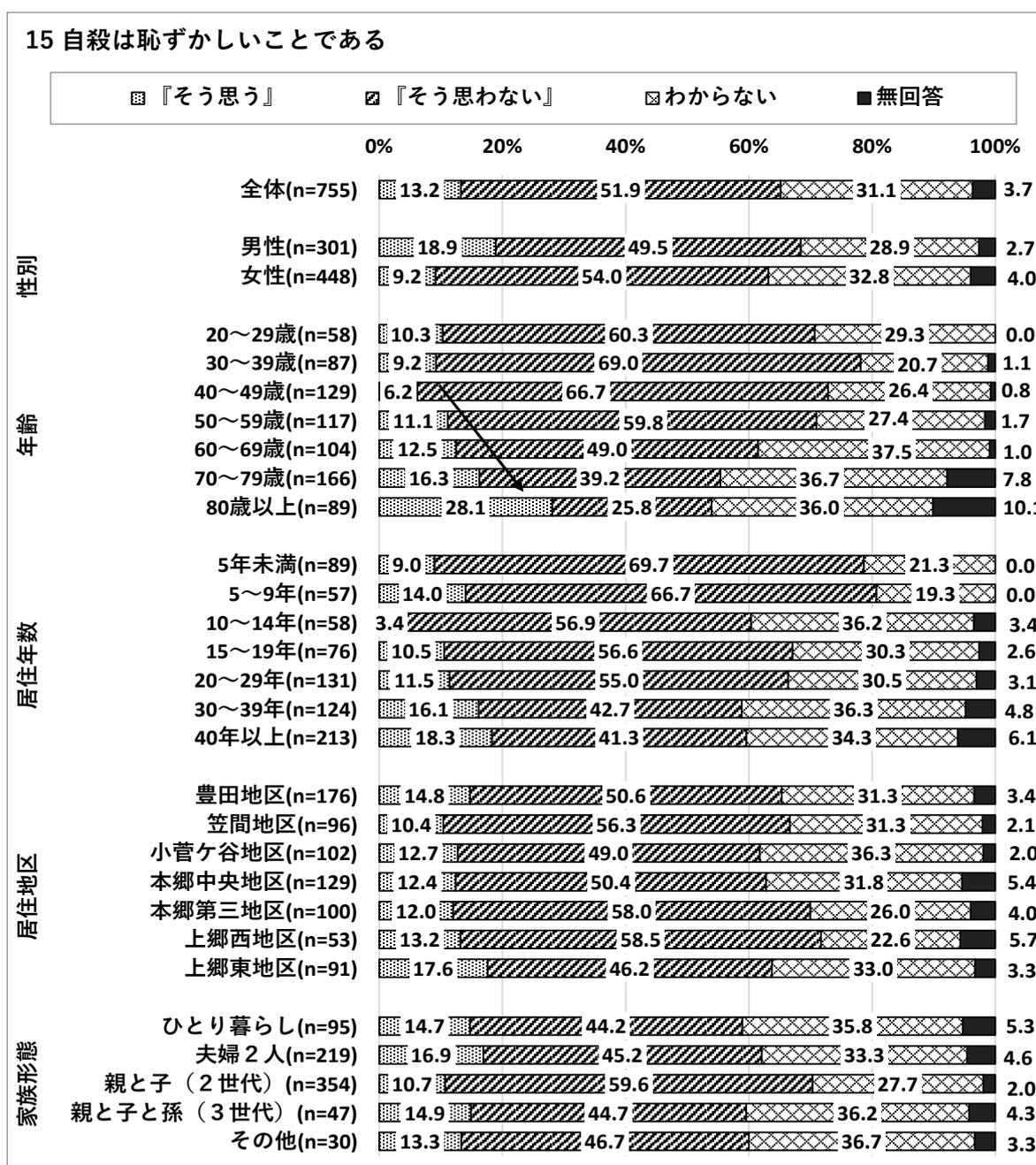
・「5年未満」「5～9年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子（2世代）」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。



(22) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

- セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で83件（11.0%）の回答がありました。

意見の種類	件数	主な意見内容
感想	39	<ul style="list-style-type: none"> 命のある限り、安心安全な生活が大切 今迄、あまり考えていなかった事ですが、生活や生きていく上で重要な事ばかりですね。もっと身近なものにしたいと感じました。 具体的に…とは、すぐに思いつきませんが、より良い栄区になってくれるよう、よろしく願います。私も微力ながら、協力できることには参加して行きたいと思えます。 このアンケートで、くわしくセーフコミュニティについて知ることができました。少なからず、本当に必要な所に支援が届いていないと思う事があります。このような活動が進んで、本当に必要なところに支援の届くようになってもらえたら良いと思えます。 この取組みに協力頂いている方々に感謝しています。コロナでご近所との接する機会が減っていますが、安全にお互いが気軽に助け合えるように、コロナ時代の顔の見える近所付き合いを再開してほしいです。 質問事項が具体的でとてもいい。地域でのとりくみは取りくむのも少し距離感を感じるものでそれがなくなるといいと思う。 #7119やいじめ相談などの電話相談を利用したことがありますが全く役に立たない。全ての電話相談の対応する方の知識や判断力の低さを感じた。（もっと親身になれないのか？）知識の向上が必要だと思う。 心が弱っている時に誰かと話したい…と思った人が気軽に話せる電話や場所については、講習を受けた年配者（ボランティア）にお願いしては？時間のある高齢者は多いはず。 栄区は元気なご年配の方が多く住んでいらっしゃるイメージです。是非ともSCの取組みに積極的に参加頂いて、安心安全なコミュニティ作りにご協力頂きたいと感じています。そうする事で彼ら彼女ら自身の健康にも繋がると思えます。
プロモーション（広報）	16	<ul style="list-style-type: none"> 栄区民の認知度は低いと思うので、もっと知らせるべきだと思います。改めて栄区は素晴らしい所だと思います。 恥ずかしながら、「栄区で」取り組まれているものをあまり知らなかった。（国としての取り組みならニュースで見るから耳にするが区となると難しい・・・） 大切なお仕事、積極的な広報をお願いします。 デジタル化希望 8つの分野で形成されていますが、1つ1つに強化週間など重点的に行っていくのは、どうでしょうか。あと、セーフコミュニティの周知徹底が十分ではない。もっと積極的にPRした方が良いでしょう。 現在は、地区の回覧板でしか情報を得ることができていないため、セーフコミュニティについても回覧でお知らせをいただけるとありがたいです。 高齢者の多い栄区で「セーフコミュニティ」がイメージつかないのでは？日本語で「安全な町づくり」のような何かがあった方が、理解認知されそう。 取り組み活動の方向や実施計画の作成とフォローと広報活動で具体的に報告してほしい。 数年前、突然「栄区がセーフコミュニティ宣言した」と知ったが、何の事が不明だった。言葉だけが一人歩きし、区民にも少しわかり易い方法、内容で伝える必要があるのではと感じました。様々な安全、安心にとりくみ、より良い地域で暮らす為の「セーフコミュニティさかえ」であることを今回再認識しました。
生活の安心・安全	10	<ul style="list-style-type: none"> 互いに顔の見える関係づくりを築いていく必要があると思えます。 自殺や虐待の増加は貧富の格差が拡大しているためと思う。消費税の撤廃や累進課税を強化すべきと思う。生活が安定すれば安全性も高まると思う。 若い世代の移住、定住を促す対策を実施して欲しい。高齢者が多く近所で助け合いを勧められるのは負担が大きい。企業誘致による財政確保して、住民の安全を強化して欲しい。 子供が歩くのに危険な所が沢山あると思えます。空家が火災になったりして危険だと思えます。皆が安心安全で住みやすい町作りをしてほしいです。 核家族化がすすみ、高齢者さえも超個人主義者が増えたのを感じます。（あいさつさえしない）いざという時や異変を察知するために人とのつながり、地域はみんなで作り支え合うという意識を再び呼びおこせませんか？知り合い以外はしりません！という人があまりに多いです。さみしいしかなしいです。 いたち川周辺がものすごくきついです。（特に天神橋のバス停～富士スーパー裏ずっと）栄区のシンボルなのでからきれいにしたいです。 栄区は、横浜市内でも高齢者が多く将来の展望が明るくなった地域であるが、都市計画による若がり政策がみえてこない。東上郷町などは限界集落への道を進んでいるように思える。
災害への備え	5	<ul style="list-style-type: none"> 近くに川があり、大きな橋や道路があり、災害などでは避難所が近くにあってとしても、行けない、マンションの屋上へ行ける様にして欲しい。 近くに逃げられる公園等はなく、区の違う所にある公園の方が近い。 地域避難所と地域防災拠点（公立小学校？）、広域防災拠点（山手学院？）の使い方の違いがよくわからない。 地震の震度発表で栄区がでてこない。早く発表されるようにしたい。 ハザードマップの普及と今後起こりうるであろう大地震などの対策の普及といったハードだけでなく、ソフトの対策もすべき。
高齢者の安全	4	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を介護する側は孤立しがちです。自殺の事子供の事も大切ですが… 当アンケートがどのように活用されるのを知りたい。以前のアンケート調査結果は拝見したが、調査によって今後どのように変化対応していくとしているのか、何をしたら分かるのかを知りたい。自由記述にあった意見や要望に対しての回答、対応策などが見えていない。スーパーの駐車場で、拳動のあやしい高齢運転者をよく見かける。送迎バスの運行等、企業努力だけに頼らずに、働きかけができないだろうか。 mustの考えではなく柔らかな考え方で、まず「話を聞いてもらう」「聞いてあげる」環境を作ってほしいです。高齢者の多い栄区だからこそ懐の大きい許容量の大きい、見守り隊を作ってほしいです。 亀井町に住んで50年以上になります。市バス等の市の交通とは無縁な交通の不便な所です。一度位交通の事に関して、真剣に考えてほしい。特に、先頃は、年老いた方が多くなり、バス停までも遠い。スローバスシステム（グリーンスローモビリティ）実証調査等の検証など導入して欲しい。坂道がきついため、年寄りには本当にきついです。
自殺予防対策	3	<ul style="list-style-type: none"> 自殺についての問、むずかしいです。思う所、多々ありますが、関係機関の横つながりでの取組み、たのもしく思えます。 死を意識する事で生が充実する。無目的に生きるのではなく、どう死ぬか考える事で、過程としての生き方に意味を持たせる事につながる。
こどもの安全	2	<ul style="list-style-type: none"> 子供達には怪我や失敗を繰り返して欲しく育って欲しいですが取り返しがつかない怪我や失敗が無い様、遠くから見守って行ける社会を皆で創り出せたら良いと思います。 子供の遊ぶ場所（外）がもっと必要だと思う
交通安全	2	<ul style="list-style-type: none"> 夜道が暗いのので街灯をつけてほしい。自転車専用レーンをつくってほしいです。震災時用の備蓄品を事前に配付してほしい。 横浜南環状線の完成等による交通事故防止対策にも取り組んでいただければと思います。
防犯対策	1	<ul style="list-style-type: none"> 地域防犯連絡所の存在に付いてどの様な活動をしているのか。
子育て支援と虐待の防止	1	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待を減らす取り組みは、重要だと思うが、母親をまるで取り締まるような、監視して逃げ場がないような風潮を心苦しく思う。（その前にできるサポートがあるはず）自分も、母親が若く死んで、年子を一人で育てていただけ、周囲の人のサポートがもっともっとないと、子育てする人をまずは支援してくれるしくみが充実しないと苦しい。子育て中に主人の助けがなかったら（育児をとってくれた）、うつになっていたと思う。死にたくなかったかもしれない。
総計	83	

IV 調査票

令和2年度栄区セーフコミュニティアンケート

同封の返信用封筒で令和2年11月25日(水)までにご投函ください

【1 セーフコミュニティ全体】

問1 あなたは、「セーフコミュニティ」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 セーフコミュニティの活動に参加したことがある |
| 2 セーフコミュニティの活動について知っている |
| 3 セーフコミュニティという言葉を知っている・きいたことがある |
| 4 セーフコミュニティについて全く知らない |

(問1で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします)

問1-1 あなたは、どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| 1 ポスター | 6 ホームページ |
| 2 のぼり旗・横断幕・垂れ幕 | 7 啓発グッズ
(ふせん・クリアファイル・コットンバック・タオル等) |
| 3 タウンニュース | 8 パンフレット |
| 4 広報よこはま | 9 その他(具体的に) |
| 5 選挙啓発チラシ | |

問2 栄区は安全・安心なまちだと感じますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 そう感じる | 3 どちらかといえば感じない |
| 2 どちらかといえば感じる | 4 感じない |

問3 あなたは、近頃、ご自身や身のまわりのことで特に心配なことがありますか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 病気や健康のこと(主に身体的なこと) | 5 交通事故のこと |
| 2 こころの健康のこと | 6 自然災害のこと |
| 3 子どもの健康・安全や保育・教育のこと | 7 犯罪のこと |
| 4 運動する機会が減っていること | 8 経済的なこと |

次頁以降の設問にもご回答ください

問4 あなたは、栄区がセーフコミュニティの重点取組として取り組んでいる以下の8分野について、それぞれの程度関心がありますか。(○はそれぞれ1つ)

	関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	関心がない
1 子どもの安全	ア	イ	ウ	エ	オ
2 スポーツ時のけが予防	ア	イ	ウ	エ	オ
3 交通安全	ア	イ	ウ	エ	オ
4 子育て支援と児童虐待の防止	ア	イ	ウ	エ	オ
5 高齢者の安全	ア	イ	ウ	エ	オ
6 災害への備え	ア	イ	ウ	エ	オ
7 自殺予防対策	ア	イ	ウ	エ	オ
8 防犯対策	ア	イ	ウ	エ	オ

【2 日常生活におけるけが・事故の危険性】

問5 栄区は、セーフコミュニティに取り組むことで、日常生活におけるけが・事故等の予防活動を進めています。あなたは、それぞれのけが・事故の危険性について知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送の中で、件数が最も多いのは0～4歳の乳幼児である	ア	イ
2 栄区の小学生・中学生の30%以上が、1年間に「怖い人と出会った」と回答している	ア	イ
3 栄区の運動中のけが・事故で最も多いのは、「下肢」の「捻挫・肉ばなれ」である。	ア	イ
4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは、「歩行中(飛び出し)」の事故である。	ア	イ
5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催している	ア	イ

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向にある	ア	イ
7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割である	ア	イ
8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は、「65歳以上の高齢者」である	ア	イ
9 栄区の65歳以上の高齢者のけがによる救急搬送件数のうち、最も多い原因は「転倒・転落」である	ア	イ
10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち、死亡・重篤が占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」である	ア	イ
11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」である	ア	イ
12 横浜市は、全国の都道府県庁所在地の中で、震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い	ア	イ
13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は、死者43名、負傷者703名と大規模である	ア	イ
14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている	ア	イ
15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるものである	ア	イ
16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は、年々増加している	ア	イ
17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める	ア	イ

【3 セーフコミュニティの取組】

問6 栄区は、けが・事故等の予防のために、様々な取組を行っています。あなたは、それぞれの取組について知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 (乳幼児健診でのチラシ配布等)	ア	イ
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める KYT (危険予知トレーニング) の普及活動	ア	イ
3 子どもの登下校の見守りの推進	ア	イ
4 子ども110番の家の登録の推進	ア	イ
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催	ア	イ
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨	ア	イ
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット 着用啓発活動	ア	イ
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)	ア	イ
9 高齢者への転倒予防の啓発活動	ア	イ
10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐための ヒートショック対策の啓発活動	ア	イ
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進	ア	イ
12 自殺を予防するための啓発活動 (公共施設でのチラシ配布・講演会等)	ア	イ
13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修	ア	イ
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)	ア	イ

問7 セーフコミュニティの取組の中で、今後参加したい取組はありますか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 | 8 児童虐待を減らすための啓発活動 |
| 2 子どものKYT (危険予知トレーニング)の普及活動 | 9 高齢者への転倒予防講座 |
| 3 子どもの登下校時の見守り | 10 ヒートショック対策 |
| 4 子ども110番の家の登録 | 11 地域防災拠点等での実践的な訓練 |
| 5 スポーツ時のけが予防講習会 | 12 自殺を予防するための啓発活動 |
| 6 運動不足解消のためのウォーキング | 13 自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修 |
| 7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動 | 14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 |

【4 安全・安心に関する質問】

問8 栄区では、住民により、安全・安心に関わる地域活動が進められています。あなたのお住まいの地域で、取り組むべき課題にはどのようなものがあると思いますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------------------------------|------|-----------------|
| 1 住民同士の交流や助け合いの促進 | | |
| 2 高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援 | | |
| 3 子どもの見守りや子育て中の人への支援 | | |
| 4 子どもを事故やけがから守るための安全対策 | | |
| 5 青少年の居場所づくりや健全育成 | | |
| 6 スポーツや健康づくりなどを楽しむ場やイベントの開催など | | |
| 7 交通安全 | 8 防犯 | 9 防災・減災や災害時への備え |
| 10 その他(具体的に) | | |
| 11 特になし | | |

問9 あなたは、救急車を呼ぶか迷ったときの救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 知っていて、使ったことがある | 3 知らなかった(この調査ではじめて知った) |
| 2 知っているが、使ったことはない | |

問10 あなたは、普段、運動不足を感じますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 大いに感じる | 4 ほとんど(全く)感じない |
| 2 ある程度感じる | 5 わからない |
| 3 あまり感じない | |

問11 この1年間に運動やスポーツ(ウォーキングを含む)を実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 週に5日以上(年251日以上) | 5 月に1~3日(年12~50日) |
| 2 週に3日以上(年151~250日) | 6 3か月に1~2日(年4~11日) |
| 3 週に2日以上(年101~150日) | 7 年に1~3日 |
| 4 週に1日以上(年51~100日) | 8 わからない |

問12 栄区では、「ウォーキングで健康づくり」の取組を進めています。あなたは、日常の外出以外で、健康のためにどのくらいの頻度でウォーキングをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に1~3日程度 |
| 2 週に1~3日程度 | 4 ほとんどしていない |

問 13 栄区では、寒い時期に脱衣所から熱い湯船に入ることによって脳出血や脳梗塞、心筋梗塞等を起こしてしまう「ヒートショック」の対策に取り組んでいます。あなたは、「ヒートショック」の対策をしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 お風呂のお湯を41℃以下にする | 5 体調が悪い時や飲酒后・食事直後はお風呂に入らない |
| 2 脱衣所に暖房器具を置いている | 6 その他 |
| 3 シャワーで浴室を温めてから浴室に入る | (具体的に) |
| 4 湯船には10分以上連続で入らない | 7 特にしていない |

問 14 あなたは、大地震などの発災初期に一時的に避難する「いっとき避難場所」と、短期間の避難生活を送るために地域の方が開設する「地域避難所※」を知っていますか。(○は1つ)

※「地域避難所」は栄区独自の取組です

- | |
|----------------------------------------------|
| 1 どちらも知っていた |
| 2 「いっとき避難場所」は知っていたが、「地域避難所」は知らなかった(この調査で知った) |
| 3 「いっとき避難場所」は知らなかった(この調査で知った)が、「地域避難所」は知っていた |
| 4 どちらも知らなかった(この調査で知った) |

問 15 あなたは、ご自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点がどこかを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 16 あなたは、地域防災拠点の訓練に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1 参加したことがある |
| 2 参加したことはないが、今後参加したい |
| 3 参加したことはないし、今後も参加したいとは思わない |

問 17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 水の備蓄 | 9 感震ブレーカーの設置 |
| 2 食料の備蓄 | 10 避難についての家族の話し合い |
| 3 医薬品・救急用品の備蓄 | 11 隣近所との話し合い |
| 4 携帯ラジオ・懐中電灯の用意 | 12 地域の中での緊急連絡体制づくり |
| 5 消火器の設置 | 13 ほとんど何もしていない |
| 6 住宅用火災警報器の設置 | 14 その他 |
| 7 家具などの転倒防止対策 | (具体的に) |
| 8 自宅の耐震補強対策 | |

問 18 あなたは、振り込め詐欺と思われる電話等を受けたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問 19 あなたは、どのような振り込め詐欺を知っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 オレオレ詐欺 | 4 還付金等詐欺 |
| 2 架空請求詐欺 | 5 キャッシュカード交付詐欺 |
| 3 融資保証金詐欺 | 6 その他(具体的に) |

問 20 あなたが、振り込め詐欺対策で行っていることはありますか。(○はいくつでも)

1 留守番電話設定	4 栄区役所からの防犯情報メールに登録
2 家族の合言葉	5 その他(具体的に)
3 受話器周辺に啓発物	6 特にしていない

問 21 あなたは、自殺についてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う どちらかという と	そう思わない どちらかという と	そう思わない	わからない
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき	ア	イ	ウ	エ	オ
2 自殺せずに生きていれば良いことがある	ア	イ	ウ	エ	オ
3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
4 責任を取って自殺することは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	ア	イ	ウ	エ	オ
6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う	ア	イ	ウ	エ	オ
7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている	ア	イ	ウ	エ	オ
8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある	ア	イ	ウ	エ	オ
9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している	ア	イ	ウ	エ	オ
10 自殺は防ぐことができる	ア	イ	ウ	エ	オ
11 自殺は自分にはあまり関係がない	ア	イ	ウ	エ	オ
12 自殺は本人の弱さからおこる	ア	イ	ウ	エ	オ
13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない	ア	イ	ウ	エ	オ
15 自殺は恥ずかしいことである	ア	イ	ウ	エ	オ

問 22 セーフコミュニティについて、ご意見やご要望があれば自由にご記入ください。

【5 フェイスシート】

最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。ご回答いただいた内容については、すべて統計的に処理され、個人が特定されることはありませんので、ご協力をお願いします。

F 1 性別（○は1つ） ※日常生活における性別をご回答ください。

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢（○は1つ）

1 20～24 歳	6 45～49 歳	11 70～74 歳
2 25～29 歳	7 50～54 歳	12 75～79 歳
3 30～34 歳	8 55～59 歳	13 80 歳以上
4 35～39 歳	9 60～64 歳	
5 40～44 歳	10 65～69 歳	

谷折り

F 3 栄区にお住まいの期間（○は1つ）

1 5年未満	5 20～29年
2 5～9年	6 30～39年
3 10～14年	7 40年以上
4 15～19年	

F 4 現在お住まいのご住所（○は1つ）

1 飯島町	15 桂台西一丁目	29 小菅ケ谷三丁目	43 野七里一丁目
2 犬山町	16 桂台西二丁目	30 小菅ケ谷四丁目	44 野七里二丁目
3 尾月	17 桂台東	31 小山台一丁目	45 柏陽
4 笠間町	18 桂台南一丁目	32 小山台二丁目	46 東上郷町
5 笠間一丁目	19 桂台南二丁目	33 庄戸一丁目	47 本郷台一丁目
6 笠間二丁目	20 桂町	34 庄戸二丁目	48 本郷台二丁目
7 笠間三丁目	21 金井町	35 庄戸三丁目	49 本郷台三丁目
8 笠間四丁目	22 上郷町	36 庄戸四丁目	50 本郷台四丁目
9 笠間五丁目	23 上之町	37 庄戸五丁目	51 本郷台五丁目
10 鍛冶ケ谷町	24 亀井町	38 田谷町	52 元大橋一丁目
11 鍛冶ケ谷一丁目	25 公田町	39 長尾台町	53 元大橋二丁目
12 鍛冶ケ谷二丁目	26 小菅ケ谷町	40 長倉町	54 若竹町
13 桂台北	27 小菅ケ谷一丁目	41 長沼町	
14 桂台中	28 小菅ケ谷二丁目	42 中野町	

谷折り

F 5 現在のお住まいの世帯の家族形態（○は1つ）

1 ひとり暮らし	4 親と子と孫（3世代）
2 夫婦2人	5 その他（具体的に）
3 親と子（2世代）	



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
恐れ入りますが本紙を3つ折りにして同封の返信用封筒で
令和2年11月25日（水）までにご投函ください。